（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第260集

三ッ子沢中遺跡

北陸新幹線地域埋蔵文化財
発掘調査報告書第12集

2000

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第260集

三ッ子沢中遺跡

北陸新幹線地域埋蔵文化財
発掘調査報告書第12集

2000

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団

16号住居　全景（南から）

75号土坑出土玉斧

37号住居出土耳環

序

平成９年10月１日に開業した「長野行き新幹線」は、平成２年度に「北陸新幹線建設工事」の名称のもとに工事が着工されました。群馬県の工事では、工事区域内に32カ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されたため、その発掘調査が当事業団に委託されました。

当事業団では、平成３年２月より高崎市の行力春名社遺跡を嚆矢として同７年10月にかけて、新幹線通過市町村の高崎市、箕郷町、榛名町、安中市において埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施しました。

榛名町で確認された遺跡は11カ所ですが、その内の一つ三ツ子沢中遺跡は、平成６年、同７年の２カ年にまたがって、旧石器時代から平安時代に至る各種遺構が調査され、榛名山麓の歴史を明らかにする上で貴重な資料を得ることができました。特に縄文時代では住居跡20軒、土坑158基が調査されました。住居のうち５軒は敷石住居であり、土坑からは県内でも出土が希な蛇紋岩製の玉斧が出土しました。また、敷石住居の内の１軒は、移築して保存されることになり、群馬町の「かみつけの里博物館」で平成11年１月に開催された、北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査終了記念展「ヒストリア榛名」において復元展示されました。

三ツ子沢中遺跡の報告書作成は、平成９年度より行われましたが、今年度ようやく発掘調査報告書が纏まり、ここに報告書を上梓する運びとなりました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで日本鉄道建設公団、群馬県教育委員会文化財保護課、榛名町教育委員会、地元関係者等には、大変お世話になりました。また、発掘調査に従事した担当職員、発掘作業員には建設工事が間近に迫る中での忙しい調査で気苦労をかけました。これら関係者の皆様に衷心より感謝を申し上げ、序といたします。

平成12年３月

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　小　野　宇三郎

例　言

1　本書は、北陸新幹線建設工事に伴う事前調査として、平成６年度から平成７年度にかけて実施した「三ツ子沢中遺跡」の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は、群馬県群馬郡榛名町三ツ子沢字中西である。

3　本発掘調査および整理事業は、日本鉄道建設公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施した。

4　発掘調査期間は、平成６年４月１日～平成７年８月14日である。

5　発掘調査組織は下記の通りである。

(1)　発掘調査担当者

平成６年度　主幹兼専門員　相京建史、調査研究員　池田政志　津島秀章　橋本　淳

平成７年度　主幹兼専門員　相京建史、専門員　関根慎二、調査研究員　池田政志　橋本　淳

(2)　事務担当者

平成６年度　常務理事　中村英一、事務局長　近藤　功、管理部長　蜂巣　実、調査研究部長　神保侑史、総務課長　斉藤俊一、調査研究第１課長　真下高幸、総務課係長代理　国定　均　笠原秀樹、主任　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏、主事　高橋定義

平成７年度　常務理事　中村英一、事務局長　原田恒弘、管理部長　蜂巣　実、調査研究部長　神保侑史、総務課長　小渕　淳、調査研究第１課長　真下高幸、総務課係長代理　国定　均　笠原秀樹、主任　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏、主事　高橋定義

6　整理期間は、平成９年４月１日～平成12年３月31日である。

7　整理組織は下記の通りである。

(1)　整理担当者

主任調査研究員　池田政志

補助員　阿部由美子　飯田文子　島崎敏子　高橋裕美　牧野裕美（平成９～11年度）

串渕すみ江（平成９・10年度）　田中富美子（平成９年度）　勅使川原操子（平成10・11年度）

(2)　事務担当者

平成９年度　常務理事　菅野　清、事務局長　原田恒弘、副事務局長兼調査研究第１部長　赤山容造、管理部長　渡辺　健、総務課長　小渕　淳、調査研究第３課長　真下高幸、総務係長　笠原秀樹、係長代理　須田朋子、経理係長　井上　剛、主任　吉田有光　柳岡良宏　岡嶋伸昌、主事　宮崎忠司

平成10年度　理事長　菅野　清、常務理事兼事務局長　赤山容造、管理部長　渡辺　健、調査研究第２部長　神保侑史、総務課長　坂本敏夫、調査研究第３課長　真下高幸、総務係長　笠原秀樹、係長代理　須田朋子、経理係長　小山建夫、主任　吉田有光　柳岡良宏　岡嶋伸昌、宮崎忠司

平成11年度　理事長　菅野　清　小野宇三郎、常務理事兼事務局長　赤山容造、管理部長　住谷　進、調査研究第１部長　神保侑史、総務課長　坂本敏夫、調査研究第２課長　真下高幸、総務係長　笠原秀樹、係長代理　須田朋子、経理係長　小山建夫、主任　吉田有光　柳岡良宏　岡嶋伸昌、主事　片岡徳雄

8　本報告書作成の担当

編集　池田政志

本文執筆　相京建史（当事業団主幹兼専門員）（第４章第６節９）、松村和男（当事業団主任調査研究員）（第４章第１節２）、瀧野暁美（当事業団調査研究員）（第３章）、池田政志（前記以外）

遺構写真撮影　各調査担当者

アドバルーン撮影　㈱技研測量設計

遺物写真撮影　佐藤元彦（当事業団主任技師）

遺物保存処理　関邦一（当事業団主任技師）

分析・委託　石材鑑定　群馬地質研究会　飯島静男

樹種同定　㈱パレオ・ラボ

遺構・遺物トレース　㈱測研

9　出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

10　発掘調査・本書の作成にあたっては、次の機関・諸氏から貴重な御教示や御指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。(敬称省略、五十音順)

群馬県立自然史博物館、飯田祐二、石井克己、石北直樹、井野誠一、井上慎也、内田真澄、大塚昌彦、小川卓也、整伸明、佐鳥優子、清水豊、千田茂雄、大工原豊、仲野泰裕、長谷川福次、福田貫之、若狭徹

11　発掘作業には次の方々に従事していただいた。(敬称省略、五十音順)

相川秀雄　青木昌代　秋山廣吉　阿久沢一雄　阿部イチエ　天田トシ　新井菊江　新井繁子　荒舘好枝　五十嵐美知子　石川眞也　石川輝子　石倉敏子　石倉義夫　石原侃一　石原紀一　石嶋天子　植杉あや子　牛込ミツ　生方ハナ　梅山節子　梅山露子　梅山陽子　大塚日呂美　大前希世子　大前美智子　岡田いそ江　岡田小百合　岡田登志子　岡村ワク　小木博　小木良江　鬼形敏美　小原博　伸田忠男　金井通　金井昌子　金井百合子　加納文代　柄沢春枝　柄沢マサ子　河野セツ子　河野富江　北村糸平　木村利雄　木村広美　久保田美恵子　黒崎サヨ子　黒崎ミツノ　高野正光　小林延子　小林初美　小林洋子　小武海めぐみ　小松孝子　小和瀬深夏　小和瀬幸子　斉藤初美　斉藤文子　酒井ゆき　桜井初枝　佐々木雅子　佐藤輝夫　佐藤ミサヲ　佐藤美佐子　佐野慶子　茂田徳司　柴田ミツ　島方欣六　清水幸子　清水次子　白井精一　白石真知江　神宮香代子　鈴木範子　鈴木春美　鈴木ヨシエ　須田安雄　須藤泰利　須藤利夫　須藤はるの　関京子　関口恵子　芹沢市子　曽我功　曽我みつ子　反町ハナ　高橋一江　高橋和代　高橋利之　高橋マスミ　高橋宥　高橋由治　高見暉子　滝沢喜代造　瀧野暁美　竹内昭子　竹内八重子　竹鼻タキノ　竹本美代子　多胡わぐり　田島暉男　田角ナカ　田村美佐江　角田八重子　角田令子　東間笑子　登坂和久江　戸沢千鶴子　戸田節子　戸塚里子　外処登志夫　渡丸勝浩　富岡邑次　富田佐和子　永井涼子　中里見友江　中島タキ子　中島吉郎　(故)中島源次郎　中村スミエ　中村美知代　馬場陽子　半田あい　平田千秋　深沢ハルミ　深沢日出次　深沢ヨシ子　福島ミエ子　古市忠蔵　細井まゆみ　細井美佐子　細矢ひさえ　真下次子　町田壮一　松井多喜　松島淳子　松田チカ子　松田正子　松本町子　松本玲子　水島貞子　三谷よし子　箕輪三郎　茂木ナツ子　森田サチ子　(故)八木武夫　矢口いつ子　矢口豊子　矢島キクエ　矢島柳子　柳井肇　矢野仁一　湯浅京子　湯浅作次郎　湯本志づ子　横山美千代　吉田サヨ子　吉田武夫　吉田ヤス子　吉田良子　綿貫栄子　綿貫安保

凡　例

・挿図中に用いた方位は座標北を表す。

・遺構図の縮尺については、住居1/60、住居内の炉・竈1/30、埋甕1/20、土坑1/40、掘立柱建物1/60である。これ以外の遺構については各々のスケールを参照していただきたい。

・本報告書で用いたテフラの略号は、浅間B軽石　As-B、浅間C軽石　As-C、浅間板鼻黄色軽石　As-YP、浅間白糸軽石　As-Sr、浅間板鼻褐色軽石　As-BP、浅間室田軽石　As-MP、姶良丹沢火山灰　ＡＴである。

・竪穴住居の面積は、1/20の平面図上で、住居のうわば線上をデジタルプラニメーターで３回計測した平均値を用いた。

・本文中に表記した主軸方位は、竈を持たない住居では長軸方位を、竈を持つ住居では竈軸方位を、竈が検出されなかった住居では長辺の方位を主軸とみなして計測した。また、掘立柱建物では長辺を主軸とみなして計測した。

・遺構図面中における遺物番号は遺物実測図の番号と一致する。また●は今回報告した遺物の出土位置を表している。図示した遺物でこの表示のない遺物、遺構図面中に番号のない遺物は出土位置を記録しなかったものである。

・遺物図の縮尺は、旧石器4/5、土器1/3、縄文時代以降の石器1/3を原則とした。これ以外の縮尺を用いる場合は各遺物実測図に明記したので参照していただきたい。

・写真図版中の遺物の縮尺は、概ね遺物実測図と同縮尺とした。

・遺物実測図中のスクリーントーンは以下のことを意味する。

石器磨り面　石器摩滅部分　石器節理面　灰釉陶器釉範囲

・遺物観察表、石器計測表の記載方法は次の通りである。

(1)（　）内の計測値は残存値を表す。

(2)〈　〉内の計測値は推定値を表す。

(3) 石器類の重量はすべて残存値を表す。

(4) 色調については、農林水産省水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修の新版標準土色帖に基づいている。

(5) 計測値の単位は、cm、gである。出土標高の単位はmである。

・本報告書中で用いた、石器の器種、石材の略称は以下のことを意味する。

ナイ…ナイフ形石器　　ドリ…ドリル　　スク…スクレイパー　　加剥…加工痕を有する剥片

使剥…使用痕を有する剥片

黒安…黒色安山岩　　黒頁…黒色頁岩　　チャ…チャート　　粗安…粗粒輝石安山岩

安山…安山岩　　硬頁…硬質頁岩　　ホル…ホルンフェルス　　雲片…雲母石英片岩

赤碧…赤碧玉　　硬泥…硬質泥岩　　珪頁…珪質頁岩

・第4章第1節の分布図で用いた記号は次のことを意味する。

器種

◆…ナイフ形石器　▲…ドリル　△…スクレイパー　□…磨斧　▼…加工痕を有する剥片

◇…使用痕を有する剥片　■…石核　●…剥片　・…砕片　○…敲石　☆…台石

●…礫

石材

●…黒色安山岩　▼…黒色頁岩　■…チャート　▽…頁岩　□…粗粒輝石安山岩

○…安山岩　●…硬質泥岩　●…珪質頁岩　●…雲母石英片岩　●…砂岩　▲…石英

◆…硬質頁岩　◇…ホルンフェルス　☆…赤碧玉　★…変質安山岩

・本報告書で使用した地形図は下記の通りである。

国土地理院　地形図　1/25,000　「下室田」

　　地形図　1/50,000　「榛名山」

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
図版目次
表目次

第1章　発掘調査の経過
第1節　発掘調査に至る経緯 …… 1
第2節　発掘調査の経過 …… 1

第2章　発掘調査の方法
第1節　調査の手順 …… 3
第2節　遺跡の名称と調査区の設定 …… 3
第3節　基本層序 …… 6

第3章　周辺の環境
第1節　地理的環境 …… 7
第2節　歴史的環境 …… 8

第4章　検出された遺構と遺物
第1節　旧石器時代
1　調査の方法及び層序 …… 17
2　遺構、遺物の概要 …… 17
3　石器集中地点 …… 22
4　出土石器 …… 40
第2節　縄文時代
1　遺構、遺物の概要 …… 96
2　竪穴住居 …… 109
3　住居出土の遺物 …… 144
4　埋甕土坑 …… 204
5　土坑 …… 211
6　土坑出土の遺物 …… 234
7　その他の遺構と遺物 …… 261

8　遺構外出土遺物 …… 270
第3節　弥生時代
1　遺構、遺物の概要 …… 310
2　竪穴住居 …… 311
3　住居出土の遺物 …… 320
4　土坑 …… 324
5　土坑出土の遺物 …… 326
6　遺構外出土遺物 …… 328
第4節　古墳時代
1　遺構、遺物の概要 …… 329
2　竪穴住居 …… 330
3　住居出土の遺物 …… 346
4　遺構外出土遺物 …… 355
第5節　平安時代
1　遺構、遺物の概要 …… 356
2　竪穴住居 …… 357
3　住居出土の遺物 …… 374
4　土坑 …… 387
5　土坑出土の遺物 …… 390
6　遺構外出土遺物 …… 391
第6節　近世以降および時期不明の遺構
1　掘立柱建物跡 …… 393
2　土坑 …… 397
3　土坑出土の遺物 …… 399
4　列石 …… 401
5　炭窯 …… 403
6　井戸 …… 404
7　溝 …… 405
8　遺構外出土遺物 …… 408

第5章　科学分析
第1節　三ツ子沢中遺跡出土炭化材の樹種同定 …… 415

第6章　調査の成果とまとめ …… 418

報告書抄録

写真図版

挿図目次

第 1 図　調査区の設定（中・小区画）…… 4
第 2 図　調査区の設定（大区画）…… 5
第 3 図　基本層序 …… 6
第 4 図　周辺遺跡分布図 …… 10
第 5 図　遺構全体図 …… 13
第 6 図　旧石器調査区及び出土状態 …… 15
第 7 図　旧石器出土状況 …… 18
第 8 図　旧石器出土状況（器種別）…… 19
第 9 図　旧石器出土状況（石材別）…… 20
第10図　旧石器接合関係状態図 …… 21
第11図　1号ブロック石器集中地点 …… 22
第12図　2・3号ブロック石器集中地点 …… 23
第13図　1号ブロック石材別グラフ …… 24
第14図　2号ブロック石材別グラフ …… 25
第15図　3号ブロック石材別グラフ …… 25
第16図　4号ブロック石器集中地点 …… 26
第17図　4号ブロック石器集中地点 …… 27
第18図　4号ブロック石材別グラフ …… 27
第19図　5号ブロック石器集中地点 …… 28
第20図　5号ブロック石材別グラフ …… 29
第21図　6号ブロック石器集中地点 …… 30
第22図　6号ブロック石材別グラフ …… 31
第23図　7号ブロック石器集中地点 …… 32
第24図　7号ブロック石材別グラフ …… 33
第25図　8号ブロック石器集中地点 …… 34
第26図　8号ブロック石器集中地点 …… 35
第27図　8号ブロック石材別グラフ …… 36
第28図　9号ブロック石器集中地点 …… 37
第29図　10号ブロック石器集中地点 …… 38
第30図　9号ブロック石材別グラフ …… 39
第31図　10号ブロック石材別グラフ …… 39
第32図　ナイフ形石器（1）…… 42
第33図　ナイフ形石器（2）…… 43
第34図　ナイフ形石器（3）…… 44
第35図　ドリル（1）…… 44
第36図　ドリル（2）…… 45
第37図　スクレイパー（1）…… 45
第38図　スクレイパー（2）…… 46
第39図　磨製石斧 …… 46
第40図　加工痕を有する剥片（1）…… 46
第41図　加工痕を有する剥片（2）…… 47
第42図　使用痕を有する剥片（1）…… 47
第43図　使用痕を有する剥片（2）…… 48
第44図　使用痕を有する剥片（3）…… 49
第45図　使用痕を有する剥片（4）…… 50
第46図　石核（1）…… 51
第47図　石核（2）…… 52
第48図　石核（3）…… 53
第49図　接合資料－1（1）…… 56
第50図　接合資料－1（2）…… 57
第51図　接合資料－1（3）…… 58
第52図　接合資料－3（1）…… 59
第53図　接合資料－3（2）…… 60
第54図　接合資料－4 …… 61
第55図　接合資料－5（1）…… 62
第56図　接合資料－5（2）…… 63
第57図　接合資料－6（1）…… 64
第58図　接合資料－6（2）…… 65
第59図　接合資料－9（1）…… 66
第60図　接合資料－9（2）…… 67
第61図　接合資料－10（1）…… 68
第62図　接合資料－10（2）…… 69
第63図　接合資料－11（1）…… 70
第64図　接合資料－11（2）・15 …… 71
第65図　接合資料－17～19 …… 72
第66図　接合資料－20・21 …… 73
第67図　接合資料－25・28 …… 74
第68図　接合資料－30（1）…… 75
第69図　接合資料－30（2）…… 76
第70図　接合資料－31・35 …… 77
第71図　接合資料－37 …… 78
第72図　接合資料－39・41 …… 79
第73図　接合資料－45～47 …… 80
第74図　接合資料－2（1）…… 81
第75図　接合資料－2（2）…… 82
第76図　接合資料－8・13 …… 83
第77図　接合資料－22・26・29 …… 84
第78図　接合資料－33・34 …… 85
第79図　接合資料－38・43・44 …… 86
第80図　接合資料－14 …… 87
第81図　接合資料－16 …… 88
第82図　接合資料－40・42 …… 89
第83図　接合資料－32 …… 90
第84図　接合資料－36 …… 91
第85図　接合資料－23 …… 92
第86図　遺構外土器出土状況（前期）…… 103
第87図　遺構外土器出土状況（後期）…… 105
第88図　遺構外土器出土状況（後期）…… 107
第89図　1号住居（1）…… 109
第90図　1号住居（2）…… 110
第91図　2号住居（1）…… 112
第92図　2号住居（2）…… 113
第93図　3号住居 …… 114
第94図　16号住居（1）…… 115
第95図　16号住居（2）…… 116
第96図　16号住居（3）…… 117
第97図　17号住居 …… 119
第98図　18号住居（1）…… 120
第99図　18号住居（2）…… 121
第100図　18号住居（3）…… 122
第101図　19号住居 …… 124
第102図　20号住居 …… 125
第103図　21号住居 …… 126
第104図　22号住居 …… 128
第105図　23号住居 …… 129
第106図　24号住居 …… 130
第107図　27号住居（1）…… 131
第108図　27号住居（2）…… 132
第109図　29号住居 …… 133
第110図　30号住居 …… 134
第111図　32号住居 …… 135
第112図　36号住居 …… 137
第113図　45号住居（1）…… 138
第114図　45号住居（2）…… 139
第115図　45号住居（3）…… 140
第116図　47号住居 …… 141
第117図　48号住居 …… 143
第118図　1号住居出土遺物（1）…… 144

第119図　1号住居出土遺物（2）…… 145
第120図　1号住居出土遺物（3）…… 146
第121図　1号住居出土遺物（4）…… 147
第122図　2号住居出土遺物（1）…… 150
第123図　2号住居出土遺物（2）…… 151
第124図　2号住居出土遺物（3）…… 152
第125図　3号住居出土遺物（1）…… 154
第126図　3号住居出土遺物（2）…… 155
第127図　16号住居出土遺物（1）…… 156
第128図　16号住居出土遺物（2）…… 157
第129図　16号住居出土遺物（3）…… 158
第130図　16号住居出土遺物（4）…… 159
第131図　16号住居出土遺物（5）…… 160
第132図　17号住居出土遺物（1）…… 162
第133図　17号住居出土遺物（2）…… 163
第134図　18号住居出土遺物（1）…… 164
第135図　18号住居出土遺物（2）…… 165
第136図　18号住居出土遺物（3）…… 166
第137図　18号住居出土遺物（4）…… 167
第138図　19号住居出土遺物（1）…… 169
第139図　19号住居出土遺物（2）…… 170
第140図　19号住居出土遺物（3）…… 171
第141図　20号住居出土遺物（1）…… 173
第142図　20号住居出土遺物（2）…… 174
第143図　21号住居出土遺物 …… 176
第144図　22号住居出土遺物（1）…… 177
第145図　22号住居出土遺物（2）…… 178
第146図　23号住居出土遺物（1）…… 179
第147図　23号住居出土遺物（2）…… 180
第148図　24号住居出土遺物 …… 181
第149図　27号住居出土遺物（1）…… 182
第150図　27号住居出土遺物（2）…… 183
第151図　27号住居出土遺物（3）…… 184
第152図　29号住居出土遺物 …… 186
第153図　30号住居出土遺物（1）…… 187
第154図　30号住居出土遺物（2）…… 188
第155図　32号住居出土遺物（1）…… 189
第156図　32号住居出土遺物（2）…… 190
第157図　36号住居出土遺物（1）…… 191
第158図　36号住居出土遺物（2）…… 192
第159図　36号住居出土遺物（3）…… 193
第160図　45号住居出土遺物（1）…… 195
第161図　45号住居出土遺物（2）…… 196
第162図　45号住居出土遺物（3）…… 197
第163図　47号住居出土遺物（1）…… 199
第164図　47号住居出土遺物（2）…… 200
第165図　47号住居出土遺物（3）…… 201
第166図　48号住居出土遺物 …… 203
第167図　2・7号埋甕土坑 …… 204
第168図　113・116号埋甕土坑 …… 205
第169図　153・175号埋甕土坑 …… 206
第170図　2・7・113・116号埋甕土坑出土遺物 …… 207
第171図　116・175号埋甕土坑出土遺物 …… 208
第172図　153号埋甕土坑出土遺物 …… 209
第173図　5・11・75・104号土坑 …… 211
第174図　105・107・108・126号土坑 …… 212
第175図　139・146・166号土坑 …… 213
第176図　167・189号土坑 …… 214
第177図　1・3・6・9・10号土坑 …… 217
第178図　12～19号土坑 …… 218
第179図　21～24・27～30号土坑 …… 219
第180図　31～39号土坑 …… 220
第181図　40～47・50・52号土坑 …… 221
第182図　53～58・60～63号土坑 …… 222
第183図　65・66・68～71・73・74・76・77号土坑 …… 223
第184図　78～86号土坑 …… 224
第185図　87～92号土坑 …… 225
第186図　93～100号土坑 …… 226
第187図　101～103・106・109～111号土坑 …… 227
第188図　114・115・117～119・121～123号土坑 …… 228
第189図　124・125・127・129～134号土坑 …… 229
第190図　135～138・140～142号土坑 …… 230
第191図　143～145・147～151号土坑 …… 231
第192図　154・159・162・164・165・171・173・178号土坑 …… 232
第193図　181・185・187・191～196号土坑 …… 233
第194図　5・11・75号土坑出土遺物 …… 234
第195図　104・105・107号土坑出土遺物 …… 235
第196図　107・108号土坑出土遺物 …… 236
第197図　108号土坑出土遺物 …… 237
第198図　126・139号土坑出土遺物 …… 238
第199図　139・146号土坑出土遺物 …… 239
第200図　146・166・167号土坑出土遺物 …… 240
第201図　3・6・9・10・12・16号土坑出土遺物 …… 244
第202図　16・17・28～32・34号土坑出土遺物 …… 245
第203図　34・35・37～39・41・42・44・47号土坑出土遺物 …… 246
第204図　47・50・52・74・85～88号土坑出土遺物 …… 247
第205図　89～93号土坑出土遺物 …… 248
第206図　93・100・102・106・110・114・118号土坑出土遺物 …… 249
第207図　119・121～124・127・130・136号土坑出土遺物 …… 250
第208図　136～138・140号土坑出土遺物 …… 251
第209図　143・145・148・150・159・164・171・178号土坑出土遺物 …… 252
第210図　1・2号集石 …… 261
第211図　1号集石出土遺物 …… 262
第212図　117・152・154・161・259号ピット …… 263
第213図　ピット全体図 …… 267
第214図　117・152・154・161・259号ピット出土遺物 …… 269
第215図　遺構外出土土器（1）…… 270
第216図　遺構外出土土器（2）…… 271
第217図　遺構外出土土器（3）…… 272
第218図　遺構外出土土器（4）…… 273
第219図　遺構外出土土器（5）…… 274
第220図　遺構外出土土器（6）…… 275
第221図　打製石斧（1）…… 280
第222図　打製石斧（2）…… 281
第223図　打製石斧（3）…… 282
第224図　打製石斧（4）…… 283
第225図　打製石斧（5）…… 284
第226図　打製石斧（6）…… 285
第227図　蛇状石器（1）…… 286
第228図　蛇状石器（2）…… 287
第229図　スクレイパー（1）…… 287
第230図　スクレイパー（2）…… 288
第231図　スクレイパー（3）…… 289
第232図　スクレイパー（4）…… 290
第233図　石匙（1）…… 290
第234図　石匙（2）…… 291
第235図　石鏃（1）…… 291
第236図　石鏃（2）…… 292
第237図　石鏃（3）…… 293
第238図　石鏃（4）…… 294
第239図　ピエスエスキーユ …… 294
第240図　石核 …… 294
第241図　ドリル（1）…… 294
第242図　ドリル（2）…… 295

第243図　ドリル（3）…… 296
第244図　宝鏡器 …… 296
第245図　加工痕を有する剥片 …… 296
第246図　敲石・磨石（1）…… 296
第247図　敲石・磨石（2）…… 297
第248図　凹石（1）…… 298
第249図　凹石（2）…… 299
第250図　磨製石斧 …… 299
第251図　石製円盤 …… 299
第252図　石棒状石器 …… 300
第253図　スタンプ形石器 …… 300
第254図　石錘・浮子 …… 300
第255図　多孔石 …… 301
第256図　砥石 …… 302
第257図　石皿（1）…… 302
第258図　石皿（2）…… 303
第259図　14号住居（1）…… 311
第260図　14号住居（2）…… 312
第261図　28号住居 …… 313
第262図　35号住居 …… 314
第263図　43号住居（1）…… 315
第264図　43号住居（2）…… 317
第265図　46号住居（1）…… 318
第266図　46号住居（2）…… 319
第267図　28号住居出土遺物 …… 320
第268図　35号住居出土遺物 …… 320
第269図　43号住居出土遺物（1）…… 321
第270図　43号住居出土遺物（2）…… 322
第271図　46号住居出土遺物 …… 323
第272図　59・120・152号土坑 …… 324
第273図　168・183・186・188号土坑 …… 325
第274図　59・120・168・186・188号土坑出土遺物 …… 326
第275図　遺構外出土遺物 …… 328
第276図　7号住居 …… 330
第277図　8号住居（1）…… 332
第278図　8号住居（2）…… 333
第279図　11号住居（1）…… 334
第280図　11号住居（2）…… 335
第281図　11号住居（3）…… 336
第282図　25号住居 …… 337
第283図　31号住居（1）…… 337
第284図　31号住居（2）…… 338
第285図　37号住居（1）…… 339
第286図　37号住居（2）…… 340
第287図　38号住居（1）…… 341
第288図　38号住居（2）…… 342
第289図　40号住居 …… 343
第290図　44号住居 …… 345
第291図　7号住居出土遺物 …… 346
第292図　8号住居出土遺物 …… 346
第293図　11号住居出土遺物 …… 347
第294図　31号住居出土遺物 …… 348
第295図　37号住居出土遺物（1）…… 348
第296図　37号住居出土遺物（2）…… 349
第297図　37号住居出土遺物（3）…… 350
第298図　38号住居出土遺物 …… 351
第299図　40号住居出土遺物 …… 352
第300図　44号住居出土遺物（1）…… 353
第301図　44号住居出土遺物（2）…… 354
第302図　遺構外出土遺物 …… 355
第303図　4号住居 …… 357
第304図　5号住居 …… 358
第305図　6号住居 …… 360
第306図　9号住居 …… 361
第307図　10号住居（1）…… 362
第308図　10号住居（2）…… 363
第309図　12号住居 …… 364
第310図　13号住居 …… 365
第311図　15号住居 …… 367
第312図　26号住居 …… 367
第313図　33号住居 …… 368
第314図　34号住居 …… 368
第315図　39号住居（1）…… 369
第316図　39号住居（2）…… 370
第317図　41号住居 …… 371
第318図　42号住居 …… 373
第319図　4・5号住居出土遺物 …… 374
第320図　6号住居出土遺物 …… 376
第321図　9号住居出土遺物 …… 377
第322図　10号住居出土遺物（1）…… 378
第323図　10号住居出土遺物（2）…… 379
第324図　10号住居出土遺物（3）…… 380
第325図　12号住居出土遺物 …… 381
第326図　13号住居出土遺物 …… 382
第327図　26号住居出土遺物 …… 383
第328図　33号住居出土遺物 …… 384
第329図　39号住居出土遺物 …… 384
第330図　41号住居出土遺物 …… 385
第331図　42号住居出土遺物 …… 386
第332図　128・155・160号土坑 …… 387
第333図　161・163・174号土坑 …… 388
第334図　172・184号土坑 …… 389
第335図　160号土坑出土遺物 …… 390
第336図　161号土坑出土遺物 …… 390
第337図　184号土坑出土遺物 …… 390
第338図　遺構外出土遺物 …… 391
第339図　1号掘立柱建物 …… 393
第340図　2号掘立柱建物 …… 394
第341図　3号掘立柱建物 …… 395
第342図　190・4・8・26号土坑 …… 397
第343図　49・156～158・169・170・176号土坑 …… 398
第344図　190号土坑出土遺物 …… 399
第345図　4・26・157号土坑出土遺物 …… 400
第346図　列石（1）…… 401
第347図　列石（2）…… 402
第348図　炭窯 …… 403
第349図　井戸 …… 404
第350図　1～4号溝 …… 405
第351図　2・3号溝出土遺物 …… 407
第352図　遺構外出土遺物（1）…… 408
第353図　遺構外出土遺物（2）…… 409
第354図　遺構外出土遺物（3）…… 410
第355図　遺構外出土遺物（4）…… 411

図版目次

ＰＬ１　遺跡から棟名山を望む
ＰＬ２　旧石器出土状況
ＰＬ３　旧石器出土土層断面・旧石器出土状況・旧石器調査風景
ＰＬ４　ナイフ形石器
ＰＬ５　ドリル・スクレイパー
ＰＬ６　磨製石斧・加工痕を有する剥片・使用痕を有する剥片 (1)
ＰＬ７　使用痕を有する剥片 (2)
ＰＬ８　石槍 (1)
ＰＬ９　石核 (2)
ＰＬ10　接合資料－１ (1)
ＰＬ11　接合資料－１ (2)
ＰＬ12　接合資料－１ (3)・接合資料－３ (1)
ＰＬ13　接合資料－３ (2)
ＰＬ14　接合資料－４
ＰＬ15　接合資料－５
ＰＬ16　接合資料－６ (1)
ＰＬ17　接合資料－６ (2)
ＰＬ18　接合資料－９
ＰＬ19　接合資料－10
ＰＬ20　接合資料－11
ＰＬ21　接合資料－15・17・18
ＰＬ22　接合資料－19－21・25
ＰＬ23　接合資料－28・30 (1)
ＰＬ24　接合資料－30 (2)・31
ＰＬ25　接合資料－35・37・39
ＰＬ26　接合資料－41・45－47
ＰＬ27　接合資料－２ (1)
ＰＬ28　接合資料－２ (2)・８・13
ＰＬ29　接合資料－22・26・29・33
ＰＬ30　接合資料－34・38・43・44
ＰＬ31　接合資料－14・16 (1)
ＰＬ32　接合資料－16 (2)・40・42
ＰＬ33　接合資料－32・36・23
ＰＬ34　１号住居全景（南から）
　１号住居土層断面（南から）
　１号住居遺物出土状況（南から）
　１号住居敷石部（西から）
　１号住居炉全景（南から）
ＰＬ35　２号住居全景（西から）
　２号住居遺物出土状況（西から）
　２号住居土層断面（南から）
　２号住居炉全景（西から）
　３号住居全景（西から）
　３号住居遺物出土状況（西から）
　３号住居土層断面（南から）
　３号住居炉全景（西から）
ＰＬ36　16号住居全景（南から）
　16号住居遺物出土状況（南から）
　16号住居主体部（東から）
　16号住居柄部（南から）
　16号住居主体部から柄部を望む（北から）
ＰＬ37　16号住居敷石取上検全景（南から）
　16号住居連結部石圃施設（南から）
　16号住居炉全景（北から）
　16号住居掘り方（南から）
　17号住居全景（東から）
　17号住居遺物出土状況（東から）
　17号住居土層断面（東から）
　17号住居炉全景（南から）
ＰＬ38　18号住居全景（南から）
　18号住居遺物出土状況（南から）
　18号住居敷石部分（西から）
　18号住居炉全景（南から）
　18号住居炭化材出土状況（南から）
ＰＬ39　19・20号住居全景（西から）
　19号住居遺物出土状況（南から）
　19号住居炉全景（南から）
　20号住居遺物出土状況（西から）
　20号住居炉全景（南から）
ＰＬ40　21号住居全景（南西から）
　21号住居遺物出土状況（西から）
　21号住居土層断面（東から）
　21号住居土層断面（南から）
　22号住居全景（西から）
　22号住居遺物出土状況（西から）
　22号住居土層断面（北から）
　22号住居玦状耳飾り出土状況（南東から）
ＰＬ41　23号住居全景（北から）
　23号住居遺物出土状況（北から）
　23号住居土層断面（東から）
　23号住居炉全景（南から）
　23号住居炉体土器内土層断面（南から）
ＰＬ42　24号住居全景（東から）
　24号住居土層断面（東から）
　27号住居全景（南から）
　27号住居掘り方全景（南から）
　27号住居遺物出土状況（東から）
　27号住居土層断面（東から）
　27号住居炉全景（南から）
　27号住居掘削具痕跡（西から）
ＰＬ43　29号住居全景（南から）
　29号住居掘り方全景（南から）
　29号住居土層断面（南西から）
　30号住居全景（西から）
　32号住居全景（西から）
　32号住居遺物出土状況（東から）
　32号住居土層断面（東から）
　32号住居Ｐ４土層断面（南から）
ＰＬ44　36号住居全景（南から）
　36号住居遺物出土状況（西から）
　36号住居全景（西から）
　36号住居土層断面（東から）
　36号住居炉全景（北から）
ＰＬ45　45号住居主体部全景（北東から）
　45号住居主体部西半遺物出土状況（北東から）
　45号住居主体部柱穴群（南から）
　45号住居埋甕出土状況（西から）
　45号住居注口土器出土状況（南から）
ＰＬ46　47号住居全景（東から）
　47号住居遺物出土状況（東から）
　47号住居土層断面（北から）
　47号住居炉全景（北から）
　48号住居全景（南から）
　48号住居遺物出土状況（南から）
　48号住居炉全景（南から）
　48号住居石皿出土状況（南から）

P L 47　1 号住居出土遺物 (1)
P L 48　1 号住居出土遺物 (2)
P L 49　1 号住居出土遺物 (3)・2 号住居出土遺物 (1)
P L 50　2 号住居出土遺物 (2)・3 号住居出土遺物 (1)
P L 51　3 号住居出土遺物 (2)・16号住居出土遺物 (1)
P L 52　16号住居出土遺物 (2)
P L 53　16号住居出土遺物 (3)・17号住居出土遺物
P L 54　18号住居出土遺物 (1)
P L 55　18号住居出土遺物 (2)・19号住居出土遺物 (1)
P L 56　19号住居出土遺物 (2)
P L 57　20号住居出土遺物・21号住居出土遺物
P L 58　22号住居出土遺物・23号住居出土遺物
P L 59　24号住居出土遺物・27号住居出土遺物 (1)
P L 60　27号住居出土遺物 (2)・29号住居出土遺物・30号住居出土遺物
P L 61　32号住居出土遺物・36号住居出土遺物 (1)
P L 62　36号住居出土遺物 (2)
P L 63　45号住居出土遺物 (1)
P L 64　45号住居出土遺物 (2)・47号住居出土遺物 (1)
P L 65　47号住居出土遺物 (2)・48号住居出土遺物
P L 66　2 号理要土坑全景（南から）
2 号理要土坑遺物出土状況（南から）
2 号理要土坑土層断面（南から）
7 号理要土坑全景（南から）
7 号理要土坑土層断面（南西から）
7 号理要土坑掘り方全景（南から）
113号理要土坑全景（東から）
113号理要土坑掘り方土層断面（南から）
P L 67　116号理要土坑全景（南から）
116号理要土坑土層断面（南から）
116号理要土坑掘り方土層断面（南から）
153号理要土坑検出状況（北から）
153号理要土坑土層断面（北から）
153号理要土坑上石を除く（北から）
175号理要土坑全景（南から）
175号理要土坑掘り方（南から）
P L 68　1 号土坑全景（南から）
3 号土坑遺物出土状況（南から）
5 号土坑全景（南西から）
5 号土坑遺物出土状況（南から）
6 号土坑遺物出土状況（西から）
9 号土坑全景（南から）
10号土坑全景（南から）
11・12号土坑全景（北から）
P L 69　11・12号土坑遺物出土状況（北から）
13号土坑全景（南西から）
14号土坑全景（南から）
16・19号土坑遺物出土状況（北西から）
17号土坑遺物出土状況（西から）
18号土坑全景（北西から）
21号土坑全景（北から）
22・23号土坑全景（西から）
P L 70　23号土坑土層断面（北から）
24号土坑土層断面（南から）
27号土坑全景（東から）
28号土坑全景（西から）
29号土坑全景（南から）
30号土坑全景（南から）
31号土坑遺物出土状況（南東から）
32号土坑遺物出土状況（北西から）
P L 71　33号土坑全景（南から）
34号土坑全景（北から）
35号土坑遺物出土状況（南から）
36号土坑遺物出土状況（東から）
37号土坑全景（南から）
38号土坑遺物出土状況（北東から）
39号土坑遺物出土状況（北東から）
40号土坑土層断面（西から）
P L 72　41号土坑遺物出土状況（南から）
42号土坑遺物出土状況（南西から）
43号土坑全景（南から）
44号土坑全景（西から）
45号土坑全景（南から）
46号土坑全景（南から）
47号土坑遺物出土状況（南から）
50号土坑土層断面（南から）
P L 73　52号土坑全景（南から）
53号土坑全景（南から）
54号土坑全景（南から）
55号土坑全景（南から）
56号土坑全景（南から）
57号土坑全景（南から）
57号土坑土層断面（南から）
58号土坑全景（南から）
P L 74　60号土坑全景（南から）
61号土坑全景（南から）
62号土坑土層断面（南から）
63号土坑全景（南から）
65号土坑遺物出土状況（北から）
66号土坑全景（南から）
68号土坑土層断面（南から）
69号土坑土層断面（南から）
P L 75　70号土坑全景（南から）
71号土坑全景（南から）
73号土坑全景（南から）
74号土坑遺物出土状況（南から）
75号土坑遺物出土状況（西から）
76号土坑全景（南から）
77号土坑全景（南から）
78号土坑全景（南から）
P L 76　79号土坑全景（北から）
80号土坑遺物出土状況（南から）
81号土坑遺物出土状況（南から）
82号土坑全景（南から）
83号土坑全景（南から）
84号土坑全景（南から）
85号土坑遺物出土状況（南から）
86号土坑全景（東から）
P L 77　87号土坑遺物出土状況（南から）
88号土坑遺物出土状況（南から）
89号土坑全景（北から）
90号土坑遺物出土状況（南から）
91・92号土坑遺物出土状況（南東から）
93号土坑遺物出土状況（南から）
94号土坑遺物出土状況（南から）
95号土坑全景（南から）
P L 78　96号土坑全景（南から）
97号土坑全景（南西から）
98号土坑遺物出土状況（南西から）
99号土坑遺物出土状況（南から）
100号土坑全景（南から）
101号土坑全景（南から）
102号土坑遺物出土状況（南から）
103号土坑全景（東から）

PL79 104号土坑遺物出土状況（南から）
105号土坑遺物出土状況（北西から）
106号土坑遺物出土状況（東から）
107号土坑遺物出土状況（南から）
108号土坑石棒出土状況（南東から）
108号土坑遺物出土状況（西から）
109号土坑全景（南東から）
110号土坑遺物出土状況（西から）
PL80 111号土坑全景（東から）
114号土坑遺物出土状況（南から）
115号土坑土層断面（南から）
118号土坑遺物出土状況（南から）
119号土坑土層断面（南から）
121号土坑土層断面（東から）
122号土坑土層断面（東から）
123号土坑遺物出土状況（南東から）
PL81 124号土坑遺物出土状況（西から）
125号土坑土層断面（東から）
126号土坑全景（東から）
127号土坑全景（南から）
129号土坑全景（南から）
130・131号土坑土層断面（西から）
132号土坑全景（南から）
133号土坑全景（東から）
PL82 134号土坑土層断面（南から）
136号土坑全景（西から）
137号土坑全景（東から）
138号土坑遺物出土状況（東から）
139号土坑遺物出土状況（南から）
139号土坑遺物出土状況（東から）
140号土坑遺物出土状況（南から）
141号土坑全景（南から）
PL83 142号土坑土層断面（東から）
143号土坑遺物出土状況（北から）
144号土坑全景（南から）
145号土坑遺物出土状況（東から）
146号土坑遺物出土状況（東から）
147号土坑土層断面（南から）
148号土坑全景（東から）
149号土坑全景（南東から）
PL84 150号土坑土層断面（南から）
151号土坑遺物出土状況（東から）
154号土坑全景（東から）
159号土坑土層断面（南から）
162号土坑遺物出土状況・318号ピット（西から）
164号土坑全景（南から）
165号土坑遺物出土状況（東から）
166号土坑全景（東から）
PL85 167号土坑全景（南東から）
171号土坑遺物出土状況（南から）
173号土坑全景（南から）
178号土坑土層断面（北から）
178号土坑遺物出土状況（北から）
181号土坑土層断面（北から）
185号土坑土層断面（北から）
187号土坑全景（南から）
PL86 189号土坑全景（南東から）
189号土坑土層断面（南東から）
191号土坑全景（東から）
192号土坑全景（南から）
193号土坑全景（北東から）
194号土坑全景（南東から）
195号土坑全景（南から）
196号土坑土層断面（南東から）
PL87 2・7・113号埋甕土坑出土遺物
PL88 116・153号埋甕土坑出土遺物
PL89 175号埋甕土坑出土遺物、5・11・75号土坑出土遺物
PL90 104・105・107号土坑出土遺物
PL91 108号土坑出土遺物 (1)
PL92 108号土坑出土遺物 (2)・126・139号土坑出土遺物 (1)
PL93 139号土坑出土遺物 (2)・146号土坑出土遺物 (1)
PL94 146号土坑出土遺物 (2)・166・167・3・6・9・10・12・16号土坑出土遺物 (1)
PL95 16号土坑出土遺物 (2)・17・28～32・34・35・37・38号土坑出土遺物
PL96 39・41・42・44・47・50・52・74・85～87号土坑出土遺物
PL97 88～93号土坑出土遺物
PL98 100・102・106・110・114・118・119・121～124・130号土坑出土遺物
PL99 127・136～138・140号土坑出土遺物
PL100 143・145・148・150・159・164・171・178号土坑出土遺物、1号集石出土遺物 (1)
PL101 1号集石全景（西から）
2号集石全景（北から）
2号集石南西部（北東から）
117号ピット土層断面（南から）
152号ピット全景（南から）
154号ピット土層断面（南から）
161号ピット土層断面（南から）
作業風景
PL102 1号集石出土遺物 (2)、117・161・152・154・259号ピット出土遺物、遺構外出土土器 (1)
PL103 遺構外出土土器 (2)
PL104 遺構外出土土器 (3)
PL105 遺構外出土土器 (4)
PL106 遺構外出土土器 (5)
PL107 遺構外出土石器 打製石斧 (1)
PL108 遺構外出土石器 打製石斧 (2)
PL109 遺構外出土石器 打製石斧 (3)・敲状石器
PL110 遺構外出土石器 スクレイパー・石匙
PL111 遺構外出土石器 石鏃 (1)
PL112 遺構外出土石器 石鏃 (2)・ピエスエスキーユ・石核
PL113 遺構外出土石器 ドリル・尖頭器・加工痕を有する剥片
PL114 遺構外出土石器 凹石・磨石・敲石
PL115 遺構外出土石器 磨製石斧・石棒状石器・石錘・浮子・石製円盤・スタンプ形石器・多孔石
PL116 遺構外出土石器 砥石・石皿
PL117 14号住居全景（東から）
14号住居遺物出土状況（東から）
14号住居土層断面（西から）
14号住居土層断面（南から）
14号住居As-C埋没状況（南東から）
PL118 28号住居全景（南から）
28号住居遺物出土状況（南から）
28号住居土層断面（西から）
28号住居土層断面（南から）
35号住居全景（南から）
35号住居遺物出土状況（南から）
35号住居土層断面（南から）
35号住居炉全景（南から）
PL119 43号住居全景（西から）
43号住居遺物出土状況（西から）

43号住居土層断面（西から）
43号住居土層断面（南から）
43号住居炉全景（北から）
43号住居炉遺物出土状況（南から）
43号住居炉土層断面（東から）
43号住居遺物近景（南東から）
P L 120　43号住居ベッド状遺構（東から）
43号住居内土坑遺物近景（北から）
46号住居全景（南から）
46号住居遺物出土状況（南から）
46号住居土層断面（西から）
46号住居土層断面（南から）
46号住居炉全景（南から）
46号住居Ｐ１遺物出土状況（南から）
P L 121　28・35・43号住居出土遺物（1）
P L 122　43号住居出土遺物（2）・46号住居出土遺物
P L 123　59号土坑全景（南から）
120号土坑遺物出土状況（南から）
152号土坑遺物出土状況（南から）
168号土坑遺物出土状況（北東から）
183号土坑遺物出土状況（南から）
186号土坑遺物出土状況（南から）
188号土坑全景（南から）
作業風景
P L 124　59・120・168・186・188号土坑出土遺物、遺構外出土遺物
P L 125　7号住居遺物出土状況（西から）
7号住居土層断面（東から）
7号住居掘り方全景（西から）
7号住居竈全景（西から）
8号住居全景（西から）
8号住居土層断面（西から）
8号住居遺物出土状況（西から）
8号住居掘り方全景（西から）
P L 126　8号住居掘り方土層断面（西から）
8号住居竈遺物出土状況（西から）
8号住居竈土層断面（南から）
8号住居こも編み石出土状況（東から）
11号住居全景（東から）
11号住居遺物出土状況（北から）
11号住居土層断面（南から）
11号住居掘り方全景（東から）
P L 127　11号住居竈全景（東から）
11号住居竈土層断面北半分（南から）
25号住居全景（西から）
25号住居土層断面（西から）
31号住居遺物出土状況（南から）
31号住居土層断面（東から）
31号住居掘り方全景（南から）
31号住居竈全景（南から）
P L 128　37号住居遺物出土状況（南から）
37号住居全景（南から）
37号住居土層断面（南から）
37号住居掘り方全景（南から）
37号住居竈全景（南から）
P L 129　37号住居竈遺物出土状況（南から）
37号住居石集中点（南から）
37号住居石集中点（東から）
37号住居床下土坑全景（南東から）
38号住居全景（南から）
38号住居遺物出土状況（東から）
38号住居土層断面（北から）
38号住居竈全景（南から）
P L 130　40号住居全景（西から）
40号住居遺物出土状況（西から）
40号住居竈全景（北西から）
40号住居竈遺物出土状況（北西から）
44号住居全景（南南西から）
44号住居遺物出土状況（南南西から）
44号住居土層断面（東から）
44号住居竈全景（南から）
P L 131　7・8・11・31号住居出土遺物
P L 132　37号住居出土遺物（1）
P L 133　37号住居出土遺物（2）
P L 134　38・40号住居出土遺物（1）
P L 135　40号住居出土遺物（2）・44号住居出土遺物、遺構外出土遺物
P L 136　4号住居全景（西から）
4号住居土層断面（東から）
4号住居掘り方全景（西から）
4号住居竈全景（西から）
5号住居全景（西から）
5号住居掘り方全景（西から）
5号住居掘り方土層断面（東から）
5号住居竈遺物出土状況（西から）
P L 137　6号住居全景（西から）
6号住居遺物出土状況（西から）
6号住居掘り方全景（西から）
6号住居竈遺物出土状況（西から）
9号住居全景（西から）
9号住居全景（拡張後）（西から）
9号住居丸納出土状況（南西から）
9号住居Ｐ１土層断面（西から）
P L 138　10号住居全景（西から）
10号住居遺物出土状況（西から）
10号住居土層断面（北から）
10号住居竈全景（西から）
10号住居竈遺物出土状況（西から）
P L 139　12号住居全景（西から）
12号住居遺物出土状況（西から）
12号住居土層断面（南から）
12号住居竈崩れかけた袖の状況（西から）
13号住居全景（南から）
13号住居遺物出土状況（南から）
13号住居床下土坑遺物出土状況（南から）
13号住居竈遺物出土状況（南から）
P L 140　15号住居全景（西から）
15号住居土層断面（西から）
15号住居竈全景（西から）
15号住居竈土層断面（南から）
26号住居遺物出土状況（西から）
26号住居土層断面（西から）
26号住居掘り方全景（南から）
26号住居掘り方土層断面（南から）
P L 141　33号住居全景（西から）
33号住居遺物出土状況（西から）
33号住居土層断面（北から）
33号住居掘り方全景（西から）
34号住居全景（西から）
34号住居遺物出土状況（西から）
34号住居土層断面（北から）
34号住居掘り方全景（西から）
P L 142　39号住居全景（西から）
39号住居遺物出土状況（西から）

39号住居土層断面（西から）
39号住居掘り方全景（西から）
39号住居竈全景（北西から）
39号住居竈遺物出土状況（西から）
39号住居貯蔵穴遺物出土状況（北から）
39号住居粘土塊出土状況（南から）
ＰＬ143　41号住居全景（西から）
41号住居遺物出土状況（西から）
41号住居掘り方全景（西から）
41号住居竈全景（西北西から）
42号住居全景（北から）
42号住居土層断面（南から）
42号住居掘り方全景（北から）
42号住居貯蔵穴遺物出土状況（北から）
ＰＬ144　4・6号住居出土遺物・9号住居出土遺物（1）
ＰＬ145　9号住居出土遺物（2）・10号住居出土遺物（1）
ＰＬ146　10号住居出土遺物（2）・12号住居出土遺物・13号住居出土遺物（1）
ＰＬ147　13号住居出土遺物（2）・26・33号住居出土遺物・39号住居出土遺物（1）
ＰＬ148　39号住居出土遺物（2）・41・42号住居出土遺物
ＰＬ149　155号土坑遺物出土状況（南から）
160号土坑全景・土層断面（北から）
161号土坑遺物出土状況（北から）
163号土坑全景・土層断面（北から）
172号土坑全景（南から）
174号土坑全景（南から）
184号土坑遺物出土状況（北西から）
作業風景
ＰＬ150　160・161・184号土坑出土遺物、遺構外出土遺物
ＰＬ151　1号掘立柱建物全景（西から）
2号掘立柱建物全景（東から）
2号掘立柱建物Ｐ１土層断面（東から）
3号掘立柱建物Ｐ９土層断面（東から）
3号掘立柱建物全景（北から）
ＰＬ152　190号土坑遺物出土状況（南から）
4号土坑全景（南西から）
8号土坑全景（南から）
26号土坑全景（東から）
49号土坑全景（西から）
156号土坑遺物出土状況（南から）
157号土坑土層断面（北から）
158号土坑土層断面（北から）
ＰＬ153　169号土坑全景（南から）
170号土坑土層断面（南から）
176号土坑全景（南西から）
炭窯全景（東から）
列石全景（南から）
井戸全景（南東から）
列石土層断面（北から）
ＰＬ154　1号溝全景（北から）
1号溝土層断面（南から）
2号溝土層断面（南から）
2号溝全景（南から）
3号溝土層断面（南から）
4号溝土層断面（北から）
ＰＬ155　190・4・26・157号土坑出土遺物、2・3号溝出土遺物
ＰＬ156　遺構外出土遺物（1）
ＰＬ157　遺構外出土遺物（2）
ＰＬ158　遺構外出土遺物（3）

表目次

表1　周辺遺跡一覧表 …… 11
表2　器種・石材集計表 …… 17
表3　1号ブロック器種・石材集計表 …… 24
表4　2号ブロック器種・石材集計表 …… 25
表5　3号ブロック器種・石材集計表 …… 25
表6　4号ブロック器種・石材集計表 …… 27
表7　5号ブロック器種・石材集計表 …… 29
表8　6号ブロック器種・石材集計表 …… 31
表9　7号ブロック器種・石材集計表 …… 33
表10　8号ブロック器種・石材集計表 …… 36
表11　9号ブロック器種・石材集計表 …… 39
表12　10号ブロック器種・石材集計表 …… 39
表13　旧石器計測表 …… 93
表14　縄文時代土坑一覧表 …… 99
表15　ピット一覧表 …… 264
表16　敷石住居時期別集計表 …… 418
表17　炉要を持つ敷石住居の県別集計表 …… 424
表18　炉要を持つ敷石住居の時期別集計表 …… 425
表19　柱穴配置の時期別集計表 …… 427
表20　全面敷石タイプの時期別集計表 …… 427
表21　環礫タイプの時期別集計表 …… 427
表22　中央部タイプの時期別集計表 …… 428
表23　群馬県内検出の柄鏡形敷石住居一覧表 …… 431

第１章　発掘調査の経過

第１節　発掘調査に至る経緯

北陸新幹線建設に伴う発掘調査の経緯については（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第183集「『行方春名社遺跡』 北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第１集」（1994年発行）の第１章に詳しく記載されているのでそちらを参照していただきたい。

三ツ子沢中遺跡は、平成２年11月26日に、日本鉄道建設公団高崎建設局長と群馬県教育委員会教育長の間で締結された「北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の実施に関する協定書」に記載された発掘対象となる24遺跡に含まれており、用地買収の進捗状況、工事の進捗状況、発掘体制の状況等に応じて発掘調査に着手することとなった。

平成３年２月に高崎市行方春名社遺跡で北陸新幹線関連の発掘調査が開始された後、同年６月に、1998年の冬季オリンピック長野開催が決定され、新幹線建設は拍車がかかり、冬季オリンピックまでの開通が急がれることになった。それに伴い、行方春名社遺跡からスタートした発掘調査も、平成５年度にはピークを迎え、最盛時には13遺跡が並行して調査されることになった。

三ツ子沢中遺跡は用地買収が解決した平成６年４月１日に、調査区の西側、町道5444号線の西側部分から着手し、その後東側へと調査を進めていった。調査面積は6,485㎡を測り、調査期間は平成６年４月から平成７年８月までの１年４カ月で実施した。調査の詳しい経過は次項に譲る。

第２節　発掘調査の経過

本遺跡は、平成６年度・７年度の２カ年調査を行った。平成６年４月から１班体制で開始し、途中担当職員を１名増員した。平成７年度も同様に１班体制で開始し、途中担当職員を１名増員した。以下、調査経過を調査日誌から抜粋することにする。

平成６年

４月上旬　表土掘削開始

４月中旬　調査事務所設置　１～５号土坑調査

４月下旬　白川傘松遺跡事務所から引っ越し
　　１号溝調査

５月上旬　町道東側調査区は現況が梨畑であったため、梨の抜根を行う。
　　６～10号土坑調査

５月中旬　１、２号住居調査開始
　　11～18号土坑調査
　　町道東側表土掘削

５月下旬　町道東側遺構確認

５月31日　神戸宮山遺跡から作業員合流により増員

６月10日　気球による空中写真撮影

６月上旬　４～10号住居調査開始

６月中旬　町道西側上面調査終了により旧石器トレンチ調査
　　26～30号土坑調査

６月下旬　11～14号住居調査開始
　　31～39号土坑調査

７月中旬　41～66号土坑調査

７月下旬　16号住居（柄鏡形敷石住居）調査開始
　　77～94号土坑調査

８月１日　津島調査研究員、本日より本遺跡調査担当となる。

８月９日　気球による空中写真撮影

８月21日　現地説明会（見学者180余名）

８月下旬　17～23号住居調査
　　94～108号土坑調査

９月９日　西部教育事務所主催の教職員経験者研修（10年目研修）を本遺跡で行う。
９月下旬　台風のため調査を３日間休止する。
10月３日　作業員の一部が高浜向原遺跡へ。
10月上旬　調査区南西部で調査区を一部拡張
10月中旬　24～28号住居調査
11月上旬　121～131号土坑調査
11月中旬　29～32号住居調査
11月下旬　町道西側調査区埋め戻し終了
12月上旬　１号掘立柱建物調査
　　152、153号土坑調査
12月中旬　調査区中央付近旧石器トレンチ調査
12月23日　年内調査終了

平成７年

１月中旬　旧石器トレンチ調査
１月24日　本日より一部の作業員を除き、高浜向原遺跡、神戸岩下遺跡へ移動。本遺跡の調査は一時中断する。残った作業員で本遺跡の基礎整理を行う。
３月６日　調査再開
　　旧マルバシ区表土掘削開始
３月９日　旧ヨコタ区表土掘削開始
３月中旬　旧マルバシ、旧ヨコタ区遺構確認
３月20日　旧ヨコタ区全景写真撮影
３月23日　平成６年度の調査終了
４月６日　平成７年度の調査開始
４月中旬　調査区東側表土掘削
４月下旬　33、34号住居調査開始
５月上旬　160～163号土坑調査
　　２号溝調査
５月中旬　１号井戸掘削
　　炭窯調査
　　164～166号土坑調査
５月下旬　35～39号住居調査
　　旧石器トレンチ調査
６月１日　３号掘立柱建物調査開始
６月５日　関根専門員本日より本遺跡調査担当となる。（７月19日まで）
６月上旬　40～42号住居調査
６月中旬　43、44号住居調査
６月下旬　45号住居調査
７月上旬　降雨のため調査を３日間休止する。
　　46、47号住居調査
　　旧石器トレンチ調査継続
７月13日　旧石器の出土を確認する。
７月中旬　43～47号住居調査継続
　　旧石器調査継続
７月下旬　48号住居調査開始
　　旧石器調査継続
８月初旬　旧石器取上げ開始
８月８日　気球による空中写真撮影
８月10日　調査終了

第2章　発掘調査の方法

第1節　調査の手順

遺跡の調査にあたっては、平成6年度、7年度とも調査開始時は1班3名の体制であった。6年度では検出された遺構の増加に伴い作業員を増員したため、途中担当者を1名増員して4名で調査にあたった。7年度は用地の明け渡し期日が迫ったため、やはり担当者を1名増員した。

調査は、初めバックフォーによる表土掘削を行い、順次作業員による遺構確認、遺構調査へと進んでいった。遺跡地の現況は畑、梨畑、宅地であった。表土から遺構確認面まで比較的浅く、耕作による攪乱の多いところであった。そのため上面の遺構は攪乱を受けているものが多かった。

出土遺物は遺構から出土したものは、その遺構番号を付し、さらに図面上に出土位置を記録したものについては番号を付し、標高を測り取り上げた。遺構外から出土した遺物については後述するグリッド単位で取り上げた。さらに出土位置を記録したものは遺構出土のものと同様に取り上げた。遺構測量は作業員によるものと測量会社に委託して測量したものがある。縮尺については住居・土坑は1/20、炉・竈は1/10、その他の遺構も1/20を原則としたが、溝・列石等規模の大きい遺構については1/40、全体図は1/100、1/200で作成した。

なお、出土した遺物や記録した図、写真の基礎的な整理は、発掘調査と並行して現場で実施した。遺物は洗浄・注記を行い整理期間算出のために遺物量のカウントも行った。記録図は、検索用の台帳の作成、平面と断面のポイントの確認までを、写真は検索台紙の作成と検索用の台帳の作成までを行った。整理作業は、平成9年度から11年度にかけて、接合、復元、遺物写真撮影、遺物実測、遺構図修正、遺構図・遺物図トレース（一部委託）、版下作成、印刷の手順で実施した。

第2節　遺跡の名称・調査区の設定

本遺跡は、群馬郡榛名町大字三ツ子沢字中西に所在する。遺跡名称は、群馬県埋蔵文化財調査事業団で行っている遺跡命名の慣例に従うと、大字、小字名から三ツ子沢中西遺跡となるべきであるが、平成5年10～11月に榛名町教育委員会で、本遺跡の南側で隣接する地点を三ツ子沢中遺跡という名称で発掘調査を行っているため、周知の遺跡名と考え、慣例からははずれるが三ツ子沢中遺跡の名称を採用した。遺跡調査範囲は、北陸新幹線起点（高崎駅）距離程11km780m～11km950mまでの170mの区間で工事に関わる範囲を調査対象とした。

北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査事業では、発掘調査に先立ち、事業に関連する各遺跡に略号を付すことにした。遺跡の略号によって、調査・整理の効率化と同一事業における各遺跡の位置関係を明確にすることを目的としている。

略号は、事業名称についてはローマ字、遺跡名称については数字によって示した。

事業名称は、北陸新幹線「HOKURIKU-SINKANSEN」の頭文字「HS」を用い、数字については、3桁の番号を付した。各桁の数字の表すところは以下の通りである。

3桁目を遺跡所在市町村とし、高崎市…0、箕郷町…1、榛名町…2、安中市…3で表記する。

2桁目を県教育委員会文化財保護課により調査対象とされた遺跡について、同一市町村毎に起点の高崎駅から安中市に向かって1、2、3、…と付した。

1桁目は、日本鉄道建設公団と県教委教育長との間で締結された「北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の実施に関する協定書」の中で発掘調査の対象とされた遺跡については0を付し、事業開始後に遺跡が分割されたり、あるいは調査対象遺跡の間の試掘などの結果により、新たに遺跡と認定され調査対象となった遺跡には、調査開始順に1、

２、３…と付していくこととした。

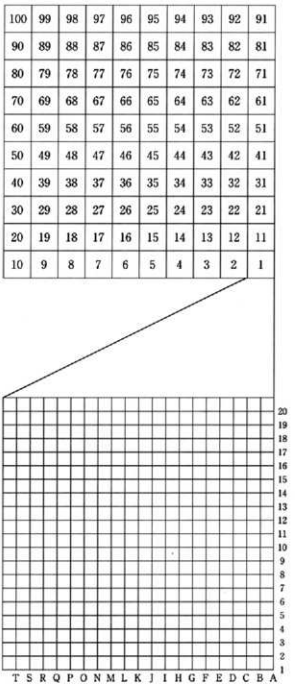
以上の規則により本遺跡は「ＨＳ250」の略号が付けられた。

遺跡内の測量用座標及び基本杭は、国家座標により設定した。国家座標による設定は北陸新幹線建設に伴う発掘事業全体に共通するものである。この国家座標を基に各遺跡についてグリッドを設定した。グリッドの設定方法については「行力春名社遺跡」北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第１集」(1994) に詳細が記述されているので参照されたい。

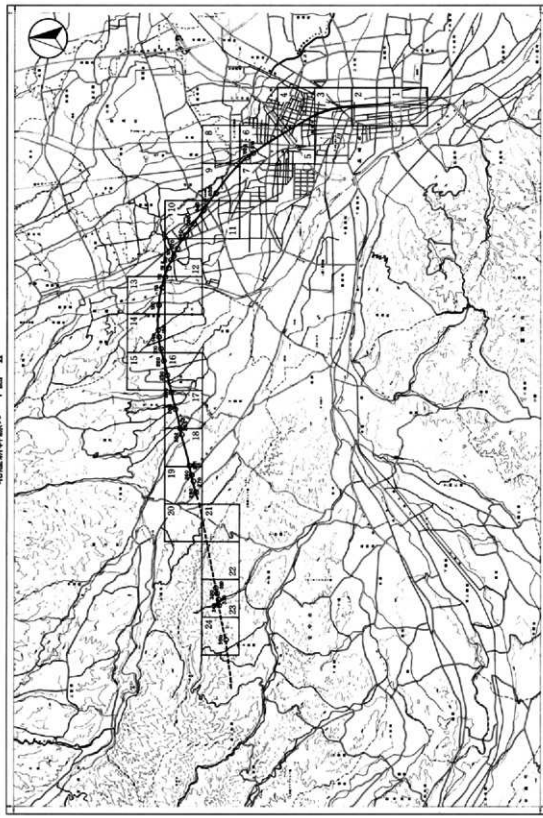
本事業の区画設定にあたっては発掘調査対象地全体を覆うように１㎞四方の大グリッドを設定した。これは、北陸新幹線の起点である高崎駅の南東の国家座標Ｘ＝＋35,000.0ｍ・Ｙ＝－73,000.0ｍの地点を起点とし、北陸新幹線の路線に沿い高崎駅から安中方面に向けて、１㎞四方の枠を順次25ヶ所設定した。(第２図) これを「地区」(大区画) と呼称する。次に大区画の１㎞四方を１辺100ｍの区画で100等分し、この区画を「区」(中区画) と呼称し、中グリッドとした。この「区」では南東隅を原点にし、東から西、南から北の順に１～100区まで設定した。(第１図) さらにこの100ｍ四方の中グリッドの中を、１辺５ｍの小区画で400等分し、この小区画を小グリッドあるいは単にグリッドと呼称した。この小グリッドの呼称方法は、南東隅を原点とし、各グリッドラインのＸ軸（東西方向）にアルファベットを用い、東から西にＡ～Ｔ、Ｙ軸（南北方向）には数字を用い、南から北に１～20とした。すなわち１つの中グリッド内はA-1、A-2…T-19、T-20グリッドまでの400グリッドである。(第１図)

本遺跡の位置は「地区」では「17地区」、「区」では「65・66・67・75・76区」に相当している。

これとは別に、本遺跡では現道によって調査区が３つに分割されている。調査時には上で述べた大区画、中区画との混同を避けるためこの３区画のそれぞれの地権者の姓をとって、東から「旧ヨコタ区」「旧マルバシ区」「旧クボタ区」と呼称した。本報告内でもこの呼称を用いている。



第１図　調査区の設定（中・小区画）
（66区A-1グリッドの国家座標は
Ｘ＝41,600ｍ・Ｙ＝－81,500ｍである）



第２図　調査区の設定（大区画）

第３節　基本層序

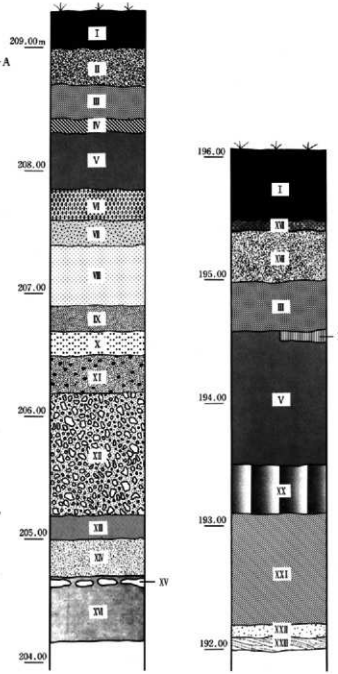
三ツ子沢中遺跡は第４紀洪積世に属する台地上に立地している。台地上は浅間山起源の噴出物が厚く堆積しており、土層構成の大部分を占めている。台地縁辺ではやや異なった様相を呈しており、縄文時代以前においては、現在みられるよりもさらに起伏の激しい地形であったことがうかがわれる。

Ⅰ層　暗褐色土　耕作土
Ⅱ層　黒色土　As-Bを含む。一部で上層にAs-Aを確認できる。
Ⅲ層　黒色土　As-Cを含む。
Ⅳ層　黒色土
Ⅴ層　暗褐色土
Ⅵ層　暗黄褐色土
Ⅶ層　黄褐色土
Ⅷ層　As-YP
Ⅸ層　黄褐色土　ローム土
Ⅹ層　黄褐色土　As-Srを含むローム土。
Ⅺ層　黄褐色土　As-BPを含むローム土。
Ⅻ層　As-BP
XIII層　褐色土
XIV層　As-MP
XV層　ＡＴ
XVI層　暗色帯
XVII層　As-B
XVIII層　暗赤褐色土　As-Cを含む。
XIX層　As-C
XX層　黄褐色土　２次堆積と思われるローム土。
XXI層　黒色土　下位に黄色軽石を含む。
XXII層　暗褐色土
XXIII層　As-BPもしくはAs-MP

ここに示した基本層序は、台地上部の平坦面で堆積の安定した部分と、台地西側縁辺の斜面部で観察したものである。

ＡＴ層は暗色帯の上面から５～10cmの位置に部分的に観察され、層的な堆積は認められなかった。

As-BPは、本遺跡では間層をはさみ、５ユニットが確認されている。



第３図　基本層序

第3章　周辺の環境

第1節　地理的環境

三ツ子沢中遺跡は、群馬県群馬郡榛名町大字三ツ子沢字中西に所在する。榛名町の南東部にあり、県道高崎榛名線から箕郷町市街へ向かう県道箕郷板鼻線が分岐する地点より、北西へ約1.1km行った場所にある。

なお、遺跡の標高は193m～208mほどを測る。

遺跡の北西にそびえ立つ榛名山は、那須火山帯に属する。典型的な二重式火山で、その活動の歴史は外輪山をつくった古期活動と、カルデラ形成後に中央火口丘（榛名富士）、および寄生火山（相馬山・水沢山・二ツ岳）をつくった新期活動の二つに分けられると考えられている。このように榛名山は何度も火山活動を繰り返し、火山灰を降らし、火砕流を押し流して、山麓の地形、そして人々の生活に大きな影響を与えてきた。考古学上の絶対年代の指標となる中部ローム層中の八崎浮石層、六世紀代の二ツ岳爆発によるHr-FA層、Hr-FP層などの給源地としても知られる。

その榛名山の山頂は、1,300m～1,400mの外輪山が、1,100mばかりの火口原を囲み、中央火口丘などとともに大起伏の山地を形成している。外輪山の山頂近くに源を発して、榛名川・車川・白川などが浸食谷を刻んで、台地と台地とが特徴的な地形を形成している。三ツ子沢中遺跡は榛名山南麓の台地上に立地しており、台地の東西を須無川と谷津川がそれぞれ南流して深い谷を形成しているため、この台地は南北に細長く延びる形となっている。台地の東側は比較的緩やかに傾斜しながら谷に至るが、それに対して西側は急峻に谷に移行する。

第２節　歴史的環境

三ツ子沢中遺跡のある榛名町は、昭和30年に室田町・里見村・久留馬村が合併して成立した町である。本遺跡はこのうちの旧久留馬村に属している。

久留馬村誌によると、この「久留馬」という名称は、上毛野君豊城入彦命（かみつけのきみとよきいりひこのみこと）の末裔に当たる車持君（くるまもちのきみ）が、この辺り一帯を御料地として治めていたことによるとされている。実際に本遺跡の北方約３㎞の榛名町大字十文字には車持神社が祀られている。また、「群馬」の地名の起源は「くるま」であることは藤原宮出土木簡に記載されていた事実からも明らかである。

「三ツ子沢」の地名の起源ははっきりしないが、三ツ子沢地区の北西の大字宮沢地内に一五沢、二五沢という地名が存在することから「三五沢」から転じたものとも考えられる。

三ツ子沢中遺跡の周辺は「久留馬村誌」にも記載されているように、古くから縄文土器の散布している場所として知られていた地域であった。しかしながら本遺跡の周辺をふくめ、榛名山南麓地域は発掘調査があまり行われていないため、遺跡の分布傾向を探る上では事例が少ないと思われるが、範囲をやや広げ、さらに北陸新幹線関連の資料を加えることで三ツ子沢中遺跡のおかれた歴史的環境について概観してみたい。

縄文時代以前の旧石器時代の遺跡は、北陸新幹線関連の発掘調査が行われるまで、ほとんど調査されていない。唯一といってもよい事例は安中市板鼻に所在する古城遺跡である。古城遺跡は三ツ子沢中遺跡の南方約4.5㎞の、碓氷川北岸の台地上に位置し、ＡＴ層下部から後期旧石器時代の集落遺跡が確認されている。北陸新幹線関連の調査では榛名町の白岩民部遺跡、箕郷町の白川傘松遺跡、和田山天神前遺跡で、いずれもＡＴ層下位から石器が出土しており、この点に関しては本遺跡も同様である。しかしながら、本遺跡を含め、それぞれの遺跡で出土石器の様相が少しずつ異なるため、前述した古城遺跡を含めて、榛名山南麓地域の当該時期の解明の資料となるであろう。

本遺跡で調査された遺構の中心的な時期である縄文時代に関連する遺跡に目を向けると、中心は北陸新幹線関連の遺跡である。遺跡名では和田山天神前・白川傘松・白川笹塚・白岩浦久保・高浜広神・高浜向原・中里見根岸の各遺跡から縄文時代の遺構や包含層が確認されている。北陸新幹線は高崎から分岐し、箕郷町の和田山天神前遺跡付近から榛名山南麓の、あたかも掌を広げたような細い尾根状の台地をいくつも通過していくが、そのそれぞれの台地に縄文時代の遺跡が存在している状況がうかがえる。また、高浜広神遺跡、白川笹塚遺跡、白川傘松遺跡からは本遺跡でも確認されている柄鏡形敷石住居が検出されている。北陸新幹線以外で調査された遺跡では、箕郷町善地の、車川と浦川によって形成された台地上に、中善地宮地遺跡があり、前期から中期にかけての集落が確認されている。これは群馬大学教育学部および箕郷町教育委員会によって発掘調査されたものである。同じく箕郷町教育委員会で調査された金敷平長者久保遺跡では、加曽利Ｅ１式土器を含む包含層が検出されており、北陸新幹線関連の調査とあわせると、本地域での縄文時代の人々の居住をうかがうことができよう。また、遺跡分布図からははずれるが、本遺跡から北西16㎞の地点に、長井権田遺跡がある。これは倉渕村権田に所在し、1953年の調査で残存の良好な堀之内式期の柄鏡形敷石住居が検出され、県史跡に指定されている。また、本遺跡の北東側においては、唐沢川と東谷川に挟まれた台地上に位置する保度田Ⅱ遺跡（群馬町中里）でも、遺存状態はかなり悪いものの、加曽利Ｅ４式の炉体土器を伴う敷石住居が検出されている。烏川右岸の高崎市若田遺跡でも堀之内式期の柄鏡形敷石住居が確認されている。

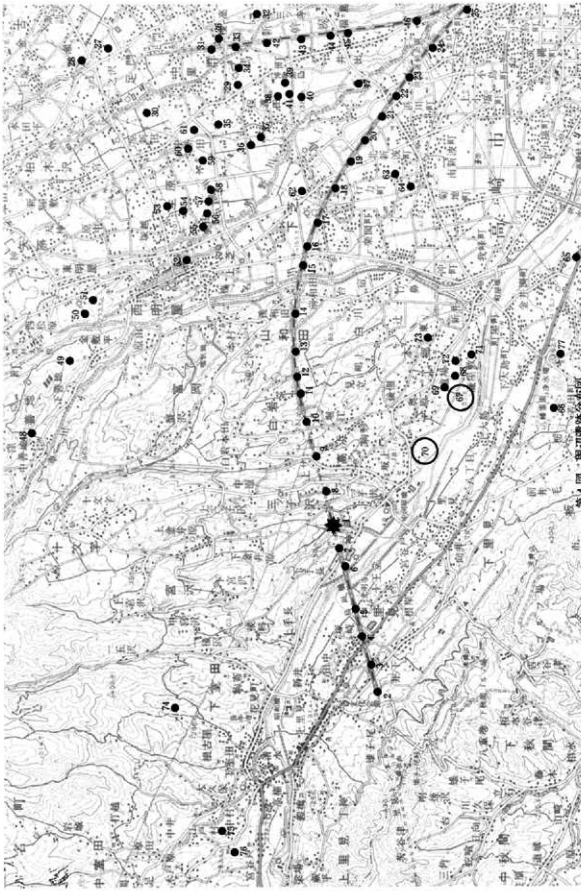
縄文時代晩期から弥生時代にかけて、群馬県全体の傾向と同様に、本地域でも遺跡数は減少しているようである。北陸新幹線関連の調査によっても、弥生時代の遺構は、本遺跡で検出された樽式期の住居

をのぞくと、烏川右岸の中里見中川遺跡で後期の水田跡が検出されているだけである。北陸新幹線以外の調査事例も少なく、本遺跡よりも南側で、丘陵地形が烏川に至る地点に位置する、寺内遺跡・蔵屋敷遺跡・麻干原遺跡で同時代の遺構が確認されているが、未報告のため詳細は不明である。また、碓氷川の南岸の若田丘陵の先端部に位置する高崎市の引間遺跡では、榛名期の集落が確認されており、同時期の土器編年研究の上で重要な位置を占めている。

古墳時代の遺跡になると、その数は急激に増大する。北陸新幹線関連では、中里見原遺跡で初期の古墳と集落が検出されているのをはじめ、下芝天神遺跡の祭祀遺構、下芝五反田遺跡の集落、島跡等幅広く検出されている。また、高崎市北部の水田地帯で検出された大規模な水田跡をはじめ、高浜広神遺跡などで検出されているように、台地部の狭い谷地にまで水田開発が及んでいることが確認されている。そしてこれらの水田開発を統率していた首長が三ツ寺Ⅰ遺跡の居館を造り、薬師塚・八幡塚・二子山の保渡田３古墳に葬られたと考えられる。しかし、これらの水田はAs-Cの降下、また榛名山の２度にわたる噴火とそれに伴う泥流によって大打撃をうけ、これらの地域ではしばらくの間遺跡の空白地域となっている。本遺跡で検出されている古墳時代の遺構は、古墳時代後期に属し、榛名山の噴火に伴う泥流の後の時期に当たる。泥流との直接的な関連は見いだせないが、被害を受けた地域を放棄した人々が、台地上に移り住んできたとも考えられよう。また、本遺跡では古墳は確認されていないが、榛名町本郷の、烏川と榛名白川に挟まれた丘陵地帯が終息する地に、本郷的場古墳群・しどめ塚古墳・奥原古墳群がある。いずれも後期の古墳群で、これらの古墳群と同時期に本遺跡は形成されたと考えられる。

平安時代においても、遺跡数は多くを数えることができる。中里見原・中里見根岸・中里見中川の各遺跡では９～10世紀の製鉄関連遺構が検出されている。また、As-Bによって覆われた水田跡も数多く調査されている。しかし、周辺の遺跡から比較すると本遺跡の遺構は比較的新しい時期に属すると思われる。本遺跡から谷津川を挟んで西に位置する神戸宮山遺跡で、同時期からやや新しい時期の遺構が検出されている他は、北陸新幹線関連、あるいはそれ以外の調査でも10世紀後半から11世紀にかけての調査事例は少ないようである。この時期は竪穴式住居の終焉を迎える時期であり、中世的集落への移り変わりを考える上でも、調査事例の増加が期待されるところである。

三ツ子沢中遺跡では、これ以降の遺構は検出されていないが、本地域では浜川地区で中世館が検出されているように、中世の集落が形成されていたと考えられる。最近の研究では、長野氏の台頭にはまだ時期を待たねばならないようであるが、こうした集落を背景に、長野氏のその後の隆盛があったといえよう。



第４図　周辺遺跡分布図

表1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の内容	文献
1	三ツ子沢中	群馬郡榛名町三ツ子沢		
2	上里見井ノ下	群馬郡榛名町上里見	炭窯（8C）、近世開墾。	注1
3	中里見堀	群馬郡榛名町中里見	4C初の古墳、平安時代集落・基壇建物、製鉄遺構（9C）。	注1
4	中里見堀岸	群馬郡榛名町中里見	縄文時代晩期包含層、平安時代後期製鉄遺構（10C）。	注1
5	中里見中田	群馬郡榛名町中里見	弥生時代後期水田、平安時代後期製鉄遺構（10C）、As-B下水田。	注1
6	神戸岩下	群馬郡榛名町神戸	As-C下水田、As-B下水田、近代畑。	注1
7	神戸宮山	群馬郡榛名町神戸	平安時代後期の集落（10C後半～11C前半）。	注1
8	高浜向原	群馬郡榛名町高浜	縄文時代前期（黒浜期）の集落、As-C下水田、As-B下水田。	注1
9	高浜広神	群馬郡榛名町高浜	縄文時代中期後半の住居、9～10Cの集落と掘立柱建物群。	1
10	白岩民部	群馬郡榛名町白岩	A T層下の旧石器、As-B下水田。	注1
11	白岩浦久保	群馬郡榛名町白岩	縄文時代土坑、古墳時代後期住居、中世畠跡。	注1
12	白川狼塚	群馬郡箕郷町白川	縄文時代前～中期の集落、7世紀代の古墳1基、近世墓域。	注1
13	白川拳松	群馬郡箕郷町白川	A T層下の旧石器、縄文時代中期の拠点的集落、翡翠製大珠出土。	2
14	和田山天神前	群馬郡箕郷町和田山	A T層下の旧石器、縄文時代前期、古墳時代後期、平安時代後期の集落、6C後半～7C前半の群集墳、中世寺院。	3
15	下芝上田屋	群馬郡箕郷町下芝	8C代？の畠、As-B下水田。	4
16	下芝天神	群馬郡箕郷町下芝	古墳時代中期住居、250点余の土器による祭祀場、As-B下水田。	4
17	下芝五反田	群馬郡箕郷町下芝	古墳時代中期の集落・畠、奈良～平安時代の大集落、As-B下水田。	5
18	行力倉名社	高崎市行力町	古墳時代中期の滑石製品工房、平安時代掘立柱建物、As-B下水田。	6
19	浜川長町	高崎市浜川町	古墳時代（7C前）住居、Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田。	7
20	浜川高田	高崎市浜川町	Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田、中世館。	7
21	浜川盤	高崎市浜川町	Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田。	7
22	新井貝戸	高崎市浜川町	As-C下水田、Hr-FA下水田、As-B下水田。	8
23	舞布呂	高崎市浜川町	As-C下水田、Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田、中世建物。	8、9
24	芦田貝戸	高崎市浜川町	As-C下水田、Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田、9C住居。	8、10
25	大八木屋敷	高崎市大八木町	古墳時代水田、平安時代集落、「八木院」と思われる官衙遺構。	11
26	矩沙門古墳群	群馬郡群馬町中里	31の中里天神塚古墳を含む。3C初頭～7C前半の円墳2基。	13
27	寺屋敷遺跡群	群馬郡群馬町足門	古墳時代初期住居、7C後半の古墳10基。	12
28	庚神谷古墳	群馬郡群馬町金古	凝灰岩による敷石切組横石室を持つ7C後半の円墳。	13
29	慈恩寺前	群馬郡群馬町保渡田	7C～11Cの集落、的811T、最終型に近い子持ち勾玉が出土。	注2
30	保渡田Ⅰ	群馬郡群馬町保渡田	縄文時代中期後半の敷石住居1軒、古墳時代後期の住居1軒。	14
31	中里天神塚古墳	群馬郡群馬町中里	7Cの古墳、横穴式石室を持つ。	15
32	堀上	群馬郡群馬町三ツ寺	古墳時代後期～平安時代後期の集落。	16
33	保渡田	群馬郡群馬町保渡田	古墳時代中期～平安時代中期（6C～9C）の集落。	15
34	保渡田東	群馬郡群馬町保渡田	弥良時代～平安時代集落。	17
35	保渡田荒神前	群馬郡群馬町保渡田	As-Cに覆われた古墳時代初頭（3C末～4C初）の集落。	18
36	保渡田中	群馬郡群馬町保渡田	平安時代中期（9C）の集落、As-B下水田。	19
37	保渡田Ⅱ	群馬郡群馬町保渡田	As-B下水田。	20
38	薬師塚古墳	群馬郡群馬町保渡田	5C末～6C初頭の墳造。舟形石棺出土。	13、21
39	八幡塚古墳	群馬郡群馬町保渡田	保渡田3古墳の中では2番目に墳造。全長176m。	13、22
40	二子山古墳	群馬郡群馬町井出	保渡田3古墳の中で最初に築造（5C第3四半期）。全長200m。	13、21
41	保渡田Ⅷ	群馬郡群馬町保渡田	形象埴輪配列区画検出。古墳時代初頭の集落も調査。	23
42	三ツ寺Ⅱ	群馬郡群馬町三ツ寺	古墳時代中期～平安時代中期（6C～9C）の集落。	15
43	三ツ寺Ⅰ	群馬郡群馬町三ツ寺	縄文時代前期、弥生時代後期の住居。5C～9Cの集落。	24
44	三ツ寺Ⅰ	群馬郡群馬町三ツ寺	古墳時代中期後半～後期の竈跡検出。保渡田3古墳の被葬者か。	25
45	井出村東	群馬郡群馬町井出	古墳時代後期（5C後半～6C代）の集落。Hr-FA下あ。	26
46	熊野堂	群馬郡群馬町福島	縄文時代前期住居、弥生時代中期～平安時代の集落、約400軒。	27
47	同道	群馬郡群馬町井出	As-C下水田、Hr-FA下水田、Hr-FP下水田、As-B下水田。	28
48	中善地・宮地	群馬郡箕郷町善地	縄文時代前期（諸磯期）、中期（加曽利E式期）の集落。	29
49	金敷平・長者入保	群馬郡箕郷町金敷平	縄文時代中期の包含層。	30
50	箕輪城	群馬郡箕郷町西明屋	西上州中核の山城。15C末に築城され、1598年に廃城。	31
51	城山	群馬郡箕郷町西明屋	縄文時代中期（加曽利E式期）の集落。	32
52	上芝古墳	群馬郡箕郷町上芝	古墳時代後期（6C初頭）の帆立貝式古墳。全長15m。	33
53	生原八反畠	群馬郡箕郷町生原	縄文時代中期（加曽利E式期）の住居、奈良～平安時代の集落。	34
54	生原諏訪	群馬郡箕郷町生原	平安時代（10C）の住居、As-B下の大溝。	35
55	生原薬師	群馬郡箕郷町生原	奈良～平安時代（8C～10C）の集落。	34
56	生原堀ノ内	群馬郡箕郷町生原	奈良～平安時代の集落。前沿遺構。	34
57	生原佐藤	群馬郡箕郷町生原	古墳時代（6C後半）～平安時代の集落。	34
58	生原掘盛	群馬郡箕郷町生原	古墳時代（6C前半）、奈良～平安時代の集落、7C前半の古墳。	34
59	生原善龍寺前	群馬郡箕郷町生原	縄文時代中期（加曽利E 4式期）の住居、古墳～平安時代の集落。	35

番号	遺跡名	所在地	遺跡の内容	文献
60	海行Ａ	群馬郡箕郷町生原	縄文時代中期包含層、古墳時代後期～平安時代集落、韓式土器。	34
61	海行Ｂ	群馬郡箕郷町生原	古墳時代後期（６Ｃ前）、平安時代（９Ｃ以降）の集落。	34
62	下芝谷ッ古墳	群馬郡箕郷町下芝	古墳時代中期の方墳、泥炭に埋没する。金銅製鞍金具を出土。	36
63	北新波	高崎市北新波町	平安時代後期（11Ｃ後半）の住居、As-Ｂ下水出。	37
64	北新波砦	高崎市北新波町古城	14～15Ｃの城館。武野氏関連の施設と思われる。	38
65	引間	高崎市上豊岡町引間	弥生時代後期の集落。同時期の土器変遷の基準的資料。	39
66	若田原	高崎市八幡町	縄文時代前期～中期後半の集落。柄鏡形敷石住居２軒。	40
67	本郷的場古墳群	群馬郡榛名町本郷	６Ｃ前半～７Ｃ代の古墳群。奥原古墳群に先行する。	41
68	しどめ塚古墳	群馬郡榛名町本郷	７Ｃ代の横穴式石室を持つ古墳。県指定史跡。	41
69	道場	群馬郡榛名町本郷	古墳時代後期～平安時代の集落。	42
70	奥原古墳群	群馬郡榛名町本郷	７Ｃ初頭～７Ｃ末に形成された古墳群。65基の円墳が分布する。	43
71	寺内	群馬郡榛名町本郷	弥生時代後期～平安時代の集落、古墳時代後期の石郭墓。	44、45
72	竜尾敷	群馬郡榛名町本郷	弥生時代～平安時代の集落、弥生時代の溝。	46、48
73	麻千原	群馬郡榛名町本郷	弥生時代、古墳時代後期、平安時代の集落。	44
74	根古屋	群馬郡榛名町下室田	縄文時代前期～後期の住居、敷石遺構。	49
75	中村	群馬郡榛名町下室田	縄文時代前期、古墳時代後期、平安時代の住居。	44、47
76	弁天原	群馬郡榛名町下室田	縄文時代前期住居。	50、51
77	剣崎長瀬西	高崎市剣崎町	弥生時代の集落。古墳時代前期の横石塚古墳群。金製耳飾り出土。	52

参考文献

注１　本年度（平成11年度）報告書刊行予定

注２　群馬町教育委員会　清水豊氏の御教示による。

１「高浜広神遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998

２「白川傘松遺跡　遺構編」、「白川傘松遺跡遺物編」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1995、1997

３「和田山天神前遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998

４「下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998

５「下芝五反田遺跡　古墳時代編」「下芝五反田遺跡　奈良・平安時代以降編」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998、1999

６「行力春名社遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1994

７「浜田遺跡群」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1997

８「芦田貝戸遺跡・御布呂遺跡・前井貝戸遺跡・西下井出遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998

９「矢島・御布呂遺跡」高崎市教育委員会　1979、「御布呂遺跡」高崎市教育委員会　1980

10「芦田貝戸遺跡」「芦田貝戸遺跡Ⅱ」「芦田貝戸遺跡Ⅲ」高崎市教育委員会　1979、1980、1984

11「大八木屋敷遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1996

12「寺屋敷Ⅰ・蓋・鶴巻遺跡」「寺屋敷Ⅱ遺跡」群馬町教育委員会　1991

13「群馬町誌　原始古代中世編」群馬町　1997、「群馬郡史　資料編３」1981

14「昭和56年度埋蔵文化財調査略報」群馬町教育委員会　1982

15「三ッ寺Ⅱ遺跡・保渡田遺跡・中里天神塚古墳」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1985

16「堤上遺跡」群馬町教育委員会　1994、1995

17「保渡田東遺跡」群馬町教育委員会　1986

18「保渡田笠神前・皿掛遺跡」群馬町教育委員会　1988

19「保渡田Ⅳ遺跡調査略報」群馬町教育委員会　1984

20「保渡田Ⅲ遺跡調査略報」群馬町教育委員会　1983

21　石島和夫「東国古墳時代の研究」1994

22「群馬県史」資料編３　1981

23「保渡田Ⅷ遺跡」群馬町教育委員会　1990

24「三ッ寺Ⅱ遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991

25「三ッ寺Ⅰ遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988

26「井出村東遺跡」群馬町井出村東遺跡調査会　1983

27「熊野堂遺跡」(1)・(2)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　1984、1991

28「同道遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1979

29「群馬県史」資料編２　1986

30「金敷平・長者久保遺跡」箕郷町教育委員会　1983

31「箕郷町誌」箕郷町誌編纂委員会　1975

32「群大教育学部紀要人文科学篇報告」第３輯　1961

33「群馬県史」通史編１　1990

34「海行Ａ・Ｂ遺跡」箕郷町教育委員会　1988

35「生原・善龍寺前遺跡」箕郷町教育委員会　1986

36　田口一郎「群馬県下芝谷ッ古墳」「日本考古学年報」39　1988

37「北新波遺跡」高崎市教育委員会　1982

38「北新波の砦」Ⅰ・Ⅱ高崎市教育委員会　1985、1986

39「引間遺跡」高崎市教育委員会　1979

40「高崎市史研究」３　高崎市　1993

41「本郷的場古墳群」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990

42「道場遺跡」榛名町教育委員会　1986

43「奥原古墳群」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1983

44「年報」９（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990

45「年報」11（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1992

46「年報」６（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1987

47「年報」８（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1989

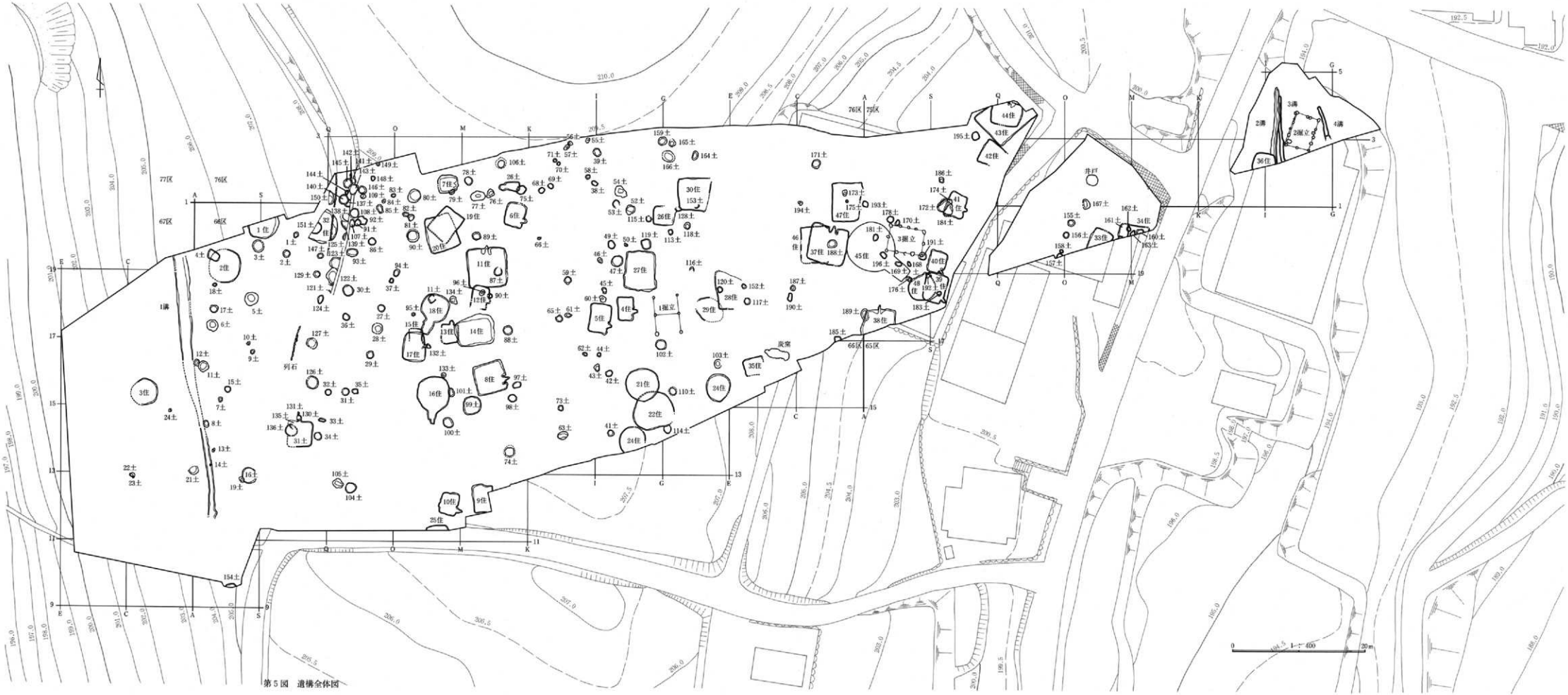
48「年報」10（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991

49「年報」５（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986

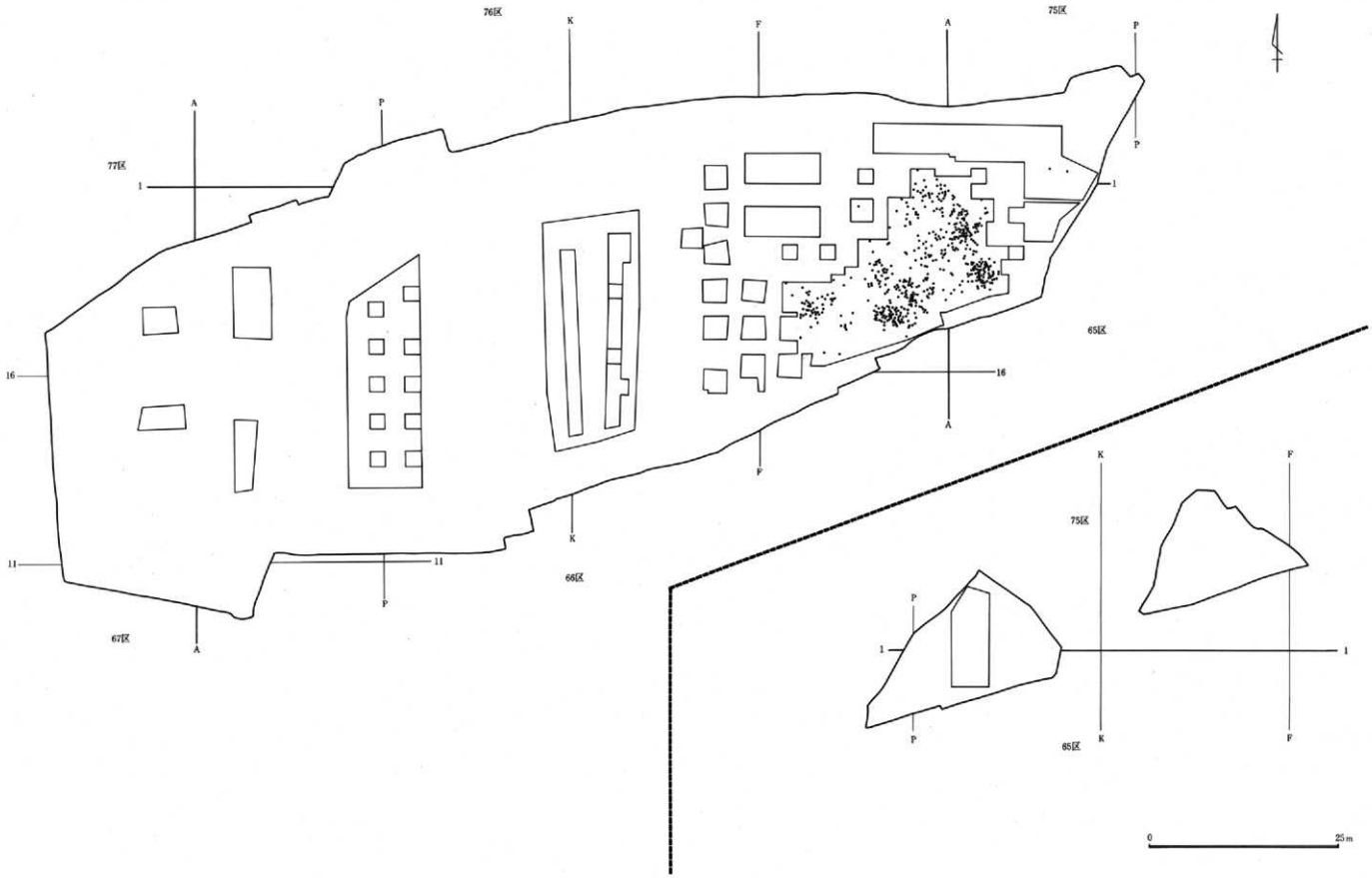
50「年報」12（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1993

51「年報」15（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1996

52　現地説明会資料



第5図　遺構全体図



第６図　旧石器調査区及び出土状態

第４章　検出された遺構と遺物

第１節　旧石器時代

１　調査の方法及び層序

旧石器時代の調査にあたっては、まずトレンチ調査により遺構、遺物の存在の有無の確認を行い、得られた結果から面的に拡張して調査する範囲を決定することとした。調査の結果、遺物の分布傾向はかなり明瞭に層序と範囲が限定することが明らかとなった。まず、層序については遺物の出土がＡＴ層の直下に限られることが明らかになった。また、出土する範囲は調査区南東部の台地の東斜面を中心とする範囲に限られており、これ以外では認められなかった。そこで、面的に調査を実施する範囲を66区Ｅラインよりも東、76区１ラインよりも南の範囲に限定した。この範囲を、縄文時代以降の調査グリッドと同様のグリッドを設定し、これを調査単位として、面的に掘り下げていった。

次にその層序関係を見てみる。石器が出土しているのは、基本土層のＸⅥ層中である。ＸⅥ層はいわゆる暗色帯で、本遺跡においては粘土化が著しく、粘性が非常に強い。このＸⅥ層の上面から３～５㎝の層位でＡＴ層が確認されている。出土石器はすべてこのＡＴ層の直下からの出土であったと思われるが、細かな土層記録を行っていないため、詳細な検討が行えないのが実状である。これは、ＡＴ層上位からの出土の可能性があるということであり、出土石器の大半がＡＴ層直下から出土していることは明らかである。

２　遺構・遺物の概要

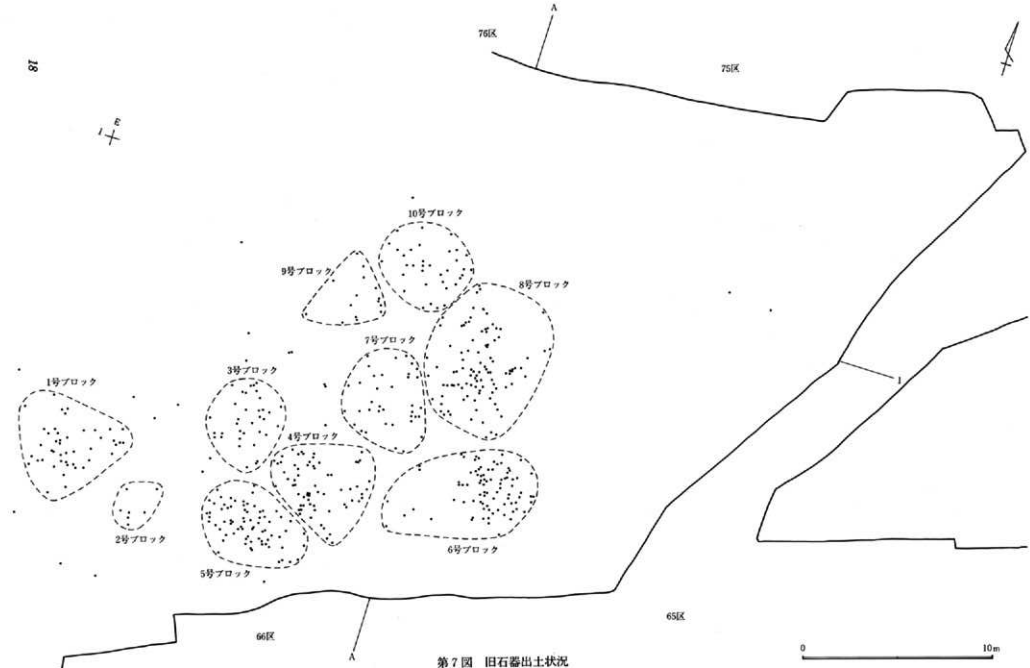
本遺跡から出土した旧石器時代の石器類の総計は541点である。石器の分布状態は、やや弧状に分布する傾向は見られるが、環状とはいえない状態である。また、地形的に見ると台地頂部付近では出土が認められず、台地東斜面の、傾斜の緩やかな範囲に限られている。この範囲よりも東側は傾斜がきつくなっており、東側へ分布が広がることはない。また、南側は調査区際まで石器が出土しており、台地の延びる南東へは石器の分布が広がる可能性は高い。

これら石器の分布は接合関係や集中の状態などから10ヶ所の石器集中区を確認することができた。

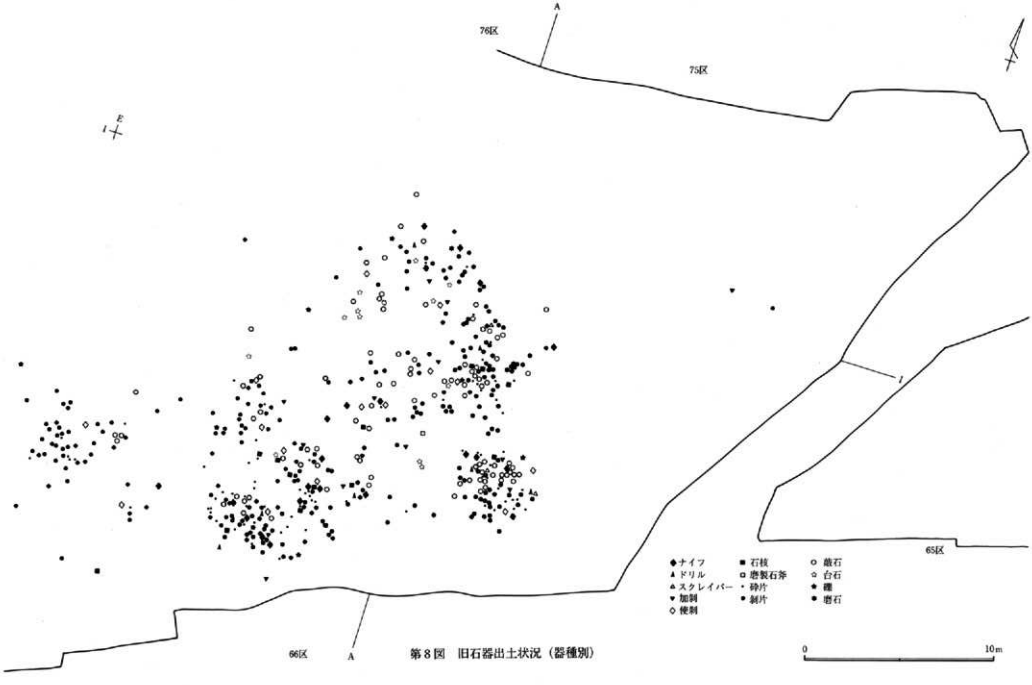
本遺跡の石器群は総点数541点と決して多くないが、層位、分布範囲とも集中的に出土し、ほぼ同時期の所産と思われ、ＡＴ降下期の様相を示す資料といえる。今回の調査で出土した石器の分類は表２の通りである。石材を見ると、黒耀石製の石器は出土しておらず、いわゆる在地系といわれる石材が多いこととチャートの占める割合が高いことが特徴的であると言えよう。これらの石材を用いて製作された石器は比較的小型の石器が多く、その過程を示す接合資料も確認されている。

	ナイフ形石器	ドリル	スクレイパー	磨斧	使剥	加剥	石核	剥片	砕片	敲石	台石	磨石	凹石	礫	合計	割合(%)
黒色安山岩	2	1	1		1	2	6	152	59						224	41.4
チャート	12	5			5	14	5	68	23						132	24.4
安山岩										49	8			4	61	11.3
黒色頁岩	3		1	1	6	1	3	27	7						49	9.1
粗粒輝石安山岩										37	2	2	1	4	46	8.5
珪質頁岩					1			5						1	7	1.3
頁岩					1			5	1						7	1.3
茶褐石英片岩								3							3	0.6
砂岩										2				1	3	0.6
硬質頁岩		1			1										2	0.4
赤碧玉					1										1	0.2
石英								1							1	0.2
硬質泥岩	1														1	0.2
ホルンフェルス										1					1	0.2
変質安山岩										1					1	0.2
合計	18	7	2	1	16	17	14	261	91	91	10	2	1	10	541	
割合（%）	3.3	1.3	0.4	0.2	3.0	3.1	2.6	48.2	16.8	16.8	1.8	0.4	0.2	1.8		

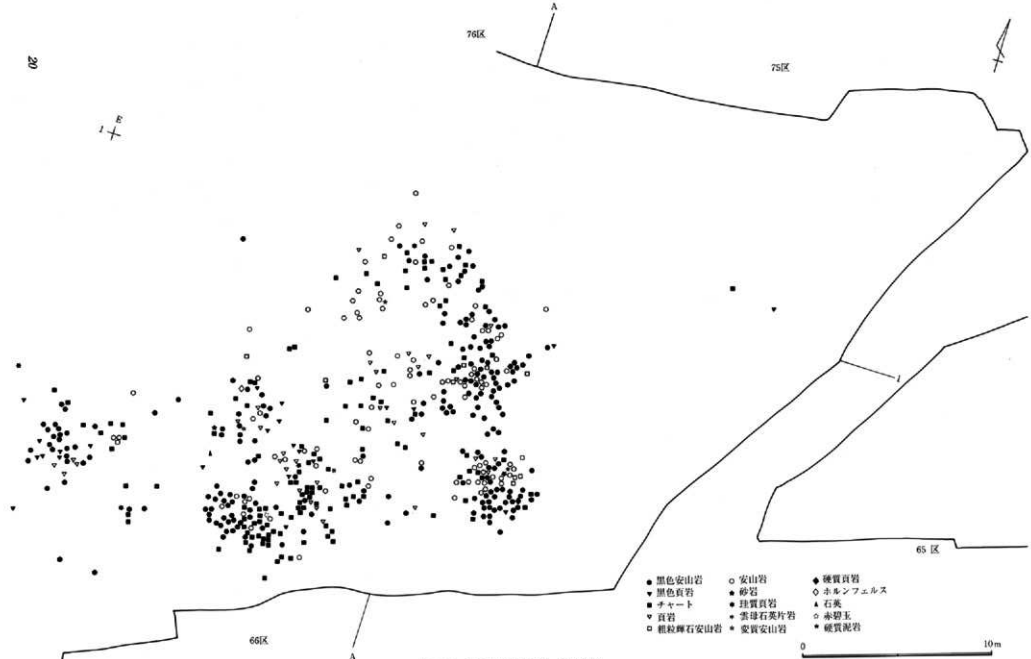
表２　器種、石材集計表


76区
75区
A
1
10号ブロック
9号ブロック
8号ブロック
7号ブロック
3号ブロック
1号ブロック
4号ブロック
2号ブロック
5号ブロック
6号ブロック
66区
65区
A
0
10m

第7図　旧石器出土状況



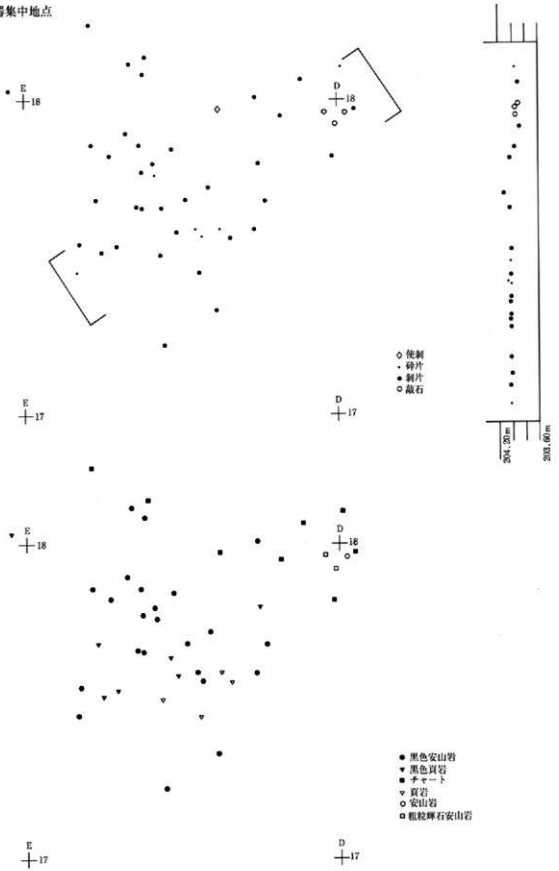
第8図　旧石器出土状況（器種別）



第９図　旧石器出土状況（石材別）

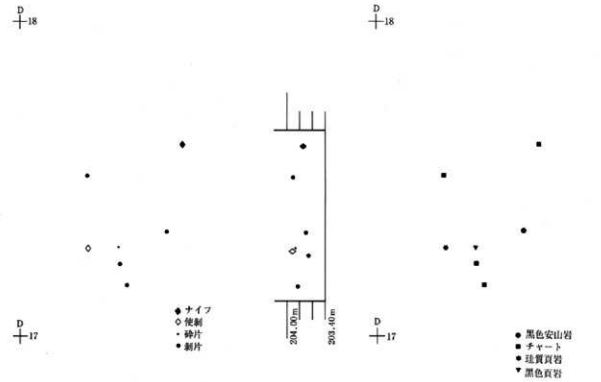
第10図　旧石器接合関係状態図

3　石器集中地点

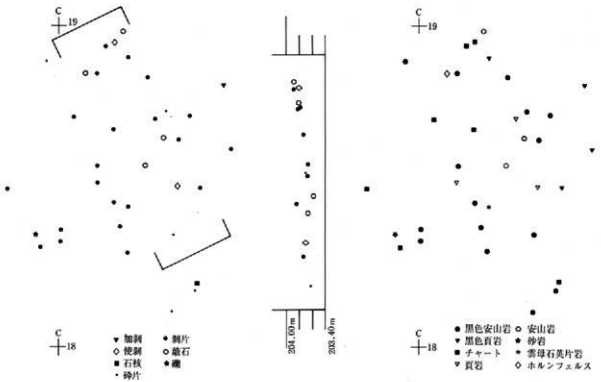


第11図　１号ブロック石器集中地点

2号ブロック



3号ブロック



第12図　２・３号ブロック石器集中地点

１号ブロック（第11、13図）

位置　66区D-17、D-18グリッドで検出した。今回確認された石器の集中地点10ヶ所の中では最も西に位置する。本ブロックの西側では石器の出土は確認されていないため、本遺跡の旧石器の分布の西限を示すものと思われる。本ブロックの東側２ｍに２号ブロックが位置する。

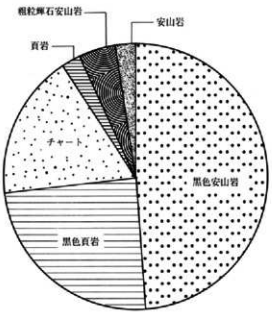
規模・形状　5.6ｍ×5.6ｍの範囲に、概ね隅丸三角形の形状に分布している。分布範囲は約21.9㎡である。石器の分布状態は集中性に欠け、散漫な分布状態を示す。

	使剥	剥片	砕片	敲石	合計	%
黒安		18	4		22	48.9
黒頁		11			11	24.4
チャ	1	6	1		8	17.8
頁岩			1		1	2.2
粗安				2	2	4.4
安山				1	1	2.2
合計	1	35	6	3	45	

表３　１号ブロック器種・石材集計表

石器　総計45点の石器が出土しており、剥片や砕片が組成の主体をなしている。出土石器の点数からみると、器種構成に乏しく、チャート製の使用痕を有する剥片が１点出土している。石器石材は全体の49％を黒色安山岩が占め、24％が黒色頁岩、18％がチャート、このほかには頁岩、粗粒輝石安山岩、安山岩が組成している。

接合　石器の接合は５例（接合資料－4･14･15･16･46）を確認した。確認した５例すべてが本ブロック内での接合である。



第13図　１号ブロック石材別グラフ

２号ブロック（第12、14図）

位置　66区C-17グリッドで検出した。本ブロックの西２ｍに１号ブロックが位置する。

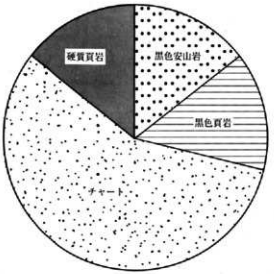
規模・形状　長軸2.7ｍ、短軸1.8ｍの範囲に、概ね楕円形状に分布する。分布範囲は約3.7㎡で、今回確認された石器集中地点の中では最も小規模である。石器の分布状態は散漫な分布状態を示す。

石器　総計７点の石器が出土しており、剥片や砕片が組成の主体をなしている。このほかにチャート製の加工痕を有する剥片と硬質頁岩製の使用痕を有する剥片が１点ずつ出土している。石器石材は全体の57％をチャートが占め、このほかには黒色安山岩、黒色頁岩、硬質頁岩が組成している。

接合　石器の接合は１例（接合資料－44）を確認した。本ブロック内の接合である。

	使剥	加剥	剥片	砕片	合計	%
黒安			1		1	14.3
黒頁				1	1	14.3
チャ		1	3		4	57.1
硬頁	1				1	14.3
合計	1	1	4	1	7	

表４　２号ブロック器種・石材集計表



第14図　２号ブロック石材別グラフ

３号ブロック（第12、15図）

位置　66区Ｂ-18、Ｃ-18グリッドで検出した。本ブロックの東側に４号ブロック、南側に５号ブロックが隣接する。

規模・形状　長軸4.7ｍ、短軸3.9ｍの範囲に、概ね円形状に分布している。分布範囲は約13.8㎡である。石器の分布状態は集中性に欠け、散漫な分布状態を示す。

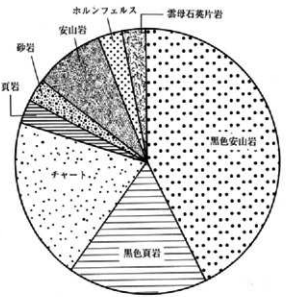
石器　総計35点の石器が出土しており、剥片や砕片が組成の主体を構成するほか、使用痕を有する剥片、加工痕を有する剥片が３点出土している。また、チャート製の石核が１点と敲石が４点出土している。

	使剥	加剥	石核	剥片	砕片	敲石	礫	合計	%
黒安				10	5			15	42.9
黒頁		1		5				6	17.1
チャ	1		1	5				7	20.0
頁岩	1							1	2.9
砂岩							1	1	2.9
安山						3		3	8.6
ホル						1		1	2.9
雲片				1				1	2.9
合計	2	1	1	21	5	4	1	35	

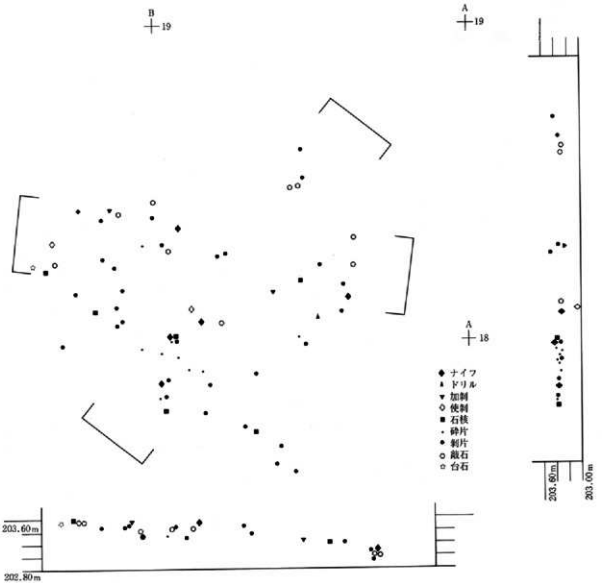
表５　３号ブロック器種・石材集計表

石器石材は全体の43％を黒色安山岩が占め、黒色頁岩とチャートが約1/5ずつを占める。そのほか、頁岩、砂岩、安山岩、ホルンフェルス、雲母石英片岩が組成している。

接合　石器の接合は５例（接合資料－2、13、41、42、47）を確認した。このうち１例（接合資料－2）は５号ブロック出土の石器と接合し、１例は約29ｍの接合距離を有し、75区Ｒ-1グリッド出土の石器と接合している。これは、今回確認された接合資料の中では最も大きい接合距離を示すものである。残りの３例は本ブロック内での接合である。



第15図　３号ブロック石材別グラフ



第16図　４号ブロック石器集中地点

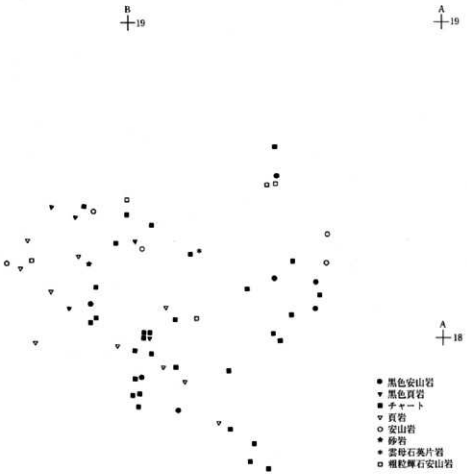
４号ブロック（第16～18図）

位置　66区A-17、18・B-17、18グリッドに位置する。本ブロックの南側に５号ブロック、西側に４号ブロックが隣接し、北側には７号ブロック、東側には６号ブロックがやや距離をおいて位置している。

規模・形状　5.7m×5.1mの範囲に、概ね隅丸三角形の形状に分布している。分布範囲は約20.7㎡である。石器の分布状態は西側に集中した傾向が見られ、西と東の２ヶ所に分かれるようにも見える。

石器　総計64点の石器が出土しており、器種構成は比較的バラエティに富む。チャート製の石器が３点（ナイフ形石器２点、ドリル１点）出土しているほか、石核の出土が６点と多い。

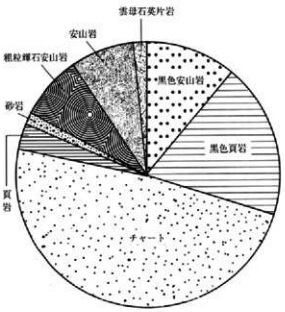
接合　石器の接合は９例（接合資料－5、23、26、32、33、34、35、40、45）が確認されている。このうち、３例（接合資料－5、23、26）は６号ブロック出土の石器と、１例（接合資料－35）は５号ブロック出土の石器と接合している。６号ブロックの石器と接合した接合資料－23は、11mの接合距離を有している。また１例（接合資料－45）は約８mの接合距離を有し、66区C-18グリッド出土の石器と接合している。残りの４例は本ブロック内での接合である。



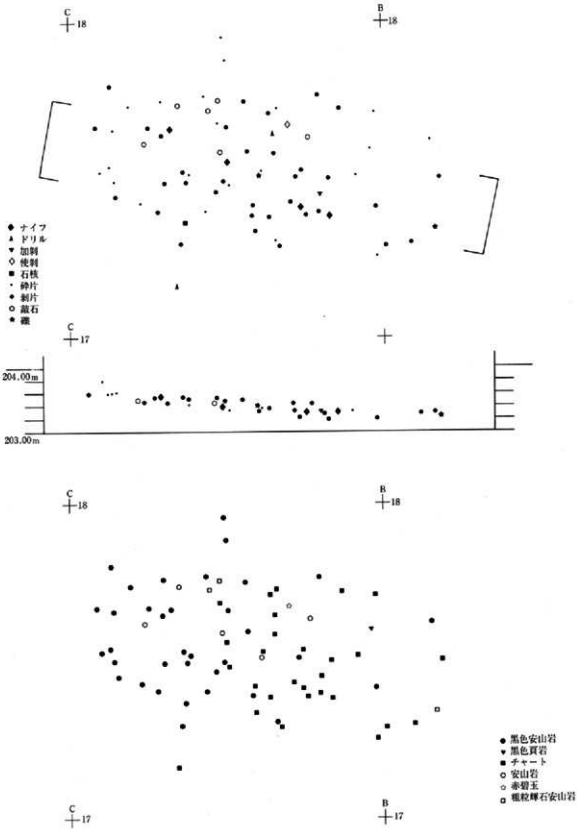
第17図　４号ブロック石器集中地点

	ナイ	ドリ	彫刻	加刻	石核	剥片	砕片	敲石	台石	合計	%
黒安					1	6				7	10.9
黒頁			1		2	7	2			12	18.8
チャ	2	1		5	3	13	7			31	48.4
頁岩						2				2	3.1
砂岩								1		1	1.6
粗安								5		5	7.8
安山								4	1	5	7.8
雲片						1				1	1.6
合計	2	1	1	5	6	29	9	10	1	64	

表６　４号ブロック器種・石材集計表



第18図　４号ブロック石材別グラフ



第19図　5号ブロック石器集中地点

5号ブロック（第19、20図）

位置　66区A-17、B-17グリッドで検出した。今回確認した石器の集中地点10ヶ所の中では最も南に位置する。本ブロックの南側からも1点石器が出土しているため、本ブロックの南側の調査区外へも石器の分布が広がっている可能性もある。本ブロックの北側に3号ブロック、4号ブロックが隣接する。

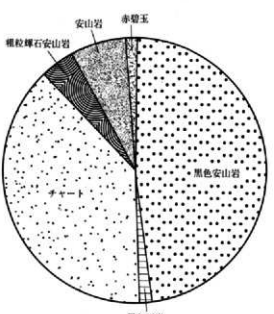
規模・形状　長軸6.0m、短軸4.2mの範囲に、概ね楕円形状に分布している。分布範囲は約19.3m²である。石器の分布状態は良好に集中しており、分布密度は高い。本ブロック内で、西側に黒色安山岩、東側にチャートが集中する傾向が見られるため、石材の分布からみると2群に分かれる可能性もある。

石器　総計73点の石器が出土している。剥片、砕片が組成の8割弱を占めるが、ナイフ形石器が3点（チャート製2点、黒色安山岩製1点）出土しているほか、比較的バラエティに富む。石器石材は全体の86%を黒色安山岩とチャートで占め、このほか黒色頁岩、粗粒輝石安山岩、安山岩、赤碧玉が組成している。赤碧玉は今回調査された石器の中では、本ブロック出土の1点のみである。

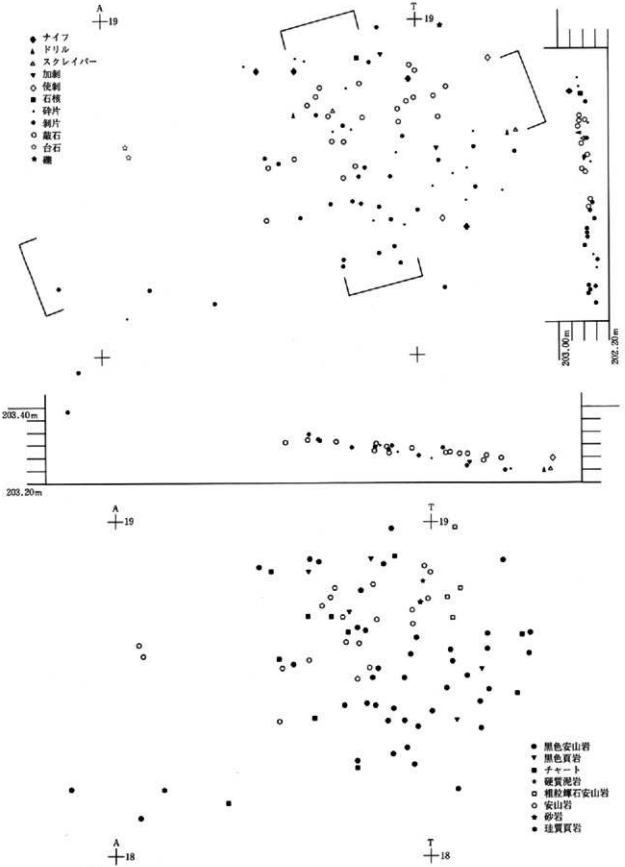
接合　石器の接合は5例（接合資料－1、2、35、38、39）を確認した。このうち、接合資料－2は3号ブロック出土の石器と、接合資料－35は4号ブロック出土の石器と接合している。残り3例は本ブロック内での接合である。

	ナイ	ドリ	使剥	加剥	石核	剥片	砕片	磨石	礫	合計	%
黒安	1				1	18	15			35	47.9
黒頁							1			1	1.4
チャ	3	2		1		15	7			28	38.4
粗安								2	1	3	4.1
安山								4	1	5	6.8
赤碧			1							1	1.4
合計	4	2	1	1	1	33	23	6	2	73	

表7　5号ブロック器種・石材集計表



第20図　5号ブロック石材別グラフ



第21図　６号ブロック石器集中地点

6号ブロック（第21、22図）

位置　66区S-18、T-18グリッドで検出した。今回確認した石器の集中地点10ヶ所の中では最も東に位置し、本ブロックの東側は比較的傾斜の急な斜面になっている。本ブロックの北側に8号ブロック、西側に4号ブロックが隣接する。

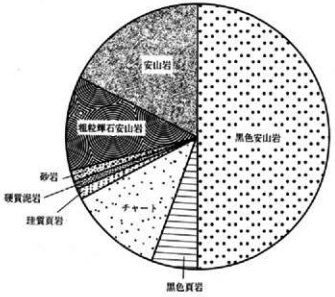
規模・形状　長軸8.5m、短軸4.7mの範囲に、概ね楕円形状に分布している。分布範囲は約35.9m²を測る。石器の分布状態はブロックの東側で良好な集中状態を呈し、分布密度は高い。

石器　総計86点の石器が出土している。石器の器種構成はバラエティに富み、剥片、砕片の占める割合はおよそ1/2である。ナイフ形石器の出土が多く、4例が確認されている。また、敲石の出土が多く、集中している傾向が認められる。石器石材は黒色安山岩が全体の約1/2、安山岩、粗粒輝石安山岩で30%、チャートが12%を占め、このほか黒色頁岩、珪質頁岩、硬質泥岩、砂岩が組成している。

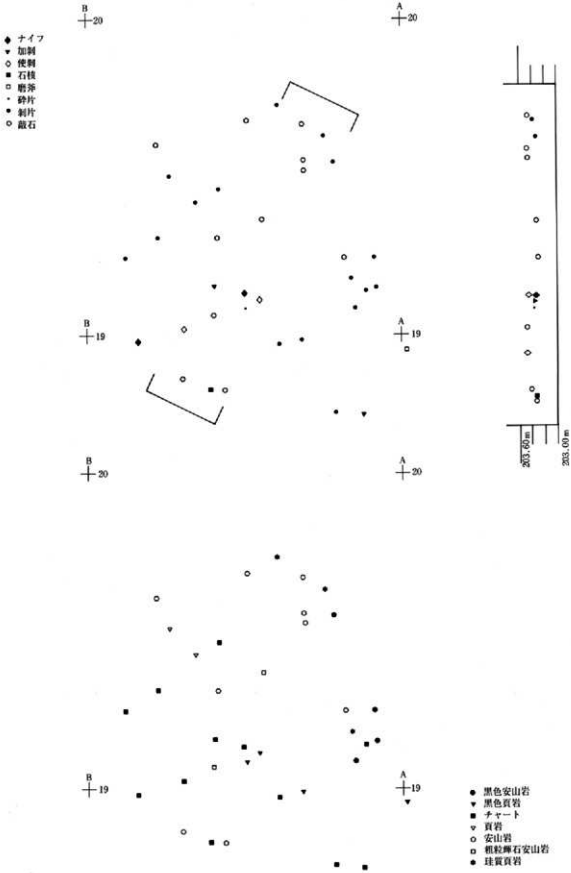
接合　石器の接合は11例（接合資料－5、8、17、18、19、20、21、22、23、25、26）を確認した。今回確認した石器の集中地点10ヶ所の中では、接合例が最も多いブロックである。このうち、3例（接合資料－5、23、26）は4号ブロック出土の石器と接合し、1例（接合資料－22）は14.6mの接合距離を有し、9号ブロック出土の石器と接合している。残りの7例は本ブロック内での接合である。

	ナイ	ドリ	スク	使剥	加剥	石核	剥片	砕片	敲石	台石	礫	合計	%
黒安	1		1	1	1		25	13				42	48.8
黒頁	1			2		1		1				5	5.8
チャ	1	2			1		5	2				11	12.8
珪頁							1					1	1.2
硬泥	1											1	1.2
砂岩									1			1	1.2
粗安									8	1	1	10	11.6
安山									14	1		15	17.4
合計	4	2	1	3	2	1	31	16	23	2	1	86	

表8　6号ブロック器種・石材集計表



第22図　6号ブロック石材別グラフ



第23図　７号ブロック石器集中地点

7号ブロック（第23、24図）

位置　66区A-18、A-19グリッドで検出した。本ブロックの北東に8号ブロックが隣接し、南東に6号ブロック、南に4号ブロックがやや離れて位置する。

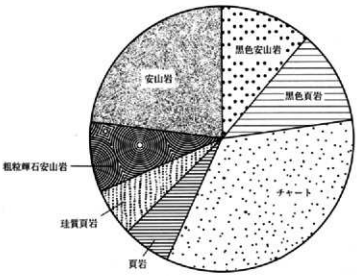
規模・形状　長軸5.6m、短軸4.7mの範囲に、概ね円形状に分布している。分布範囲は約19.9㎡を測る。石器の分布状態は集中性に欠け、散漫な分布状態を示す。

石器　総計35点の石器が出土している。礫石の出土が多く、全体の30%強を占めている。このほかナイフ形石器、加工痕を有する剥片、使用痕を有する剥片がそれぞれ2点ずつ出土している。石器石材はチャートの占める割合が最も高く、全体の34%を占めている。このほか、黒色安山岩、黒色頁岩がそれぞれ11%を占め、頁岩、珪質頁岩、粗粒輝石安山岩、安山岩が組成している。

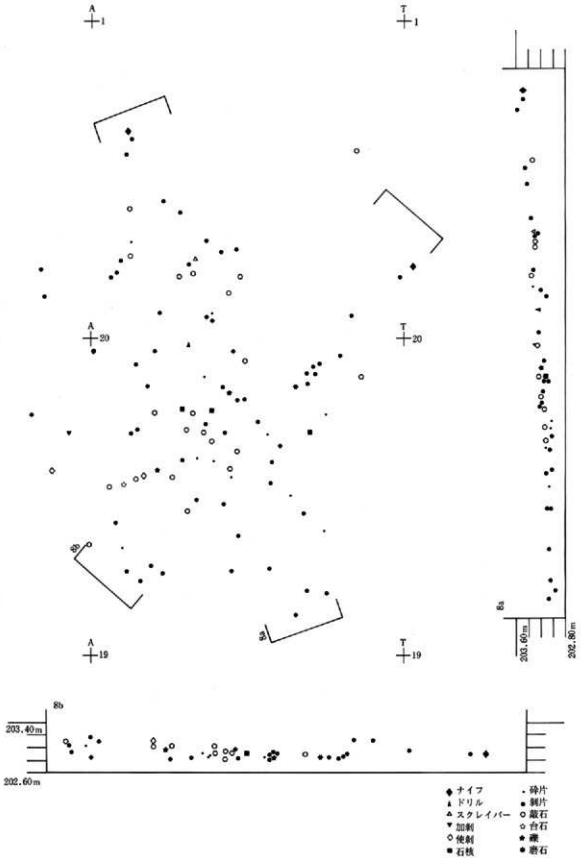
接合　石器の接合は3例（接合資料－6、11、36）を確認した。2例（接合資料－6、11）は隣接する8号ブロック出土の石器と接合し、1例は本ブロック内での接合である。

	ナイ	使剥	加剥	石核	剥片	砕片	敲石	磨斧	合計	%
黒安					4				4	11.1
黒頁		1			1	1		1	4	11.1
チャ	2	1	2	1	6				12	33.3
頁岩					2				2	5.5
珪頁					3				3	8.4
粗安							3		3	8.4
安山							8		8	22.2
合計	2	2	2	1	16	1	11	1	36	

表9　7号ブロック器種・石材集計表



第24図　7号ブロック石材別グラフ



第25図　８号ブロック石器集中地点

第26図　８号ブロック石器集中地点

8号ブロック（第25～27図）

位置　66区T-19、T-20グリッドで検出した。本ブロックの南西で7号ブロックと、北西に10号ブロックと隣接している。

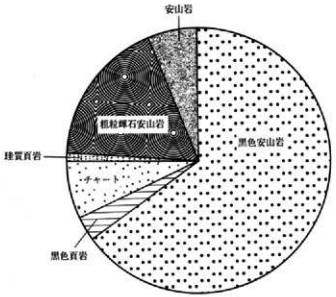
規模・形状　長軸8.3m、短軸6.4mの範囲に、概ね楕円形状に分布している。分布範囲は約43.8m²を測り、今回確認した石器の集中地点10ヶ所の中では最大の分布範囲を示す。石器の分布状態は、ブロックの中央付近で良好な集中状態を呈し、分布密度は高い。

石器　総計101点の石器が出土している。10ヶ所の石器集中地点の中では、石器の出土の最も多いブロックである。全体の2/3は剥片、砕片で占められるが、石器の器種構成はバラエティに富んでいる。また礫石も20点が出土し、本ブロックの中央付近に集中している傾向が見られる。

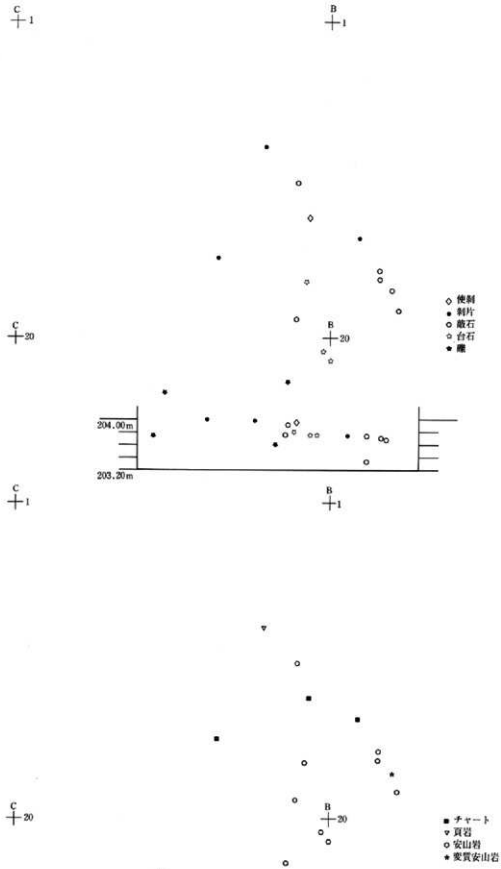
接合　石器の接合は9例（接合資料－3、6、9、10、11、28、29、30、31）を確認した。このうち2例（接合資料－6、11）が隣接する7号ブロック出土の石器と接合している。残りの7例は本ブロック内での接合である。

	ナイ	ドリ	スク	使剥	加剥	石核	剥片	砕片	礫石	台石	磨	磨石	合計	%
黒安		1			1	3	50	11					66	65.3
黒頁	1		1	1									3	3.0
チャ	1			1			5						7	6.9
珪頁							1						1	1.0
橄安									14	1	2	1	18	17.8
安山									6				6	5.9
合計	2	1	1	2	1	3	56	11	20	1	2	1	101	

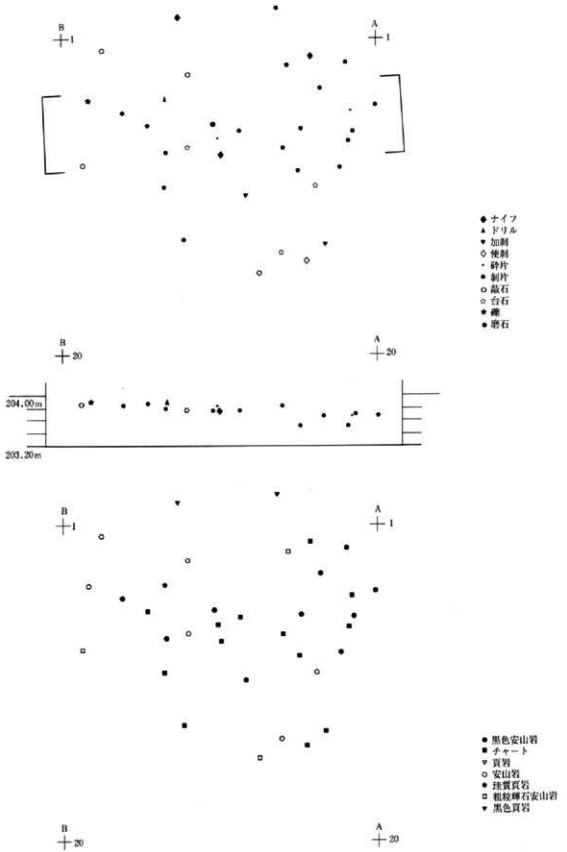
表10　8号ブロック器種・石材集計表



第27図　8号ブロック石材別グラフ



第28図　９号ブロック石器集中地点



第29図　10号ブロック石器集中地点

9号ブロック（第28、30図）

位置　66区A-20、B-20グリッドで検出した。本ブロックの北東に10号ブロックと隣接する。

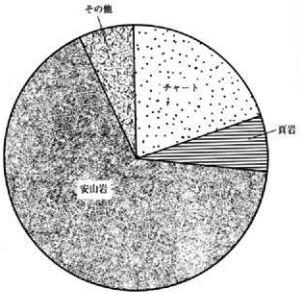
規模・形状　4.3m×3.5mの範囲に、概ね隅丸三角形の形状に分布している。分布範囲は約10.3m²を測る。石器の分布状態は集中性に欠け、散漫な分布状態を示す。

石器　総計15点の石器が出土している。敲石、台石といった礫系の石器が多く、全体の60％を占める。このほか、チャート製の使用痕を有する剥片が1点出土している。

接合　石器の接合は1例（接合資料－22）を確認した。14.6mの接合距離を有し、6号ブロック出土の石器と接合している。

	使剥	剥片	敲石	台石	礫	合計	%
チャ	1	2				3	20.0
頁岩		1				1	6.7
安山			5	3	2	10	66.7
変安			1			1	6.7
合計	1	3	6	3	2	15	

表11　9号ブロック器種・石材集計表



第30図　9号ブロック石材別グラフ

10号ブロック（第29、31図）

位置　66区A-20グリッドで検出した。本ブロックの南東で8号ブロックと、南西で9号ブロックと隣接する。10ヶ所の石器集中地点の中で、最も北に位置する。本ブロックの北側では石器の出土が確認されていないため、本遺跡内の旧石器の分布の北限を示すものと思われる。

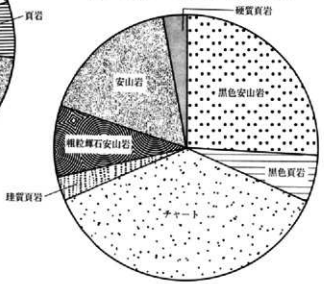
規模・形状　長軸5.0m、短軸4.5mの範囲に、概ね円形状に分布している。分布範囲は約18.2m²である。石器の分布は集中性に欠け、散漫な分布状態を示す。

石器　総計35点の石器が出土している。剥片、砕片が構成の主体をなすが、ナイフ形石器3点、ドリル1点、使用痕を有する剥片・加工痕を有する剥片も3点出土している。石器石材はチャートの占める割合が最も高く、全体の37％であり、黒色安山岩が25％、安山岩が17％を占める。このほか黒色頁岩、珪質頁岩、粗粒輝石安山岩、硬質頁岩が組成している。

接合　石器の接合は1例（接合資料－37）を確認した。本ブロック内での接合である。

	ナイ	ドリ	使剥	加剥	剥片	砕片	敲石	台石	礫	磨石	合計	%
黒安					9						9	25.7
黒頁	1				1						2	5.7
チャ	2			2	7	2					13	37.1
硬頁			1								1	2.9
粗安							2			1	3	8.6
安山							2	3	1		6	17.1
硬頁		1									1	2.9
合計	3	1	1	2	17	2	4	3	1	1	35	

表12　10号ブロック器種・石材集計表



第31図　10号ブロック石材別グラフ

ナイフ形石器（第32～34図）

①二等辺三角形または五角形を呈するもの（23・56・77・205・216・248・299・305・249・547）、②台形様を呈するもの（353・380・262・331）、③やや不定形で上端と一側縁を調整するもの（76・223・476）、④ほぼ全周縁を調整するもの（186）、⑤その他（213・234）に分類できる。①に分類されるものは主に一側縁を調整し先端が尖るようにしているものａ（23・77・205・299・305）とほとんど調整しないで素材の先端をそのまま利用しているものｂ（56・248・547）がある。56は五角形を呈するものであり、両側縁の基部側に調整剥離を施し、打点はそのまま残す。331は横長剥片を素材とし打瘤を除去している台形のもので、上下両端に使用痕と考えられる微細な剥離痕を有する。305は基部から左側縁にかけて調整剥離を施し、右側縁を刃部とする。基部に打点を残す。249は先端は欠損しているが、二側縁を調整し、先端は尖るものと思われる。77は右側縁と基部を調整し左側縁を刃部とする。205は左側縁の基部側から右側縁にかけて調整し先端から左側縁上半部を刃部としている。打瘤は除去されている。186は全周縁を調整するものであり、他のものに比べ先端はあまり尖らない。基部に打点を残す。380はほぼ全周縁を調整し、やや大形の台形を呈するものであり、打点は残さない。逆向きにすると先端が左に傾くものとなる。23は基部と左側縁を調整し、先端を尖らせている。左側縁の基部側と右側縁は素材の縁辺をそのまま利用している。234は上端から欠損後微細な剥離が施されており、再利用されている可能性がある。表面に節理面を残す。216は二側縁を調整し先端部をドリル状に作出しているものであり、基部に打点を残す。262は主に右側縁を調整し、左側縁を刃部とする。基部に打点を残す。353は台形を呈する小形のものであり、主に右側縁を調整し、打点はそのまま残す。547は基部の打瘤を除去することにより全体の形を整形している。299は二側縁を調整し全体の形を整形している。先端部はドリル状になっている。53はドリルとすべきものと思われるが、先端部の作り出しが右側に傾いており、その点では他のドリルとは違う。223はほぼ全縁を調整し、打点側の薄い部分のみをそのまま残しているものである。一部に節理面を残す。476は上端から右側縁にかけて調整剥離を施し、左側縁上半のやや薄い部分を刃部とする。打点はそのまま残す。213は左側縁の一部に調整剥離を施すものであり、基部は剥離時点での欠けと思われる。248は二側縁の基部側に調整剥離を施すが、打瘤はそのまま残す。比較的薄手である。76は縦長剥片の上端から左側縁上半にかけて調整剥離を施している。小形のものが多いことと石材がチャートが多い点も特徴的である。給良丹沢パミス（ＡＴ）下位のナイフ形石器の中でも特徴的な一群であると思われる。

ドリル（錐形石器）（第35・36図）

ドリルと分類したものには形態的には従来、ナイフ形石器に分類されているものも含まれているが、両側縁からの調整剥離による先端部の作り出しがより明瞭であり、あえてナイフ形石器とは区別した。367は二等辺三角形になるように周辺加工を施したものであり、他のものに比べると平坦で、より小形である。355は剥片の縁辺部に細かい調整剥離を施して整形しているものであり、剥片の打点から最も遠い部分にドリル先端を作出している。打瘤が厚く残る。21は二側縁と基部に調整剥離を施し、二等辺三角形に整えており、打点は残らず、薄く仕上げられている。69は縦長剥片の二側縁に調整剥離を施し、両側縁がやや膨らみを持つ二等辺三角形に整形しており、打点から最も離れた部分に先端部を作出している。素材の形は大きく変えることなく、打点はそのまま残る。222は裏面側からの加工により、細長い槍先形に整えられており、表面には節理面を残す。113は風化しているが、一側縁と先端部に調整剥離が施され、五角形に近い二等辺三角形に整形されている。素材の形は大きく変えず、打点もそのまま残るが、比較的薄手である。309は二側縁に調整剥離を施し、全体の形が五角形になるように整形されているが、基部の打点・打瘤はそのまま残している。

この石器にとって先端部に比べ基部はあまり重要な意味は持っていなかったことが伺える。

スクレイパー（第37・38図）

13はやや不定形な横長剥片の一端にノッチを入れてスクレイパーとしたものである。66は厚手の横長剥片の上下両端に調整剥離を施したものであり、下端はやや内彎する。上端に比べ、下端は薄くなっており刃部と考えられる。打瘤はそのまま残る。打面は剥離面である。170は厚手のやや縦長の剥片を素材としたものであり、下端には鋸歯縁状の粗い剥離が施される。右側縁には表面側からのみやや不揃いな剥離が施されており、打点はそのまま残る。打面は剥離面である。

磨製石斧（第39図）

86は部分破片であり、全体形は不明であるが、刃部平面形は円刃を呈するものである。表裏の一部分に磨滅が認められるので、局部磨製石斧に分類した。他に同様な破片は１点も出土しなかった。

加工痕を有する剥片（ＲＦ）（第40・41図）

ＲＦについては人為的に調整加工を施したと考えられるものをここに入れ、ＵＦと区別した。比較的規則的に大きめの剥離が並ぶものを加工痕、小さい不揃いな剥離が並ぶものを使用痕と考えた。

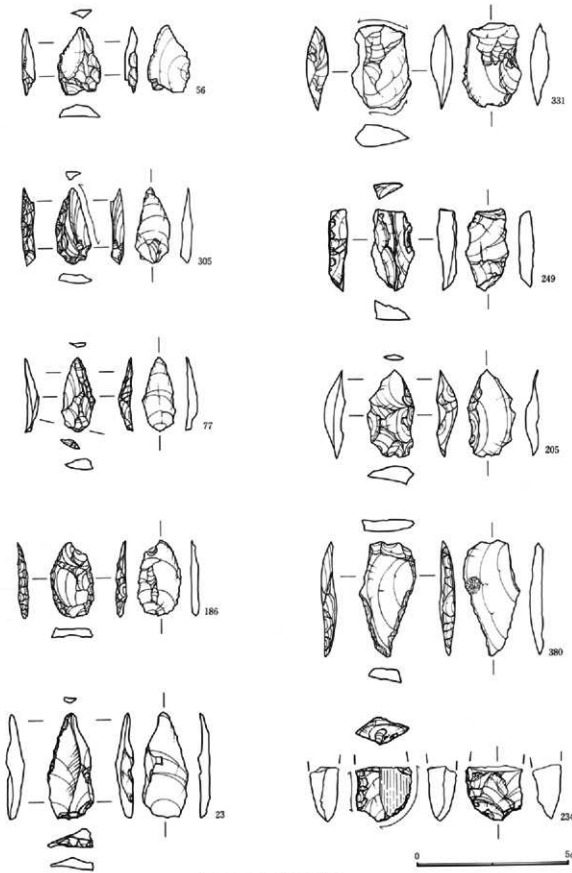
219は貝殻状の横長剥片を素材とし、上端と下端を調整して全体の形を整えており、スクレイパーとすべきものと考えられる。281は剥片の先端部に両側縁からの作り出しがあり、ドリルに入れても良いものと考えられるが、基部に両側縁からの調整により摘み部が作出されており、ナイフ形石器に近い機能も合わせ持っていた可能性が高い。285は一側縁に調整加工が施されている。419は平担な打面を一側縁、細かい剥離の入った一側縁を対峙する辺とし、調整剥離の無い縁を刃部とすると小形の台形様のものと考えることもできる。265は打面は剥離面であり、二側縁に調整加工を施すものである。303は一側縁に調整剥離を施し、他側縁については不揃いな剥離が並ぶ。395は左側面は抉理面であり、右側縁に小さい剥離が施される。

使用痕を有する剥片（ＵＦ）（第42～45図）

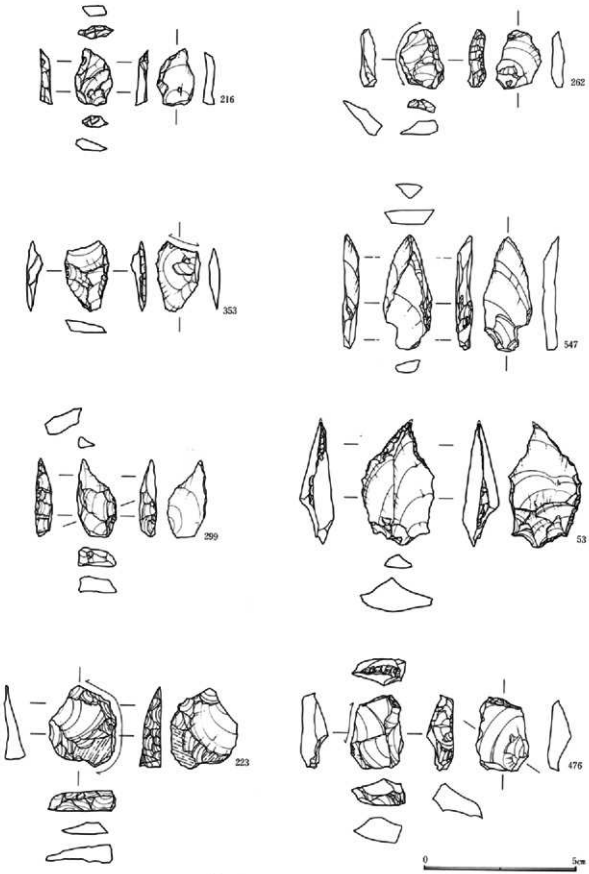
471はやや厚手の横長剥片の下端を刃部とするものであり、打面は剥離面である。18は横長剥片の上端に調整剥離を施すものであり、表面側の打瘤は除去されている。217は剥片の下端に調整剥離を施すものであり、右側縁を刃部とする。打面は剥離面である。８は貝殻状剥片の両側縁を刃部とするものであり、下端は欠損している。481は台形状の剥片の縁辺を刃部とするものであり、稜部にも微細な剥離が認められる。稜部のものは使用痕とは考え難く、石材も硬質頁岩であることから、長距離の持ち運びの際に傷付いたものと考えられる。打面は剥離面である。432は横長剥片の一端を刃部とするものであり、打面は自然面である。264はやや厚手の縦長剥片の左側縁を刃部とするものであり、打面に調整剥離が認められる。354は厚手の縦長剥片の一側縁を刃部とする。打面は剥離面であり、表面上端に調整剥離が認められる。520は縦長剥片の左側縁を刃部とする。右側縁に細長く自然面を残す。286は不定形な剥片を素材とし、左下端を刃部とする。打面は剥離面であり、下端に自然面を残す。260はほぼ方形に近い剥片であり、左側は剥離時の欠損と考えられる。137は貝殻状横長剥片の下端を刃部としており、右側縁の一部が欠損している。打面は自然面である。421は右下が突出する大形横長剥片であり、下端を刃部とする。打面は剥離面である。

石核（第46～48図）

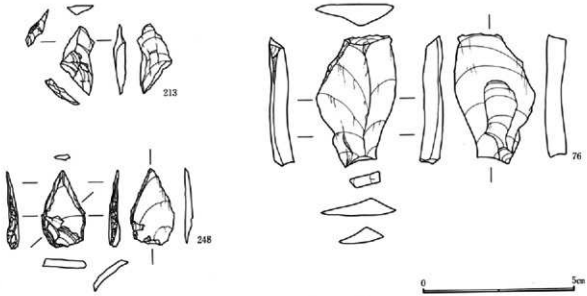
石核については426を除き、これ以上は有効な剥片は取ることができないものであり、残核と呼んでも良いものと思われる。45・426・246・424・475・100いずれも自然面を一部に残している。特に426・246・424・475は一面もしくは二面に亘って自然面を大きく残しており、礫から直接剥離をしたか、分割した礫から剥離を行っていることが伺える。推定するに礫の大きさは握り拳大もしくはそれよりも一回り大きい程度のものと考えられる。



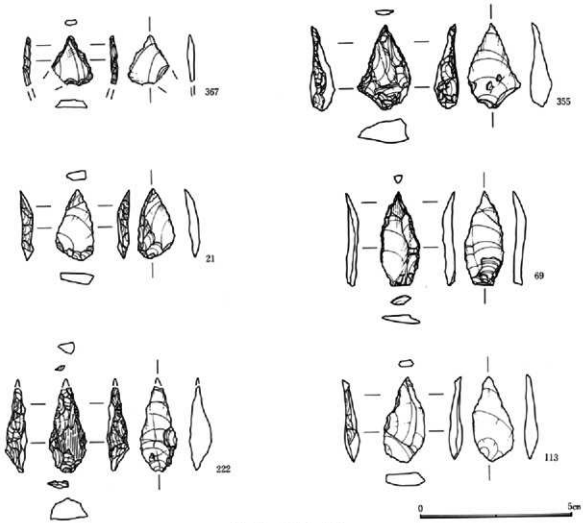
第32図　ナイフ形石器（1）



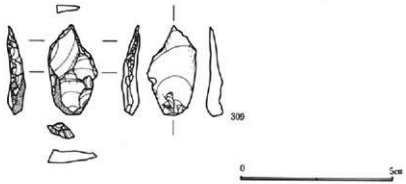
第33図　ナイフ形石器（2）



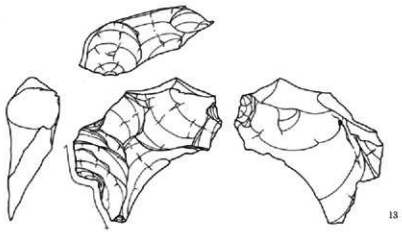
第34図　ナイフ形石器（３）

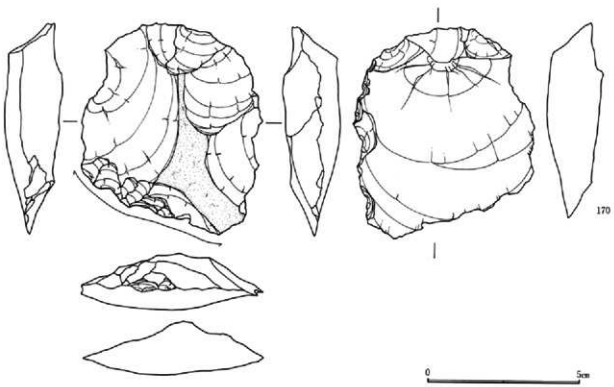


第35図　ドリル（１）

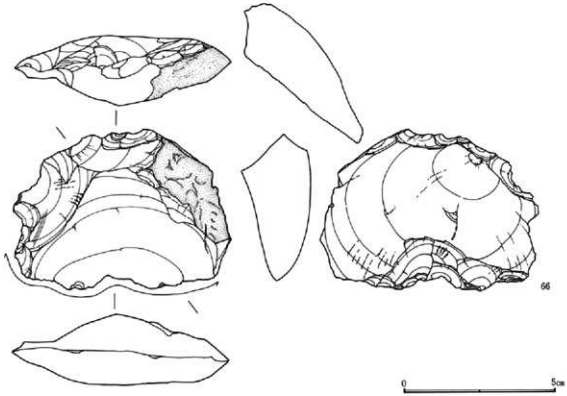


第36図　ドリル（2）

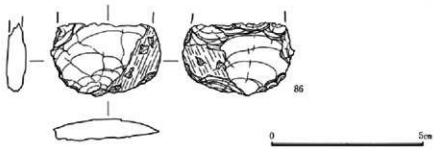




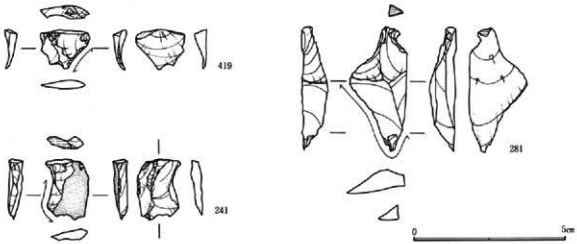
第37図　スクレイパー（1）



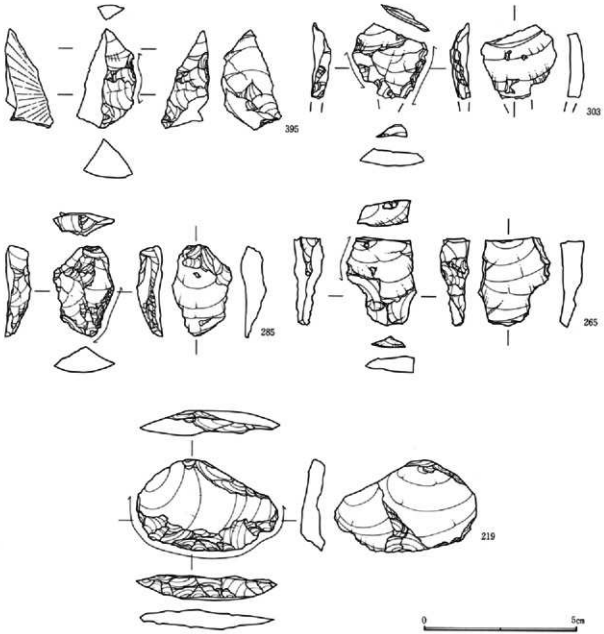
第38図　スクレイパー（２）



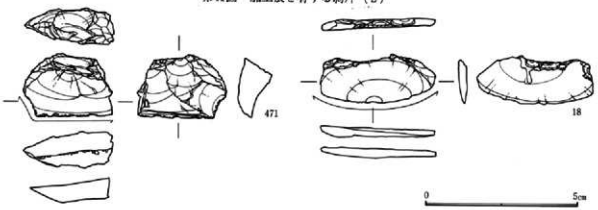
第39図　磨製石斧



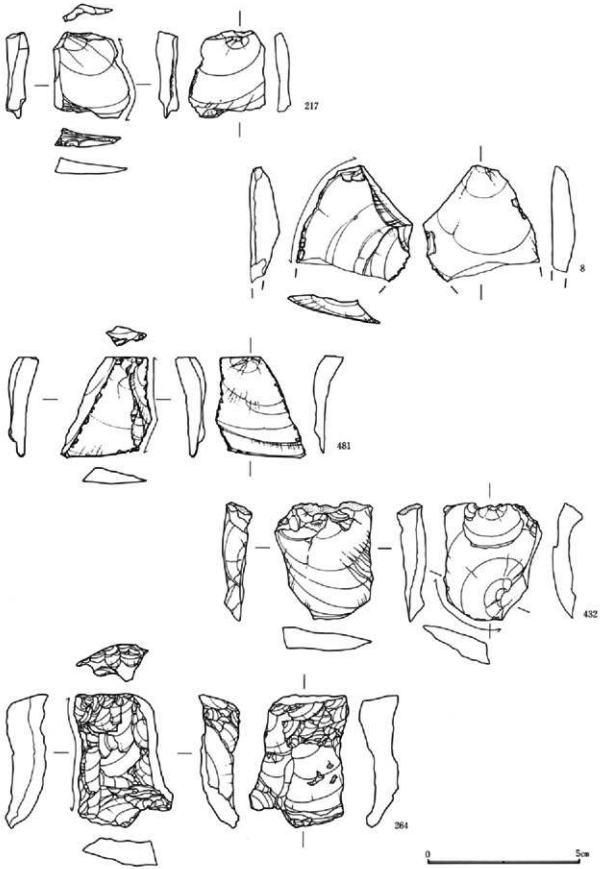
第40図　加工痕を有する剥片（１）



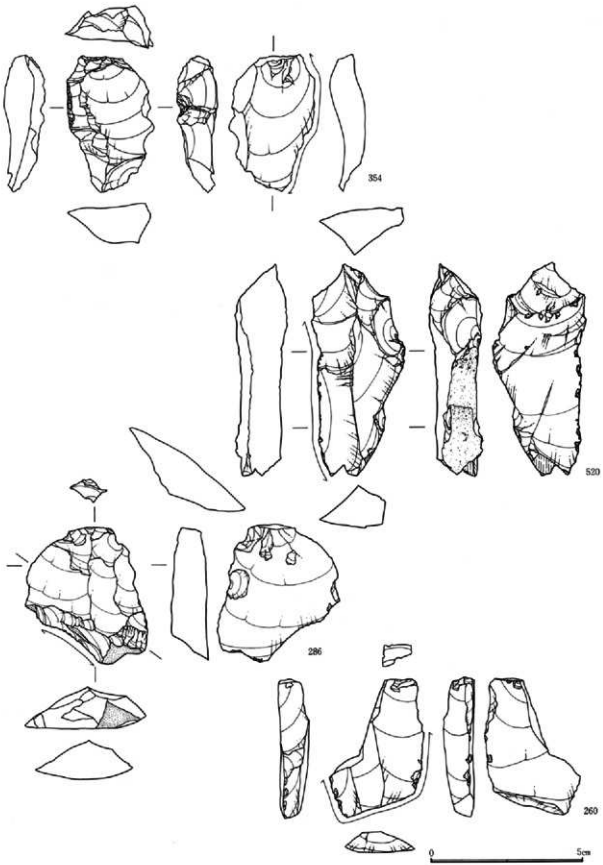
第41図　加工痕を有する剥片（２）



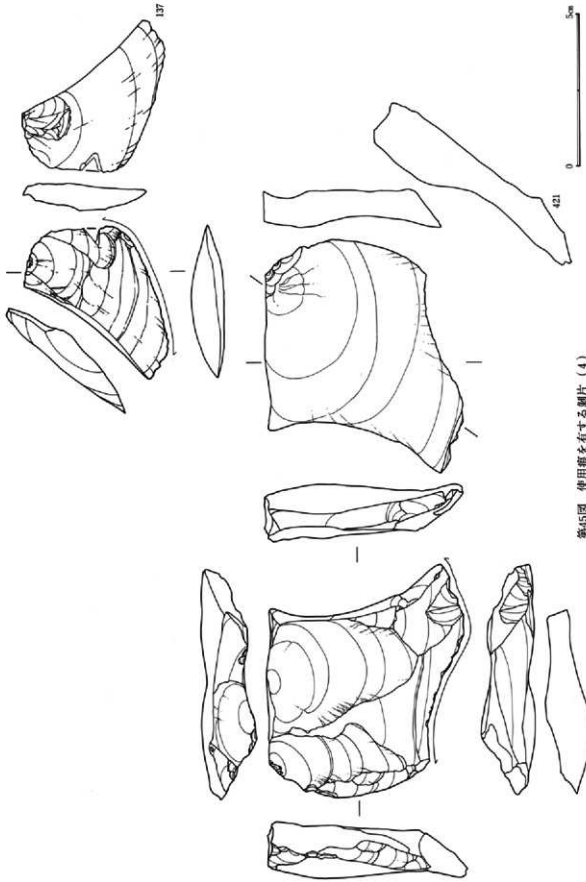
第42図　使用痕を有する剥片（１）



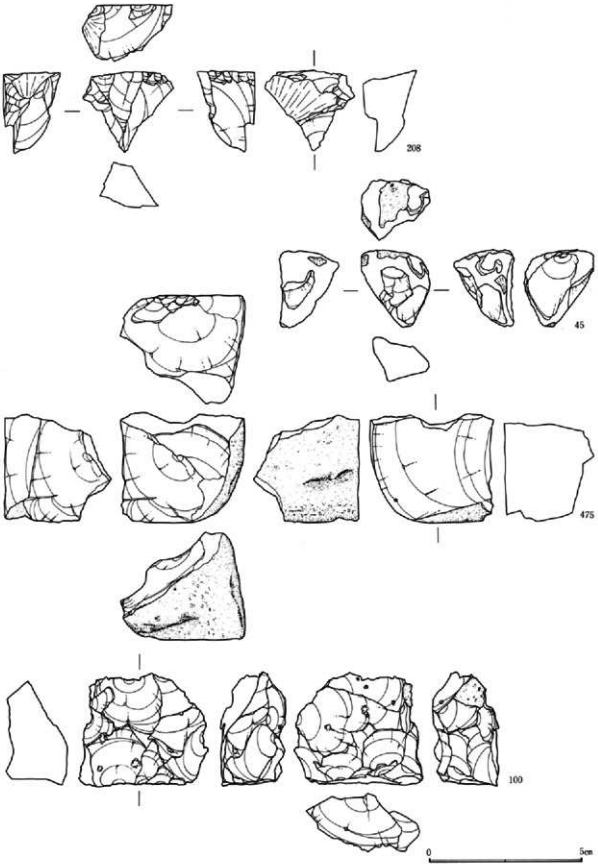
第43図　使用痕を有する剥片（２）



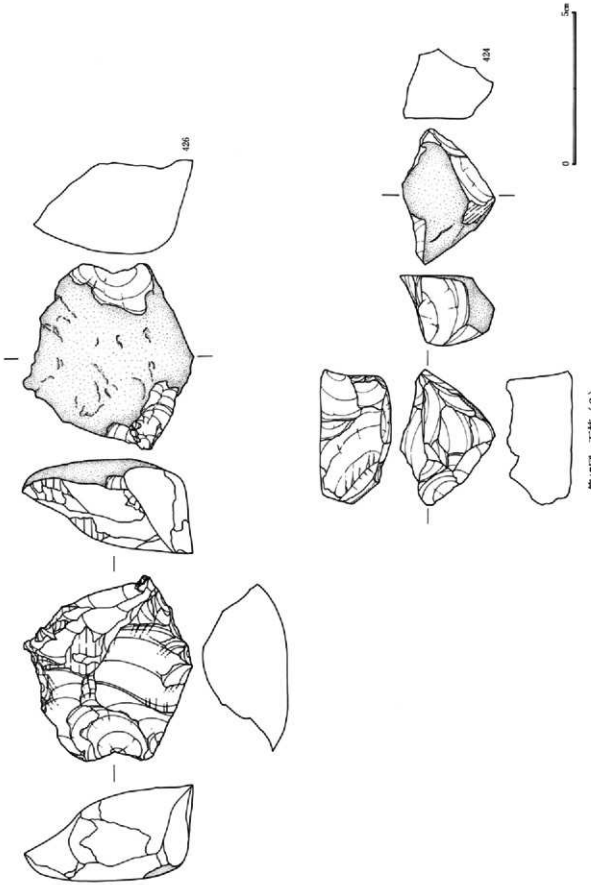
第44図　使用痕を有する剥片（３）



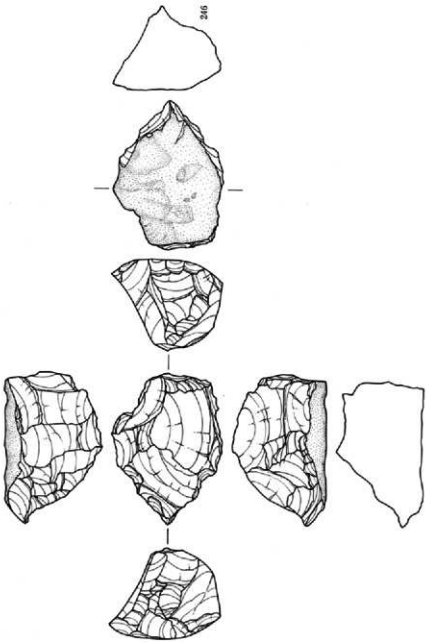
第45図　使用痕を有する剥片（４）



第46図　石核（１）



第47図　石核（2）



第48図　石核（３）

接合資料１（第49・50・51図）

石材は黒色安山岩で12点が接合している。原石に近い状態にまで復原されたが、表皮を残す部分の剥片が接合されていない。途中の小剥片が抜けている部分もあるが、あまり良好なものではなく、石器に加工された可能性は低いと思われる。拳大の原石に側面からの打撃により打面を作出し、剥離を施している。339は比較的大きな剥片であるが、分厚すぎたためか石器としては使用されず、そのまま残されたものと思われる。383・399については台形様に加工している途中で欠損したものと思われる。389についても一部に調整加工が認められる。

接合資料３（第52・53図）

石材は黒色安山岩で５点が接合している。上面の一部に自然面を残すが、接合されたのは原石の中心に近い部分であり、円錐形に近い形態を呈する。

接合資料４（第54図）

石材は黒色安山岩で５点が接合している。打撃を加えているのは１カ所であり、それが原因で横長剥片が縦に割けてしまったものと考えられる。打面に自然面を残す。

接合資料５（第55・56図）

石材は黒色安山岩で４点が接合している。他のものに比べやや大形の礫を素材としており、一面に大きく自然面を残す。打面は剥離面である。いずれも分厚いものであり、石器には使用されていない。

接合資料６（第57・58図）

石材は黒色安山岩で４点が接合している。原石は拳大の礫と思われる。一部に細長く自然面を残す。間の抜けている薄い剥片が石器に利用されている可能性がある。上下の打面は自然面である。

接合資料９（第59・60図）

石材は黒色安山岩で３点が接合している。表皮部分であり、169と176は剥離の際に二つに割けたものである。

接合資料10（第61・62図）

石材は黒色安山岩で３点が接合している。拳大よりもやや大きい原石を素材とし、表皮を剥離したその内側であるが、中心部はない。

接合資料11（第63・64図）

石材は黒色安山岩で３点が接合している。拳大よりもやや大きい楕円形の礫を素材としているものと思われる。表皮部分のみの接合であり、抜けている中心部は方形を呈する。

接合資料15（第64図）

石材は黒色安山岩で３点が接合している。縁辺に細長く自然面を残す。

接合資料17（第65図）

石材は黒色安山岩で２点が接合している。２は折れ面と対峙する側縁基部に調整剥離を施し、切り出し形に整形している。16は折れ面と対峙する側縁に調整加工を施し、台形様に整形している。

接合資料18（第65図）

石材は黒色安山岩で２点が接合している。打撃時の衝撃により割けたものと思われる。

接合資料19（第65図）

石材は黒色安山岩で２点が接合している。打撃時の衝撃により割けたものと思われる。

接合資料20（第66図）

石材は黒色安山岩で２点が接合している。打面は剥離面である。

接合資料21（第66図）

石材は黒色安山岩で２点が接合している。打撃を加えた時に割けたものである。

接合資料25（第67図）

石材は黒色安山岩で２点が接合している。亀甲状を呈するものであるが、剥離の際に割れた可能性がある。

接合資料28（第67図）

石材は黒色安山岩で２点が接合している。表皮を残すものであり、中は方形を呈するものと思われる。

接合資料30（第68・69図）

石材は黒色安山岩で２点が接合している。拳大の原石から剥離されたものであり、自然面を残す。

接合資料31（第70図）

石材は黒色安山岩で２点が接合している。横から

の衝撃が原因で剥離の際に折れたものと思われる。一部に自然面を残す。

接合資料35（第70図）

石材は黒色安山岩で2点が接合している。打面は剥離面である。

接合資料37（第71図）

石材は黒色安山岩で2点が接合している。表皮を残す。間が一部抜けているが、石器として使用した可能性もある。

接合資料39・41（第72図）・**46・47**（第73図）

石材は黒色安山岩で2点が接合している。剥片剥離時の欠損と考えられる。

接合資料45（第73図）

石材は黒色安山岩で2点が接合している。表皮を残さず、中心部分から剥離したものである。やや厚手であるが、利用可能の剥片である。

接合資料2（第74・75図）

石材はチャートで11点が接合している。336はドリル状先端が左に曲がるナイフ形石器である。326・335のように一部に使用痕を残すものもある。縦に長いものを取ろうとしているようであるが、節理が発達しているため思うようなものが剥離できていない。黒色安山岩ほど表皮は気にしていないようであるが、打面は準備してから剥離している。

接合資料8・13（第76図）

石材はチャートで3点が接合している。剥離時の欠損と思われる。

接合資料22・26（第77図）

石材はチャートで2点が接合している。剥離時の欠損と思われる。

接合資料29（第77図）

石材はチャートで2点が接合している。縦長剥片の左側縁を刃部としている。横からの衝撃により二分されているが、剥離時にヒビが入っていたものと思われる。

接合資料33（第78図）

石材はチャートで2点が接合している。片面に大きく節理面を残す。211は台形様の剥片の端部を刃部としている。

接合資料34（第78図）

石材はチャートで2点が接合している。左側縁を刃部としている。表面上端の剥離は打面調整である。

接合資料38（第79図）

石材はチャートで小剥片2点が接合している。

接合資料43（第79図）

石材はチャートで2点が接合している。剥片を斜めに二分し、一方の端部をドリル状に作出しようとしているものと思われる。

接合資料44（第79図）

石材はチャートで2点が接合している。裏面に自然面を残す。表と右側面のものは節理面である。

接合資料14（第80図）

石材は黒色頁岩で3点が接合している。打面は節理面もしくは剥離面である。

接合資料16（第81図）

石材は黒色頁岩で3点が接合している。表に自然面を残す。打面は剥離面である。

接合資料40（第82図）

石材は黒色頁岩で2点が接合している。一部に自然面を残し、打面は剥離面である。

接合資料42（第82図）

石材は黒色頁岩で2点が接合している。下端部に調整剥離を施す。側縁からの衝撃により後に欠けたものと思われる。

接合資料32（第83図）

石材は頁岩で2点が接合している。下端は剥離時の欠損と考えられる。打面側に一部自然面が残るが、打面は剥離面である。

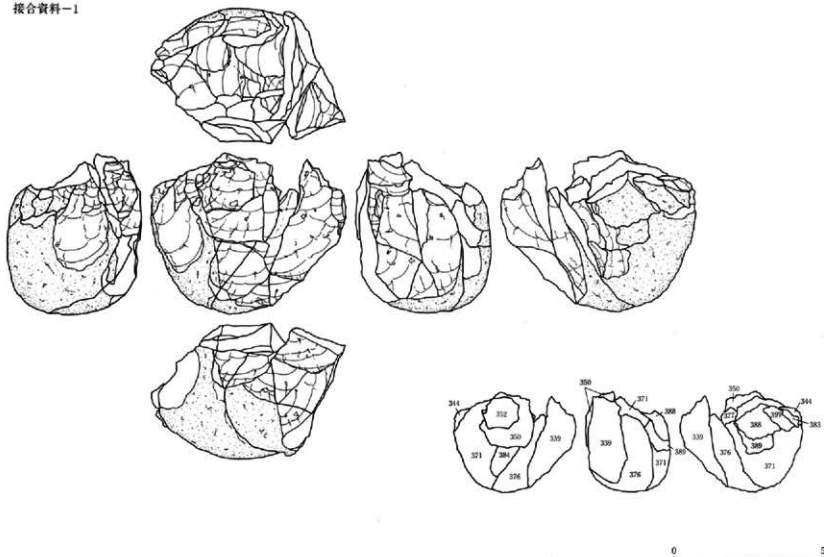
接合資料36（第84図）

石材は頁岩で2点が接合している。間が抜けているが、石器に利用されている可能性は低い。

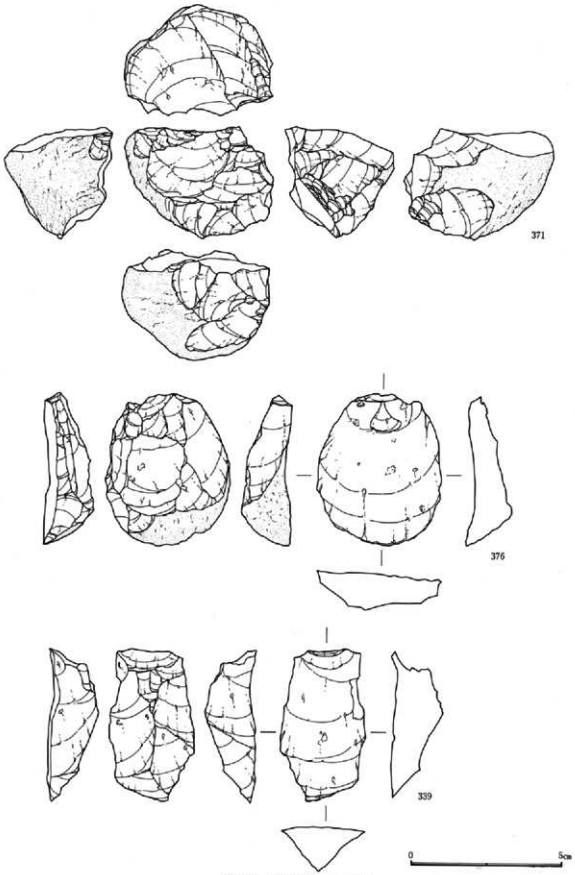
接合資料23（第85図）

石材は砂岩で2点が接合している。上下両端部に敲打痕を残す。表からの打撃により割れたものと思われる。焼けており、やや赤変している。

接合資料－1



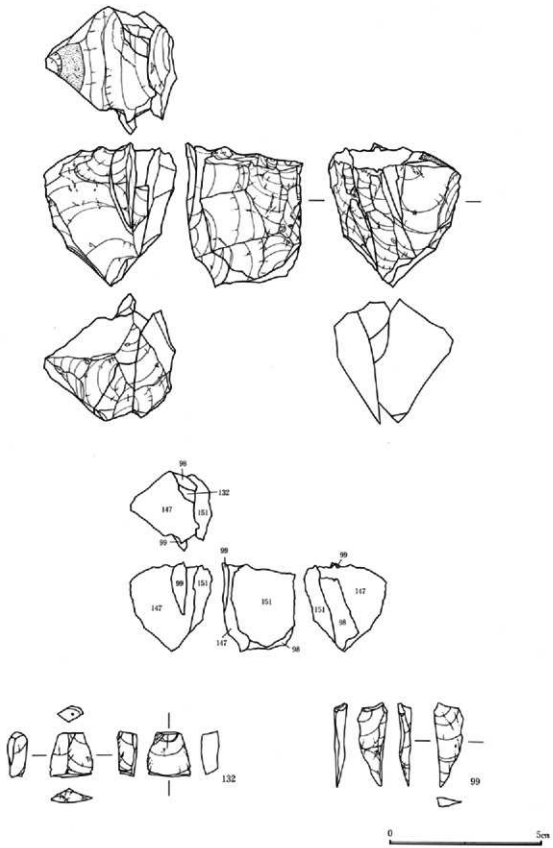
第49図　接合資料－1（1）



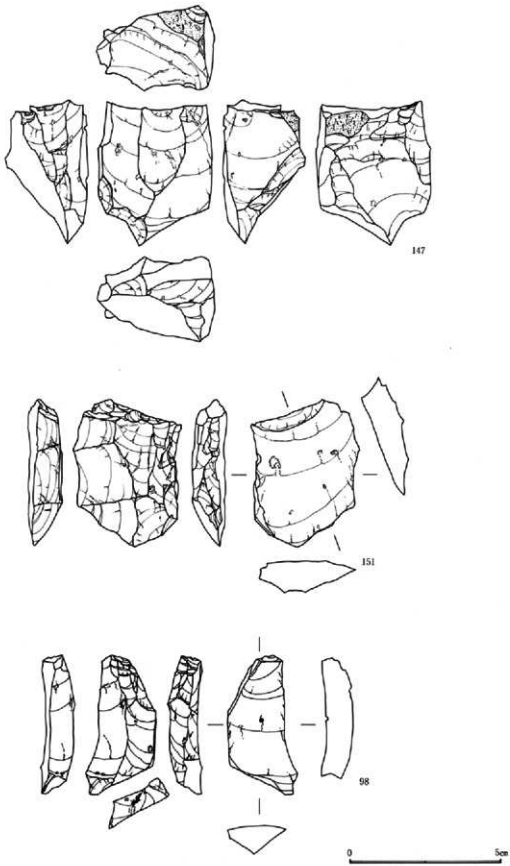
第50図　接合資料－１（２）

第51図　接合資料－1（3）

接合資料－３

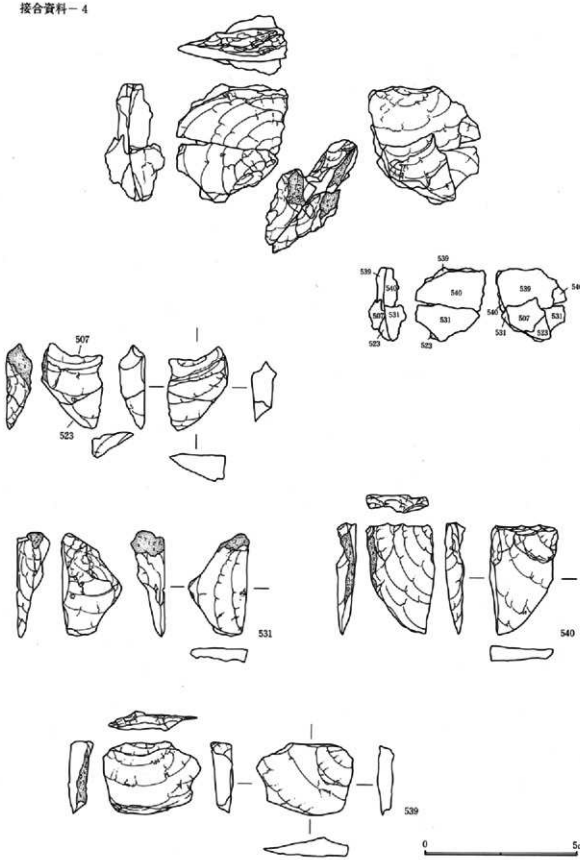


第52図　接合資料－３（１）

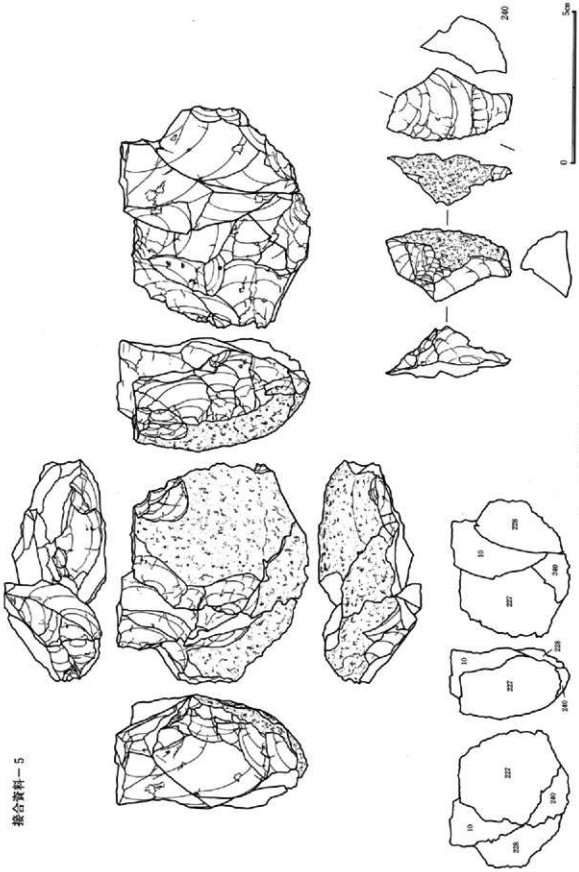


第53図　接合資料－３（２）

接合資料－4

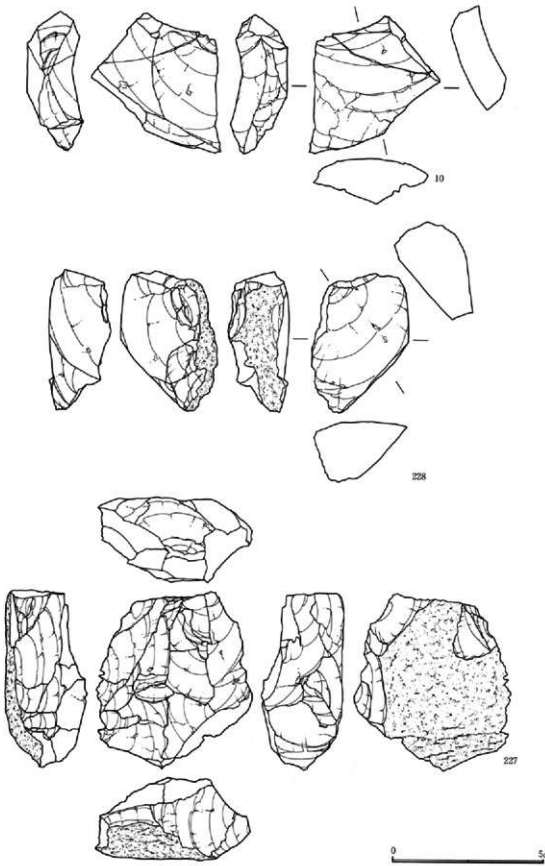


第54図　接合資料－4

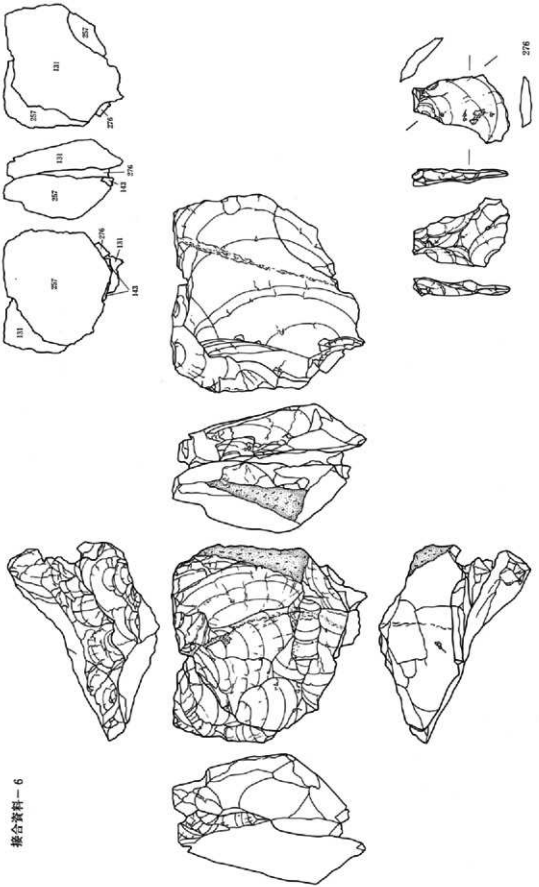


第55図　接合資料－５（１）

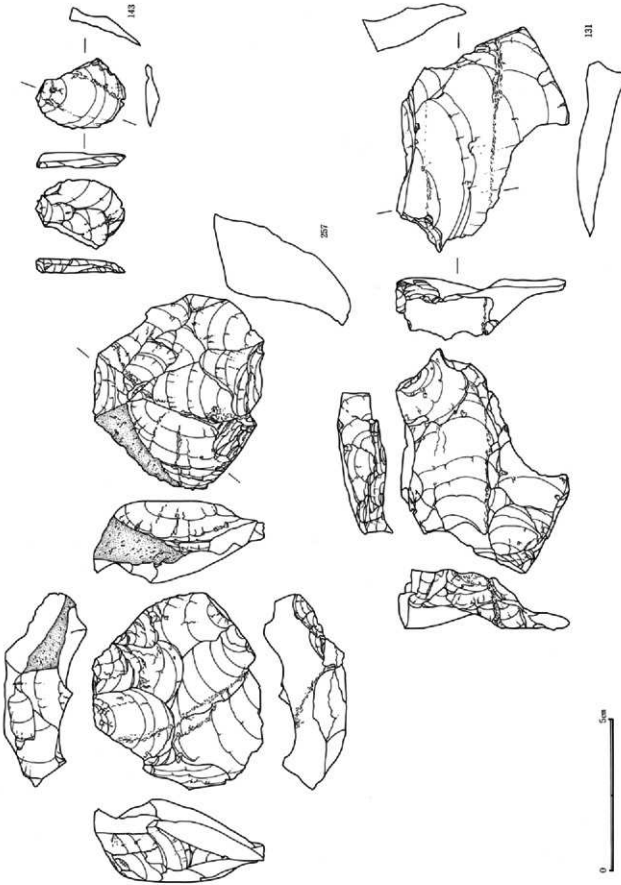
接合資料－５



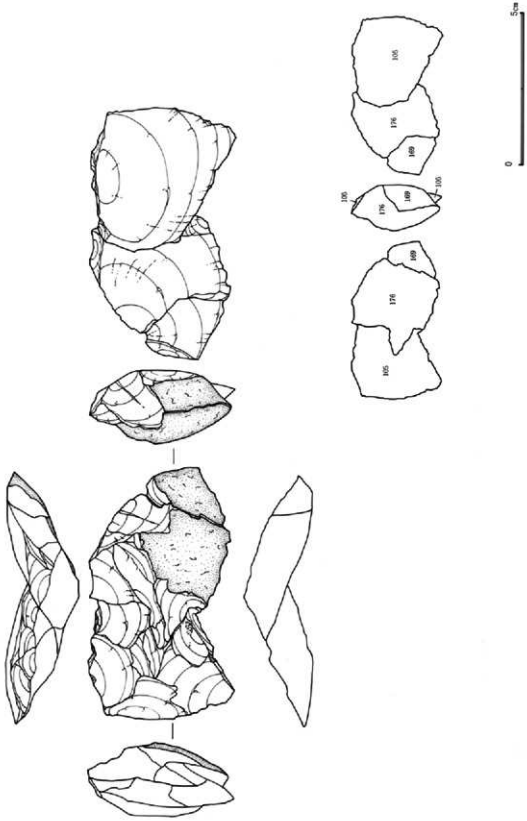
第56図　接合資料－5（2）



第57図　接合資料－6（1）

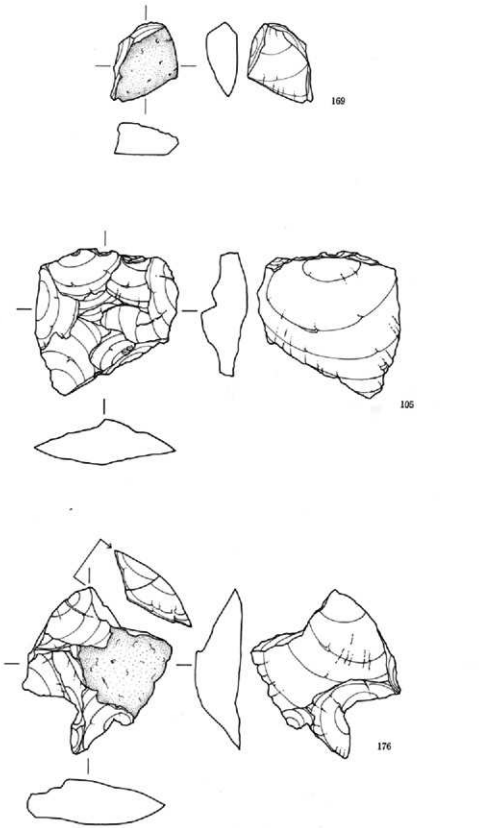


第58図　接合資料－６（２）

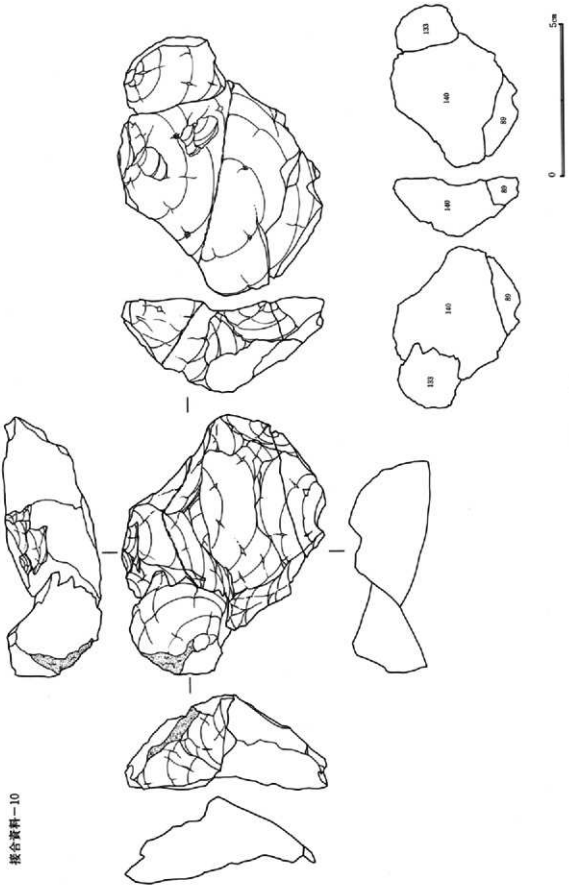


第59図　接合資料－９（１）

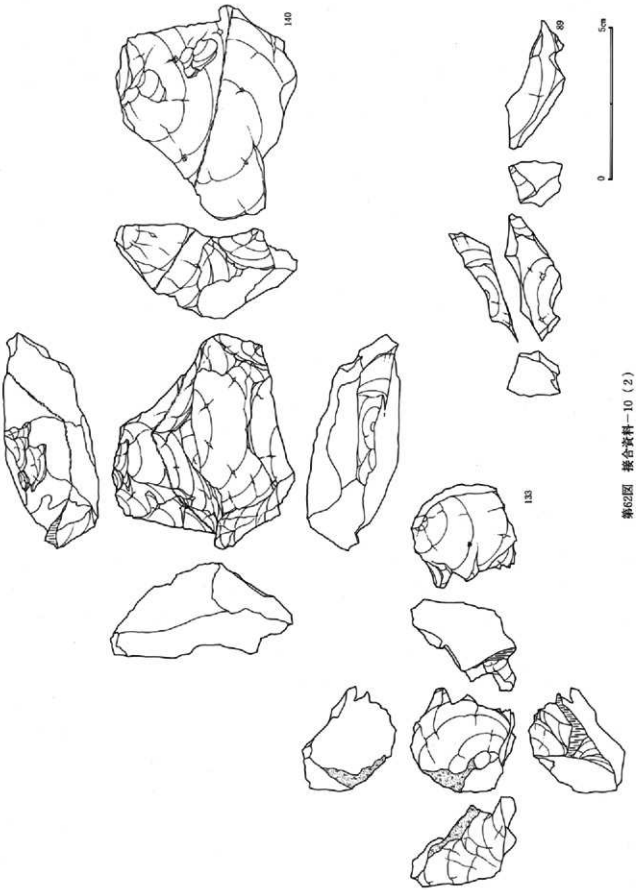
接合資料－９



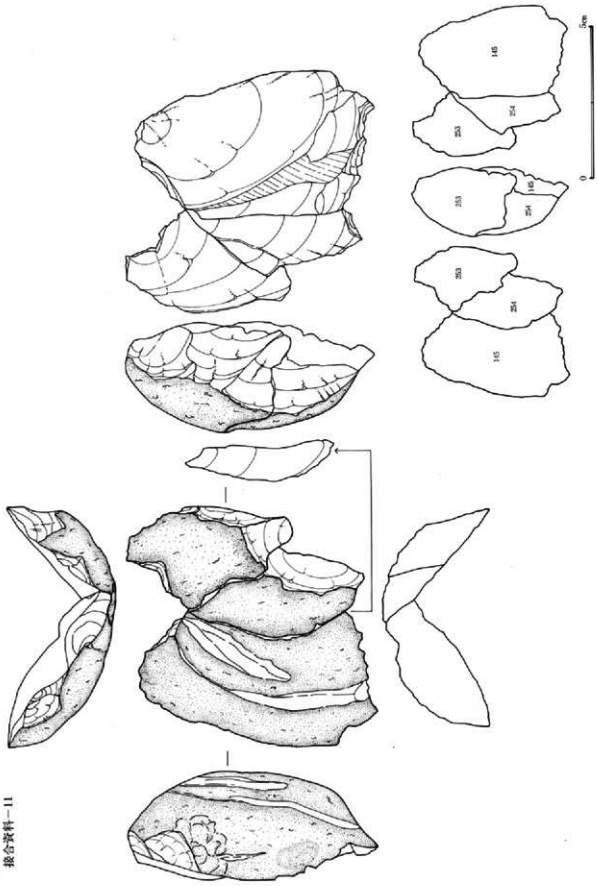
第60図　接合資料－９（２）



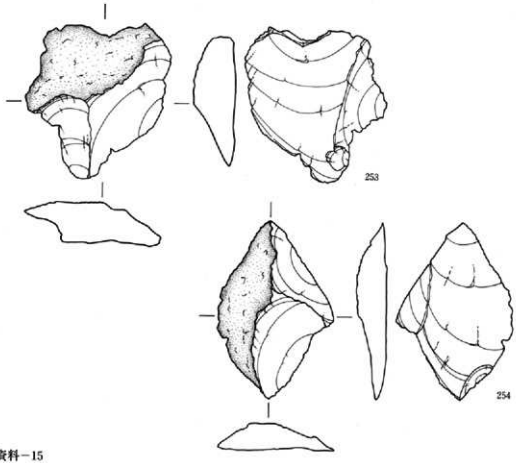
第61図　接合資料－10（1）



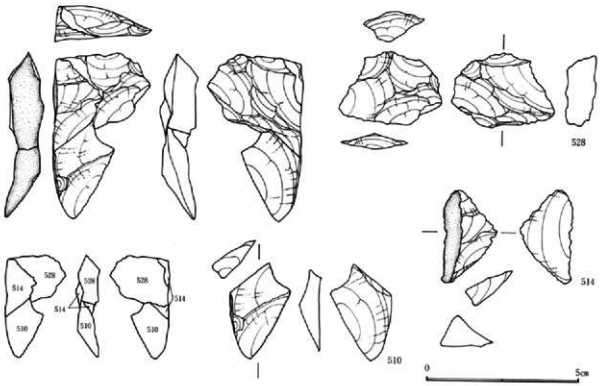
第62図　接合資料－10（2）



第63図　接合資料—11（1）

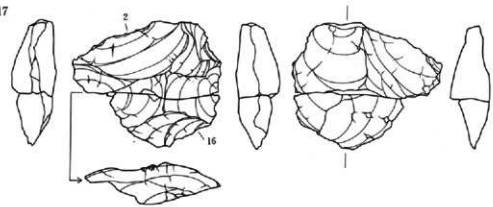


接合資料－15

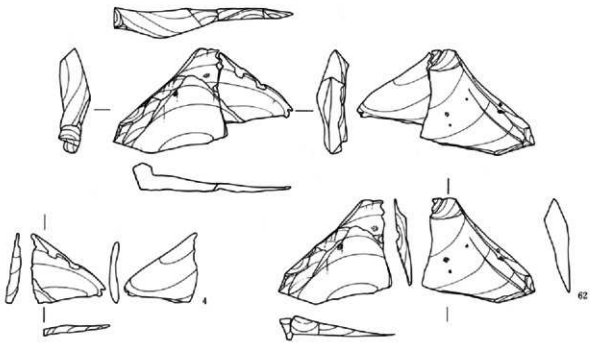


第64図　接合資料－11（2）・15

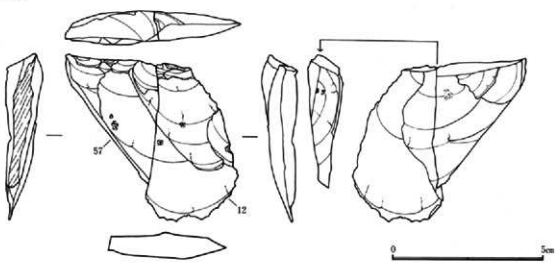
接合資料－17



接合資料－18

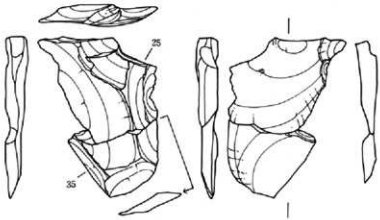


接合資料－19

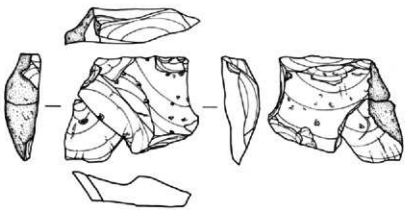


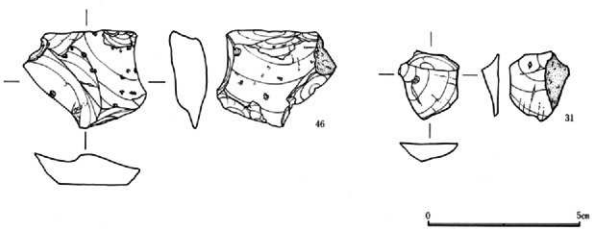
第65図　接合資料－17～19

接合資料－20



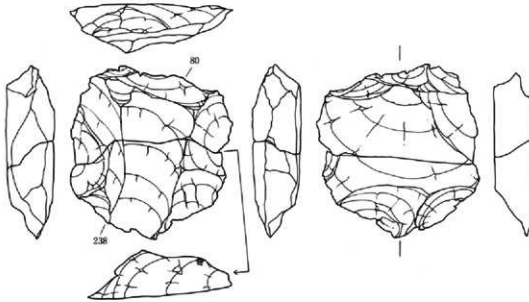
接合資料－21



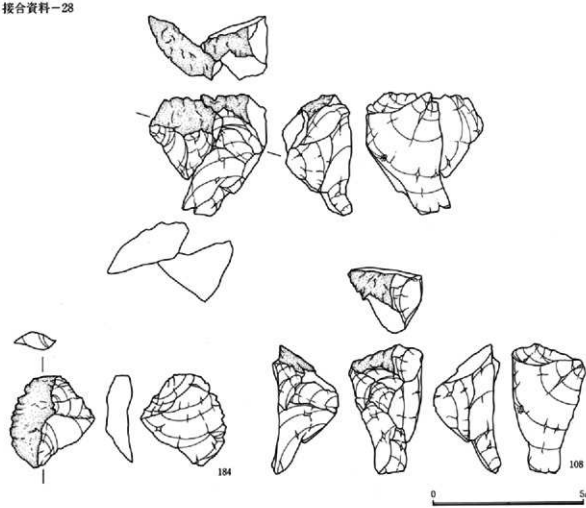


第66図　接合資料－20・21

接合資料－25

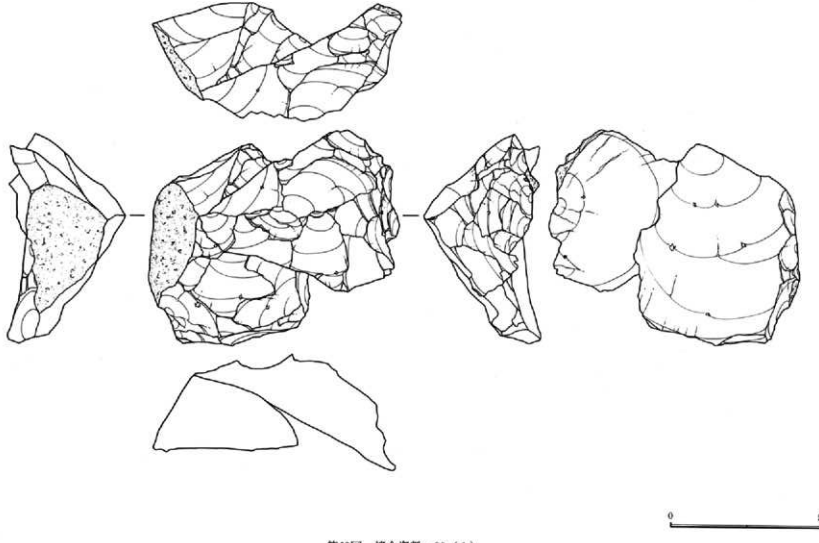


接合資料－28

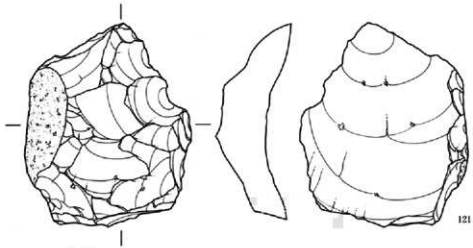


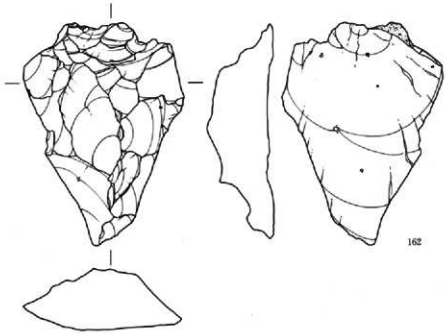
第67図　接合資料－25・28

接合資料－30



第68図　接合資料－30（1）

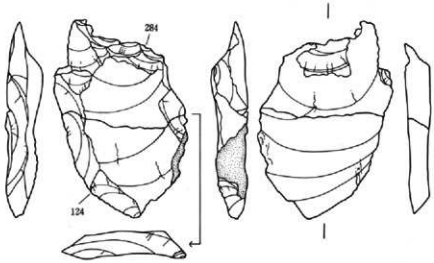




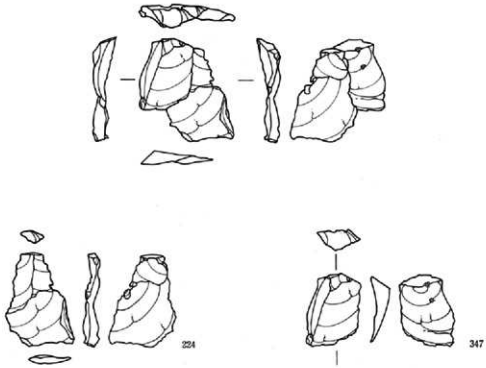
0　5cm

第69図　接合資料－30（２）

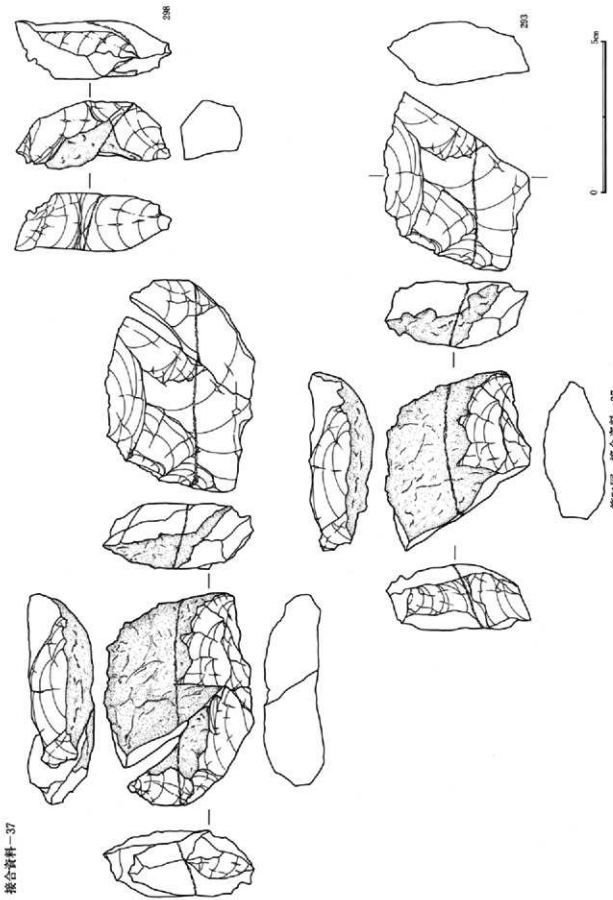
接合資料－31



接合資料－35

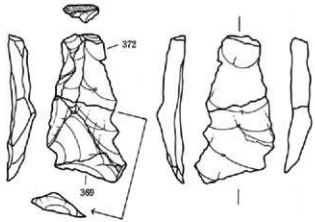


第70図　接合資料－31・35

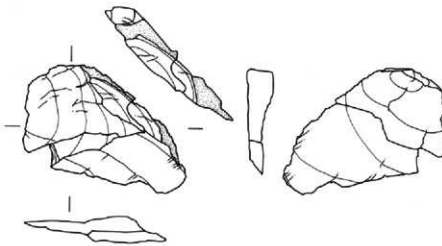


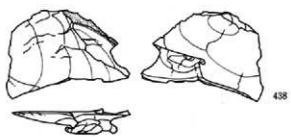
第71図　接合資料－37

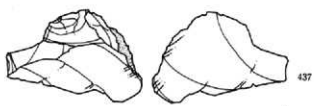
接合資料－39



接合資料－41



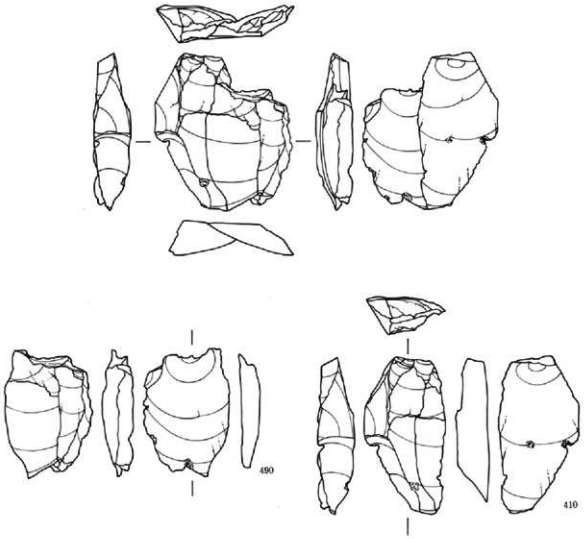




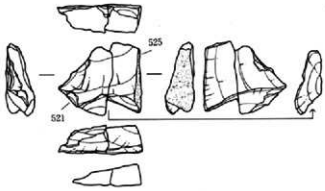
0　5cm

第72図　接合資料－39・41

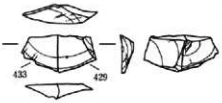
接合資料－45



接合資料－46

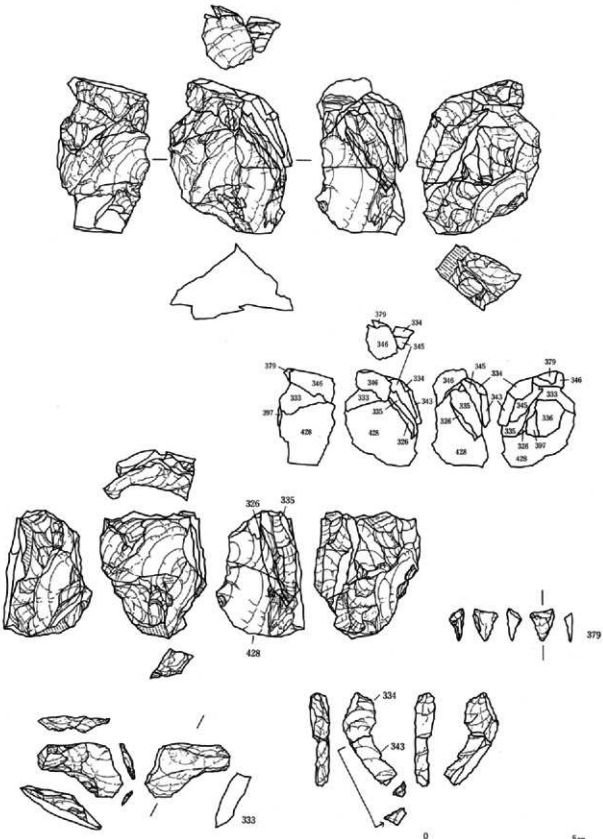


接合資料－47

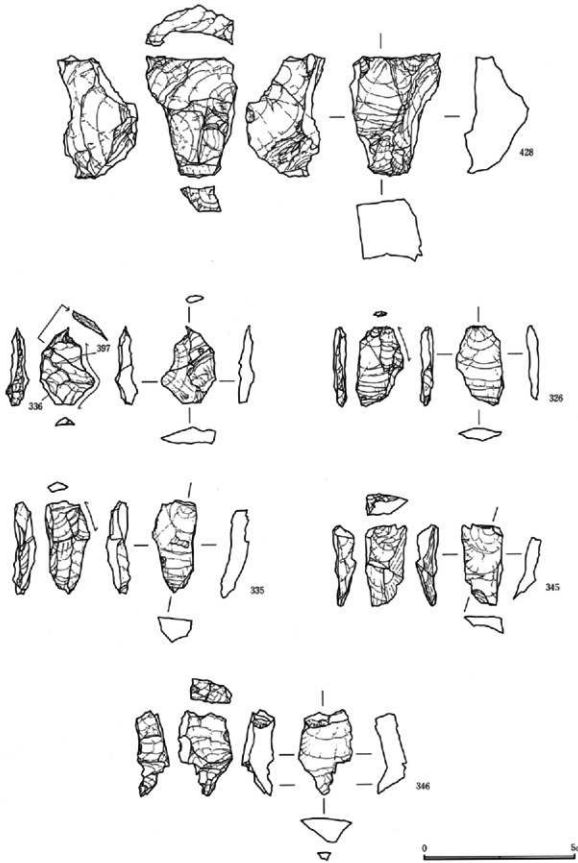


第73図　接合資料－45～47

接合資料－2

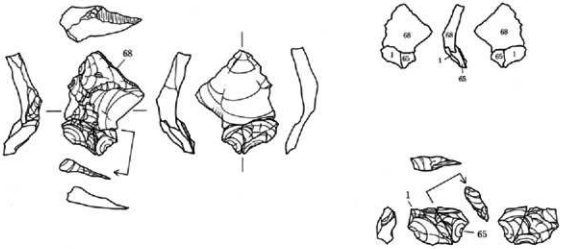


第74図　接合資料－２（１）

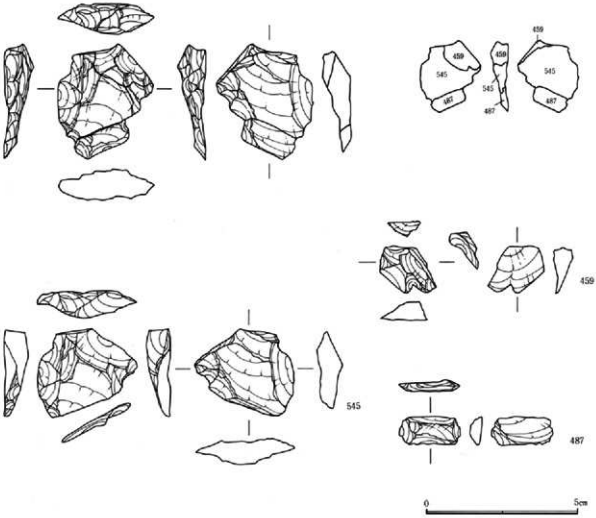


第75図　接合資料－２（２）

接合資料－8

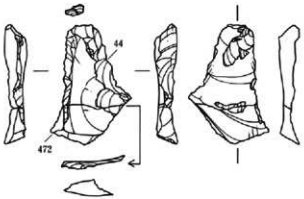


接合資料－13

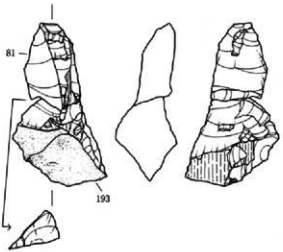


第76図　接合資料－８・13

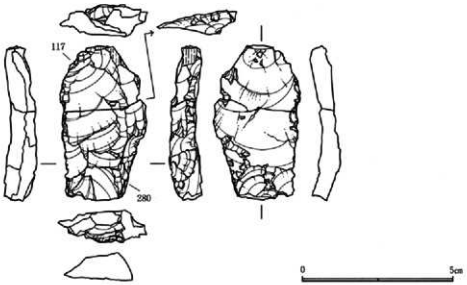
接合資料－22



接合資料－26

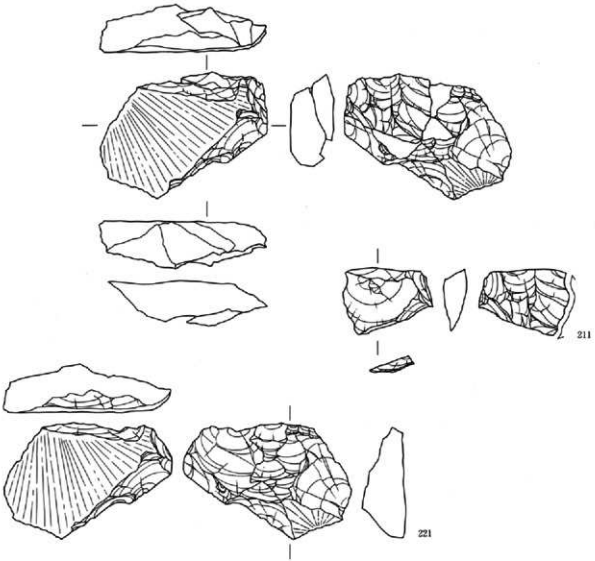


接合資料－29

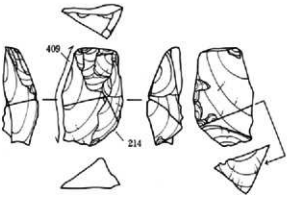


第77図　接合資料－22・26・29

接合資料－33

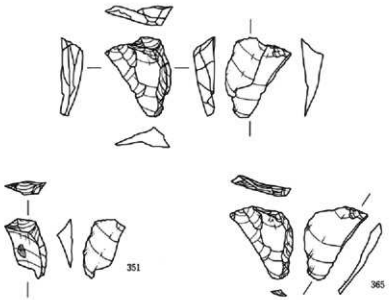


接合資料－34

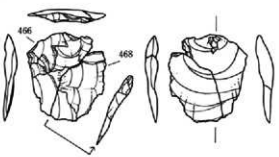


第78図　接合資料－33・34

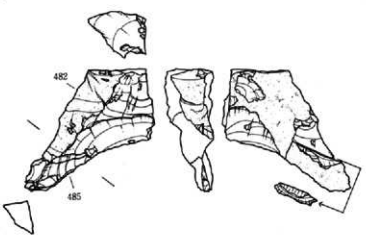
接合資料－38



接合資料－43



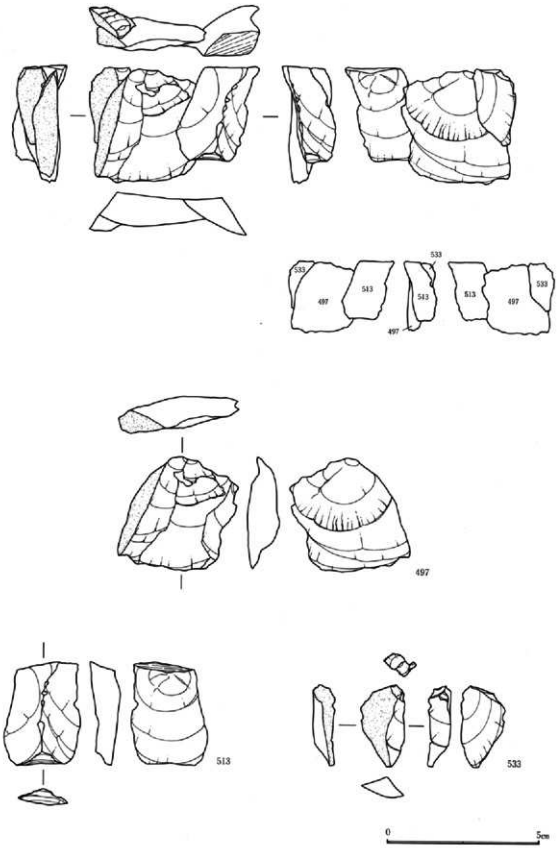
接合資料－44



0　5cm

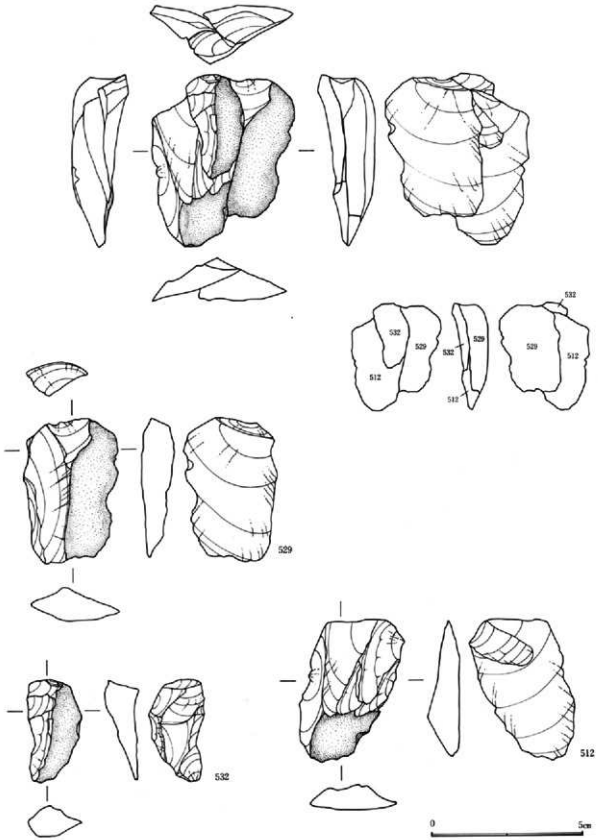
第79図　接合資料－38・43・44

接合資料－14



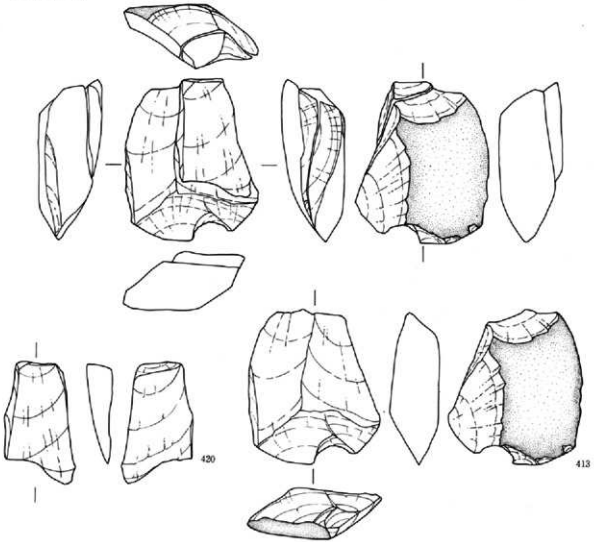
第80図　接合資料－14

接合資料－16

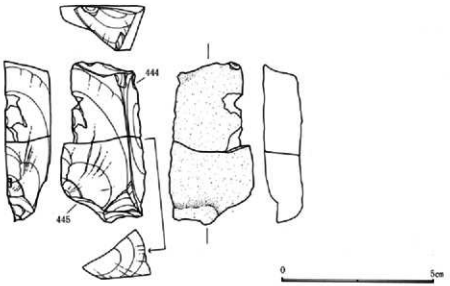


第81図　接合資料－16

接合資料－40

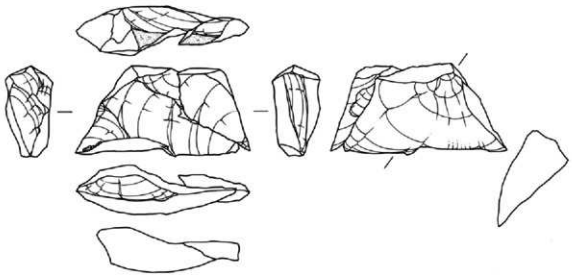


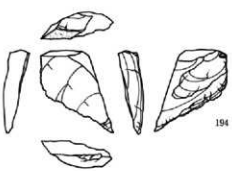
接合資料－42

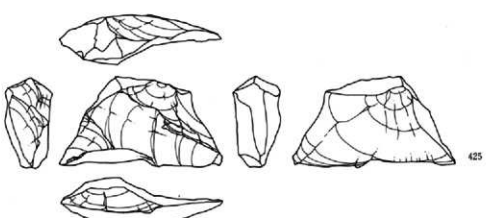


第82図　接合資料－40・42

接合資料－32



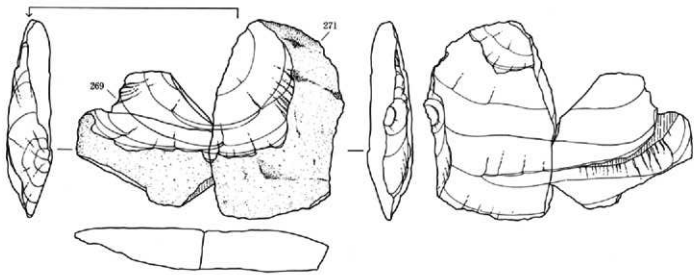




0　5cm

第83図　接合資料－32

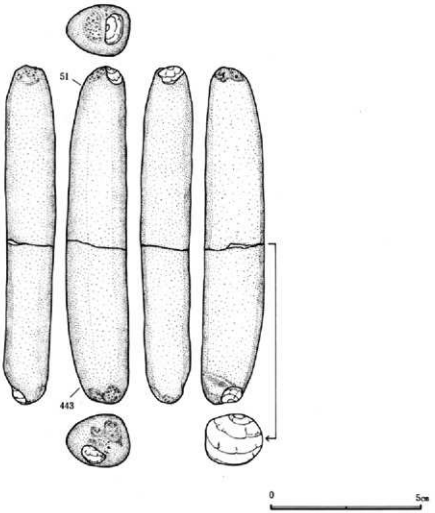
接合資料－36



0　5cm

第84図　接合資料－36

接合資料－23



第85図　接合資料－23

表13　旧石器計測表

ナイフ形石器計測表（第32～34図　ＰＬ４）

No.	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	ブロック	出土グリッド
56	チャ	202.77	2.2	1.4	0.45	1.2	6号	65区T-18
331	チャ	203.32	2.8	2.0	0.7	3.5	5号	66区B-17
305	チャ	203.74	2.5	1.2	0.4	1.0	10号	66区A-20
249	チャ	203.57	2.7	1.45	0.65	2.3	外	66区A-18
77	チャ	202.94	2.5	1.1	0.45	0.8	6号	65区T-18
205	チャ	203.38	2.9	2.0	0.7	2.1	4号	66区A-17
186	チャ	203.48	2.5	1.4	0.35	1.2	8号	65区T-20
380	黒安	203.56	3.8	1.9	0.5	3.6	5号	66区B-17
23	黒頁	203.06	3.45	1.5	0.55	2.2	8号	65区S-20
234	チャ	203.56	1.8	1.9	0.95	2.8	4号	66区A-18
216	チャ	203.31	1.8	1.2	0.3	0.8	4号	66区A-18
262	チャ	203.38	1.9	1.4	0.4	1.4	1号	66区A-19
353	チャ	203.43	2.3	1.4	0.5	1.2	5号	66区B-17
547	黒頁	203.86	3.8	1.65	0.5	3.0	10号	76区A-1
299	チャ	203.74	2.5	1.2	0.6	1.8	10号	66区A-20
53	硬泥	202.79	3.25	1.9	0.9	7.2	6号	65区T-18
223	チャ	203.27	2.6	2.2	0.7	4.4	4号	66区A-18
476	チャ	203.73	2.5	1.8	0.9	3.5	2号	66区C-17
213	チャ	203.39	2.3	1.0	0.4	0.8	4号	66区A-18
76	黒頁	203.01	4.3	2.6	0.6	6.0	6号	65区T-18
248	チャ	203.47	2.6	1.5	0.4	1.1	7号	66区A-18

ドリル計測表（第35、36図　ＰＬ５）

No.	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	ブロック	出土グリッド
367	チャ	203.44	1.7	1.4	0.25	0.5	5号	66区B-17
355	チャ	203.38	2.8	1.75	0.8	2.8	5号	66区B-17
21	チャ	202.41	2.3	1.3	0.4	1.1	6号	65区S-18
69	チャ	202.90	3.1	1.3	0.45	1.3	6号	65区T-18
222	チャ	203.29	2.8	1.2	0.7	2.0	4号	66区A-18
113	黒安	203.22	2.8	1.3	0.4	1.7	8号	65区T-19
309	硬頁	203.87	3.0	1.6	0.5	2.3	10号	66区A-20

スクレイパー計測表（第37、38図　ＰＬ５）

No.	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	ブロック	出土グリッド
13	黒安	202.42	4.8	4.9	1.8	26.5	6号	65区S-18
170	黒頁	203.29	7.0	5.9	1.9	69.0	8号	65区T-20
66	黒頁	202.81	5.3	7.2	2.3	77.0	6号	65区T-18

磨製石斧計測表（第39図　ＰＬ６）

No.	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	ブロック	出土グリッド
86	黒頁	203.11	2.4	3.7	0.7	6.4	7号	65区T-18

加工痕を有する剥片計測表（第40、41図　ＰＬ６）

No.	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	ブロック	出土グリッド
419	チャ	203.54	1.3	1.6	0.4	0.7	4号	66区B-18
281	黒安	203.47	4.1	2.0	0.9	4.5	8号	66区A-19
241	チャ	203.26	2.0	1.4	0.4	1.3	7号	66区A-18
395	チャ	203.33	3.3	1.9	1.6	5.9	外	66区B-17
303	チャ	203.75	2.5	2.5	0.65	3.5	10号	66区A-20
285	チャ	203.67	3.0	2.0	0.8	4.1	10号	66区A-20
265	チャ	203.36	2.9	2.35	1.0	5.6	7号	66区A-19
219	チャ	203.25	3.0	4.7	0.8	10.2	4号	66区A-18

使用痕を有する剥片計測表（第42～45図　ＰＬ６、７）

No.	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	ブロック	出土グリッド
471	チャ	203.97	2.1	3.0	1.2	6.8	9号	66区B-20
18	黒安	202.60	1.6	3.8	0.4	2.2	6号	66区S-18
217	黒頁	203.50	2.7	2.5	0.7	4.4	4号	66区A-18
8	黒頁	202.57	3.85	3.85	1.0	10.5	6号	66区S-18
481	硬頁	203.93	3.35	3.0	1.0	5.6	2号	66区C-17
432	貢岩	203.72	3.9	3.2	0.9	10.2	3号	66区B-18
264	チャ	203.45	4.4	3.1	1.2	17.2	7号	66区A-19
354	赤頁	203.42	4.5	2.9	1.3	14.5	5号	66区B-17
520	チャ	203.97	7.0	3.1	1.75	29.6	1号	66区D-17
286	珪頁	203.55	4.6	4.0	1.3	21.0	10号	66区A-20
260	黒頁	203.45	4.6	3.15	1.05	11.5	7号	66区A-19
157	黒頁	203.27	4.8	5.0	1.1	15.6	8号	65区T-19
421	黒頁	203.56	6.6	7.6	1.8	79.9	4号	66区B-18

石核計測表（第46～48図　ＰＬ８、９）

No.	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	ブロック	出土グリッド
208	チャ	203.38	2.7	3.0	1.9	10.2	4号	66区A-17
45	黒頁	202.84	2.5	1.9	1.7	9.2	6号	65区T-18
475	黒安	203.69	3.65	4.6	3.6	65.8	外	66区C-16
100	黒安	203.14	3.75	4.3	2.15	36.0	8号	65区T-19
426	黒頁	203.57	5.7	6.1	3.1	104.4	4号	66区B-18
424	黒頁	203.45	3.1	4.5	2.3	32.2	4号	66区B-18
246	チャ	203.37	3.7	5.0	3.2	55.3	7号	66区A-18

接合資料計測表

接合資料－１計測表（第49～51図　ＰＬ10～12）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
339	剥片	黒安	203.44	5.2	2.85	1.6	17.8	66区B-17
344	砕片	黒安	203.37	1.9	1.3	0.5	1.0	66区B-17
350	剥片	黒安	203.46	3.35	3.0	0.9	5.5	66区B-17
352	剥片	黒安	203.50	2.1	1.85	0.6	1.8	66区B-17
371	石核	黒安	203.53	5.3	3.75	3.5	14.3	66区B-17
376	剥片	黒安	203.53	5.0	4.15	1.6	32.6	66区B-17
377	剥片	黒安	203.47	1.9	1.4	0.85	1.8	66区B-17
383	剥片	黒安	203.46	1.55	0.95	0.5	2.1	66区B-17
384	剥片	黒安	203.59	2.6	1.45	0.7	2.4	66区B-17
388	剥片	黒安	203.60	2.5	2.3	0.7	3.0	66区B-17
389	剥片	黒安	203.43	2.4	2.3	0.5	1.9	66区B-17
399	剥片	黒安		2.3	1.6	0.45	2.0	66区B-17表

接合資料－３計測表（第52、53図　ＰＬ12、13）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
98	剥片	黒安	203.04	5.1	1.95	1.0	9.9	65区T-19
99	剥片	黒安	203.09	2.8	0.9	0.4	7.5	65区T-19
132	剥片	黒安	203.16	1.8	1.7	0.65	1.3	65区T-19
147	石核	黒安	203.11	5.15	4.1	2.8	52.2	65区T-19
151	剥片	黒安	203.03	4.8	3.5	1.1	19.3	65区T-19

接合資料－４計測表（第54図　ＰＬ14）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
507	剥片	黒安	204.11	2.2	2.0	0.8	3.4	66区D-17
523	剥片	黒安	204.18	1.4	1.4	0.85	0.8	66区D-17
531	剥片	黒安	204.10	3.4	2.05	1.1	5.2	66区D-17
539	剥片	黒安	204.15	3.25	2.3	0.75	5.0	66区D-18
540	剥片	黒安	204.17	4.0	2.2	0.6	5.5	66区D-18

接合資料－５計測表（第55、56図　ＰＬ15）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
10	剥片	黒安	202.48	5.2	3.8	1.65	28.2	65区S-18
227	石核	黒安	203.22	6.15	5.15	2.7	84.7	66区A-18
228	剥片	黒安	203.35	4.95	3.15	2.05	31.1	66区A-18
240	剥片	黒安	203.15	4.3	2.4	1.6	11.7	66区A-18

接合資料－６計測表（第57、58図　ＰＬ16、17）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
131	剥片	黒安	203.08	7.9	5.1	1.95	48.6	65区T-19
143	剥片	黒安	203.22	2.9	2.2	0.45	3.2	65区T-19
257	剥片	黒安	203.29	6.5	5.6	2.8	81.9	66区A-19
276	剥片	黒安	203.36	3.4	1.85	0.6	2.8	66区A-19

接合資料－９計測表（第59、60図　ＰＬ18）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
105	剥片	黒安	203.20	5.5	4.5	1.5	29.4	65区T-19
169	剥片	黒安	203.38	3.0	2.1	1.0	6.6	65区T-20
176	剥片	黒安	203.42	5.5	4.5	1.5	29.8	65区T-20

接合資料－10計測表（第61、62図　ＰＬ19）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
89	剥片	黒安	203.05	4.3	1.3	1.4	6.9	65区T-19
133	剥片	黒安	203.20	3.8	3.6	2.5	20.7	65区T-19
140	剥片	黒安	203.26	7.1	6.0	2.7	96.5	65区T-19

接合資料－11計測表（第63、64図　ＰＬ20）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
145	剥片	黒安	203.17	8.0	4.45	3.6	96.6	65区T-19
253	剥片	黒安	203.32	5.5	4.3	1.4	30.8	66区A-19
254	剥片	黒安	203.29	5.9	3.8	1.0	18.9	66区A-19

接合資料－15計測表（第64図　ＰＬ21）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
510	剥片	黒安	204.06	3.2	1.85	0.65	3.5	66区D-17
514	剥片	黒安	204.10	3.1	1.7	0.95	3.5	66区D-17
528	剥片	黒安	204.04	3.4	2.5	1.0	7.3	66区D-17

接合資料－17計測表（第65図　ＰＬ21）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
2	ナイフ	黒安	202.42	4.9	2.55	1.45	15.1	65区S-18
16	加剥	黒安	202.56	3.7	2.5	1.0	5.3	65区S-18

接合資料－18計測表（第65図　ＰＬ21）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
4	剥片	黒安	202.46	3.05	1.7	0.35	1.8	65区S-18
62	剥片	黒安	202.78	4.55	2.6	0.7	7.8	65区T-18

接合資料－19計測表（第65図　ＰＬ22）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
12	剥片	黒安	202.48	5.3	3.1	1.15	12.9	65区S-18
57	剥片	黒安	202.76	5.05	2.6	1.15	13.6	65区T-18

接合資料－20計測表（第66図　ＰＬ22）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
25	剥片	黒安	202.63	4.6	3.1	0.7	8.5	65区T-18
35	剥片	黒安	202.77	3.05	2.2	0.5	3.8	65区T-18

接合資料－21計測表（第66図　ＰＬ22）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
31	剥片	黒安	202.79	2.3	2.0	0.6	2.2	65区T-18
46	剥片	黒安	202.73	4.2	3.3	1.1	15.6	65区T-18

接合資料－25計測表（第67図　ＰＬ22）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
80	剥片	黒安	202.90	5.4	2.45	1.6	26.1	65区T-18
238	剥片	黒安	203.11	5.2	3.2	1.55	22.7	66区A-18

接合資料－28計測表（第67図　ＰＬ23）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
108	剥片	黒安	203.13	4.3	2.4	2.1	16.0	65区T-19
184	剥片	黒安	203.47	3.1	2.6	0.75	5.9	65区T-20

接合資料－30計測表（第68、69図　ＰＬ23、24）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
121	石核	黒安	203.24	6.95	5.7	2.4	93.0	65区T-19
162	剥片	黒安	203.17	7.4	5.3	2.0	66.7	65区T-20

接合資料－31計測表（第70図　ＰＬ24）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
124	剥片	黒安	203.20	4.4	3.8	0.95	15.2	65区T-19
284	剥片	黒安	203.50	4.7	3.5	1.15	14.7	66区A-20

接合資料－35計測表（第70図　ＰＬ25）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
224	剥片	黒安	203.27	3.35	2.05	0.5	2.2	66区A-18
347	剥片	黒安	203.37	2.6	1.8	0.65	2.1	66区B-17

接合資料－37計測表（第71図　ＰＬ25）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
293	剥片	黒安	203.70	6.75	4.4	2.1	58.6	66区A-20
298	剥片	黒安	203.66	5.1	2.0	2.0	22.1	66区A-20

接合資料－39計測表（第72図　ＰＬ25）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
369	剥片	黒安	203.54	3.4	2.4	0.8	4.5	66区B-17
372	剥片	黒安	203.50	2.85	1.8	0.65	3.3	66区B-17

接合資料－41計測表（第72図　ＰＬ26）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
437	剥片	黒安	203.78	4.6	2.7	0.8	9.4	66区B-18
438	剥片	黒安	203.80	4.1	3.1	0.75	9.5	66区B-18

接合資料－45計測表（第73図　ＰＬ26）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
410	剥片	黒安	203.48	5.3	2.75	1.25	15.0	66区B-18
490	剥片	黒安	203.98	4.25	2.9	1.0	8.9	66区C-18

接合資料－46計測表（第73図　ＰＬ26）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
521	剥片	黒安	204.23	2.3	1.75	0.95	2.7	66区D-17
525	剥片	黒安	204.06	2.4	1.15	0.95	3.2	66区D-17

接合資料－47計測表（第73図　ＰＬ26）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
429	砕片	黒安	203.63	1.4	1.2	0.6	0.6	66区B-18
433	砕片	黒安	203.63	1.5	1.35	0.6	0.6	66区B-18

接合資料－２計測表（第74、75図　ＰＬ27、28）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
326	剥片	チャ	203.34	2.7	1.5	0.3	2.0	66区B-17
333	加剥	チャ	203.34	3.0	1.6	0.85	3.0	66区B-17
334	剥片	チャ	203.21	1.5	1.1	0.65	1.0	66区B-17
335	剥片	チャ	203.43	3.0	1.3	0.65	3.1	66区B-17
336	ナイフ	チャ	203.29	2.7	1.5	0.4	1.6	66区B-17
343	剥片	チャ	203.38	1.9	0.7	0.45	2.4	66区B-17
345	剥片	チャ	203.37	2.8	1.3	0.7	0.7	66区B-17
346	剥片	チャ	203.45	2.9	1.7	1.05	3.9	66区B-17
379	砕片	チャ	203.25	1.1	0.85	0.45	0.2	66区B-17
397	砕片	チャ		1.5	0.75	0.4	0.4	66区B-17表
428	石核	チャ	203.63	4.5	3.6	2.8	25.9	66区B-18

接合資料－８計測表（第76図　ＰＬ28）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
1	砕片	チャ	202.41	1.8	1.05	0.6	0.9	65区S-18
65	砕片	チャ	202.80	1.3	0.7	0.45	0.3	65区T-18
68	剥片	チャ	202.77	2.7	2.6	0.7	3.3	65区T-18

接合資料－13計測表（第76図　ＰＬ28）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
459	使剥	チャ	203.84	2.1	1.35	0.65	1.5	66区B-18
487	剥片	チャ	203.90	2.0	0.9	0.35	0.9	66区C-18
545	加剥	チャ	202.45	3.3	2.75	0.8	6.8	75区R-1

接合資料－22計測表（第77図　ＰＬ29）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
44	剥片	チャ	202.74	3.0	2.0	0.75	3.3	65区T-18
472	剥片	チャ	203.39	2.6	1.4	0.6	2.2	66区B-20

接合資料－26計測表（第77図　ＰＬ29）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
81	剥片	チャ	202.97	2.95	1.7	1.1	5.3	65区T-18
193	石核	チャ	203.27	3.5	2.6	2.05	14.4	66区A-17

接合資料－29計測表（第77図　ＰＬ29）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
117	剥片	チャ	203.37	2.7	2.5	1.0	4.8	65区T-19
280	使剥	チャ	203.50	4.0	2.95	1.0	9.2	66区A-19

接合資料－33計測表（第78図　ＰＬ29）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
211	剥片	チャ	203.17	3.1	2.3	0.75	5.8	66区A-17
221	剥片	チャ	203.23	5.7	3.7	1.6	28.5	66区A-18

接合資料－34計測表（第78図　ＰＬ30）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
214	石核	チャ	203.39	2.4	1.65	1.15	2.4	66区A-18
409	剥片	チャ	203.51	2.5	2.1	1.1	4.0	66区B-18

接合資料－38計測表（第79図　ＰＬ30）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
351	剥片	チャ	203.36	2.1	1.0	0.5	0.7	66区B-17
365	剥片	チャ	203.33	2.8	1.4	0.55	1.7	66区B-17

接合資料－43計測表（第79図　ＰＬ30）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
466	剥片	チャ	203.77	2.35	1.3	0.4	1.5	66区B-19
468	剥片	チャ	203.82	2.5	1.8	0.4	0.9	66区B-19

接合資料－44計測表（第79図　ＰＬ30）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
482	剥片	チャ	203.91	4.5	3.0	1.6	14.4	66区C-17
485	剥片	チャ	203.64	2.5	1.0	0.6	1.4	66区C-17

接合資料－14計測表（第80図　ＰＬ31）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
497	剥片	黒頁	204.13	4.55	3.6	1.1	16.5	66区D-16
513	剥片	黒頁	204.11	3.85	2.5	0.9	7.6	66区D-17
533	剥片	黒頁	204.11	2.7	1.45	0.75	2.5	66区D-17

接合資料－16計測表（第81図　ＰＬ31、32）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
512	剥片	黒頁	204.15	5.1	2.85	1.05	13.8	66区D-17
529	剥片	黒頁	204.14	5.0	3.15	1.1	17.6	66区D-17
532	剥片	黒頁	204.01	3.4	1.8	1.1	4.8	66区D-17

接合資料－40計測表（第82図　ＰＬ32）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
413	剥片	黒頁	203.48	5.4	3.3	1.6	42.1	66区B-18
420	剥片	黒頁	203.46	4.3	2.3	0.8	7.3	66区B-18

接合資料－42計測表（第82図　ＰＬ32）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
444	剥片	黒頁	203.72	3.2	2.7	1.5	11.7	66区B-18
445	剥片	黒頁	203.74	3.5	2.8	1.5	11.1	66区B-18

接合資料－32計測表（第83図　ＰＬ33）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
194	剥片	頁岩	203.25	3.5	1.9	0.7	3.3	66区A-17
425	剥片	頁岩	203.54	5.4	2.8	1.6	21.1	66区B-18

接合資料－36計測表（第84図　ＰＬ33）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
269	剥片	頁岩	203.50	4.75	4.3	1.4	24.8	66区A-19
271	剥片	頁岩	203.57	6.6	4.05	1.4	50.9	66区A-19

接合資料－23計測表（第85図　ＰＬ33）

No.	器種	石材	出土標高	最大長	最大幅	厚さ	重量	出土グリッド
51	敲石	砂岩	202.66	5.1	2.0	1.7	29.2	65区T-18
443	敲石	砂岩	203.34	5.6	2.1	1.7	25.5	66区B-18

第２節　縄文時代

１　遺構、遺物の概要

遺構　三ツ子沢中遺跡で検出された縄文時代の遺構の総数は、住居20軒、土坑158基（うち埋甕土坑６基を含む）である。それ以外には集石、ピットが検出されている。これら遺構の時期を見てみると、前期前半の関山式期から後期前半の堀之内式期にわたっている。それぞれの遺構の概要は以下の通りである。

(1)住居　住居の時期別の内訳は以下の通りである。関山式期５軒、黒浜式期（有尾式期を含む）２軒、前期末～中期初頭２軒、勝坂式期１軒、加曽利Ｅ３式期２軒、加曽利Ｅ４式期５軒、称名寺Ⅱ式期１軒、堀之内式期１軒、縄文時代の住居であるが遺物からは時期の決定ができないもの１軒である。関山式、勝坂式、堀之内式に関してはそれぞれ、２～３期に細分することが一般的であるが、今回はあえて細分を行わなかった。各住居出土の資料を参考にしていただきたい。また、前期末～中期初頭とし、型式名をあたえなかった時期については、関東地方における編年によると前期最終末の十三菩提式、あるいは中期初頭の五領ヶ台式に相当すると思われるが、関根慎二氏のご教示によると、この型式の土器は十三菩提式、五領ヶ台式のどちらにも属する要素を持ち、明確に時期区分ができない型式であるため、これから研究が必要であるとのことであった。従って本書においては該期の土器は型式名を記載せず前期末～中期初頭としている。以上のように三ツ子沢中遺跡における住居は多時期にわたって構成されている。今回の発掘では集落全体を調査できた訳ではないため、さらなる広がりを持つ可能性はあるが、同時期に併存していた住居の軒数はそれほど多くなく、拠点的な集落とは言えないのではないだろうか。しかし、長期にわたって集落が営まれていたことからすると、生活を営むうえでは適していた地域と考えられる。

次に住居の分布を概観すると、はっきりとした規則性を看取することはできない。あえて述べるならば66区Ｋ-17グリッド付近を中心とする台地頂部の平坦部に占地する住居がやや少ない傾向がうかがえる程度である。この事例も検出された住居の軒数が少ないためはっきりした傾向とするには至らないと言えよう。

住居の形態については、大きく分類すると次の３つのタイプに分類することができる。①隅丸長方形、②円形、③柄鏡形、である。①の隅丸長方形は、前期前半期（関山式期から黒浜式期）の住居が中心である。細かく見ると17号、20号、27号、47号の各住居は短辺の１辺がやや長く、僅かに台形様を呈している。22号と48号住居は同様に前期前半に属すると思われる住居であるが、平面形は円形を呈している。どちらも削平を受けており住居壁の残存が良好でなく、遺物の出土も多くなかったため、プランの確認は困難であった。そのため丹念に調査を行ったのだが、住居プランの誤認の可能性も否定できない。また、30号住居は逆に、隅丸方形のプランを呈するが、時期的には加曽利Ｅ３式期に属すると思われる。本住居も後世の削平のため残存が良好でなく、プランの確認が困難であった。当初、このプランが得られた時点ではその形状からカマドを持つ古代の住居とも思われたが、カマドを検出できず、また僅かに出土した土器も縄文時代中期のものであったため、縄文時代中期に比定した。したがって、当該期の例外的な形状と考えられるが、プラン誤認、あるいは時期誤認の可能性を捨てきれない住居である。②の円形の住居は20軒中11軒を占める。ただし、３号、36号住居は調査区外にかかっているため、全体を調査できず、且つまた敷石住居であるため、③の柄鏡形に分類されるかもしれない。③の柄鏡形の住居は３軒が検出された。いずれも敷石住居である。３軒のうち16号住居は称名寺Ⅱ式期、18号住居は加曽利Ｅ４式期、45号住居は堀之内式期に属する。16号住居は敷石の残存も比較的良好で、柄部全面と主体部の多くの部分で敷石が検出できた。45号住居は地山と埋没土が近似していたためプランの確認が困難であった。住居主体部の壁際に小礫が巡るタイプの敷石

住居であったため、その小礫を基準にしてプランを推定したが、柄部に関しては若干疑問が残る。敷石住居という点では、３号、36号住居が該当する。前に述べたようにいずれの住居も半分近くが調査区外にあたるため、全体の調査ができなかった。３号住居では主体部の一部にのみ敷石を確認したが、36号住居では調査範囲のすべてに石が敷き詰められた状況であった。時期はどちらも加曽利Ｅ４式期に属すると思われる。

住居からの遺物出土状態は、概してあまり多くない。特に住居からは完形品の出土が無く、ほとんどが破片での出土であった。これは、後世の削平が多く、住居の残存そのものがあまり良好でなかったことも大きな要因と思われる。中での18号住居は中期末の敷石住居であり、炭化材が出土していることから焼失住居と思われるが、遺物の出土状態から考えると生活を営んでいた中での火災ではなく、住居の廃絶後に火災に遭ったものと考えられる。

(2)土坑　土坑の時期別内訳は遺物の出土が少ないものが多く、細かな時期区分をしなかったものが多い。遺物によって判別できたものもあるので、個々の時期は土坑計測表（表14）を参考にしていただきたい。大まかな時期別内訳は以下の通りである。前期前半（関山式期～黒浜式期）33基、前期末から中期初頭４基、中期中葉（勝坂式期）６基、中期後半から中期末（加曽利Ｅ３式期～加曽利Ｅ４式期）50基、後期初頭～後期前半（称名寺式期～堀之内式期）19基、縄文時代の所産と思われるが遺物の出土がなく、堆没土からも時期の決定ができなかったもの46基、である。この中には本書では埋甕土坑としてあつかった６基の土坑も含まれている。調査時には全て土坑として扱ったため、一連の土坑番号を付しており、整理時においても新たな番号を付けず、これを踏襲している。したがって以下の分類においても、埋甕土坑を含んだ数字になっている。埋甕土坑の概要については土坑の後に記する。

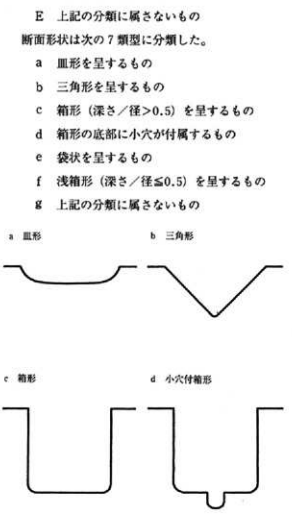
土坑の平面的な分布を見てみると、66区のＪラインからＯラインにかけての東西25ｍ、14ラインから20ラインにかけての南北30ｍの範囲にはやや分布が少ない傾向が見られる。この範囲は本遺跡が立地する舌状台地の頂部付近にあたり、狭い平坦部になっている。この周囲で、地形が傾斜面へ変換する地域に土坑が分布する傾向が見られる。また、調査区の北辺部西寄りの76区Ｐ-1グリッド付近には中期後半に属し、今回調査された中では遺物の出土が多い土坑が集中している。

次に土坑の形状を分類するにあたり、平面形状は次の５類型に分類した。この分類は「白倉下原・天引向原遺跡Ⅱ」（木村1994）を参考にした。

Ａ　円形　（長径／短径<1.2）を呈するもの
Ｂ　楕円形（長径／短径≧1.2）を呈するもの
Ｃ　隅丸長方形を呈するもの
Ｄ　隅丸方形を呈するもの
Ｅ　上記の分類に属さないもの

断面形状は次の７類型に分類した。

ａ　皿形を呈するもの
ｂ　三角形を呈するもの
ｃ　箱形（深さ／径>0.5）を呈するもの
ｄ　箱形の底部に小穴が付属するもの
ｅ　袋状を呈するもの
ｆ　浅箱形（深さ／径≦0.5）を呈するもの
ｇ　上記の分類に属さないもの



e　袋状　　f　浅箱形

個々の形状については土坑計測表に記載してあるのでそちらを参照していただきたい。これらの平面形状と断面形状を組み合わせると35通りの類型が存在することになるが、調査の結果、Cb・Ce・Cf・Cg・Da・Dd・De・Dg・Edの９類型は検出されなかった。類型の組み合わせ、及び時期別の内訳については次ページ以降の表14を参照していただきたい。

前に述べたように土坑には埋甕土坑を含んでいる。埋甕土坑６基の時期別の内訳は、加曽利Ｅ３式２基、加曽利Ｅ４式３基、称名寺Ⅱ式１基である。埋甕の分布については、数が少ないため特徴を見いだすには至らないが、土坑墓の可能性が高いと見られる113号、115号、153号土坑が比較的近い範囲で検出されている。土器の遺存状態を見てみると完形の出土はなく、いずれも口縁、底部あるいは両方を欠いている。削平によって破壊されたとするよりは、意図的に欠いた状態で設置したと思われるものがほとんどである。その中で、２号土坑は埋甕を横位に設置しており、他とは異なった設置方法である。また、この土坑だけが、下位に坑を持ち、埋甕を設置するためだけに掘られたと思われる他の土坑と異なっている。こうした点からすると、２号土坑は同列に埋甕土坑として扱うには若干疑問もあるが、土坑上層に意図を持って土器を設置したと思われる点から、埋甕土坑に含んで扱うこととした。

土坑出土の遺物については、埋甕土坑をのぞくと、住居と同様に、完形の出土は少なく、５号土坑出土の小型深鉢１点のみである。土坑の分布の項でも触れたように、遺物の出土の多い土坑が集中する傾向がみられるが、これらはいずれも土器を廃棄した土坑であると思われる。これは、これらの遺物出土の多い土坑の遺物出土状況がほとんど破片での出土で、埋没土の、ある層位からまとまって出土している例が多いことからうかがえる。また、遺物の出土のある土坑を時期別にみると、遺物の出土の多い土坑は、本遺跡の遺構の中心をなす中期後半から後期初頭期に属するものが多く、他時期の土坑からは遺物の出土が少ない傾向が見られた。

遺物　今回の報告で扱う縄文時代の遺物は土器34,398点、石器類4,921点である。遺物の内訳は住居出土土器3,959点、石器類1,109点、土坑出土土器2,410点、石器類387点、遺構外出土土器28,029点、石器類3,425点である。住居出土の遺物に関してはそれぞれの住居の記載の中でふれているので、そちらを参照していただきたい。

遺構外出土の土器の分布を図86～88に示した。調査時の遺物の取上げ方に差があり、時期の細分を行っていないが、遺構の密度と同様の傾向を示すことがうかがえる。したがって厳密には包含層からの出土ではなく、本来そのグリッドに占地する遺構に属するべき遺物が多い可能性は高い。ただし、本遺跡は細い尾根上に立地しているため、東に向かって傾斜がきつくなっており、それにつれて包含層が厚くなっているので、各時期とも遺物の出土が多くなる傾向が見られる。ただし旧マルバシ区は削平が進んでいるためこれにあてはまらない。

また、遺構外から、早期初頭の撚糸文土器と押型文土器が出土している。いずれも65区Ｎ-19グリッドを中心とした範囲から出土しているが、現場での遺構確認の段階ではこれらの土器の出土を確認しておらず、水洗作業中に気づいたため、その後当該時期の遺構検出を試みたが確認にはいたらなかった。

石器についても土器と同じような出土傾向を示す。遺構外の石器については積極的に図化に努めた。定型的な石器に関してはほぼすべてを図示している。

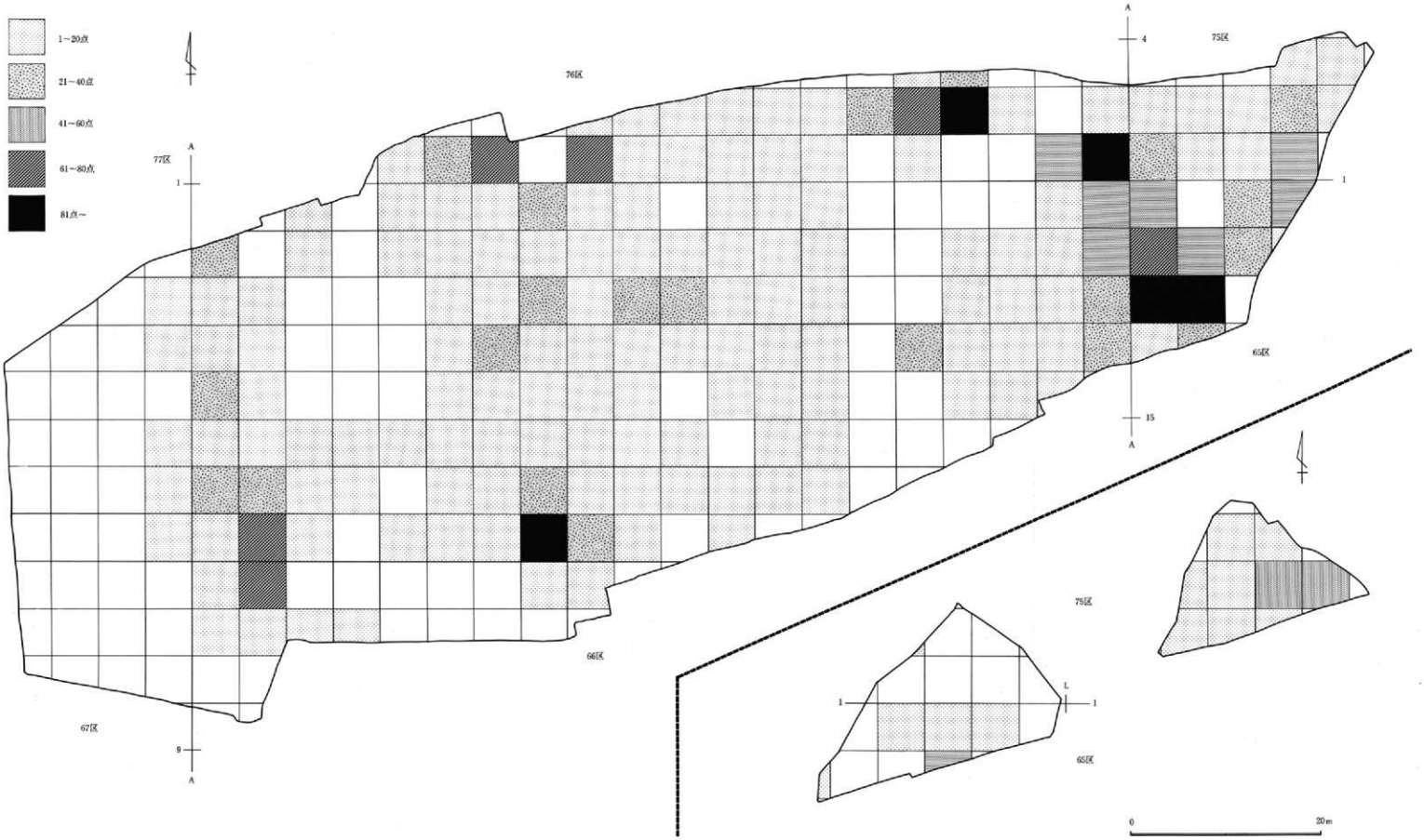
表14　縄文時代土坑一覧表（単位はcm、点）

土坑No.	区	グリッド	時　期	図	ＰＬ	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	土器片	石器類	重複・備考
1	66	Q-20	縄文	177	68	82	68	18	B	f			
2	66	R-19	加曽利Ｅ４式	167	66	111	105	77	A	c	80	4	堀棲土坑
3	66	S-19	加曽利Ｅ４式	177	68	186	166	126	A	c	40		イモ穴
5	66	S-18	堀之内１式	173	68	214	186	80	A	f	140	12	
6	66	T-18	称名寺Ⅱ式	177	68	178	162	144	A	c	30	8	イモ穴
7	66	T-15	加曽利Ｅ４式	167	66	79	65	20	B	a	4		堀棲土坑
9	66	S-16	縄文	177	68	70	55	16	A	b			
10	66	S-16	称名寺Ⅰ式	177	68	54	48	34	A	d	13		
11	66	T-16	称名寺Ⅱ式	173	68-69	160	156	82	A	f	19	5	12号土坑より新
12	66	T-16	中期末～後期初頭	178	68-69	96	68	23	B	a	25	1	11号土坑より旧
13	66	T-13	縄文	178	69	46	44	32	A	c			
14	66	T-13	縄文	178	69	28	26	32	A	c			
15	66	S-15	縄文	178	-	96	86	25	A	f			
16	66	S-12	加曽利Ｅ４式	178	69	236	215	38	A	f	48	5	19号土坑より旧？
17	66	T-17	加曽利Ｅ４式	178	69	124	116	70	A	c	44	7	
18	66	T-19	縄文	178	69	62	55	74	A	c			
19	66	S-12	縄文	178	69	82	70	30	A	a			16号土坑より新？
21	67	A-13	縄文	179	69	152	112	52	B	c			
22	67	B-12	縄文	179	69	78	56	36	B	c			23号土坑より新？
23	67	B-12	縄文	179	69-70	28	22	32	B	b			22号土坑より旧？
24	67	A-14	縄文	179	70	54	44	26	B	b			
27	66	O-17	前期か	179	70	108	96	44	A	c	4		
28	66	O-17	黒浜式か	179	70	168	166	46	A	b	1	1	
29	66	O-16	有尾式か	179	70	116	110	24	A	a			
30	65	P-18	勝坂式	179	70	168	150	64	A	c	45	1	
31	65	P-15	後期前半	180	70	116	102	68	A	c	9		
32	66	P-15	加曽利Ｅ３式	180	70	94	94	58	A	c	1		
33	66	Q-14	縄文	180	71	102	44	18	B	a			
34	66	Q-14	称名寺式	180	71	110	110	56	A	c	14	2	
35	65	P-15	中期末～後期初頭	180	71	94	74	54	E	c	6		
36	65	P-17	中期か	180	71	114	94	14	A	a	2		
37	66	O-18	勝坂式か	180	71	78	70	40	D	b	2		
38	76	I-1	後期か	180	71	102	62	24	B	f	3	1	
39	76	H-2	称名寺式	180	71	122	104	30	A	f	7	2	
40	66	L-18	縄文	181	71	72	70	40	A	c			12号住居より旧
41	66	H-14	中期後半	181	72	98	92	21	A	f	2	6	
42	66	H-15	関山Ⅰ式か	181	72	106	94	34	A	f	1	2	
43	65	H-16	縄文	181	72	115	80	36	B	b		1	
44	65	H-16	中期後半	181	72	68	64	30	A	f			
45	66	H-18	縄文	181	72	96	68	30	B	c			
46	66	H-19	縄文	181	72	88	62	28	B	c			
47	66	H-19	中期後半	181	72	174	156	80	A	c	33	4	
50	66	H-19	中期末	181	72	56	42	24	D	c			
52	66	H-20	中期後半	181	73	142	126	42	A	a	23	1	イモ穴
53	76	H-1	縄文	182	73	110	100	24	A	f			
54	76	H-1	中期後半	182	73	240	142	34	E	a	1		
55	76	I-2	縄文	182	73	70	54	36	B	b			
56	76	I-2	縄文	182	73	72	54	44	B	b			

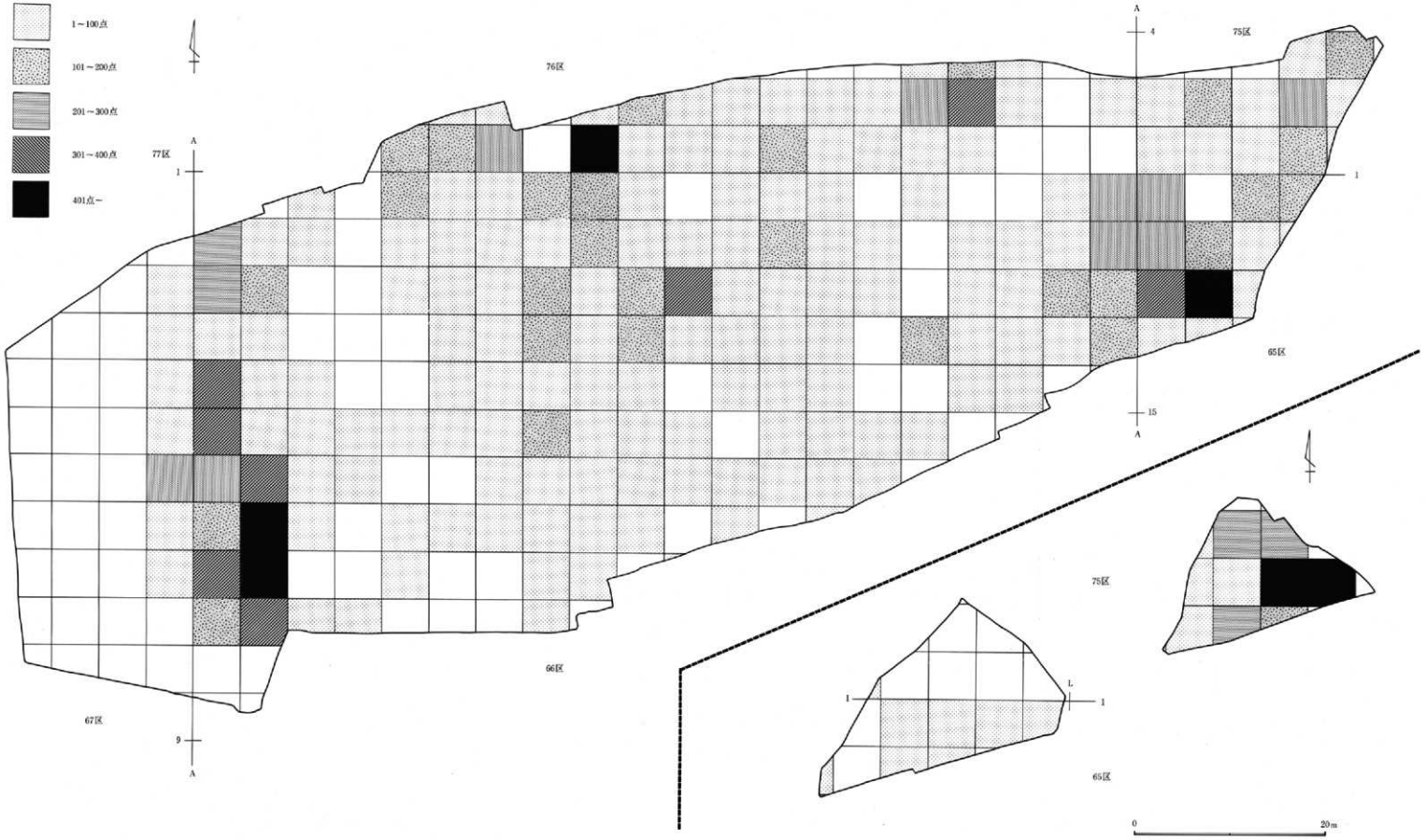
土坑No.	区	グリッド	時　　期	図	ＰＬ	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	土器片	石器類	重複・備考
57	76	Ｉ-2	縄文	182	73	86	56	68	B	b			
58	76	Ｉ-1	中期後半	182	73	74	66	32	A	g	4		
60	66	Ｈ-18	縄文中期か	182	74	112	90	46	E	b	1	1	
61	66	Ｉ-17	縄文	182	74	100	70	46	B	g			
62	66	Ｉ-16	中期後半	182	74	70	46	52	B	c	3	2	
63	66	Ｉ-14	前期か	182	74	152	112	50	B	g	2	3	
65	66	Ｊ-17	縄文	183	74	102	102	58	A	c			
66	66	Ｊ-19	前期か	183	74	60	42	32	B	b			
68	76	Ｊ-1	縄文	183	74	90	76	18	A	a			
69	76	Ｊ-1	縄文	183	74	86	70	33	B	g			
70	76	Ｊ-2	中期か	183	75	50	50	40	A	c			
71	76	Ｊ-2	中期か	183	75	58	54	38	A	c			
73	66	Ｊ-14	縄文	183	75	86	82	12	A	a			
74	66	Ｋ-13	関山式	183	75	138	128	74	E	e	11		
75	76	Ｋ-1	中期か	173	75	152	124	18	B	a	2		
76	76	Ｌ-1	中期か	183	75	130	100	26	B	a			
77	76	Ｌ-1	中期か	183	75	220	144	34	B	a	3	5	攪乱
78	76	Ｌ-1	中期	184	75	126	114	34	A	b	4		
79	76	Ｍ-1	前期か	184	76	90	60	26	B	f	4		7号住居より旧
80	76	Ｎ-1	前期か	184	76	206	184	24	A	a	11	5	
81	66	Ｎ-20	中期	184	76	100	80	34	B	c	10	1	
82	66	Ｎ-20	縄文	184	76	94	64	40	B	c		2	
83	76	Ｏ-1	縄文	184	76	64	54	32	A	c			
84	76	Ｏ-1	縄文	184	76	60	46	26	B	b			
85	66	Ｏ-20	中期末	184	76	128	84	38	B	c	2	2	
86	66	Ｏ-19	前期末～中期初頭	184	76	110	104	40	A	f	4	14	
87	66	Ｋ-18	前期前半	185	77	126	122	32	A	f	6	12	11号住居床下土坑より旧
88	66	Ｋ-17	中期末	185	77	136	128	68	A	c	79	5	
89	66	Ｌ-20	前期前半か	185	77	120	116	58	A	c	8	3	
90	66	Ｎ-20	前期末～中期初頭	185	77	174	172	116	A	e	96	20	
91	66	Ｐ-20	中期後半	185	77	96	90	80	A	c	8		92号土坑より旧
92	66	Ｏ-20	中期末	185	77	146	120	64	E	g	49	4	91号土坑より新
93	66	Ｐ-19	中期末～後期初頭	186	77	164	116	54	C	c	89	2	
94	66	Ｎ-18	前期か	186	77	108	82	26	B	f	1	2	
95	66	Ｎ-17	前期か	186	77	56	52	40	A	c			
96	66	Ｌ-18	前期か	186	78	88	60	42	B	b			12号住居より旧
97	66	Ｋ-15	縄文	186	78	126	90	46	B	g			
98	66	Ｋ-15	前期か	186	78	122	110	34	A	g	4	2	
99	66	Ｌ-15	縄文	186	78	294	278	54	D	f			
100	66	Ｍ-14	縄文	186	78	164	130	16	B	a		6	
101	66	Ｍ-15	後期以降	187	78	130	90	42	B	g			16号住居より新
102	66	Ｆ-16	中期	187	78	166	160	56	A	f	21	7	
103	66	Ｅ-16	中期か	187	78	136	112	26	A	b	1	1	攪乱
104	66	Ｐ-12	後期	173	79	168	150	72	A	f	35	5	
105	66	Ｐ-12	前期前半	174	79	114	65	102	C	c	2	2	
106	76	Ｋ-2	後期初頭	187	79	112	96	78	B	e	46	2	
107	66	Ｐ-20	加曽利Ｅ４式	174	79	100	83	80	B	e	81	15	水道管
108	66	Ｐ-20	加曽利Ｅ４式	174	79	126	112	145	A	e	75	10	水道管
109	76	Ｏ-1	中期	187	79	80	70	40	A	c	6		

土坑No.	区	グリッド	時　期	図	ＰＬ	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	土器片	石器類	重複・備考
110	66	F-15	前期前半	187	79	100	90	48	A	e			
111	66	N-18	前期か	187	80	125	110	85	E	c	2	1	18号住居より旧
113	66	F-20	中期後半	188	66	84	72	36	E	f	1		埋甕土坑
114	66	F-14	前期前半	188	80	130	110	35	A	f	5	1	
115	66	G-20	前期前半か	188	80	95	78	36	B	f			イモ穴
116	66	F-19	加曽利Ｅ４式	188	67	66	45	38	B	c	35		埋甕土坑
117	66	D-18	縄文	188	-	96	90	10	A	a			
118	66	F-20	後期前半	188	80	103	90	40	A	c	29		
119	66	G-19	勝坂式	188	80	155	135	50	D	f	37	6	
121	66	P-18	中期後半～末	188	80	88	53	31	E	g	14		群馬用水
122	66	P-18	中期後半	188	80	238	140	65	B	a	7	2	群馬用水・123号土坑より新
123	66	P-19	中期後半	188	80	155	145	56	A	f	38	4	122号土坑より旧
124	66	Q-18	前期か	189	81	137	85	60	B	g	15	1	水道管・群馬用水
125	66	P-20	中期	189	81	95	40	50	B	c	32	6	群馬用水
126	66	Q-15	中期	174	81	188	176	70	A	d	36	2	
127	66	Q-16	勝坂式	189	81	164	140	85	D	c	12		群馬用水
129	66	Q-18	前期	189	81	105	98	30	A	a	3	1	
130	66	Q-14	中期末	189	81	74	66	53	A	c	11		トレンチ
131	66	Q-14	後期前半か	189	81	40	25	35	A	c	1		トレンチ
132	66	M-16	縄文	189	81	75	60	38	E	c			
133	66	M-15	前期	189	81	70	68	54	A	b	1		
134	66	M-18	縄文	189	82	127	90	39	E	g			
135	66	R-14	後期か	190	-	50	30	47	B	c			136号土坑より新
136	66	R-14	後期初頭	190	82	175	170	50	A	f	18	1	135号土坑より旧
137	76	P-1	有尾式	190	82	118	87	61	A	c	10		群馬用水・140号土坑より旧
138	66	P-20	加曽利Ｅ４式	190	82	105	90	98	B	e	17	8	群馬用水・139号土坑より新
139	66	P-20	加曽利Ｅ４式	175	82	118	90	40	D	f	19	12	群馬用水・138号土坑より旧
140	76	P-1	加曽利Ｅ４式	190	82	145	136	96	A	c	152	10	137号土坑より新
141	76	P-1	縄文	190	82	103	52	25	B	c			群馬用水・145号土坑より新
142	76	P-1	縄文	190	83	50	30	43	A	g			群馬用水
143	76	P-1	加曽利Ｅ４式	191	83	160	128	90	E	c	65	2	群馬用水・145号土坑より新
144	76	P-1	縄文	191	83	70	47	40	B	c			
145	76	P-1	加曽利Ｅ３式	191	83	144	130	47	A	f	18	4	141・143号土坑より旧
146	76	O-1	中期末	175	83	130	113	111	A	c	123	8	
147	66	Q-19	中期か	191	83	90	80	23	A	a	3	1	
148	76	O-1	中期後半	191	83	74	66	20	A	f	4		
149	76	O-2	中期	191	83	57	54	28	A	g	1		
150	76	P-1	前期末～中期初頭	191	84	210	85	46	B	f	13	3	町道
151	66	Q-20	中期	191	84	247	162	37	A	f	7	1	32号住居より旧
153	76	E-1	中期後半	169	67	76	30	30	B	f	5		埋甕土坑
154	66	S-9	縄文	192	84	150	60	25	A	f		1	
159	76	G-2	前期前半	192	84	139	130	45	A	f	6	4	
162	65	M-20	前期か	192	84	70	35	38	A	c	12		
164	76	F-2	中期後半か	192	84	132	98	28	B	a		1	
165	76	F-2	前期か	192	84	126	126	36	E	f	1	1	
166	76	F-2	前期前半	175	84	200	165	157	B	d	16	8	
167	75	N-1	前期前半	176	85	150	90	96	C	d	4	1	
171	76	B-2	後期初頭	192	85	142	141	38	A	f	32	3	
173	76	A-1	縄文	192	85	90	80	32	B	g			

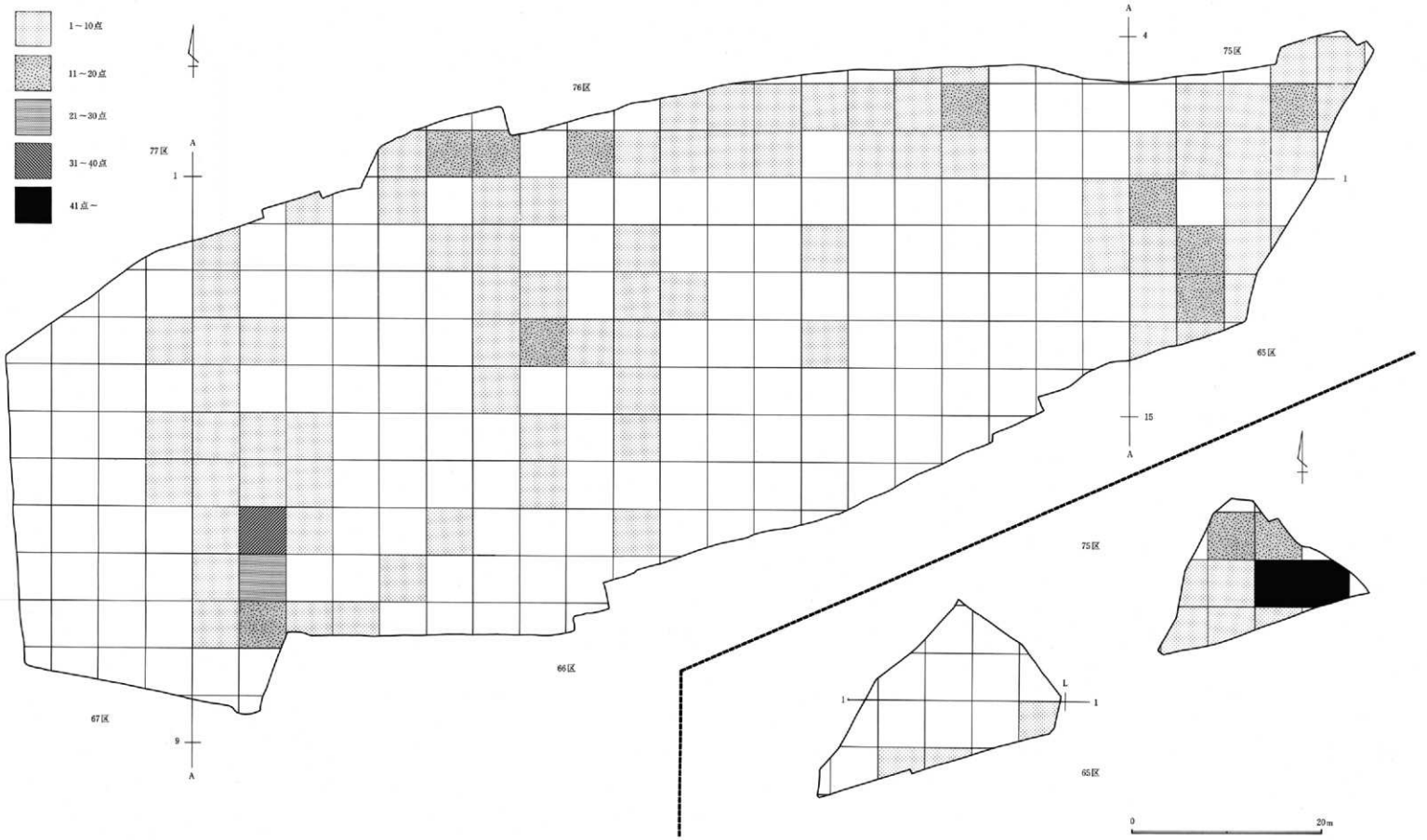
土坑No.	区	グリッド	時　期	図	ＰＬ	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	土器片	石器類	重複・備考
175	76	A-1	称名寺Ⅱ式	169	67	40	36	20	A	f	25		埋甕土坑
178	65	T-20	前期前半	192	85	100	96	17	A	f	18	1	
181	65	T-20	前期	193	85	105	85	20	B	a	4	3	
185	66	A-17	縄文	193	85	94	70	14	D	f			
187	66	C-18	縄文	193	85	80	74	20	A	a			
189	65	T-17	前期か	176	86	168	104	120	C	d	2		
191	65	S-19	縄文	193	86	117	115	24	A	a			
192	65	S-18	前期か	193	86	76	52	37	E	g			
193	75	T-1	縄文	193	86	110	83	14	E	f			
194	76	B-1	縄文	193	86	68	58	15	E	g			
195	75	Q-3	縄文	193	86	120	118	25	A	f			
196	65	T-19	縄文	193	86	110	75	10	C	a			



第86図　遺構外土器出土状況（前期）

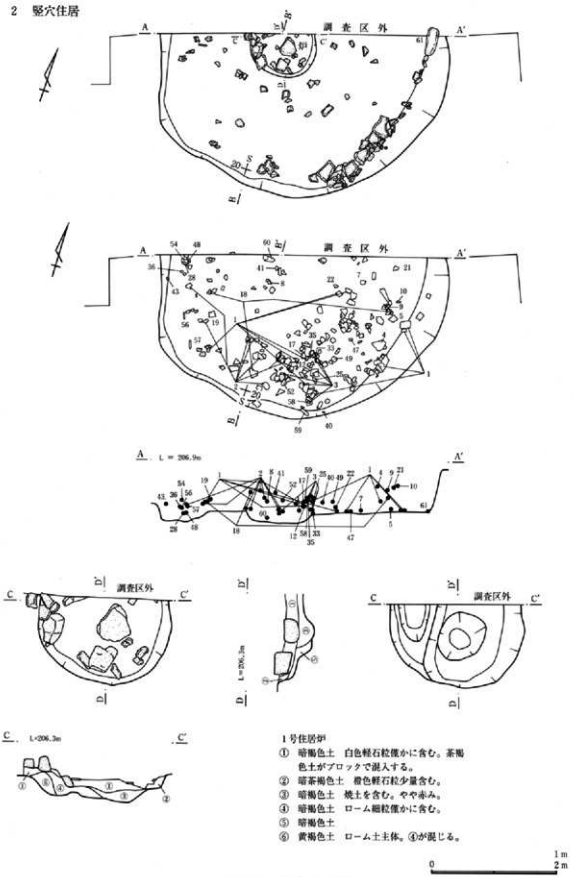


第87図　遺構外土器出土状況（中期）

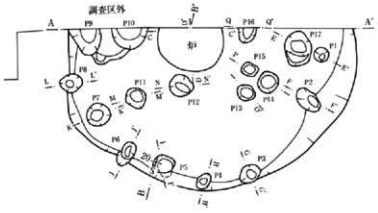


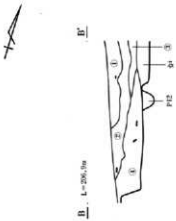
第88図　遺構外土器出土状況（後期）

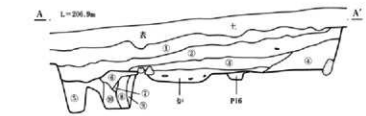
2　竪穴住居

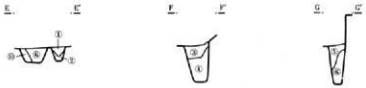


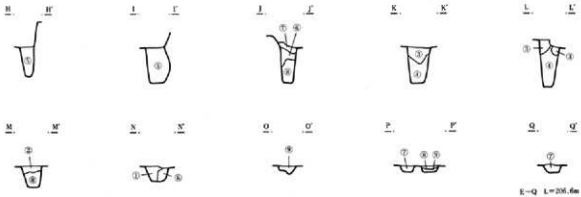
第89図　1号住居（1）











１号住居

① 黒色土

② 黒色土　粗粒暗褐色土多く含む。黄色軽石僅かに含む。

③ 黒色土　粗粒暗褐色土少量含む。黄色軽石僅かに含む。

④ 黒色土　暗褐色土主体。黄色軽石僅かに含む。

⑤ 暗褐色土　Ｐ９の覆土。ローム微粒多く含む。黄色軽石少量含む。

⑥ 黒色土　Ｐ10の覆土。ローム細粒僅かに含む。

⑦ ロームブロック

⑧ 暗褐色土　P10の覆土。ローム粗粒多く含む。黄色軽石少量含む。

⑨ 暗黄褐色土　P10の覆土。ローム微粒多く含む。

⑩ 暗褐色土　ローム細粒僅かに含む。黄色軽石僅かに含む。

１号住居ピット

① 黒色土　ローム細粒少量含む。

② 暗黄褐色土　ローム微粒少量含む。

③ 暗黄褐色土　ローム細粒少量含む。As-BP 僅かに含む。

④ 暗黄褐色土　ローム細粒少量含む。

⑤ 暗褐色土　ローム細粒少量含む。As-BP 僅かに含む。

⑥ 暗褐色土　ローム細粒多く含む。As-BP 僅かに含む。

⑦ 暗褐色土　ローム粗粒少量含む。As-BP 少量含む。

⑧ 暗褐色土　ローム微粒僅かに含む。

⑨ 暗褐色土　ローム細粒少量含む。As-BP 多く含む。

⑩ 暗黄褐色土　ローム土主体。As-BP 少量含む。

0　2m

第90図　１号住居（２）

1号住居

位置　66区R-20グリッド他　**方位**　不明

重複　なし　**写真**　PL34

形状　住居の半分近くが調査区外のため、正確な形状は不明だが、調査された範囲から判断すると、長軸4.8m、短軸4.6mのほぼ円形を呈するものと思われる。北東から南にかけての壁沿いに敷石が認められるため、調査区外に柄部が存在する柄鏡形敷石住居の可能性もある。

壁高　住居が北東から南西に向かう傾斜地に占地しているため北東で50cm、南西で約10cmを測る。

面積　不明　**埋没土**　黒色土を主体とし、自然に堆積した可能性が強い。

床面　床面はほぼ平坦であるが、顕著な硬化面は確認されなかった。住居が調査区の壁に接する部分から、南側にかけての壁際に、安山岩が敷かれた状態で検出されており、敷石床であったと思われる。

周溝　検出できなかった。

柱穴　ピットは17本検出された。そのうち深さ、形状から、P2、P3、P4、P5、P6、P7、P8、P9が柱穴であったと思われる。

炉　住居のほぼ中央に位置すると思われるが、住居の主体部と同様に、約半分が調査区外のため、正確な位置、形状は不明である。確認された範囲では、径1.03mの円形を呈し、掘り込みは床から24cmを測る。炉の掘り込みの中と調査区壁際から径10～30cmの自然礫が約10点出土しており、石囲炉であった可能性も考えられる。

遺物　加曽利E4式土器を中心とする縄文土器片1,031点と石器134点が出土し、そのうち土器849点と石器109点を一括して取り上げた。遺物のうち、1と18は広範な接合関係を示している。また、61の石器は敷石の上に横たえた状態で出土している。石棒に関する屋内祭祀との関連が考えられる。

考察　出土土器の様相から加曽利E4式期の敷石住居であると推定される。

2号住居

位置　66区T-19グリッド他　**写真**　PL35

調査に至る経過　調査区の西よりの西に向いた緩やかな傾斜地で、グリッド毎に幅約30cmのベルトを設定し、黒色土を掘り下げながら遺構確認を行っていたところ、T-19グリッドの南北に設定したベルトの東側で、住居のプランが確認できた。ベルトの西側では住居プランは確認できないまま、掘り下げてしまったため、グリッドベルトに残った土層の観察から本住居の床及び壁を確認した。

方位　N-12°-E　**重複**　なし

形状　長軸5.2m、短軸4.8mのほぼ円形を呈する。

壁高　東から西に向かう傾斜地に占地するため、東側で52cm、西側で28cmを測る。(西側部分は土層の観察による。)　**面積**　不明

埋没土　As-BPを含む暗褐色土を主体とし、観察によると自然に堆積した可能性が強い。

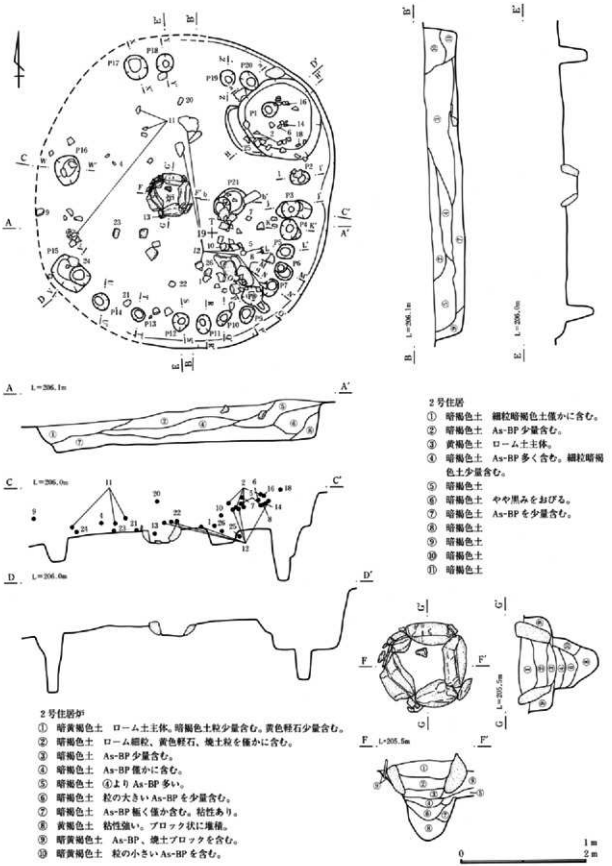
床面　ほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。　**周溝**　検出できなかった。

柱穴　ピットは21本検出された。そのうち、位置、形状からP3、P8、P12、P14、P16、P17、P19が柱穴に相当すると思われる。またP1は形状から判断すると、住居内の貯蔵穴であろう。

炉　住居のほぼ中央に位置し、北、東、南、南西、北西の5辺に自然礫を配置する石囲炉である。規模は長軸83cm、短軸79cm、床からの掘り込みは60cmを測る。周囲の礫はいずれも二次的な被熱が著しく、剥離、亀裂を生じている。また使用面の下位に少量の焼土が確認できた。

遺物　加曽利E4式を中心とする縄文土器片250点と石器類42点が出土し、そのうち土器186点と石器類10点を一括して取り上げた。遺物は床面近くから出土したものも多いが、炉の南東側で、自然礫とともに床面から40cm前後浮いた状態で、集中して出土している。12は床面から埋没土上層にかけて接合関係が認められる。

考察　出土土器の様相から、加曽利E4式期の竪穴住居であると考えられる。



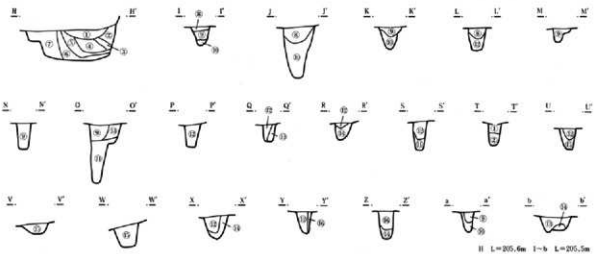
2号住居

① 暗褐色土　細粒暗褐色土僅かに含む。
② 暗褐色土　As-BP少量含む。
③ 黄褐色土　ローム土主体。
④ 暗褐色土　As-BP多く含む。細粒暗褐色土少量含む。
⑤ 暗褐色土
⑥ 暗褐色土　やや黒みをおびる。
⑦ 暗褐色土　As-BPを少量含む。
⑧ 暗褐色土
⑨ 暗褐色土
⑩ 暗褐色土
⑪ 暗褐色土

2号住居炉

① 暗黄褐色土　ローム土主体。暗褐色土粒少量含む。黄色軽石少量含む。
② 暗褐色土　ローム細粒、黄色軽石、焼土粒を僅かに含む。
③ 暗褐色土　As-BP少量含む。
④ 暗褐色土　As-BP僅かに含む。
⑤ 暗褐色土　④よりAs-BP多い。
⑥ 暗褐色土　粒の大きいAs-BPを少量含む。
⑦ 暗褐色土　As-BP極く僅か含む。粘性あり。
⑧ 黄褐色土　粘性強い。ブロック状に堆積。
⑨ 暗黄褐色土　As-BP、焼土ブロックを含む。
⑩ 暗黄褐色土　粒の小さいAs-BPを含む。

第91図　2号住居（1）



2号住居ピット
① 黒色土　暗褐色土粒少量含む。黄色軽石少量含む。
② 暗黄褐色土　ローム微粒多く含む。
③ 黒色土　ローム微粒少量含む。暗褐色土粒僅かに含む。
④ 黒色土　暗褐色土粒少量含む。黄色軽石僅かに含む。
⑤ 黒色土　暗褐色土ブロック少量含む。黄色軽石少量含む。
⑥ 暗黄褐色土　暗褐色土とロームが斑状に混じる。黄色軽石少量含む。
⑦ 暗黄褐色土　ローム土主体。暗褐色土粒僅かに含む。
⑧ 黒色土　ローム微粒少量含む。黄色軽石多く含む。
⑨ 黒色土　ローム細粒少量含む。黄色軽石少量含む。
⑩ 暗黄褐色土　ローム土主体。黄色軽石僅かに含む。
⑪ 暗褐色土　黄色軽石少量含む。
⑫ 暗褐色土　ローム微粒少量含む。黄色軽石僅かに含む。
⑬ 暗褐色土　ローム細粒多く含む。黄色軽石少量含む。
⑭ 暗褐色土　にごったローム土主体。ローム細粒少量含む。
⑮ 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。
⑯ 暗褐色土　ローム微粒少量含む。

0　2m

第92図　2号住居（2）

3号住居

位置　67区B-15グリッド　**方位**　不明　**重複**　なし　**写真**　PL35

形状　西壁を削平により消失するため、不明であるが残存部分から判断すると、長軸3.95mのやや楕円形を呈すると思われる。

壁高　残存している東壁で39cm、南壁は18cmを測る。

面積　不明　**埋没土**　黒色土を主体とし、自然に堆積した可能性が強い。

床面　東から西への傾斜地に占地するため、床面も同様の傾斜を示す。凹凸は少なく、特に硬化した部分は認められない。　**周溝**　検出できなかった。

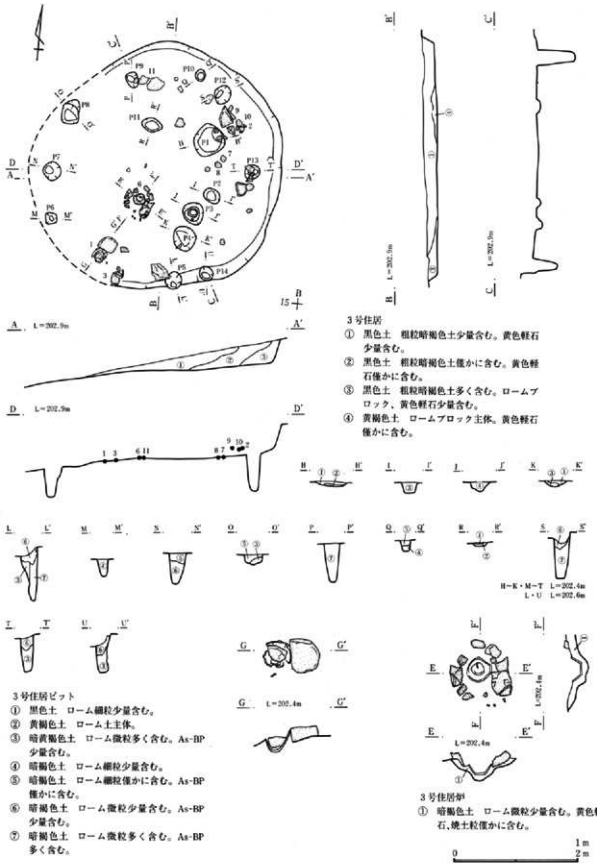
柱穴　ピットは14本検出された。そのうち位置、形状からP5、P7、P9、P12、P13、P14が柱穴に相当すると思われる。

炉　住居中央から約60cm南西に寄った地点に位置する。炉体土器を中心に、南辺と北辺を除いて配石される石囲埋甕炉である。周囲の礫はいずれも二次的に被熱しており、剥離、亀裂を生じている。炉の内側は長軸37cm、短軸24cmで炉体土器の底面の下10cmが地山である。掘り方の規模は長軸90cm、短軸52cmを測る。

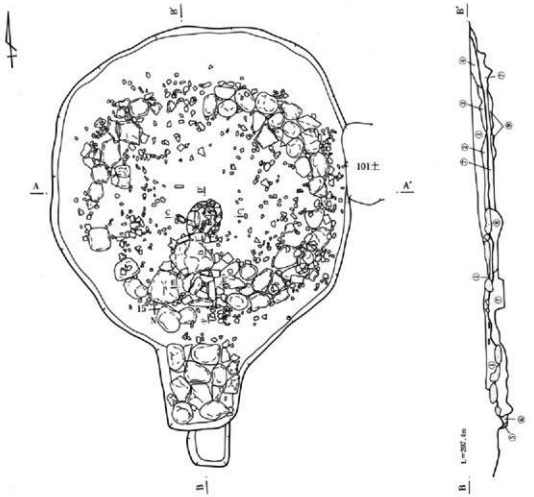
埋甕　炉の南西1mの位置で1基検出された。正位の埋甕で、口縁の一部と胴上部を欠く。石皿と接して埋設されていたが、この石皿は紛失してしまった。

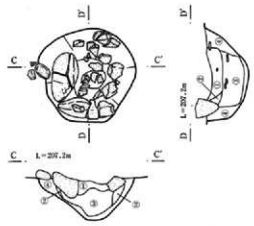
遺物　加曽利E4式を中心とする縄文土器61点と石器類17点が出土し、そのうち土器53点と、石器2点を一括して取り上げた。

考察　炉体土器、埋甕とも無文であるが、他の出土土器の様相から加曽利E4式期の竪穴住居であると思われる。


3号住居
① 黒色土　粗粒暗褐色土少量含む。黄色軽石少量含む。
② 黒色土　粗粒暗褐色土僅かに含む。黄色軽石僅かに含む。
③ 黒色土　粗粒暗褐色土多く含む。ロームブロック、黄色軽石少量含む。
④ 黄褐色土　ロームブロック主体。黄色軽石僅かに含む。
3号住居ピット
① 黒色土　ローム細粒少量含む。
② 黄褐色土　ローム土主体。
③ 暗黄褐色土　ローム微粒多く含む。As-BP少量含む。
④ 暗褐色土　ローム細粒少量含む。
⑤ 暗褐色土　ローム細粒僅かに含む。As-BP僅かに含む。
⑥ 暗褐色土　ローム微粒少量含む。As-BP少量含む。
⑦ 暗褐色土　ローム微粒多く含む。As-BP多く含む。
3号住居炉
① 暗褐色土　ローム微粒少量含む。黄色軽石、焼土粒僅かに含む。
H-K・M-T　L=202.4m
L・U　L=202.6m
1m
0
2m

第93図　3号住居





16号住居

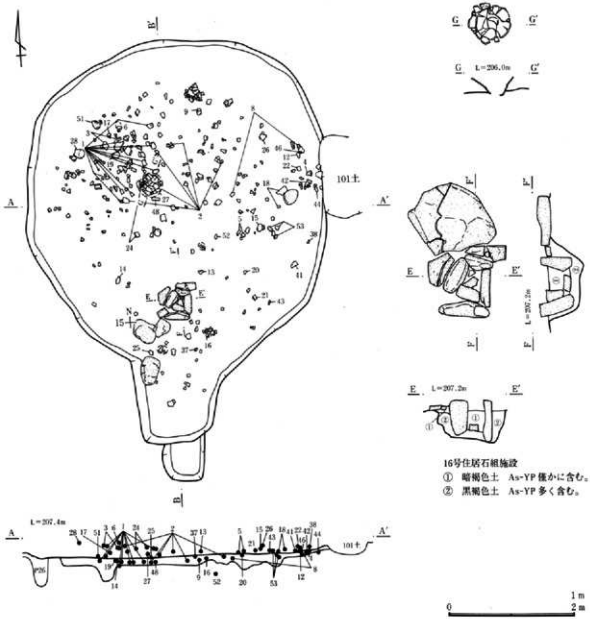
① 黒褐色土　黄色軽石、暗褐色土粒僅かに含む。
② 黒褐色土　黄色軽石少量含む。炭化物僅かに含む。
③ 黒褐色土　黄色軽石僅かに含む。
④ 暗褐色土
⑤ 暗褐色土　ロームブロック僅かに含む。
⑥ 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
⑦ 暗褐色土　As-YP 多く含む。
⑧ 暗褐色土　やや赤みをおびた軽石粒含む。
⑨ 暗褐色土　As-YP 多く含む。

16号住居炉

① 黒褐色土　白色鉱物粒、ローム細粒僅かに含む。
② 黒色土
③ 暗褐色土　ロームブロック少量含む。軟質。
④ 黄褐色土　As-YP 主体。

0　1 m　2 m

第94図　16号住居（１）



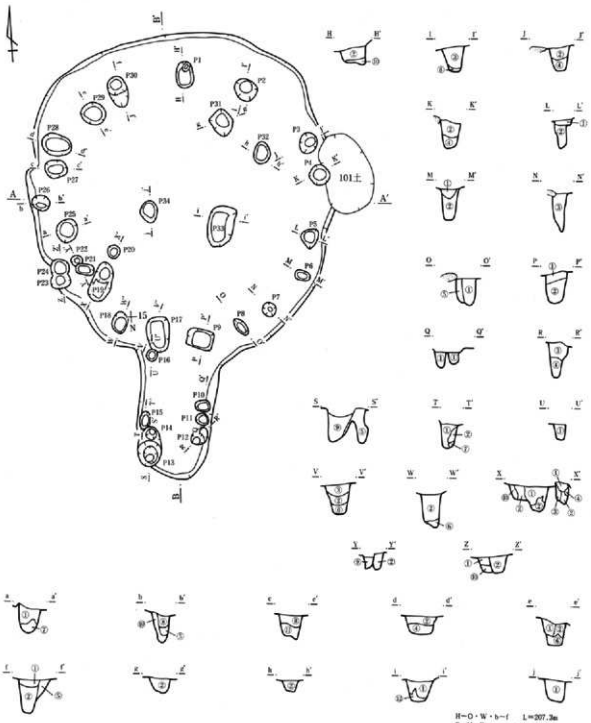
第95図　16号住居（2）

16号住居

位置　66区M-15グリッド他　**方位**　N-4°-E

調査に至る経過　表土を除去した段階で配石の一部が確認されたため、敷石住居を想定して調査を開始した。確認された時点で住居の掘り込みが浅かったため、壁の検出が困難であった。床は配石によって確認できたが、調査の結果得られた住居プランは本住居の堀り方の可能性もある。

重複　時期不明の101号土坑に切られる。



16号住居ピット

① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 暗褐色土　ローム粒、As-YP多く含む。
③ 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。
④ 暗褐色土　ローム粒多く含む。
⑤ 黄褐色土　ローム土主体。暗褐色土粒少量含む。しまりよい。
⑥ 茶褐色土　ローム土主体。
⑦ 暗褐色土　As-YP多く含む。粘質。
⑧ 暗褐色土　粒子粗。As-YP多く含む。
⑨ 黒色土　しまり悪い。
⑩ 暗褐色土　As-YP多く含む。もろい。
⑪ 暗褐色土　赤みを呈する。
⑫ 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。炭化物を含む。

第96図　16号住居（3）

写真　PL36、37

形状　主体部は円形（敷石部はやや東西に長い楕円形）、柄部は隅丸方形の柄鏡形敷石住居である。全体の長軸は6.4m、短軸は4.77mを測る。主体部の敷石部は東西4.1m、南北3.9m、柄部は幅1.05m、長さ1.5mを測る。

壁高　明瞭な壁は検出されなかったが確認面からの掘り込みは約20cmである。

面積　20.2㎡

埋没土　白色鉱物を含む黒褐色土を主体とする。観察によると自然に堆積した可能性が強い。

配石　配石はほとんどが安山岩の自然礫で、割石と思われる扁平な石をごく一部に使用している。主体部においては、南側を除く炉の周囲に配石が認められない。これは土層の状況や遺物の出土状況から判断すると、何らかの原因により失われたものと思われる。また、柄部はほぼ全面に配石されているが、主体部の配石面から約10cm下がった面に配石されている。柄部の先端には立った状態で出土している配石がある。また、柄部と主体部の連結部に配石されない区域がある。この主体部寄りには石囲施設が検出された。主体部の配石されている礫を観察すると、二次的に被熱しているものが多く認められる。この被熱は配石の表面に限られるので、本住居が焼失住居とも推定されるが、被熱している礫と、そうでない礫が混在していること、この他には焼失住居を想起させる材料がないことから、その可能性は低いと思われる。したがってこの配石の被熱は住居構築時に、礫が被熱するような、何らかの作業が行われたと推定される。

周溝　検出されなかった。

柱穴　34本のピットが検出された。そのうち、位置、形状から、P2、P3、P4、P5、P6、P7、P8、P11、P13、P15、P16、P18、P19、P21、P25、P27、P29、P30が柱穴に相当すると思われる。また、P9とP17は連結部の対ピットになると思われる。柱穴の掘り方の上に、配石が乗る例が見られることから、配石が施される前に柱穴が掘られ、柱を建てたのちに、床面の配石を施したことが推定される。

炉　主体部の中央からやや南に寄った地点で検出された。西辺と南辺に大きめの礫を、東から北にかけては拳大の礫を配した石囲炉である。周囲の礫は二次的に被熱しており、亀裂を生じているものもあるが、炉の埋没土、掘り方の土層から焼土、灰は検出されなかった。

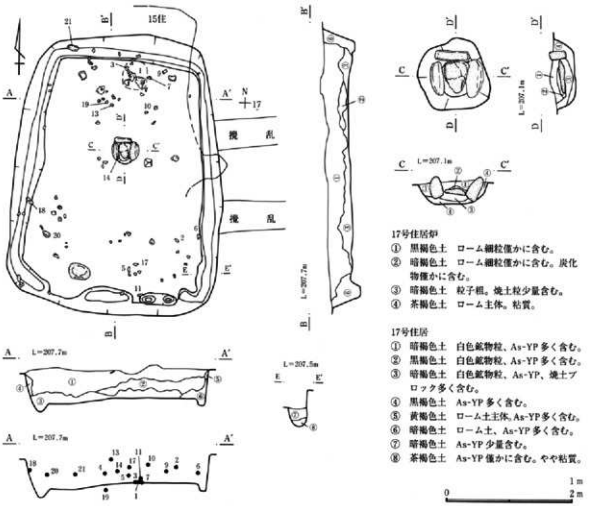
埋甕　炉の約1m北西で1基検出された。無文の粗製深鉢である。二次的に被熱している。埋設のための掘り方は検出できなかった。柄鏡形敷石住居における埋甕の検出事例を検討してみると、主体部と柄部の連結部、あるいは柄部先端というように、主体部以外に埋設する事例が多く、本住居のように、主体部に埋設される事例は少数である。これは後述する連結部石囲施設との関連が推定される。

石囲施設　連結部から、石囲炉状の施設を検出した。東、西、南、北4辺に安山岩のやや扁平な礫を配し、底面には扁平な礫を1石配している。平面形は台形様であるが、本来、方形であったものが西辺と北辺の2石がずれて、このような形状を呈しているとも思われる。周囲の礫に、二次的な被熱はなく、埋没土、掘り方土層からも焼土、灰は検出されなかった。この石囲施設の北側、炉との間及び西側には大型で扁平な安山岩を配石している。この石囲施設内から、遺物は検出されなかった。

この石囲施設の位置は埋甕が設置されることが多く、その形状からも、柄鏡形敷石住居内における埋甕との関連が推測される施設である。

遺物　称名寺Ⅱ式土器を中心とする縄文土器片568点と、石器類127点が出土し、そのうち土器352点と石器類76点は一括して取り上げた。遺物の出土は住居主体部の左奥に集中する傾向が見られる。器形を復元できる個体はなかったが、1と2がやや広範な接合状況を示している。石器類は主体部右側部分から出土するものがやや多い傾向が見られる。

考察　埋甕は無文であるが、他の出土土器の様相から称名寺Ⅱ式期の柄鏡形敷石住居であろう。



第97図　17号住居

17号住居

位置　66区N-16グリッド他　**方位**　N-1°-W

重複　本住居の上面で、15号住居（平安時代）が検出されている。　**写真**　PL37

形状　長軸4.4m、短軸3.2mの、やや台形様を呈する隅丸長方形である。

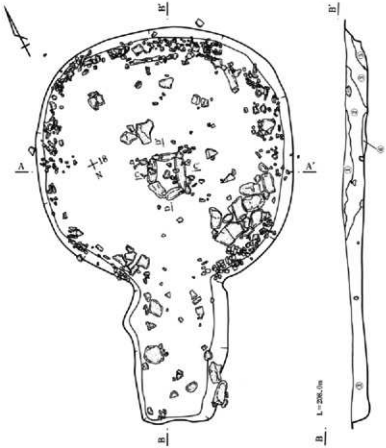
壁高　住居西壁で32cm、南壁で52cmを測る。

面積　11.65㎡　**埋没土**　As-YPを含む黒褐色土、暗褐色土を主体とし、自然に堆積した可能性が強い。

床面　ほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。　**周溝**　南壁沿いの一部を除いて、壁際で検出された。土層を観察した地点では、幅28cm、深さ30cmであった。　**柱穴**　検出されなかった。

炉　住居中央からやや北よりの地点に位置し、南辺を除く3辺に自然礫を配している石囲炉である。底面にも扁平な礫を1石配している。掘り方の規模は東西55cm、南北55cmを測り、隅丸の不整方形を呈する。周囲の礫は二次的に被熱しており、西辺の礫は被熱によると思われる剥離が生じている。覆土中からも僅かであるが、炭化物、焼土粒が検出されている。　**遺物**　関山Ⅰ式を中心とする縄文土器片71点と、石器類42点が出土し、そのうち土器38点と石器類35点を一括して取り上げた。遺物は①、②層からの出土が多く、床面からは若干浮いた状態であった。北壁付近でまとまって出土した1以外は接合関係はほとんど見られなかった。

考察　出土土器の様相、住居形状から関山Ⅰ式期の竪穴住居である。

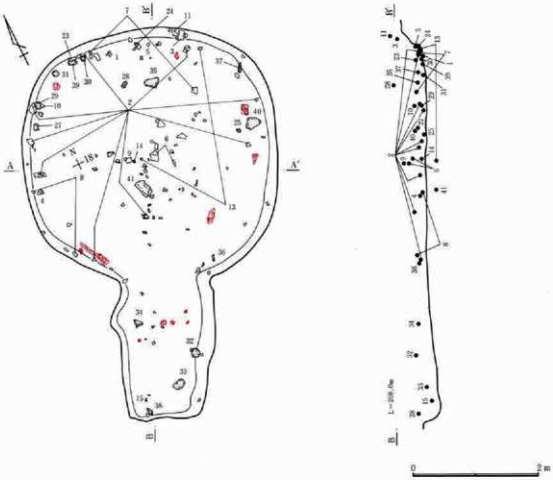


18号住居
① 暗褐色土　白色鉱物粒、黄色軽石多く含む。
② 黒褐色土　白色鉱物粒、黄色軽石多く含む。炭化物僅かに含む。
③ 暗褐色土　白色鉱物粒、黄色軽石多く含む。ローム粗粒少量含む。
④ 暗褐色土　白色鉱物粒、黄色軽石少量含む。炭化物多く含む。
⑤ 明褐色土　白色鉱物粒、As-YP多く含む。
⑥ 明褐色土　ロームブロック、As-YP多く含む。炭化物僅かに含む。

18号住居炉
① 黒褐色土　黄色軽石少量含む。炭化物僅かに含む。
② 暗褐色土　黄色軽石少量含む。炭化物僅かに含む。
③ 黒褐色土　黄色軽石少量含む。ローム細粒、焼土粒僅かに含む。
④ 褐色土　黄色軽石僅かに含む。

0　1m　2m

第98図　18号住居（1）



第99図　18号住居（2）

18号住居

位置　66区M-17グリッド他　**方位**　N-19°-E

重複　住居床下から縄文時代前期と思われる111号土坑が検出された。　**写真**　PL38

形状　主体部は円形、柄部は長方形の柄鏡形敷石住居である。全体の長軸は6.18m、短軸は4.03mを測る。主体部の規模は南北長4.08mである。柄部は幅1.42m、長さ2.1mを測る。

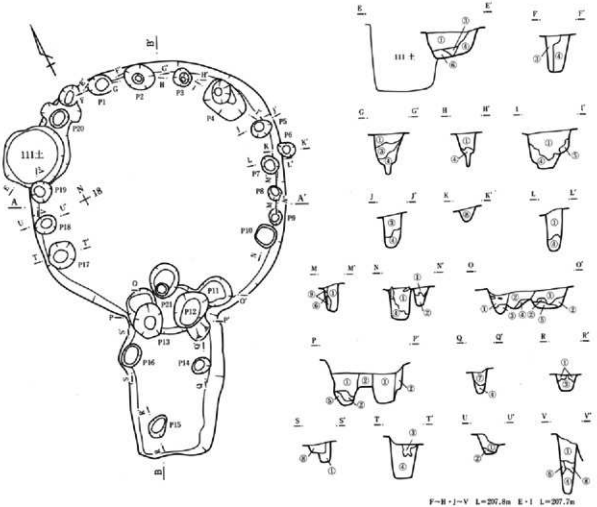
壁高　主体部で20cm、柄部で28cmを測る。

面積　18.89m²　**埋没土**　暗褐色土を主体とするが、一部に炭化物を含む。

配石　床面への配石は、主体部の右手前部分に残存し、それ以外は床面に礫が散在している。配石には比較的扁平な安山岩が多く、割石と思われる礫はごく一部で認められるにすぎない。また、壁に沿って小礫を環状に配している。小礫だけを並べるのではなく、暗褐色土と小礫で土手状に盛り上げ、環状に配している（以下周礫）。柄部にはほとんど配石が認められない。16号住居と同様に床面に配された礫、及び周礫の中には二次的に被熱しているものが認められる。本住居は、後述するように床面から炭化材が検出されているので、住居そのものが焼失している可能性もあり、それによる被熱とも考えられる。

周溝　検出されなかった。

柱穴　ピットは21本検出された。そのうち位置、形状からP1、P2、P3、P4、P5、P8、P10、P12、P13、P14、P16、P17、P19、P20が柱穴に相当すると思われる。なお、P20からは柱に用いていたと思われる材が、炭化し直立した状態で検出されている。床から下の部分は炭化しておらず、柱



18号住居ピット
① 暗褐色土　As-YP多く含む。
② 茶褐色土　As-YP非常に多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP、ローム粒多く含む。
④ 暗褐色土　ローム粒、ロームブロック多く含む。
⑤ 褐色土　ローム粒非常に多く含む。
⑥ 暗褐色土　ロームブロック多く含む。
⑦ 黒褐色土　As-YP多く含む。炭化物少量含む。
⑧ 暗褐色土　ローム粒少量含む。
⑨ ロームブロック

0　2m

第100図　18号住居（３）

が立っていた状態で火を受けた状況が考えられる。ただし、床面が火を受けた痕跡は認められなかった。また、柱穴の堀り方の上に、配石及び周礫が乗る例が見られることから配石が施される前に柱穴が掘られ、柱が建てられたと思われる。

炉　主体部の中央からわずかに南に寄った地点で検出された。北、西、東、南東、南西の５辺に礫を配した石囲炉である。石の内側で長軸47cm、短軸30cm、床からの掘り込みは24cmを測る。周囲の礫は二次的に被熱しており、剥離を生じているものもある。埋没土、堀り方の土層からは焼土及び炭化物がわずかながら検出されている。南西辺の縁石は石皿を転用したもので、図示した42である。

埋甕　検出されなかったが、主体部と柄部との連結部で、Ｐ12、Ｐ13の北側にピットが検出されている。位置から考えて、埋甕の痕跡の可能性が高い。また、柄部先端のＰ15も埋甕の抜き取り跡と考えられるかもしれない。

遺物　加曽利Ｅ４式土器、称名寺Ｉ式土器を中心とする縄文土器片399点と石器類78点が出土している。

そのうち、土器286点と石器類41点は一括して取り上げた。周礫上、あるいは周礫内からの出土が多いが、特に２は、広範な接合を示す内の大半が周礫内から出土している。加曽利Ｅ４式の両耳壺であるが、本住居構築時に破砕し、周礫の中に撒いたような状況が推定される。

考察　出土土器の様相から、縄文時代中期末から後期初頭の柄鏡形敷石住居であるといえる。前述したように本住居は焼失住居の可能性が考えられるが、遺物の残存状況から推定すると、住居使用中に被災したとは考えにくく、住居廃絶時あるいは住居廃絶後に被災したと考えるべきであろう。

19号住居

位置　66区M-20グリッド他

方位　N-41°-E　**写真**　ＰＬ39

調査に至る経過　本住居は20号住居と重複している。当初の土層観察では、19号住居－新、20号住居－旧と判断し、調査を開始した。従って新住居であると判断した本住居を先行して調査を進めた。本住居の床面を検出中,後述するように炉が検出された。さらに床面を精査していくと、本住居の北西壁に近い位置からさらに１基の石囲炉が検出された。炉が床から若干浮いていること、炉の位置としてはあまり例のない位置、ということに多少の疑問はあったが炉を２基持つ住居と判断し、本住居にかかるセクションベルトも撤去して調査を進め、本住居の調査を終了し、20号住居の調査に着手した。20号住居の床面は本住居の床よりも７㎝ほど高いことを確認しながら調査をすすめたが、20号住居では炉が検出されなかった。しかしながら、本住居で検出された２番目の石囲炉の位置が20号住居の炉として適当なこと、さらに本住居の床からは若干浮いた状態であった第２の炉のレベルが、20号住居の床面のレベルと一致することが確認された。旧い住居の炉が、床下でなく、床から浮いた状態で残っていることは考えられず、また、出土遺物を詳細に検討した結果、当初の土層観察の結果得られた新旧関係が誤りであることが確認された。したがって、本来あるべき20号住居の北西隅にかかる壁は、本住居の調査により破壊してしまったということになる。

形状　長軸4.47ｍ、短軸3.21ｍの長方形を呈する。

壁高　直角に近い角度で立ち上がる壁を持ち、壁高は残存部で50㎝を測る。

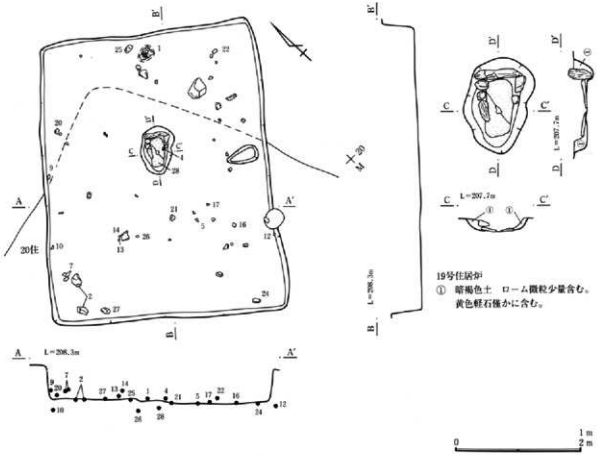
面積　14.6㎡　**床面**　ほぼ平坦であり、特に硬化している部分は認められなかった。

周溝、柱穴　検出されなかった。

炉　住居中央からやや北東に寄った地点で検出された。北東、北西、南東の３辺に配石する石囲炉である。規模は長軸58㎝、短軸39㎝、床面からの掘り込みは10㎝を測る。また、炉底には、40に図示した緑色片岩製の扁平な石皿を敷いている。この石皿は使用によって磨滅し、中央部に穴があいている。緑石は二次的に被熱しているが、この炉底の石皿には被熱は認められなかった。埋没土は除去してしまったが掘り方土層には灰、炭化物は確認されなかった。

遺物　関山Ｉ式土器を中心とする縄文土器片49点と石器類67点が出土し、そのうち土器28点と石器類28点は一括して取り上げた。遺物の出土はあまり多くないが、床面近くからの出土が多い。まとまって出土した１、２、７以外の遺物ではほとんど接合関係は認められない。

考察　出土遺物の様相から関山Ｉ式期の竪穴住居であるといえる。



第101図　19号住居

20号住居

位置　66区M-20グリッド他　**方位**　N-15°-W

重複　19号住居　調査に至る経過を参照のこと。

写真　ＰＬ39

形状　北西隅にかかる部分の壁を失っているが、長軸5.51ｍ、短軸4.62ｍを測り、南側がわずかに開く台形様を呈する。

壁高　残存部で36㎝を測る。

面積　22.7㎡

床面　19号住居との新旧関係の判断の誤りにより、本住居の半分近くの床面を失ってしまったが、残存部分で判断すると、床面はほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。

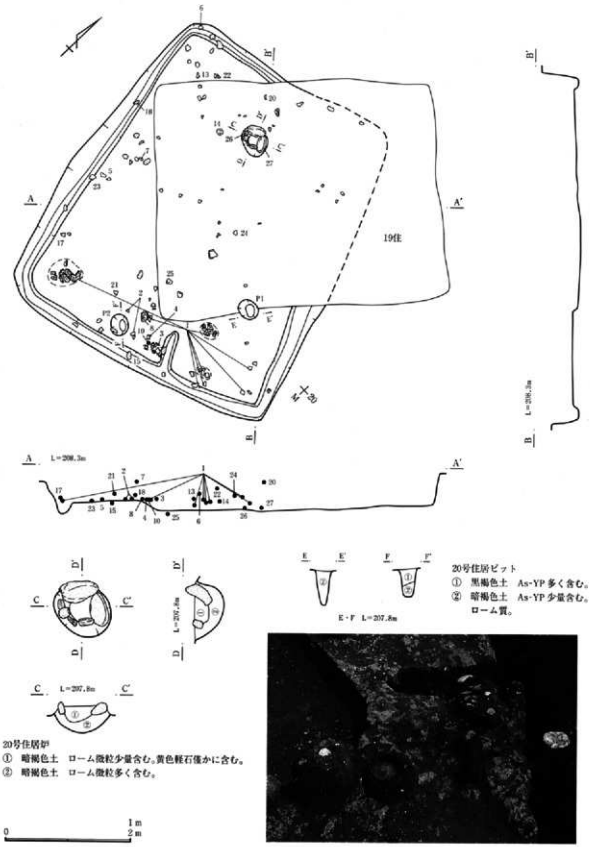
周溝　残存部ではすべての壁に沿って検出されている。最大幅は40㎝、最大深は20㎝を測る。南壁に沿っている部分から、一部住居中央に突出している部分がある。

柱穴　ピットは２本検出されている。

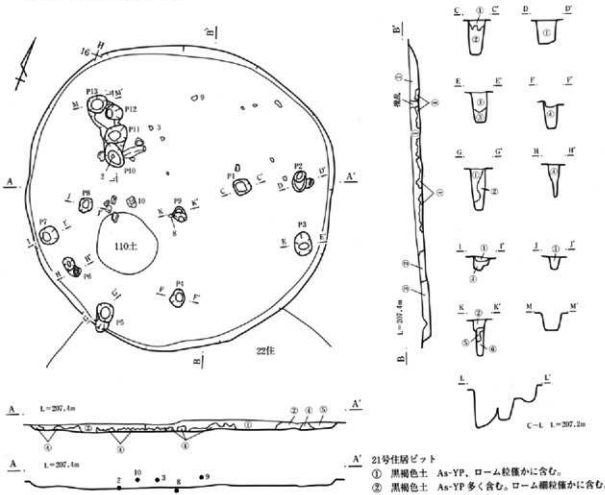
炉　北壁中央から約80㎝はなれた地点で検出された。北と東に大きめの礫を配し、南と西には拳大の礫を配した石囲炉である。規模は、長軸40㎝、短軸35㎝で、床からの掘り込みは12㎝を測る。縁石は二次的に被熱している。埋没土、掘り方土層からは灰、炭化物は確認されなかった。

遺物　黒浜（有尾）式土器を中心とする縄文土器片56点と石器類40点が出土している。そのうち土器34点と石器類23点は一括して取り上げた。重複部分からの出土遺物は、本住居が新しいとの判断から、出土レベルを基準に分類した。小片が多いが、１はやや広範な接合状況を示す。

考察　出土土器の様相から、黒浜（有尾）式期の竪穴住居であり、19号住居より新しいといえる。


19住
A
A'
L=208.3m
C
C'
L=207.8m
E
E'
F
F'
E・F　L=207.8m
20号住居ピット
① 黒褐色土　As-YP 多く含む。
② 暗褐色土　As-YP 少量含む。
ローム質。
20号住居炉
① 暗褐色土　ローム微粒少量含む。黄色軽石僅かに含む。
② 暗褐色土　ローム微粒多く含む。
0
1 m
2 m

第102図　20号住居



第103図　21号住居

21号住居

位置　66区G-15グリッド他　**重複**　縄文時代前期と思われる22号住居を切る。また、本住居の床下から、縄文時代前期前半の110号土坑が検出された。

写真　PL40

形状　長軸4.88m、短軸4.82mを測り、ほぼ円形を呈する。

壁高　後世の削平を受けたためと思われるが、壁の残存が悪く、5cmを測るだけである。

面積　17.4㎡　**埋没土**　黒褐色土、暗褐色土を主体とするが、いずれも焼土粒を少量含んでいる。

床面　ほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。　**周溝**　検出されなかった。

柱穴　ピットは13本検出された。

炉　検出されなかった。床面でも焼土の集中箇所や灰、炭化物も確認されなかった。

遺物　縄文土器片61点と石器類32点が出土した。いずれも小片である。そのうち土器59点と石器類26点を一括して取り上げた。

考察　前期前半から後期にわたる土器が出土しているが、床面直上から出土した2を含み、遺物の出土の多い前期末から中期初頭の竪穴住居と思われる。

22号住居

位置　66区Ｇ-14グリッド他

重複　縄文時代前期末から中期初頭の21号住居に切られる。また本住居の南西隅の床下から、前期前半と思われる114号土坑が検出された。

写真　ＰＬ40

形状　21号住居と同様に壁の残存が悪く、住居プランの確認は容易でなかった。長軸6.10ｍ、短軸5.60ｍの不整円形と判断したが、後述するように本住居は前期前半の関山式期の住居と考えられる。しかし本遺跡で検出されている当該期の住居は、いずれも方形を呈しており、本住居が当該期のものとすると他の例と合致しない。南西側の壁が極端に直線状を示すことから、方形のプランをしめす住居を誤認した可能性もある。

壁高　残存の良好な地点で、５㎝を測る。

面積　不明　**埋没土**　暗褐色土を主体とする。観察によると自然に堆積したものと思われる。

床面　ほぼ平坦であり、特に硬化した部分は認められなかった。

周溝　検出されなかった。

柱穴　ピットは15本検出されている。位置、形状からＰ１、Ｐ４、Ｐ７、Ｐ13が柱穴に相当するのではないかと思われる。

炉　床面を調査している段階では検出されなかったが、位置から判断するとＰ10及びＰ11が炉跡であった可能性もある。

遺物　関山Ｉ式を中心とする縄文土器片42点と石器類60点が出土し、そのうち土器28点と石器類49点を一括して取り上げた。土器はいずれも小片で、器形は復元できなかった。遺物の出土状況は、床面近くからの出土が多く、平面的に偏りは確認できなかった。出土位置を記録できなかったが、花積下層式の深鉢口縁部片が１点出土している。また、西壁際から蛇紋岩製の玦状耳飾りが出土している。

考察　花積下層式土器の出土はあるが、他の出土土器の様相から関山Ｉ式期の竪穴住居であるといえる。

23号住居

位置　66区Ｇ-14グリッド他　**重複**　なし

写真　ＰＬ41

形状　南東の一部が調査区外にかかるが、やや南北に長い円形を呈すると思われる。

壁高　確認できた部分では、緩い立ち上がりを持つ壁で、高さは15㎝を測る。　**面積**　不明

埋没土　黒褐色土を主体とする。観察によると自然に堆積した可能性が強い。

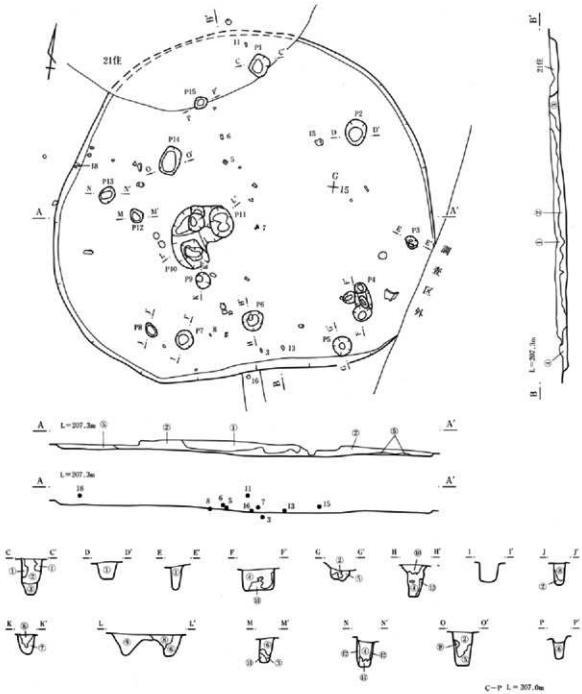
床面　ほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められない。　**周溝**　検出されなかった。

柱穴　ピットは10本検出されている。そのうち位置、形状からＰ１、Ｐ４、Ｐ10が柱穴に相当するのではないかと思われる。

炉　住居のほぼ中央から検出された。東、西、南、北の４辺に礫を配し、中央に土器を埋設した石囲埋甕炉である。縁石の内側で長軸29㎝、短軸26㎝、床からの掘り込みは23㎝を測る。縁石は二次的に被熱し、剥離、亀裂を生じている。特に北側の縁石は割れて、上部が北側に倒れている。炉体土器は胴部下位から底部を欠いて埋設されており、縁石と同様に二次的に被熱している。炉底からはわずかながら焼土が検出されている。

遺物　加曽利Ｅ３式土器を中心とする縄文式土器片117点と石器類39点が出土し、そのうち土器96点と石器類31点を一括して取り上げた。土器はいずれも小片で、１の炉体土器以外は器形を復元できるものはなかった。この炉体土器を除くと、床面からやや浮いた状態で出土しているものが多い。

考察　埋没土からは前期前半の土器も出土しているが、炉体土器から判断して加曽利Ｅ３式期の竪穴住居であるといえる。



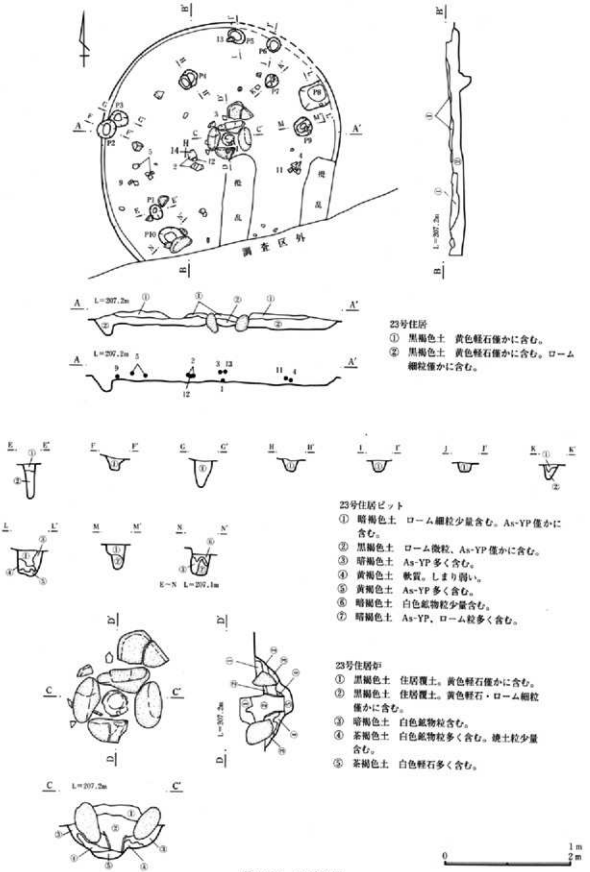
22号住居

① 暗褐色土　粒子粗。白色鉱物粒含む。
② 暗褐色土　ローム粒微かに含む。
③ 茶褐色土　黄色軽石含む。
④ 茶褐色土　ロームブロック少量含む。
⑤ 茶褐色土　ローム土含む。

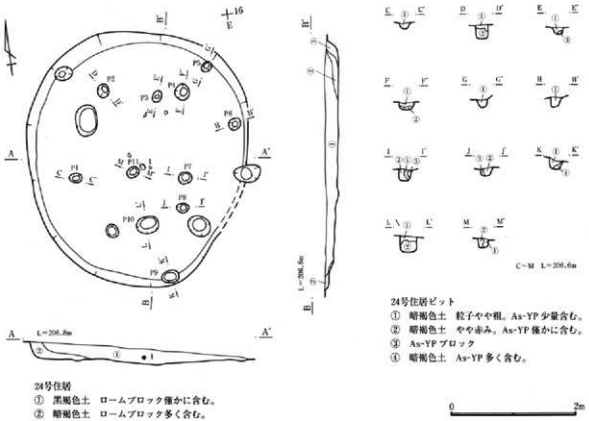
22号住居ピット

① 暗褐色土　ロームブロック多く含む。
② 黒褐色土　As-YP、ローム粒少量含む。
③ 暗黄褐色土　ロームブロック多く含む。粘質。
④ 暗褐色土　As-YP 多く含む。
⑤ 暗褐色土　As-YP、ローム粒少量含む。
⑥ 暗褐色土　As-YP 多く含む。ロームブロック含む。
⑦ 黒褐色土　As-YP、焼土粒少量含む。
⑧ 黒褐色土　As-YP 僅かに含む。
⑨ 黒褐色土　As-YP 多く含む。
⑩ 暗褐色土　白色鉱物粒、ローム粒少量含む。
⑪ 黄褐色土　軟質でやや粘性を持つ。
⑫ 黄褐色土　As-YP 主体。

第104図　22号住居


調査区外
L=207.2m
23号住居
① 黒褐色土　黄色軽石僅かに含む。
② 黒褐色土　黄色軽石僅かに含む。ローム細粒僅かに含む。
23号住居ピット
① 暗褐色土　ローム細粒少量含む。As-YP僅かに含む。
② 黒褐色土　ローム微粒、As-YP僅かに含む。
③ 暗褐色土　As-YP多く含む。
④ 黄褐色土　軟質。しまり弱い。
⑤ 黄褐色土　As-YP多く含む。
⑥ 暗褐色土　白色紙物粒少量含む。
⑦ 暗褐色土　As-YP、ローム粒多く含む。
E～N　L=207.1m
23号住居炉
① 黒褐色土　住居覆土。黄色軽石僅かに含む。
② 黒褐色土　住居覆土。黄色軽石・ローム細粒僅かに含む。
③ 暗褐色土　白色紙物粒含む。
④ 茶褐色土　白色紙物粒多く含む。焼土粒少量含む。
⑤ 茶褐色土　白色軽石多く含む。
0
1m
2m

第105図　23号住居



第106図　24号住居

24号住居

位置　66区E-15グリッド　**重複**　なし

写真　PL42

形状　長軸3.96m、短軸3.50mのほぼ円形を呈する。

壁高　西から東への緩やかな斜面に占地しているため、西壁は28cmを測るが、東壁は確認が難しかった。

面積　9.71m²を測る、小型の住居である。

埋没土　黒褐色土を主体とし、観察によると自然に堆積した可能性が強い。

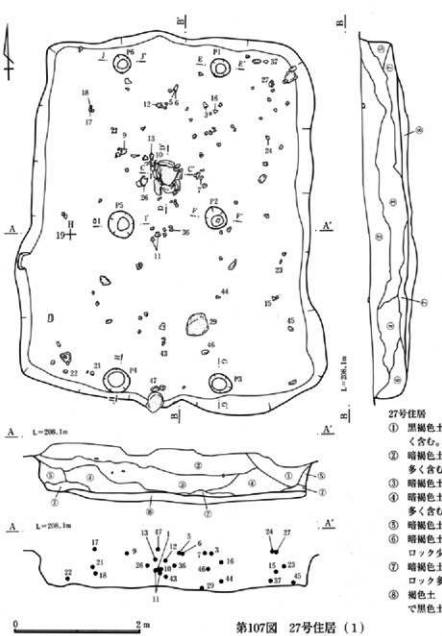
床面　ほぼ平坦である。特に硬化した部分は認められなかった。　**周溝**　検出されなかった。

柱穴　ピットは11本検出されている。P２、P10は位置、形状から柱穴に相当すると思われるが、他のピットとの関係から判断すると、２本柱の住居の可能性も考えられる。

炉　検出されなかった。床面から焼土、灰の集中している地点も検出されていない。

遺物　縄文土器片48点と、石器類28点が出土し、そのうち、土器45点と石器類26点を一括して取り上げた。土器片48点のうちわけは、花積下層式土器29点、阿玉台式土器16点、時期不明２点である。いずれも小片のため、土器型式の判断に関しては、誤認している可能性もある。大半の遺物を一括して取り上げてしまっているため、出土位置が不明なものが多くなっているが、花積下層式土器と阿玉台式土器が混在している状況である。

考察　本住居の時期決定にあたっては、上述したように２型式の土器が出土している。しかしながら、出土位置が明確でなく、どちらを主体的に考えるかは困難である。ただ、本遺跡の埋没土の傾向から、縄文時代前期の可能性が高い。



第107図　27号住居（1）

27号住居

位置　66区Ｇ-19グリッド他　**方位**　N-2°-E

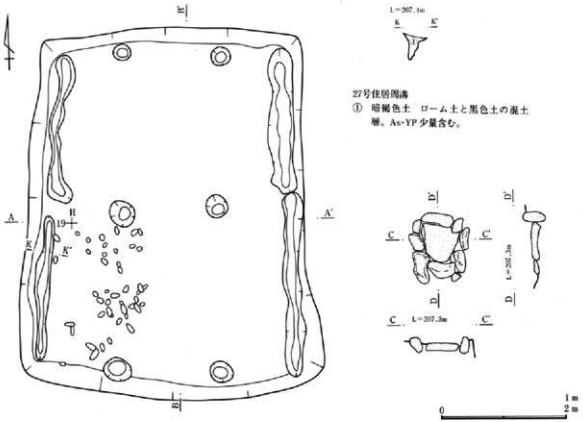
重複　なし　**写真**　ＰＬ42

形状　長軸5.87m、短軸4.46mで、一方の短辺がやや長い台形様の隅丸長方形である。

壁高　北壁で54cmを測る。　**面積**　22.3㎡

埋没土　暗褐色土を主体とするが、観察の結果、自然に堆積した可能性が強い。土層のうち、①層は本住居の埋没土を切るように堆積しており、調査時点では確認できなかった別遺構が存在していたものと思われる。

床面　本住居は調査にあたり、住居中央に南北、東西にかけてセクションベルトを設定し、住居を４分割する形で暗褐色土を掘り下げながら床面を検出していった。その結果、北東、南西、南東の区域では⑧層下面まで掘り下げても明瞭な床が検出できずにいた。しかし、北西の区画で⑦層の下面まで掘り下げたところ、後述するような炉が検出された。残されたセクションベルトの観察の結果、⑧層上面が床面に相当し、北西以外の３区域は掘り方面まで掘り



第108図　27号住居（２）

下げてしまったことが判明した。床面は緩やかな凹凸はあるものの、概ね平坦で、検出が困難であったように硬化した部分は認められず、軟弱であった。また、南西の区域の掘り方面から、長径10cm前後の楕円形の痕跡が約50個検出された。平面的な確認にとどまったが、本住居構築時の掘削具の痕跡の可能性も考えられる。

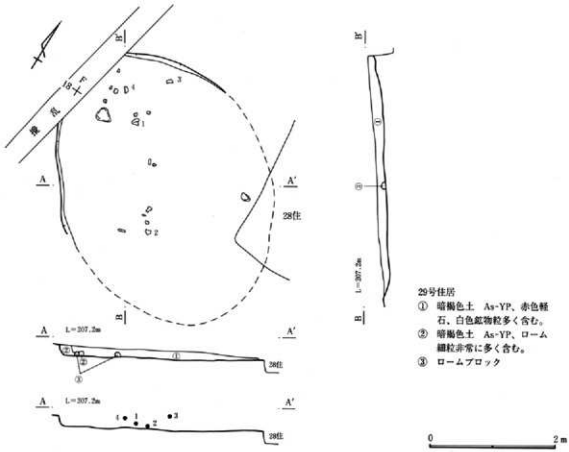
周溝　掘り方面で検出された。西壁と東壁に沿って検出されており、いずれも中央付近で切れている。最大幅40cm、深さは39cmを測る。

柱穴　ピットは６本検出された。位置、形状から判断すると６本すべてが主柱穴に相当すると思われる。周溝内にもピット状の窪みが確認できるため、補助的な整柱穴の存在も推測される。

炉　住居中央からやや北寄りの地点で検出された。北、西、東の３辺に礫を配した石囲炉である。また、扁平な礫を２石、炉底に敷いている。縁石及び、炉底の敷石はいずれも二次的に被熱しており、亀裂を生じているものもある。

遺物　黒浜（有尾）式土器を中心とする縄文土器片240点と石器類87点が出土している。そのうち土器189点と石器類64点を一括して取り上げた。土器は床から浮いた状態で出土しており、本住居の時期決定の材料となる床面からの出土は少なかった。また本住居からは、早期中葉の田戸下層式土器が２点出土している。８と23に図示したものである。

考察　図示したように、多型式にわたる土器が出土しているが、多くは埋没土中からの出土である。しかし、出土土器の多くを占める黒浜（有尾）式期の竪穴住居と考えることが、住居の形状からも妥当であろう。



第109図　29号住居

29号住居

位置　66区E-17グリッド他　**重複**　本住居の推定プラン上には弥生時代後期の28号住居が重なる。本住居の壁は検出されていないが、28号住居に切られているものと思われる。　**写真**　PL43

形状　長軸4.2m、短軸3.3mの楕円形を呈するものと思われる。

壁高　西から東への緩やかな斜面に占地するため、東から南にかけての壁は検出できなかった。西壁で、18cmを測る。　**面積**　不明

埋没土　暗褐色土を主体とし、観察によると自然に堆積した可能性が強い。

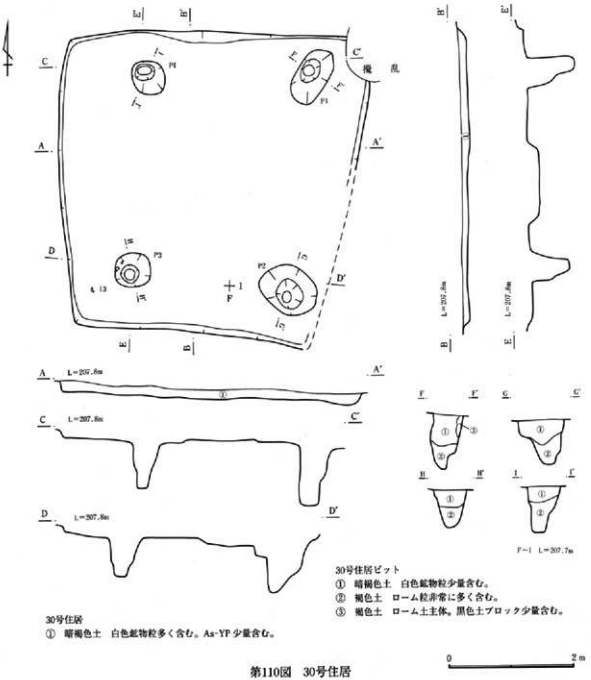
床面　北から南に向かって緩やかな傾斜を示す。床面はほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められない。

周溝、柱穴　検出されなかった。

炉　床面の調査では検出されなかった。焼土、灰の集中している部分も認められなかった。

遺物　縄文土器片26点と石器類9点が出土し、そのうち土器21点と石器類6点を一括して取り上げた。遺物量は少なく、小片のみで、器形を復元できる個体はなかった。

考察　炉、柱穴が検出されず、特に遺物の集中も認められないため、住居と認定するには問題があるかもしれないが、北側に比較的明瞭な壁が検出されており、床も検出されたことから住居とした。本住居の時期決定に関しては、前述のような遺物出土状況であるため、断定することは難しいが、床面近くから出土している1と2や、他の出土土器の様相から前期末から中期初頭の住居の可能性が高い。



第110図　30号住居

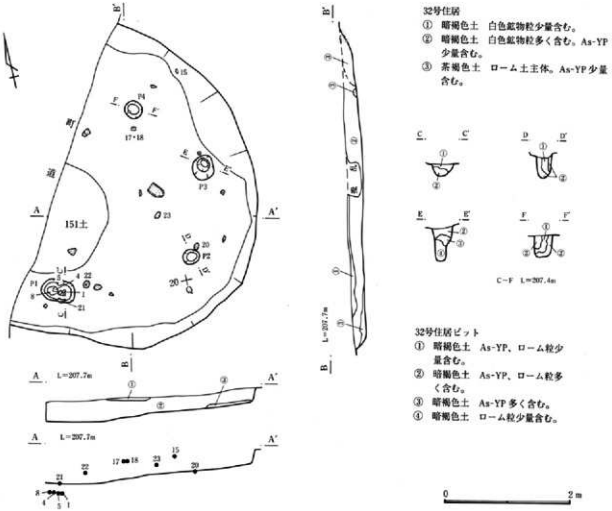
30号住居

位置　76区Ｆ-1グリッド他　**重複**　中期後半の153号土坑に切られる。　**写真**　ＰＬ43

形状　長軸4.7m、短軸3.9mの台形を呈する。

柱穴　４本検出された。いずれも主柱穴に相当すると思われる。　**炉**　検出されなかった。

遺物　縄文土器片157点と石器類34点が出土しており、そのうち土器155点と石器類33点を一括して取り上げた。　**考察**　北東隅が耕作によって攪乱を受けていることや住居形状から判断すると北東にカマドを持つ古代以降の住居の可能性もあるが、埋没土の様相、出土土器に土師器、須恵器類は含まれないことから、縄文時代の住居とした。ただし、形状に関しては誤認の可能性もある。出土土器は多型式にわたるが、出土遺物の中心をしめる加曽利Ｅ３式期の竪穴式住居と考えるのが妥当と思われる。



第111図　32号住居

32号住居

位置　66区Q-20グリッド他　**重複**　本住居の床下から151号土坑が検出されている。住居掘り下げの途中では確認できず、本住居の埋没土層にも現れないので、本住居より旧いと思われる。

写真　ＰＬ43

形状　半分近くを町道によって破壊されているが、径５ｍの円形を呈するものと思われる。

壁高　北壁は緩やかな立ち上がりになってしまうが、東壁は25cmを測る。

面積　不明　**埋没土**　暗褐色土を主体とする。観察によると自然に堆積した可能性が高い。

床面　南から北、東から西にかけて緩やかな傾斜を示す。床面は軟弱ではないが、特に硬化した部分も認められなかった。

周溝　検出されなかった。

柱穴　ピットは４本検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　検出されなかった。床からは焼土、灰の集中も確認できなかった。

遺物　勝坂式土器を中心とする縄文土器片182点と石器類81点が出土している。そのうち、土器175点と石器類65点を一括して取り上げた。いずれも小片で接合関係もほとんど認められない。１、４、５、８はＰ１内から出土している。それ以外は特に偏った出土の傾向は見られない。

考察　床面から出土の遺物は少ないが、他の遺物の様相から勝坂Ⅱ式期の竪穴住居であると思われる。

36号住居

位置　65区Ｉ-2グリッド他

調査に至る経過　本住居の上面で２号集石が検出されており、この集石の調査中、ピンポールによる土中の探索で、下面に配石が存在し、配石が広がりを持つことが確認された。住居のプランは確認できなかったが、敷石住居を想定して調査を開始した。しかし、本住居は、工事への引き渡し期日が迫っている時点で検出されたため、調査について十分な期間が確保できなかった。したがって、配石下面まで調査できず、炉および住居主体部の掘り方面の確認をすることができなかった。

重複　調査に至る経過で述べたように、本住居の上面で２号集石が検出された。どちらも配石遺構であるため、２号集石は本住居に関わる遺構とも考えられるが、後述するように本住居の配石面には攪乱を受けた痕跡は見あたらないため、本住居の配石の一部が２号集石として確認されたものではないと思われる。したがって２号集石は本住居が廃絶され、埋没してから構築されたものと思われる。

写真　ＰＬ44

形状　住居の半分近くが調査区外になるため、全体の形状は明らかではないが、主体部は隅丸方形を呈し、南側調査区外に柄部が存在する柄鏡形敷石住居になると思われる。調査された範囲での規模は、東西で3.3ｍを測る。

壁高　地山と埋没土が類似していたため、壁の確認は困難であった。後述するように住居床面の配石の縁に沿うように周礫が巡っていたため、この周礫外側に壁を想定して検出に努めた。しかし、明瞭な壁は検出できていないので、住居形状を含めて誤認の可能性がある。なお、確認面から配石面までの掘り込みは25cmを測る。　**面積**　不明

埋没土　黒褐色土を主体とする。地山との判別が困難であった。

配石　配石はほとんどが安山岩の自然礫で、調査された範囲では割石は用いられていない。主体部の全面に配石が施され、配石の隙間には小礫を充填している。また、配石の周囲には小礫と黒褐色土を土手状に盛り上げた周礫が巡っている。周礫は主体部西辺でよく残存しており、北辺と東辺では密度が薄く、途切れる部分が多い。西辺の周礫は配石面から12cmの高さを測る。住居床面の配石は後世の攪乱を受けた痕跡はなく、全面の敷石が残存していた。配石には、同心円状や放射状といった規格性は認められない。

周溝　検出できなかった。

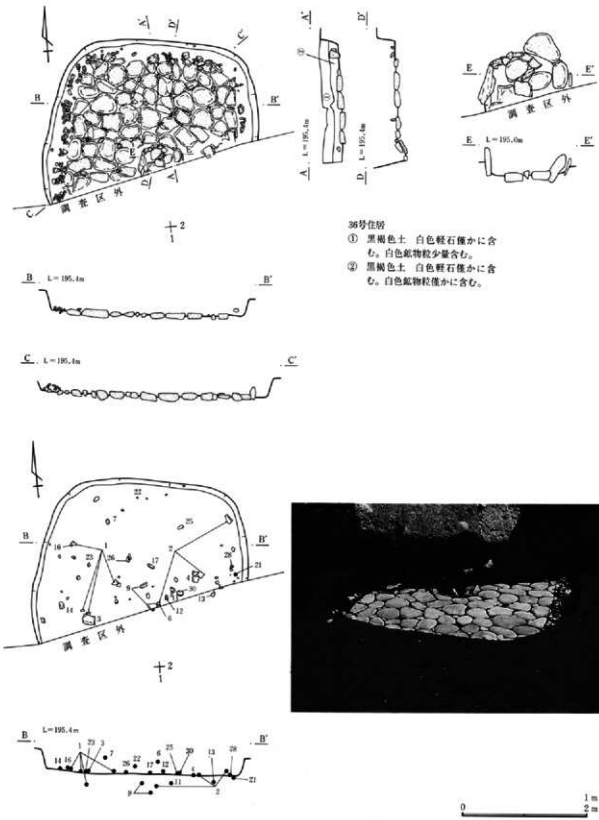
柱穴　床面の調査の段階では検出できなかった。16号、18号住居の例から判断すると床面の配石を施す前に柱穴を掘り、柱を立てていることから掘り方面では確認できたのではないかと思われる。

炉　調査区壁にかかる地点で検出された。住居主体部の中央あるいは、やや南寄りの地点と思われる。半分ほどが調査区外にあたるため、全体の形状は明らかでないが、周囲に礫を配した石囲炉である。また、炉底にも扁平な礫を敷いている。縁石および炉底敷石は二次的に被熱しており、特に西側の縁石は剥離を生じている。

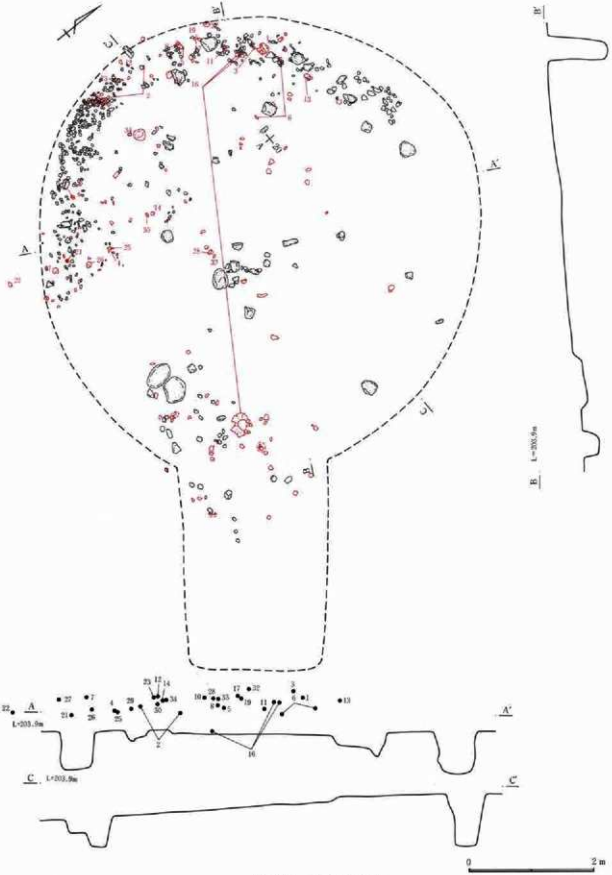
埋甕　調査された範囲では検出されなかった。

遺物　遺物の出土はあまり多くなく、加曽利Ｅ４式土器を中心とする縄文土器片78点と石器類58点が出土している。そのうち、土器49点と石器類23点を一括して取り上げた。土器は小片で、１と２がやや広範な接合関係を示すが、器形を復元するには至らなかった。14の三角柱状土製品は敷石の上に置かれたような状態で出土した。使途不明の土製品である。

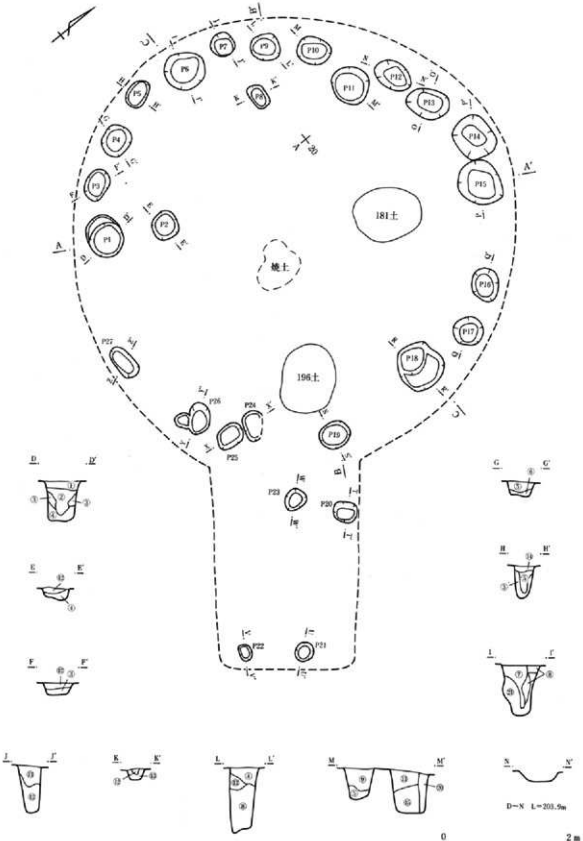
考察　加曽利Ｅ４式期の敷石住居である。当該期の敷石住居の例から判断して、南側調査区外に柄部の存在する柄鏡形の平面形を呈するものと思われる。


B
B'
A
A'
D
D'
E
E'
C
C'
L=195.4m
調査区外
36号住居
① 黒褐色土　白色軽石僅かに含む。白色鉱物粒少量含む。
② 黒褐色土　白色軽石僅かに含む。白色鉱物粒僅かに含む。
0
1m
2m

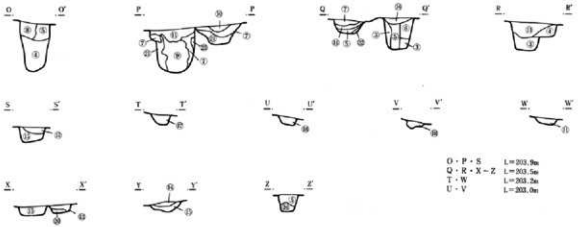
第112図　36号住居



第113図　45号住居（１）



第114図　45号住居（２）



45号住居ピット

① 暗茶褐色土　ローム粒少量含む。
② 暗茶褐色土　ローム粒多く含む。
③ 暗褐色土　ロームブロック少量含む。
④ 暗褐色土　ローム粒多く含む。
⑤ 暗褐色土　ローム粒少量含む。
⑥ 暗褐色土　ローム粒少量含む。ロームブロック僅かに含む。
⑦ 暗褐色土　ローム土少量含む。
⑧ 暗褐色土　ローム土多く含む。
⑨ 暗褐色土　ローム粒、As-YP僅かに含む。
⑩ 暗褐色土　白色鉱物粒僅かに含む。
⑪ 暗褐色土　ローム粒少量含む。As-YP僅かに含む。
⑫ 黒褐色土　ローム粒僅かに含む。
⑬ 黒褐色土　ローム粒少量含む。
⑭ 黒褐色土　白色鉱物粒少量含む。
⑮ 黒褐色土　ローム粒多く含む。
⑯ 黒褐色土　暗褐色土僅かに含む。
⑰ 黒褐色土　ローム粒少量含む。白色鉱物粒僅かに含む。
⑱ 黒褐色土　ローム粒少量含む。As-YP、白色鉱物粒僅かに含む。
⑲ 黒褐色土　As-YP僅かに含む。
⑳ 暗黄褐色土　ローム土主体。
㉑ 茶褐色土　ローム土多く含む。粘質。
㉒ 黄褐色土　ローム土主体。

0　2m

第115図　45号住居（３）

45号住居

位置　65区Ｔ-19グリッド他　**方位**　N-48°-W

調査に至る経過　66区のＡラインにセクションベルトを残し、ベルトの東側で遺構確認をしていたところ黒褐色土中に遺物と小礫の集中が確認された。しかし遺構のプランは確認できなかったのでそのまま黒褐色土を掘り下げていった。しかし、ベルトの西側では小礫が環状に巡り、また、ピットも環状に確認できたことから、周礫が巡る敷石住居と判断して調査を行った。　**写真**　ＰＬ45

重複　本住居の上面で３号掘立柱建物が検出されている。同様に弥生時代のものと思われる169号土坑も検出されている。いずれも本住居の床面までは達していない。また、縄文時代前期と思われる181号土坑と時期不明の196号土坑を切る。

形状　埋没土が地山と類似し、住居プランは確認できなかったが、敷石住居であり、柄鏡形の平面形を呈すると思われる。柱穴から判断すると主体部の形状は円形で、主体部の規模は、径７ｍ、全体の長軸は10.3ｍを測る。　**面積**　不明

埋没土　黒褐色土であったが地山との判別が困難であった。　**壁高**　壁を検出できなかった。

配石　主体部に周礫が巡る。住居東側部分では掘り下げてしまったため、確認できない。残存している南西部分では小礫の密度が高い。

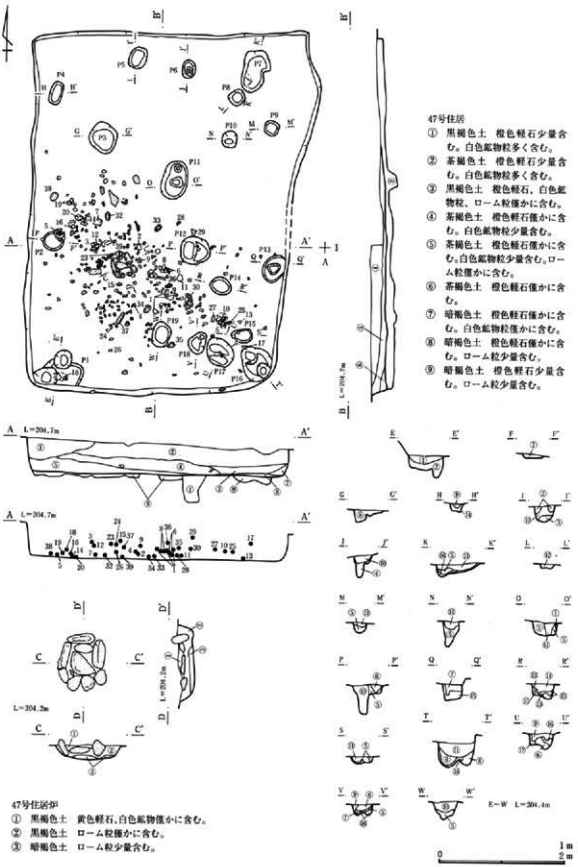
柱穴　ピットは27本検出された。Ｐ１、Ｐ５、Ｐ６、Ｐ７、Ｐ９、Ｐ10、Ｐ13、Ｐ15、Ｐ16、Ｐ18は柱穴に相当すると思われる。

炉　主体部中央付近で焼土の集中が確認された。掘り込みは確認できなかった。この焼土の上位で礫が集中しているため、石囲炉であった可能性もある。

埋甕　主体部と柄部の連結部と思われる地点に正位で埋設されていた。口縁を欠く無文土器である。

遺物　堀之内１式土器を中心とする縄文土器片249点と石器類73点が出土し、土器141点と石器類45点を一括して取り上げた。遺物は周礫直上、あるいは周礫内から出土するものが多かった。１は堀之内１式の注口土器である。

考察　周礫の状況、埋甕の位置から柄鏡形敷石住居であると判断した。堀之内１式期であろう。


47号住居
① 黒褐色土　橙色軽石少量含む。白色鉱物粒多く含む。
② 茶褐色土　橙色軽石少量含む。白色鉱物粒多く含む。
③ 黒褐色土　橙色軽石、白色鉱物粒、ローム粒僅かに含む。
④ 茶褐色土　橙色軽石僅かに含む。白色鉱物粒少量含む。
⑤ 茶褐色土　橙色軽石僅かに含む。白色鉱物粒少量含む。ローム粒僅かに含む。
⑥ 茶褐色土　橙色軽石僅かに含む。
⑦ 暗褐色土　橙色軽石僅かに含む。白色鉱物粒僅かに含む。
⑧ 暗褐色土　橙色軽石僅かに含む。ローム粒少量含む。
⑨ 暗褐色土　橙色軽石少量含む。ローム粒少量含む。
47号住居炉
① 黒褐色土　黄色軽石、白色鉱物僅かに含む。
② 黒褐色土　ローム粒僅かに含む。
③ 暗褐色土　ローム粒少量含む。
A L=204.7m
C L=204.2m
D L=204.3m
E-W L=204.4m
0 1m 2m

第116図　47号住居

47号住居ピット

① 暗褐色土　ローム粒、橙色軽石僅かに含む。
② 暗褐色土　ローム粒多く含む。
③ 暗褐色土　暗色帯主体。黒褐色土僅かに含む。
④ 暗褐色土　よごれたローム土含む。
⑤ 暗褐色土　ローム粒少量含む。
⑥ 暗褐色土　ローム粒僅かに含む。
⑦ 黒褐色土　ローム粒少量含む。
⑧ 黒褐色土　ローム粒多く含む。白色紙物粒少量含む。
⑨ 黒褐色土　ローム粒僅かに含む。
⑩ 黒褐色土　ローム粒少量含む。As-YP僅かに含む。
⑪ 黒褐色土　ローム粒、白色紙物粒少量含む。As-YP僅かに含む。
⑫ 黒褐色土　橙色軽石僅かに含む。
⑬ 黒褐色土　黄褐色土多く含む。
⑭ 黄褐色土　ローム土主体。
⑮ 黄褐色土　ローム土主体。暗褐色土僅かに含む。
⑯ 暗黄褐色土　ローム土主体。暗褐色土僅かに含む。
⑰ 暗黄褐色土　ローム粒少量含む。

47号住居

位置　76区Ａ-1グリッド他　**方位**　N-2°-E

調査に至る経過　76区Ａ-1グリッドでは、遺構確認作業中から前期前半の土器がかなり多量に出土していたが、遺構のプランを確認することができなかった。南側の66区Ａ-20グリッドでは、遺物の集中の様相から住居の存在を想定して遺構確認を慎重に行ったところ、本住居のプランを確認することができた。そのラインを北へ延長して、本住居の北半のプランを推定した。掘り方調査においては、北半でも壁を確認することができた。したがって、平面図における北側のＡ-1グリッドでの本住居の壁は掘り方面によるものである。　**写真**　ＰＬ46

重複　後期初頭の埋甕である175号土坑および時期不明の173号土坑が本住居の上面で検出されている。いずれも本住居の床面には達していない。

形状　長軸5.71ｍ、短軸4.08ｍを測る長方形を呈する。東壁の北端のプランがやや乱れているので、南辺よりも北辺が長い台形様の平面形を呈する可能性も考えられる。

埋没土　茶褐色土を主体とする。観察によると自然に堆積した可能性が高い。①は②④⑤を切るように堆積しており、調査時に確認できなかった別遺構の可能性もある。

床面　ほぼ平坦で、特に硬化した部分は検出されなかった。　**壁高**　西壁で51cmを測る。

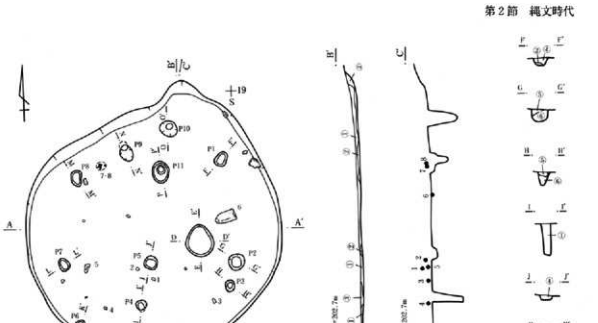
周溝　検出されなかった。

柱穴　ピットは19本検出された。Ｐ１、Ｐ３、Ｐ10、Ｐ17が主柱穴に相当するのではないかと思われる。また、Ｐ５、Ｐ６は入口施設に関するピットの可能性もある。

炉　住居中央から約１ｍ南西に寄った地点で検出された。北辺に１石、西、東、南辺にはそれぞれ２石を配し、炉底にも２石を配している、石囲炉である。炉の規模は長軸で90cm、短軸で75cmを測る。床からの掘り込みは非常に浅く、床面を検出した段階で、炉底敷石の一部が確認できるほどであった。炉の埋没土および掘り方土層から焼土や灰は検出されなかったが、縁石及び炉底敷石はすべて二次的に被熱しており、剥離や亀裂を生じているものもある。

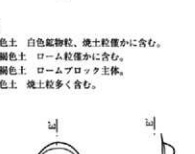
遺物　黒浜（有尾）式を中心とする縄文土器片270点と石器類44点が出土している。そのうち、土器144点と石器類13点を一括して取り上げた。遺物出土状況図では南半部に集中しているように見えるが、北半は遺構確認作業中に一括して取り上げてしまったものが多いためである。土器は小片が多かったが、５は、床面で口縁を下にした状態で出土している。床面からやや浮いた状態で出土している遺物が多く、黒浜（有尾）式だけでなく、関山Ⅰ式と思われる土器も多く出土している。

考察　上述したように黒浜式土器と関山Ⅰ式土器が出土している。５は黒浜式と考えられるが、同様に床面直上から出土している14、20は関山Ⅰ式と思われる。したがって本住居の時期決定に関しては、前期前半としておくに留めたい。



48号住居
① 暗褐色土　白色鉱物粒、焼土粒僅かに含む。
② 暗黄褐色土　ローム粒僅かに含む。
③ 暗黄褐色土　ロームブロック主体。
④ 赤褐色土　焼土粒多く含む。

48号住居ピット
① 黒褐色土　ローム粒、橙色軽石僅かに含む。
② 暗褐色土　ローム土主体。黒褐色土僅かに含む。
③ 暗褐色土　ローム粒少量含む。
④ 黒褐色土　ローム粒多く含む。白色鉱物粒僅かに含む。
⑤ 黒褐色土　白色鉱物粒僅かに含む。
⑥ 暗褐色土　ローム粒僅かに含む。
⑦ 黒褐色土　ローム粒少量含む。



48号住居炉
① 暗赤褐色土　焼土粒多く含む。白色鉱物粒僅かに含む。
② 黒褐色土　焼土粒僅かに含む。

第117図　48号住居

48号住居

位置　65区S−18グリッド他　**写真**　PL46

重複　本住居の上面で11世紀前半の39号住居が検出されている。本住居の壁、床までは達していない。

形状　長軸4.04m、短軸3.96mのほぼ円形を呈するが、北側に突出部を持つ。　**面積**　11.3m²

埋没土　暗褐色土を主体とする。　**床面**　北から南へ緩やかな傾斜を示す。　**壁高**　西壁で９㎝を測る。

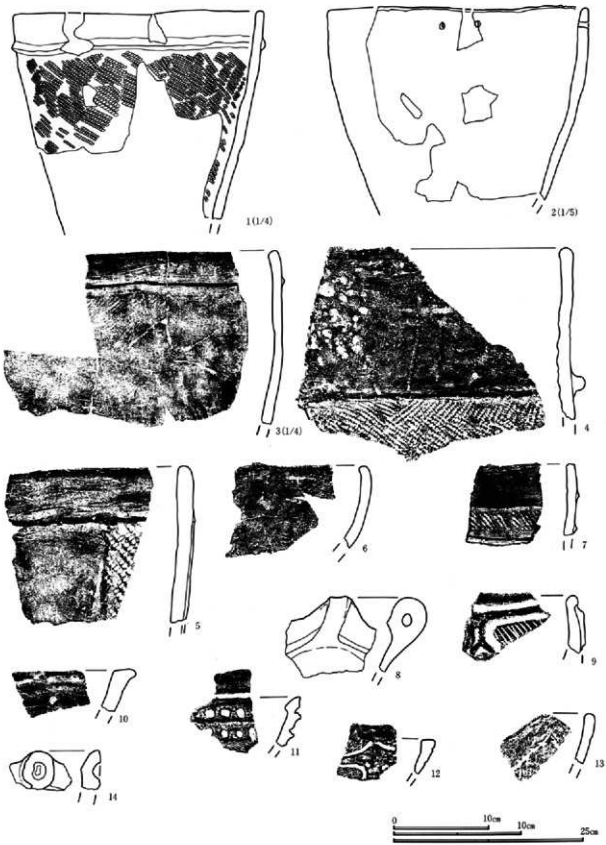
柱穴　ピットは11本検出された。P４、P９、P10、P11以外は浅いものである。P４と、P10あるいはP11が主柱穴となる二本柱の住居になると思われる。

炉　住居中央から約70㎝南東で検出された。長軸53㎝、短軸45㎝を測る、ほぼ円形の地床炉である。

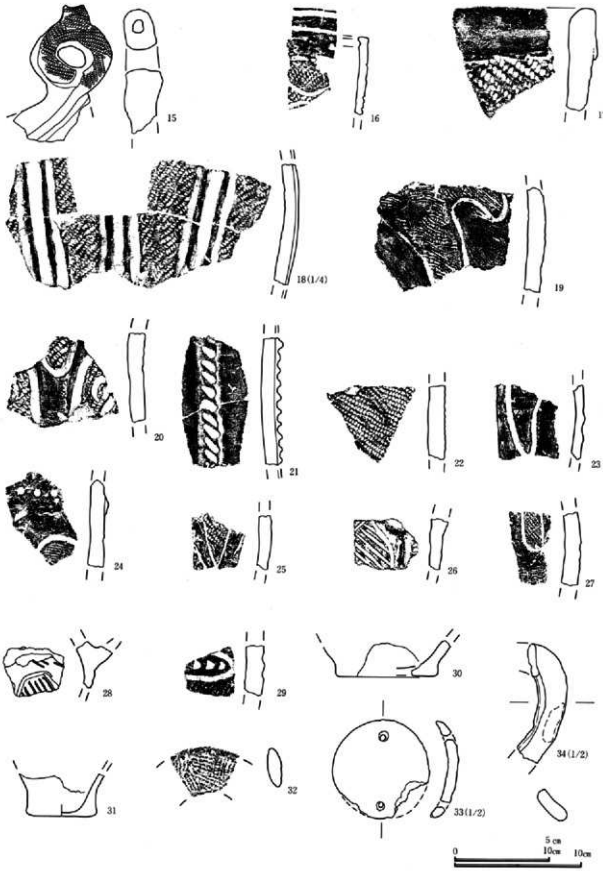
遺物　縄文土器片８点と石器類17点が出土した。

考察　出土土器の様相から、前期前半の竪穴式住居と思われる。

3　住居出土の遺物

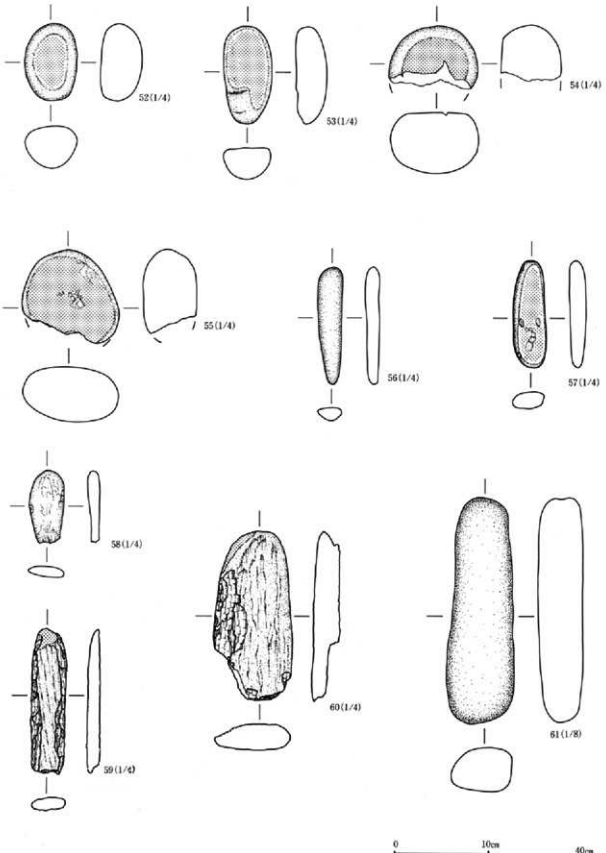


第118図　１号住居出土遺物（１）



第119図　１号住居出土遺物（２）

第120図　１号住居出土遺物（３）



第121図　１号住居出土遺物（４）

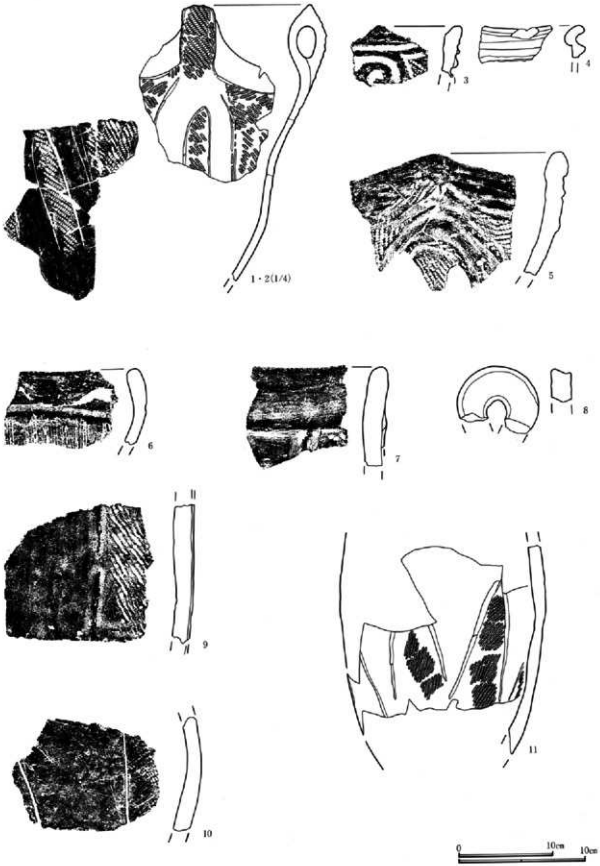
１号住居出土土器観察表（第118、119図　ＰＬ47、48）

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁～ 胴部1/2 残存	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を含む	口径26.5cm。断面三角の隆帯が巡る。地文は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曽利Ｅ４式
2 深鉢	口縁～ 胴部1/2 残存	①普通 ②暗褐色 ③砂を少量含む	無文。粗製土器。径７mmの補修孔が２つ口唇部に穿孔されている。	加曽利Ｅ４式
3 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい橙 ③砂を含む	断面三角の隆帯を巡らす。原体ＬＲの単節斜縄文を一部に施文するが、それ以外は無文。	加曽利Ｅ４式
4 深鉢	口縁部片	①普通 ②淡黄色 ③砂粒を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち、原体ＬＲの単節斜縄文を方向を変えて羽状に施文する。隆帯には舌状の突起を有する。	加曽利Ｅ４式
5 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち、乗下。地文は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施す。内、外面磨き。	加曽利Ｅ４式
6 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい褐色 ③砂、雲母を含む	無文。口縁がやや内弯する。	—
7 深鉢	口縁部片	①普通 ②黒褐色 ③細砂を含む	断面三角の隆帯を２本巡らしたのち、原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施す。内面磨き。	—
8 深鉢	口縁把手	①普通 ②にぶい黄橙 ③細砂を少量含む	波状口縁を呈する把手。口唇部と平行に断面三角の隆帯が巡ると思われる。内面に炭化物付着。	加曽利Ｅ４式
9 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい褐色 ③砂を含む	隆帯によって区画。区画内は手載竹管状工具による沈線を充填。	加曽利Ｅ３式
10 浅鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を含む	無文。口唇部が外側に肥厚する。外面磨き。	—
11 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂、小礫を含む	折り返し状の口縁。断面三角の隆帯を２本巡らし、その上に棒状工具による刺突文を施す。	加曽利Ｅ４式
12 深鉢	口縁部片	①普通 ②赤褐色 ③砂を含む	波状口縁。原体ＲＬの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線で文様を描出する。	—
13 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を多量に含む	波状口縁を呈する。口縁と平行に沈線が巡る。	加曽利Ｅ４式
14 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい橙 ③砂粒ごく少量含む	波状口縁を呈する。断面台形の隆帯で円形文を描出する。	—
15 深鉢	口縁把手	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂、小礫を含む	環状を呈する把手。原体ＬＲの単節斜縄文を乱雑に施文。内外面磨き。	加曽利Ｅ４式
16 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい褐色 ③細砂を含む	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文したのち、棒状工具による沈線で区画。口唇部内側に沈線が巡る。	堀之内式
17 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂、小礫を少量含む	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文したのち、頸部に低い隆帯を貼付する。	加曽利Ｅ４式
18 深鉢	胴部片	①普通 ②橙 ③砂を含む	原体ＲＬの単節斜縄文を施文したのち、低い隆帯とそれに沿った沈線を乗下。	加曽利Ｅ３式
19 深鉢	胴部片	①普通 ②灰褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線で文様を描出したのち、原体Ｒｔの無節斜縄文を施文する。	称名寺Ｉ式
20 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂、少量の雲母を含む	原体ＲＬの単節斜縄文を施文したのち、凹線で文様を描出する。	加曽利Ｅ３式
21 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③細砂を含む	棒状工具の押圧による刻みをつけた隆帯を乗下。	称名寺Ｉ式
22 深鉢	胴部片	①普通 ②黒 ③砂、雲母を少量含む	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文。	中期後半～末
23 深鉢	胴部片	①普通 ②赤褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線でＵ型の文様を描出する。	称名寺Ｉ式
24 深鉢	胴部片	①普通 ②明褐色 ③砂を含む	棒状工具による刺突文をつけた隆帯が巡る。胴部には沈線による区画ののち、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文。	加曽利Ｅ３式
25 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③細砂、少量の石英を含む	原体ＬＲの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線でＶ型の文様を描出する。	加曽利Ｅ４式
26 深鉢	胴部片	①普通 ②明赤褐色 ③砂を含む	隆帯で区画をなし、区画内は棒状工具による沈線を充填。	中期後半～末
27 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を含む	棒状工具による沈線でＵ型の区画を描出し、区画内に原体ＬＲの単節斜縄文を施文。	中期後半～末
28 深鉢	胴部片	①普通 ②橙 ③砂を含む	横状の把手の下に、棒状工具による凸型の区画を描出し、区画内に原体Ｒの熱糸を施文。	加曽利Ｅ３式
29 深鉢	胴部片	①普通 ②浅黄橙 ③砂を含む	沈線で楕円形の区画をなし、区画内は半截竹管状工具による刺突文を施す。地文には原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文。	—

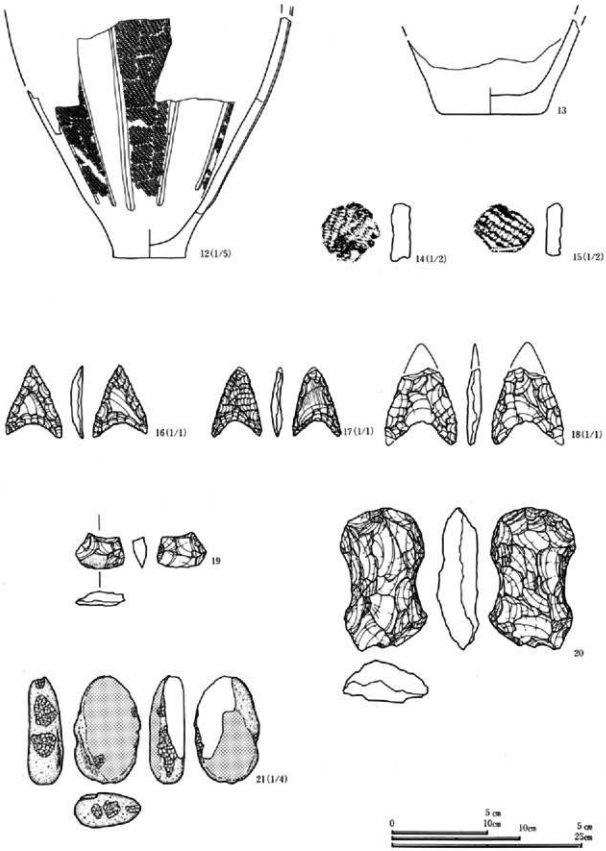
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
30 深鉢	底部片	①普通 ②橙 ③砂、少量の雲母を含む	無文。外面磨き。	—
31 深鉢	底部片	①普通 ②橙 ③砂を少量含む	無文。内、外面磨き。	—
32	口縁把手	①普通 ②明赤褐色 ③石英を含む	楕状の把手か。原体RLの単節斜縄文を乱雑に施文。	中期後半～末
33 土製品	蓋状土器	①普通 ②橙 ③砂を少量含む	径5.2cm。径3mmの孔が焼成前に穿孔。	—
34 土製品		①普通 ②にぶい橙 ③砂を少量含む	貝輪状土製品。	—

1号住居出土石器計測表（第120、121図　PL48、49）

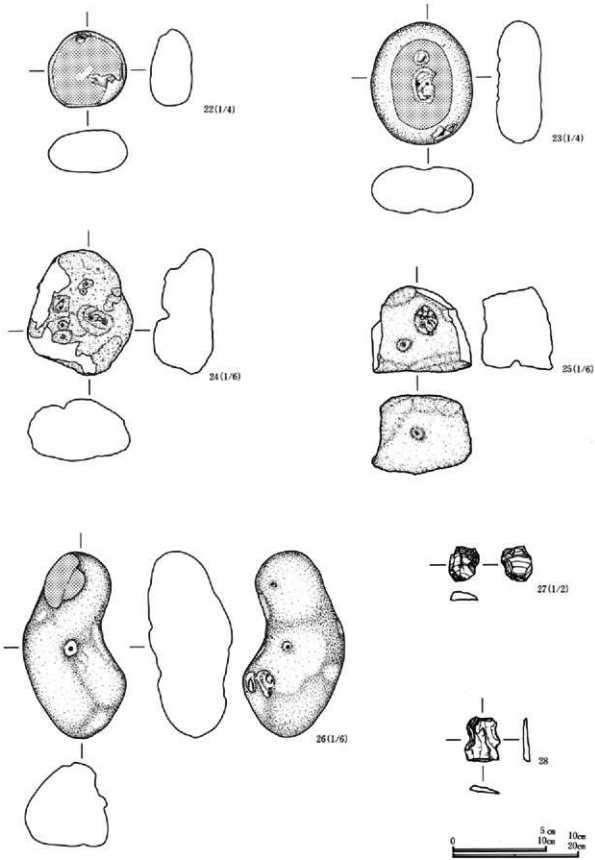
番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
35	石鏃	完	① 1.6 ② 1.3 ③ 0.3 ④ 0.5	黒曜石	
36	石鏃	完	① 1.85 ② 1.65 ③ 0.35 ④ 0.7	黒曜石	
37	石鏃	基部欠	① (3.1) ② (2.0) ③ (0.6) ④ 2.7	黒色安山岩	
38	石鏃	完	① 1.8 ② 1.7 ③ 0.3 ④ 0.6	珪質頁岩	
39	使剥		① 3.4 ② 1.4 ③ 0.5 ④ 1.5	黒曜石	
40	石核		① 3.5 ② 6.5 ③ 4.35 ④ 74.1	黒曜石	
41	石核		① 3.4 ② 3.7 ③ 2.3 ④ 26.7	黒曜石	
42	剥片		① 2.3 ② 3.5 ③ 1.15 ④ 8.2	黒曜石	
43	使剥		① 2.3 ② 2.7 ③ 1.0 ④ 4.1	黒曜石	
44	石核		① 3.25 ② 1.65 ③ 1.1 ④ 6.5	黒曜石	
45	加剥		① 3.3 ② 3.7 ③ 0.6 ④ 4.8	黒色頁岩	
46	スクレイパー	完	① 6.2 ② 3.1 ③ 0.9 ④ 14.7	黒色頁岩	
47	打斧	1／4	① (3.8) ② (3.5) ③ (1.0) ④ 18.2	黒色頁岩	
48	打斧	基部欠	① (7.6) ② (6.1) ③ (1.8) ④ 78.2	細紋輝石安山岩	スクレイパーの可能性あり。
49	打斧	1／4	① (5.8) ② (5.8) ③ (1.9) ④ 60.3	黒色頁岩	
50	打斧	1／4	① (5.2) ② (4.55) ③ (1.35) ④ 31.9	細紋輝石安山岩	
51	加剥		① 4.0 ② 4.6 ③ 1.0 ④ 15.9	細紋輝石安山岩	
52	磨石	完	① 8.1 ② 5.6 ③ 4.4 ④ 277.5	粗紋輝石安山岩	
53	磨石	完	① 10.2 ② 5.2 ③ 3.4 ④ 270.0	粗紋輝石安山岩	
54'	磨石	一部欠	① (6.6) ② (9.5) ③ (6.4) ④ 515.2	粗紋輝石安山岩	
55	磨石	一部欠	① (9.8) ② (10.3) ③ (5.7) ④ 756.2	粗紋輝石安山岩	
56	石棒状石器	完	① 12.4 ② 2.7 ③ 1.4 ④ 72.7	緑色片岩	
57	石棒状石器	完	① 11.3 ② 3.5 ③ 1.8 ④ 124.1	緑色片岩	一部に磨り面。
58	石棒状石器	一部欠	① (7.7) ② (3.7) ③ (1.3) ④ 49.1	緑色片岩	
59	石棒状石器	一部欠	① (15.3) ② (3.9) ③ (1.45) ④ 124.4	黒色片岩	両側縁に加工痕あり。
60	石棒状石器	一部欠	① (18.0) ② (8.5) ③ (2.8) ④ 609	黒色片岩	
61	石棒状石器	完	① 47.5 ② 14.2 ③ 9.5 ④ 10700	粗紋輝石安山岩	



第122図　2号住居出土遺物（1）



第123図　2号住居出土遺物（2）



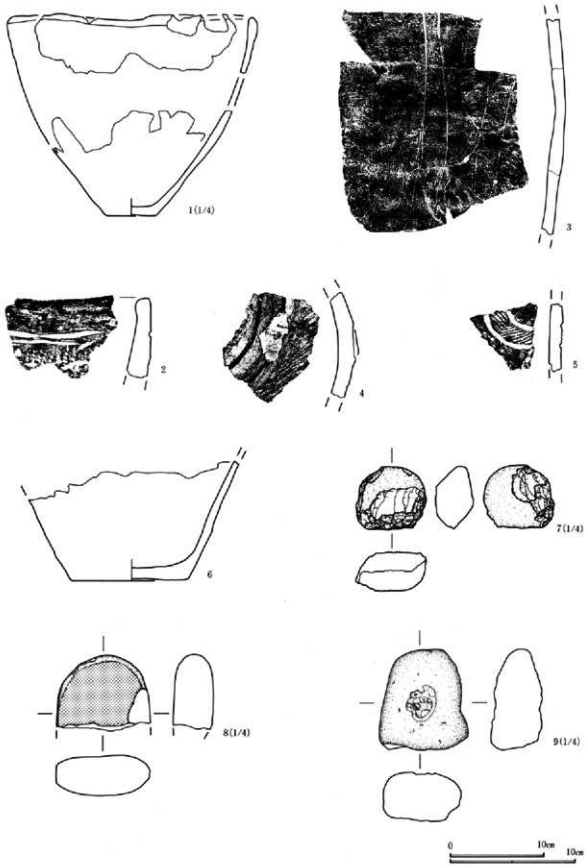
第124図　２号住居出土遺物（３）

２号住居出土土器観察表（第122、123図　ＰＬ49、50）

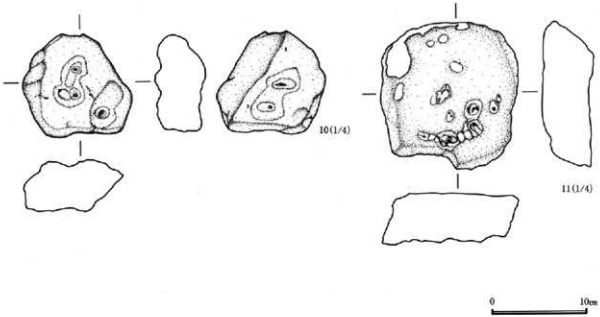
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を含む	波状口縁を呈し、横状の把手を有する。把手の下部から棒状工具による沈線を垂下したのち、原体ＬＲの単節斜縄文を方向を変えて羽状に施文する。	加曽利Ｅ４式
2 深鉢	胴部	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を含む	１と同一個体と思われる。	加曽利Ｅ４式
3 深鉢	口縁部片	①普通 ②暗灰黄 ③砂、雲母を含む	棒状工具による沈線で文様を描出したのち、原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。口縁に丢状の突起が付く。	加曽利Ｅ３式
4 浅鉢	口縁部片	①普通 ②褐色 ③細砂を含む	外反する口唇部の下部に断面三角の隆帯が巡る。	加曽利Ｅ３式
5 深鉢	口縁部片	①普通 ②暗赤褐色 ③砂、少量の雲母を含む	波状口縁を呈する。口縁の単位は不明。断面三角の隆帯で文様を描出したのち、原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	加曽利Ｅ４式
6 深鉢	口縁部片	①普通 ②暗黄褐色 ③砂を含む	口縁部に浅い沈線を巡らしたのち、櫛歯状工具による沈線を垂下させる。	加曽利Ｅ３式
7 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち、垂下。原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文。	加曽利Ｅ４式
8 深鉢	把手	①普通 ②明赤褐色 ③砂、少量の雲母を含む	環状を呈する把手。	—
9 深鉢	胴部片	①普通 ②暗灰黄 ③砂を含む	断面三角の隆帯を垂下。原体しの無節斜縄文を縦位に施文。（原体に突起を有すると思われる）	加曽利Ｅ４式か
10 深鉢	胴部片	①普通 ②赤褐色 ③砂を含む	原体ＲＬの単節斜縄文を施文したのち、外面磨きを施し、棒状工具による沈線を垂下。	加曽利Ｅ４式
11 深鉢	胴部2/3	①普通 ②にぶい橙 ③砂を含む	原体ＲＬの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線で〇型の文様を描出する。	加曽利Ｅ４式
12 深鉢	胴一底部	①普通 ②橙 ③砂を少量含む	底径9.2cm。断面三角の隆帯を垂下させたのち、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文。胴部の文様は６単位。	加曽利Ｅ４式
13 深鉢	1/2残存 底部片	①普通 ②明赤褐色 ③砂を含む	無文。外面に磨き。	加曽利Ｅ式
14 土製品	土製円盤 完存	①普通 ②明褐色 ③砂を少量含む	径3.0×2.9cm。側縁は打ちかき後に磨き整形。原体ＲＬの単節斜縄文を施文。深鉢胴部と思われる。	—
15 土製品	土製円盤 完存	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を含む	径3.1×2.8cm。六角形に近い円形を呈する。側縁は打ちかき後に磨き整形。原体ＬＲの単節斜縄文を施文。一部に棒状工具による沈線。深鉢胴部と思われる。	—

２号住居出土石器計測表（第123、124図　ＰＬ50）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
16	石鏃	完	① 1.5 ② 1.9 ③ 0.35 ④ 0.6	黒曜石	
17	石鏃	先端部欠	①(1.8) ②(1.4) ③(0.3) ④ 0.4	黒曜石	
18	石鏃	先端部欠	①(1.9) ②(2.1) ③(0.4) ④ 1.2	チャート	
19	加工剥		① 2.8 ② 3.9 ③ 1.1 ④ 10.9	硬質泥岩	
20	打斧	刃部欠	①(11.2) ②(6.8) ③(3.0) ④ 266.9	黒色頁岩	
21	敲石	完	① 11.4 ② 7.1 ③ 3.7 ④ 413.7	細粒輝石安山岩	
22	磨石	完	① 8.0 ② 8.3 ③ 4.5 ④ 435.5	細粒輝石安山岩	
23	凹石	完	① 12.9 ② 10.9 ③ 4.9 ④ 875.2	細粒輝石安山岩	
24	多孔石	完	① 19.7 ② 16.6 ③ 9.6 ④ 3600	細粒輝石安山岩	
25	多孔石	一部欠？	①(13.4) ②(15.7) ③(11.2) ④ 3220	細粒輝石安山岩	
26	多孔石	完	① 29.4 ② 16.1 ③ 13.2 ④ 7330	細粒輝石安山岩	一部に磨り面。
27	剥片		① 1.8 ② 1.6 ③ 0.5 ④ 1.5	黒曜石	
28	剥片		① 3.4 ② 2.8 ③ 0.6 ④ 5.6	硬質泥岩	



第125図　３号住居出土遺物（１）



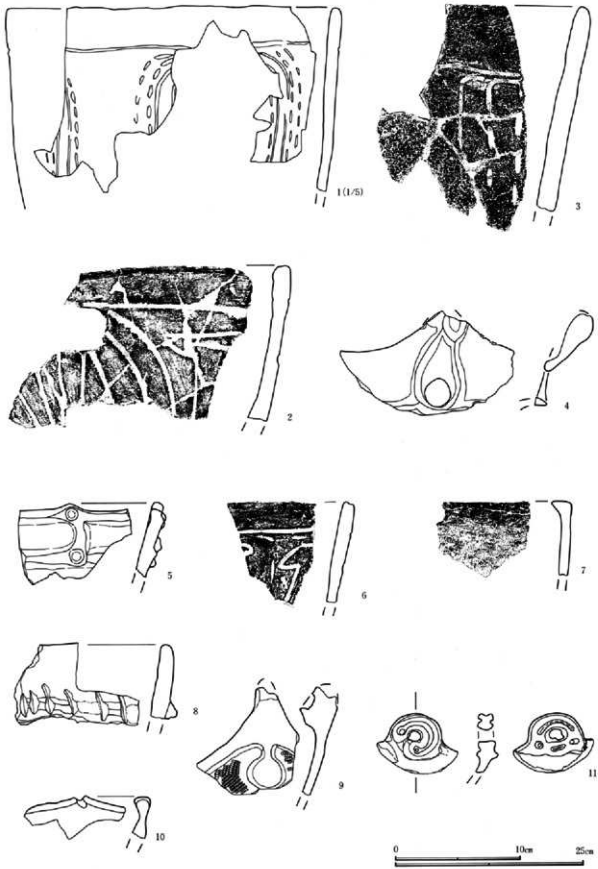
第126図　３号住居出土遺物（２）

３号住居出土土器観察表（第125図　ＰＬ50、51）

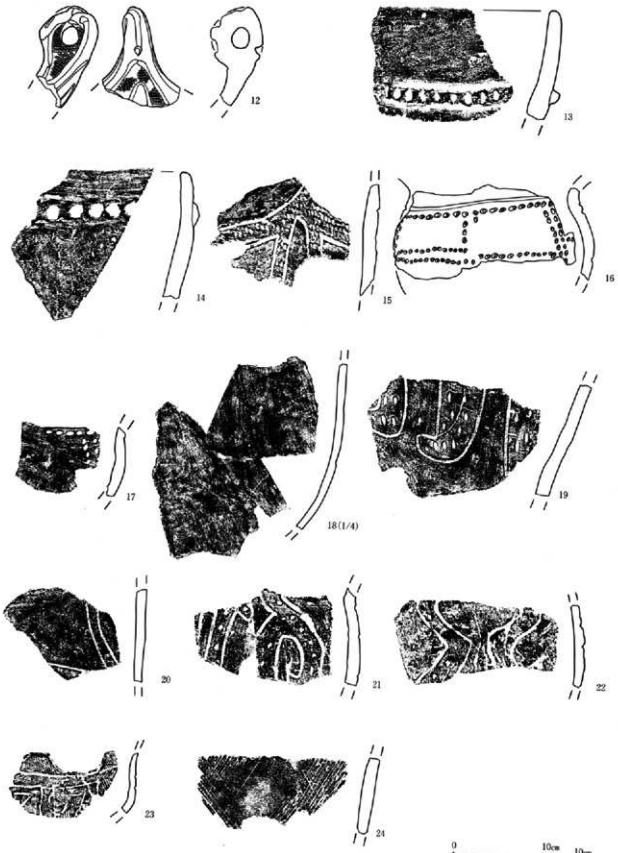
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁～底部1/3残存	①良好 ②赤褐色 ③砂を含む	口径(25.8)cm。器高(21.3)cm。底径5.4cm。外面は磨き。埋甕。	加曽利Ｅ４式
2 深鉢	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③雲母砂を含む	棒状工具による沈線を２条巡らしたのち、原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。	加曽利Ｅ４式
3 深鉢	胴部片	①良好 ②にぶい黄褐色 ③雲母砂を含む	棒状工具による浅い沈線を垂下させる。	加曽利Ｅ４式か
4 深鉢	胴部片	①良好 ②灰黄褐色 ③砂を含む	原体ＲＬの単節斜縄文を施文したのち、断面三角の低い隆帯で文様を描出する。	—
5 深鉢	胴部片	①良好 ②にぶい黄褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線で文様を描出したのち、原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。	加曽利Ｅ４式
6 深鉢	底部	①良好 ②にぶい黄橙 ③砂を含む	底径9.4cm。胴部は無文。二次的に被熱。炉体土器。	—

３号住居出土石器計測表（第125、126図　ＰＬ51）

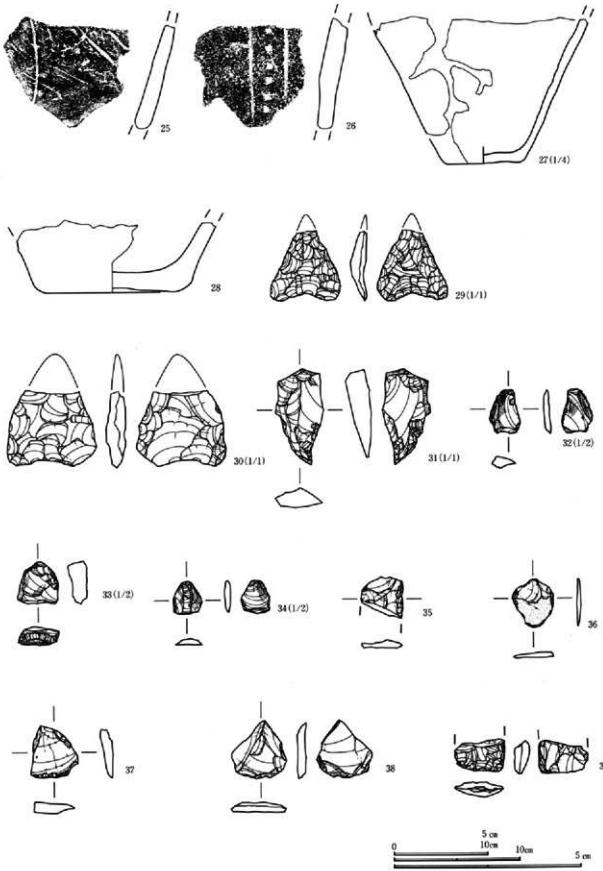
番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
7	石核		① 6.7 ② 7.45 ③ 4.1 ④ 254.7	チャート	
8	磨石	１／２	① (8.0) ②(10.0) ③ (4.3) ④ 522.8	模擬輝石安山岩	
9	凹石	一部欠	①(10.6) ② (9.5) ③ (5.5) ④ 709.6	模擬輝石安山岩	
10	多孔石	完	① 10.8 ② 11.6 ③ 5.5 ④ 711.5	模擬輝石安山岩	
11	多孔石	完	① 15.5 ② 14.7 ③ 5.6 ④ 1583	模擬輝石安山岩	



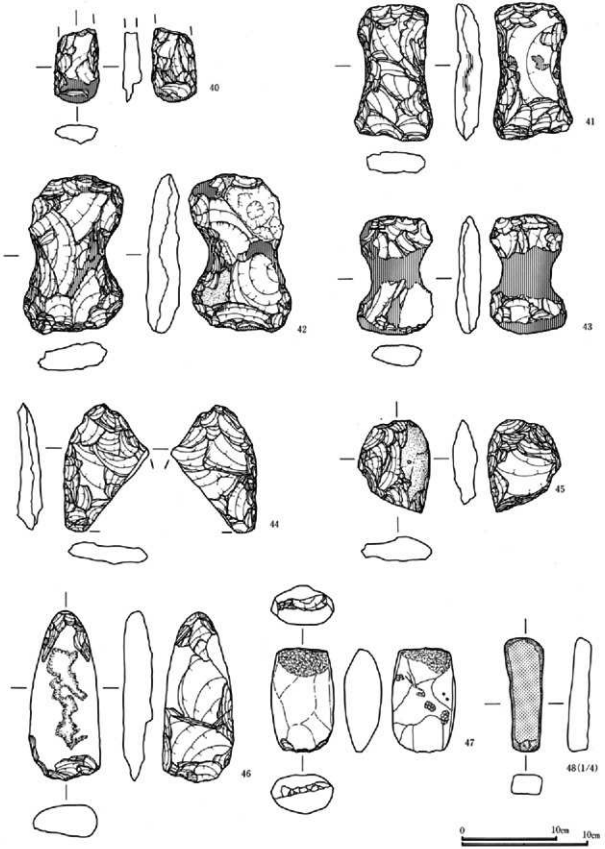
第127図　16号住居出土遺物（１）



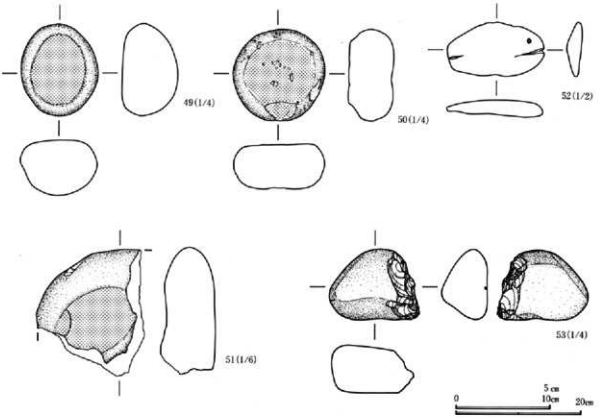
第128図　16号住居出土遺物（２）



第129図　16号住居出土遺物（３）



第130図　16号住居出土遺物（4）



第131図　16号住居出土遺物（５）

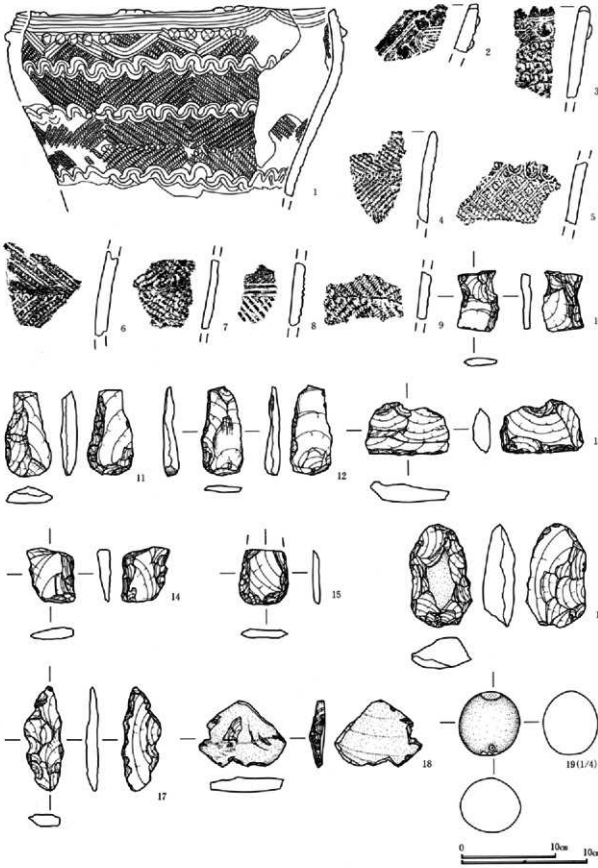
16号住居出土土器観察表（第127～129図　ＰＬ51、52）

番号	部位	①焼成　②色調　③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部	①普通　②浅黄 ③砂を含む	棒状工具による沈線を頸部に巡らし、同様の沈線で２条の⌒型の文様を描出し、その外側に短沈線を巡らす。	称名寺Ⅱ式
2 深鉢	口縁部	①普通　②にぶい赤褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線を頸部に巡らし、同様の沈線で文様を描出する。	称名寺Ⅱ式
3 深鉢	口縁部	①普通　②浅黄橙 ③砂を含む	棒状工具による沈線を頸部に巡らし、同様の沈線と短沈線で文様を描出する。	称名寺Ⅱ式
4 浅鉢	口縁部	①普通　②黒褐色 ③砂を少量含む	波状口縁を呈する。断面三角の隆帯で文様を描出する。	称名寺Ⅰ式
5 深鉢	口縁部	①普通　②黒褐色 ③砂を少量含む	注2.2cmの円孔を持つ。内、外面磨き。浅鉢形の注口土器か。	堀之内１式か
6 深鉢	口縁部	①普通　②橙 ③砂を含む	棒状工具による沈線を頸部に巡らし、同様の沈線と短沈線で文様を描出する。	称名寺Ⅱ式
7 深鉢	口縁部	①普通　②にぶい橙 ③砂を含む	無文。口唇部は内側に肥厚する。	称名寺Ⅱ式
8 深鉢	口縁部	①普通　②黒 ③砂を含む	隆帯を頸部に巡らしたのち、棒状工具による刻みを付す。	称名寺Ⅱ式
9 深鉢	口縁部	①普通　②にぶい褐色 ③砂を少量含む	波状口縁。棒状工具による沈線で文様を描出し、原体ＬＲの単節斜縄文を施文する。	称名寺Ⅱ式
10 深鉢	口縁部	①普通　②灰褐色 ③砂を少量含む	波状口縁。波頂部に沈線が入り、朱が施される。内、外面磨き。	称名寺Ⅱ式
11 深鉢	口縁部	①普通　②褐灰色 ③細砂を含む	円形の突起。棒状工具による沈線と刺突文で文様を描出する。	称名寺Ⅱ式
12 深鉢	口縁部	①普通　②にぶい橙 ③砂、小礫を含む	波状口縁。上部には環状の把手。原体ＬＲの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線と刺突文を施す。	称名寺Ⅱ式
13 深鉢	口縁部	①やや不良　②明黄褐色 ③砂を含む	隆帯を頸部に巡らしたのち、棒状工具による刻みを付す。	称名寺Ⅱ式

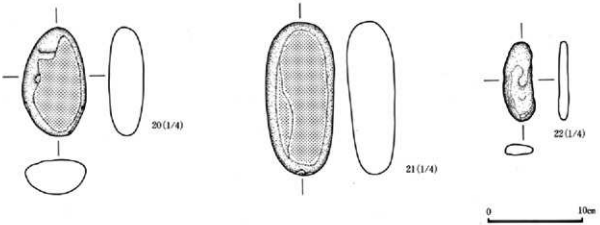
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
14 深鉢	口縁部	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂、小礫を含む	円形の凹み を付した隆帯を頂部に巡らす。	称名寺Ⅱ式
15 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい橙 ③砂、少量の雲母、石英を含む	波状口縁。原体Ｌの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線文を施す。内面磨き。	称名寺Ⅰ式
16 深鉢	胴部	①普通 ②黒褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線を頂部に巡らす。同様の工具による刺突文を方形に施す。内、外面磨き。	称名寺Ⅱ式か
17 深鉢	胴部片	①普通 ②暗赤褐色 ③砂を含む	棒状工具による刺突文を「コ」型に施文する。内、外面磨き。	称名寺Ⅱ式か 16と同一個体
18 深鉢	胴部	①普通 ②にぶい橙 ③砂を含む	無文。内面磨き。	—
19 深鉢	胴部片	①普通 ②黒褐色 ③砂を少量含む	棒状工具による沈線文を施したのち、同様の工具による刺突文を施す。	称名寺Ⅱ式
20 深鉢	胴部片	①普通 ②明赤褐色 ③砂、小礫を含む	棒状工具による沈線文を施す。	称名寺Ⅱ式
21 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい橙 ③砂、小礫を含む	棒状工具による沈線で文様を描出し、同様の工具による刺突文を施す。	称名寺Ⅱ式
22 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線で文様を描出し、同様の工具による刺突文を施す。	称名寺Ⅱ式
23 深鉢	胴部片	①普通 ②暗赤灰色 ③砂を含む	棒状工具による沈線文を施したのち、原体ＬＲの単節斜縄文を施文する。	称名寺Ⅰ式
24 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい橙 ③細砂を含む	櫛歯状工具による沈線で格子文を施文する。	堀之内１式
25 深鉢	胴部片	①普通 ②橙 ③砂を含む	棒状工具による沈線文を施す。	称名寺Ⅱ式
26 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を多く含む	棒状工具による沈線を垂下させ、同様の工具による刺突文を沈線の間に施す。	称名寺Ⅱ式
27 深鉢	胴下半～ 底部	①普通 ②橙 ③小礫を含む	底径7.8cm。無文。種製土器。二次的に被熱。理葬。	—
28 深鉢	底部	①普通 ②浅黄橙 ③砂を含む	底径11cm。無文。	—

16号住居出土石器計測表（第129～131図　ＰＬ52、53）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
29	石鏃	先端部欠	① (1.8) ② (1.8) ③ (0.4) ④ 1.2	黒曜石	
30	石鏃	先端部欠	① (2.0) ② (2.4) ③ (0.5) ④ 2.7	黒色安山岩	
31	ドリル	完	① 2.55 ② 1.3 ③ 0.6 ④ 1.3	黒曜石	
32	使剥		① 2.3 ② 1.3 ③ 0.3 ④ 1.9	黒曜石	
33	石核		① 2.2 ② 2.2 ③ 0.95 ④ 5.1	黒曜石	
34	使剥		① 1.7 ② 1.5 ③ 0.3 ④ 0.9	黒曜石	
35	加剥		① 3.3 ② 3.4 ③ 0.6 ④ 7.6	黒色頁岩	
36	加剥		① 3.8 ② 3.3 ③ 0.45 ④ 5.2	黒色頁岩	
37	加剥		① 4.2 ② 3.8 ③ 0.8 ④ 15.1	黒色安山岩	
38	打斧	１／２	① (4.6) ② (4.4) ③ (0.8) ④ 15.9	珪質頁岩	
39	打斧	刃部片	① (2.2) ② (3.9) ③ (1.2) ④ 14.9	珪質頁岩	
40	打斧	一部欠	① (5.5) ② (5.3) ③ (1.5) ④ 36.4	粗粒輝石安山岩	
41	打斧	刃部欠	①(10.7) ② (6.2) ③ (2.2) ④ 175.5	粗粒輝石安山岩	
42	打斧	完	① 12.5 ② 8.0 ③ 2.7 ④ 263.3	砂岩	
43	打斧	一部欠	① (9.3) ② (6.0) ③ (2.0) ④ 126.4	粗粒輝石安山岩	紐ずれ痕顕著。
44	打斧	１／４	① (8.4) ② (6.3) ③ (1.95)④ 115.3	粗粒輝石安山岩	
45	打斧？	１／３	① (6.6) ② (5.6) ③ (1.95)④ 78.3	硬質泥岩	
46	磨斧	刃部欠	①(13.3) ② (5.0) ③ (2.5) ④ 266.0	変玄武岩	
47	磨斧未製品	完	① 8.2 ② 5.0 ③ 3.0 ④ 220.9	変玄武岩	上部、下部に敲き痕。
48	磨石	完	① 12.0 ② 4.2 ③ 2.5 ④ 190.5	粗粒輝石安山岩	
49	磨石	完	① 9.6 ② 8.3 ③ 5.9 ④ 654.5	粗粒輝石安山岩	
50	磨石	完	① 9.6 ② 9.9 ③ 4.8 ④ 675.3	粗粒輝石安山岩	
51	石皿	約１／５	①(20.1) ②(17.1) ③ (8.7) ④ 4350	粗粒輝石安山岩	
52	石製品	一部欠	① (5.2) ② (2.8) ③ (0.9) ④ 13.1	輝緑凝灰岩	魚型のモチーフの石錘か。
53	石棒		① 7.45 ② 9.7 ③ 5.15 ④ 448.9	珪質頁岩	



第132図　17号住居出土遺物（１）



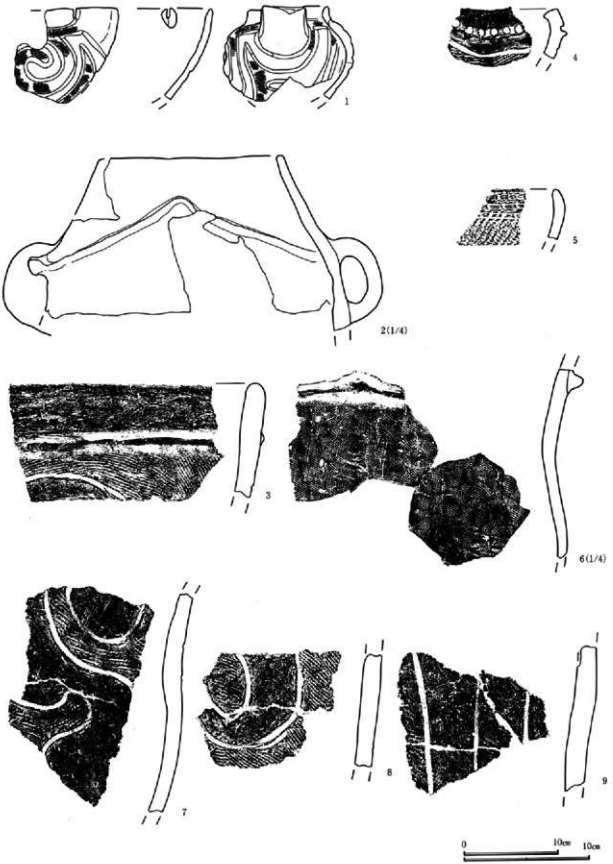
第133図　17号住居出土遺物（２）

17号住居出土土器観察表（第132図　ＰＬ53）

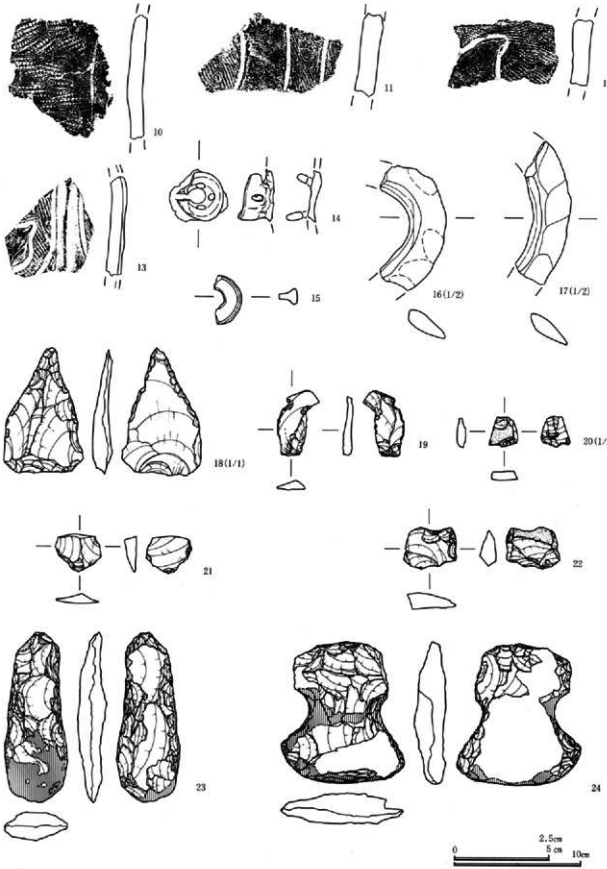
番号	部位	①地成　②色調　③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁～胴部	①普通 ②橙 ③繊維、細砂を含む	口径25.4cm。口縁は平口縁で、９単位の波状の突起が付く。口縁には半截竹管状工具による沈線文が巡り、瘤状の貼付文が付く。胴部には原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文し、半截竹管状工具によるコンパス文を施す。	関山Ⅰ式
2 深鉢	口縁部片	①普通　②にぶい黄橙 ③繊維、細砂を含む	波状口縁を呈する。横衝状工具による沈線を施したのち、瘤状の突起を貼付する。	関山Ⅰ式
3 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③繊維、細砂を含む	波状の突起を付す。口唇部下には半截竹管状工具による沈線を施したのち、瘤状の突起を貼付する。胴部は原体不明のループ文を施文。	関山Ⅰ式
4 深鉢	口縁部片	①普通　②黒 ③繊維、細砂を含む	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの結束単節斜縄文を羽状に施文する。	関山Ⅰ式
5 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③繊維、細砂を含む	半截竹管状工具による沈線を施したのち、直前段合撚Ｒ＜$\frac{R}{L}-\frac{1}{R}$およびＬ＜$\frac{L}{R}-\frac{R}{L}$を羽状に施文する。上部には半截竹管状工具によるコンパス文を施文する。	関山Ⅰ式
6 深鉢	胴部片	①普通　②にぶい黄褐色 ③繊維、細砂を含む	直前段合撚Ｒ＜$\frac{R}{L}-\frac{1}{R}$およびＬ＜$\frac{L}{R}-\frac{R}{L}$を羽状に施文する。	関山Ⅰ式
7 深鉢	胴部片	①普通　②にぶい褐色 ③繊維、砂を含む	原体ＲＬとＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。	関山Ⅰ式
8 深鉢	胴部片	①普通　②暗褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線を巡らしたのち、半截竹管状工具による沈線を斜位に施文し、棒状工具による沈線を交叉させる。	前期末～中期初頭
9 深鉢	胴部片	①普通　②にぶい橙 ③繊維、少量の雲母を含む	原体０段多条ＬＲおよび０段多条ＲＬを菱形状に施文する。	関山Ⅰ式

17号住居出土石器計測表（第132、133図　ＰＬ53）

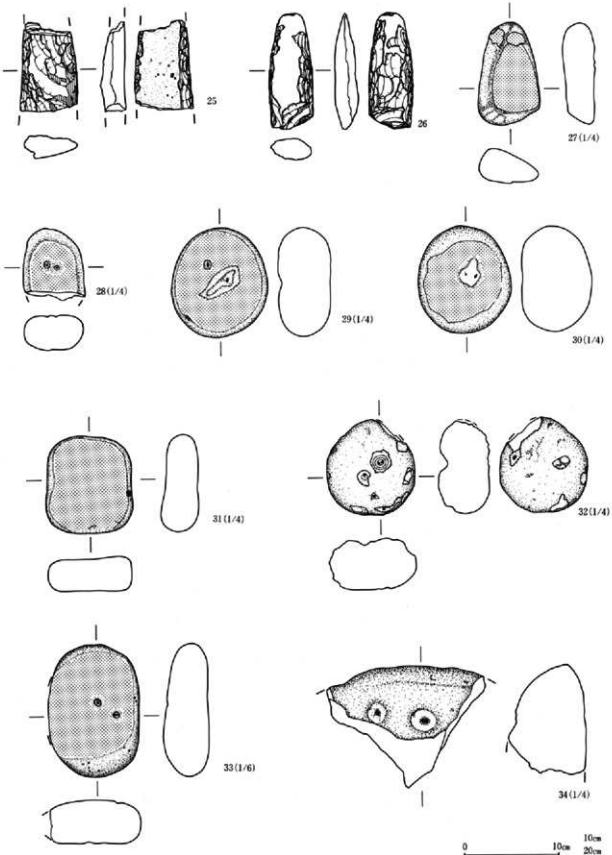
番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
10	石匙	１／２	① (4.8) ② (3.4) ③ (0.9) ④ 15.1	黒色頁岩	
11	スクレイパー	完	① 6.7 ② 3.6 ③ 1.35 ④ 34.4	黒色頁岩	
12	スクレイパー	完	① 7.1 ② 3.4 ③ 1.25 ④ 23.2	黒色頁岩	
13	使側		① 4.2 ② 6.5 ③ 1.45 ④ 44.5	黒色頁岩	
14	打斧	１／２？	① (4.3) ② (3.9) ③ (1.1) ④ 20.9	黒色頁岩	
15	打斧	基部欠	① (4.3) ② (3.7) ③ (0.7) ④ 17.3	黒色頁岩	
16	打斧	完	① 8.3 ② 4.7 ③ 2.5 ④ 96.7	黒色頁岩	
17	打斧？	１／２	① (8.2) ② (3.1) ③ (1.0) ④ 26.8	ホルンフェルス	
18	石器原石		① 5.3 ② 6.9 ③ 1.2 ④ 36.3	黒曜石	
19	敲石	完	① 6.7 ② 6.4 ③ 5.8 ④ 333.3	粗粒輝石安山岩	球形。
20	敲石	完	① 11.5 ② 6.8 ③ 3.7 ④ 413.9	粗粒輝石安山岩	
21	磨石	完	① 16.1 ② 7.4 ③ 5.1 ④ 956.6	粗粒輝石安山岩	
22	石棒状石器	完	① 8.3 ② 2.9 ③ 0.95 ④ 45.1	緑色片岩	



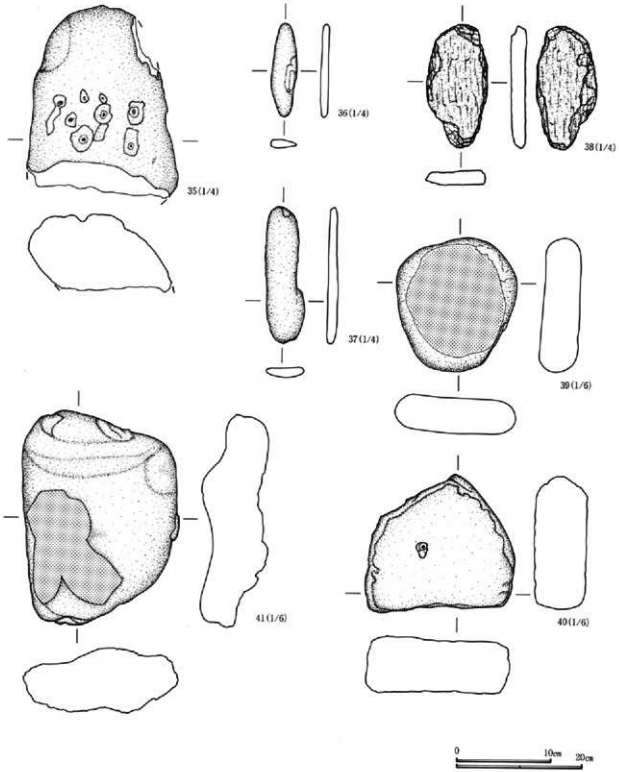
第134図　18号住居出土遺物（1）



第135図　18号住居出土遺物（２）



第136図　18号住居出土遺物（３）



第137図　18号住居出土遺物（４）

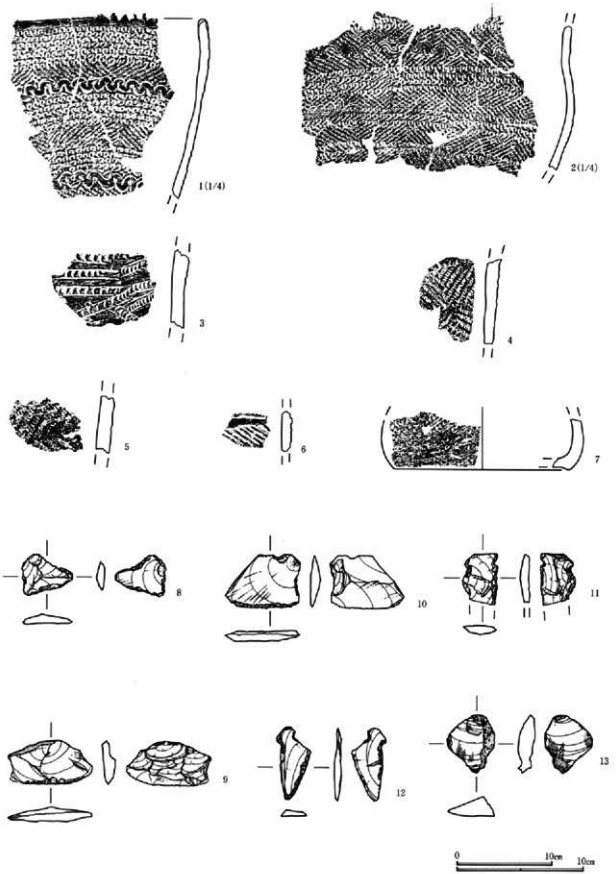
18号住居出土土器観察表（第134、135図　ＰＬ54）

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 注口土器	口縁～胴部	①普通 ②浅黄 ③雲母を含む	口径6.4cm。口縁は外反する。原体０段多条ＲＬの単節斜縄文を施文後、棒状工具による沈線で渦巻状の文様を描出する。	称名寺Ⅰ式

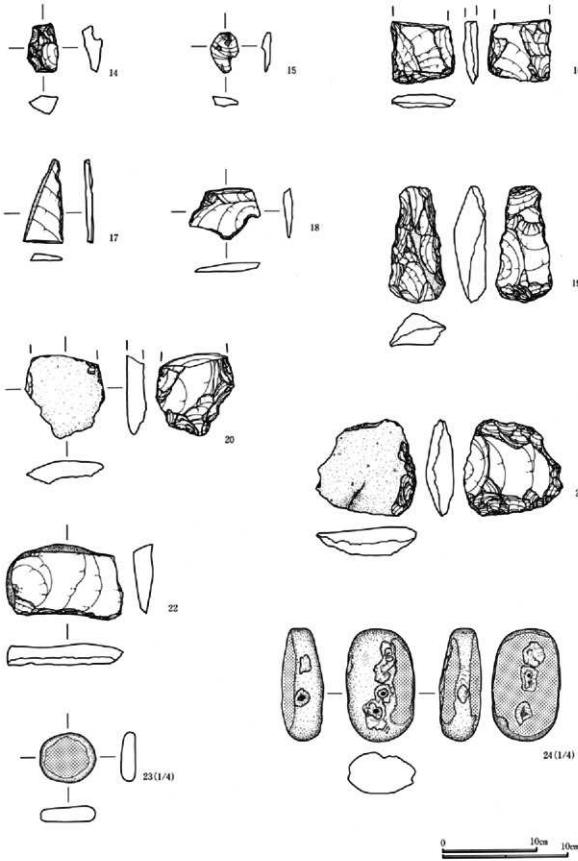
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
2 両耳壺	口縁～ 胴部2/3	①普通 ②黒褐色 ②砂を含む	口径20.0cm。断面三角の隆帯を、頸部に２単位の波状に巡らす。２単位の橋状の把手を貼付する。	加曽利Ｅ４式か
3 深鉢	口縁部片	①普通 ②黒褐色 ③砂、少量の雲母を含む	断面三角の隆帯を巡らし、原体Ｒの無節斜縄文を乱雑に施文したのち、棒状工具による沈線を施す。	加曽利Ｅ４式
4 深鉢	口縁部片	①普通 ②黒褐色 ③砂を含む	波状口縁。断面三角の隆帯を巡らしたのち、棒状工具による刺突文を施す。地文には原体ＬＲの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線で文様を描出する。	加曽利Ｅ４式
5 深鉢	口縁部片	①普通 ②明赤褐色 ③砂を少量含む	口縁は緩く内湾する。口唇部に半截竹管状工具による平行沈線を３条施したのち、同じ工具による爪形文を施す。地文には原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。	黒浜式
6 深鉢	胴部	①普通 ②黒褐色 ③細砂を含む	舌状突起を有する隆帯を頸部に巡らし、原体０段多条ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曽利Ｅ４式
7 深鉢	胴部片	①普通 ②橙 ③砂、小礫を含む	棒状工具による沈線で文様を描出したのち、原体ＬＲの単節斜縄文を乱雑に施文する。	称名寺Ｉ式
8 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい褐色 ②砂を多量に含む	原体ＬＲの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線で文様を描出する。	称名寺Ｉ式
9 深鉢	胴部片	①普通 ②橙 ③砂を含む	棒状工具による沈線を垂下させたのち、原体不明の斜縄文を施文する。	加曽利Ｅ４式
10 深鉢	胴部片	①普通 ②黒褐色 ②砂を含む	棒状工具による沈線を垂下させたのち、原体ＬＲの単節斜縄文を乱雑に施文する。	加曽利Ｅ４式
11 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい橙 ③砂を多量に含む	原体ＲＬの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線で文様を描出する。	称名寺Ｉ式
12 深鉢	胴部片	①普通 ②黒褐色 ②砂を含む	棒状工具による沈線で文様を描出したのち、原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	称名寺Ｉ式
13 深鉢	胴部片	①普通 ②黒 ②砂を含む	断面三角の隆帯を垂下させたのち、原体ＬＲの単節斜縄文を施文し、棒状工具による沈線で文様を描出する。	称名寺Ｉ式
14 土製品		①普通 ②明赤褐色 ③砂を含む	径3.9cmの筒状。径6～7mmの孔が４単位穿孔される。内面に朱塗りか。	－
15 土製品		①普通 ②明赤褐色 ③砂を少量含む	環状を呈する耳栓。	－
16 土製品		①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を少量含む	貝輪状土製品。	－
17 土製品		①普通 ②橙 ③砂を少量含む	貝輪状土製品。	－

18号住居出土石器計測表（第135～137図　ＰＬ54、55）

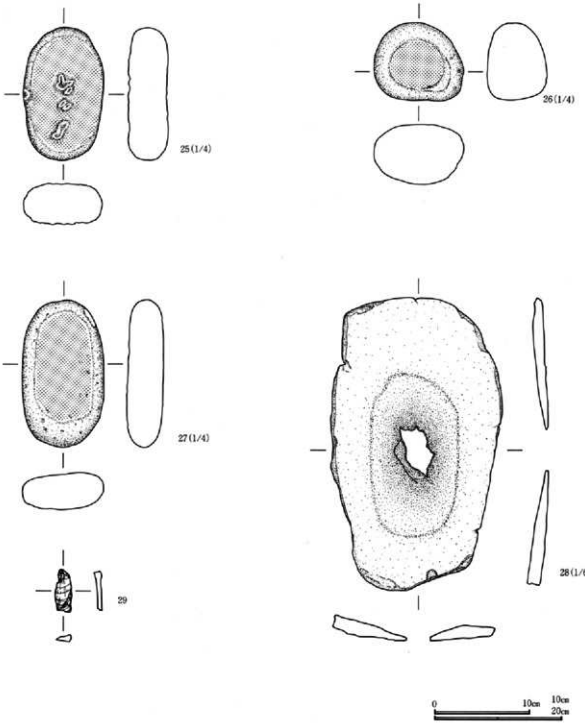
番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
18	石鏃	完	① 3.3 ② 2.1 ③ 0.5 ④ 3.1	黒色頁岩	
19	石鏃	完？	① 5.1 ② 2.5 ③ 0.75 ④ 10.4	黒色頁岩	
20	加工具		① 1.6 ② 1.5 ③ 0.4 ④ 1.1	黒曜石	
21	加工具		① 3.0 ② 3.6 ③ 0.9 ④ 9.1	黒色頁岩	
22	加工具		① 3.3 ② 4.15 ③ 1.3 ④ 18.7	黒色頁岩	
23	打斧	完	① 13.4 ② 5.0 ③ 2.2 ④ 136.9	堆積輝石安山岩	
24	打斧	一部欠	①(11.2) ②(9.6) ③(2.4) ④ 241.1	硬質泥岩	
25	打斧？	基部刃部欠	①(7.1) ②(4.65) ③(2.0) ④ 79.4	堆積輝石安山岩	
26	磨斧	刃部欠	①(9.0) ②(3.5) ③(1.7) ④ 85.1	砂岩	
27	敲石	完	① 10.9 ② 6.6 ③ 3.7 ④ 369.9	堆積輝石安山岩	
28	凹石	１／２	①(7.6) ②(6.6) ③(3.7) ④ 278.4	堆積輝石安山岩	
29	凹石	完	① 11.5 ② 10.1 ③ 5.6 ④ 1000.7	堆積輝石安山岩	
30	磨石	完	① 11.3 ② 9.9 ③ 7.5 ④ 1245.8	堆積輝石安山岩	
31	磨石	完	① 10.3 ② 9.2 ③ 4.0 ④ 674.5	堆積輝石安山岩	
32	多孔石	完	① 15.0 ② 13.8 ③ 8.2 ④ 1385.1	堆積輝石安山岩	
33	凹石	完	① 21.0 ② 14.3 ③ 7.2 ④ 3550	堆積輝石安山岩	
34	多孔石	１／６	①(16.8) ②(12.8) ③ (8.2) ④ 1708.1	堆積輝石安山岩	
35	多孔石	１／２	①(20.4) ②(16.0) ③ (8.1) ④ 2750	堆積輝石安山岩	
36	石棒状石器	完	① 9.8 ② 2.7 ③ 0.9 ④ 39.4	緑色片岩	
37	石棒状石器	一部欠	①(14.5) ②(4.3) ③ (1.2) ④ 99.8	緑色片岩	
38	石棒状石器	一部欠	①(13.0) ②(6.4) ③ (1.65) ④ 205.0	緑色片岩	両側縁に加工痕。打斧か。
39	磨石	完	① 21.2 ② 18.9 ③ 6.3 ④ 4200	堆積輝石安山岩	
40	多孔石	完	① 21.9 ② 23.6 ③ 8.9 ④ 6500	堆積輝石安山岩	
41	石皿	完	① 33.9 ② 24.7 ③ 10.5 ④ 7400	堆積輝石安山岩	



第138図　19号住居出土遺物（１）



第139図　19号住居出土遺物（２）



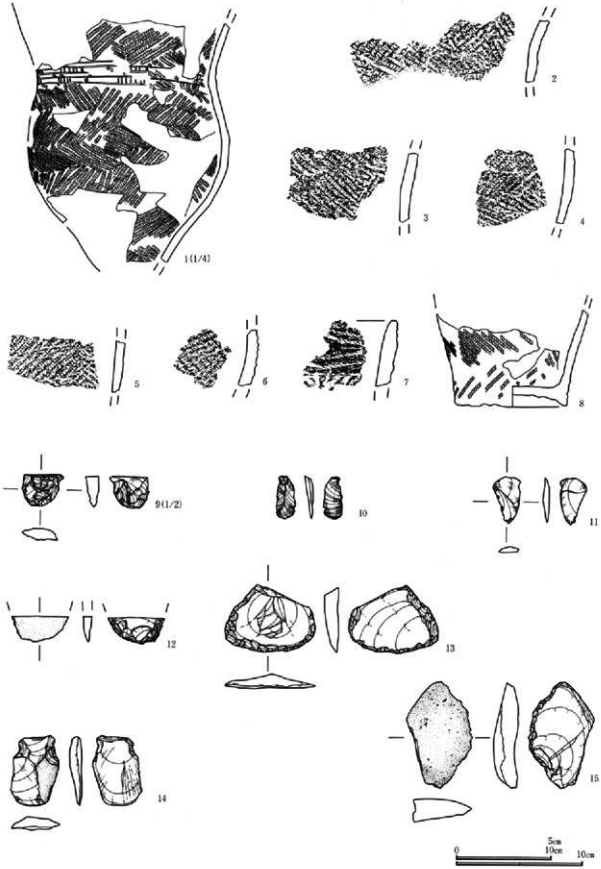
第140図　19号住居出土遺物（３）

19号住居出土土器観察表（第138図　ＰＬ55、56）

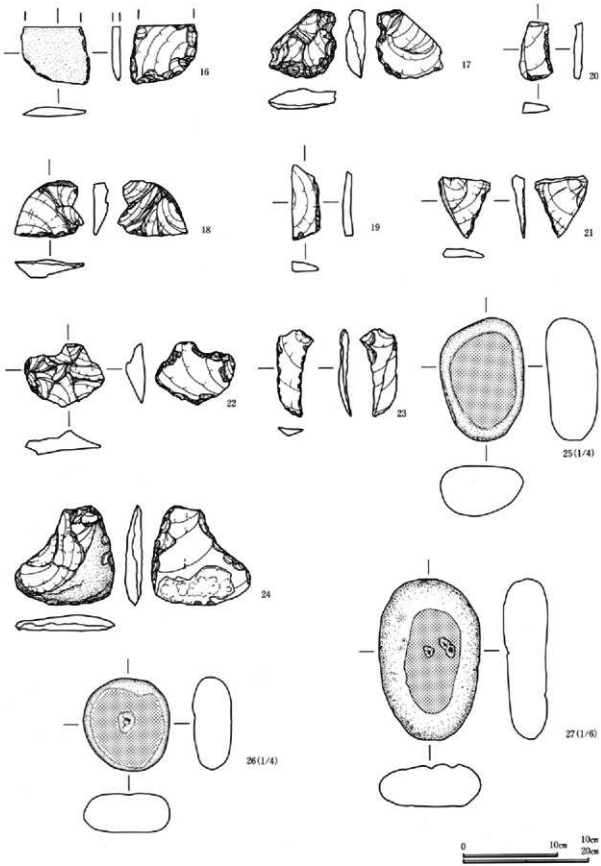
番号	部位	①地成　②色調　③粘土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部片	①やや不良　②橙 ③繊維、雲母を含む	口縁は平口縁で、波状の突起を作り出す。地文は原体０段多条ＲＬとＬＲのループ文（短足）と羽状縄文を交互に施文。	関山Ⅰ式
2 深鉢	胴部片	①やや不良 ②橙 ③繊維を含む	原体０段多条ＲＬと０段多条ＬＲのループ文と、羽状縄文を交互に施文したのち、半截竹管状工具によるコンパス文を施文する。内面磨き。	関山Ⅰ式
3 深鉢	胴部片	①普通　②橙 ③繊維、少量の砂を含む	半截竹管状工具による連続爪形文で文様を描出する。内面磨き。	有尾式
4 深鉢	胴部片	①普通　②灰褐色 ③繊維を含む	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を菱形状に施文する。	関山式
5 深鉢	胴部片	①やや不良　②明赤褐色 ③繊維を含む	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。	関山式
6 深鉢	胴部片	①普通　②明赤褐色 ③砂、少量の石英を含む	半截竹管状工具による沈線を施したのち、低い隆帯を貼付する。	前期末～中期初頭
7 深鉢	底部片	①普通　②明赤褐色 ②繊維を含む	上げ底を呈する。地文には原体不明の羽状縄文を施文。底面にも縄文を施文する。	関山Ⅰ式

19号住居出土石器計測表（第138－140図　ＰＬ56）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
8	スクレイパー	一部欠	① (3.1) ② (4.0) ③ (0.7) ④ 7.9	黒色頁岩	
9	スクレイパー	完	① 3.5 ② 6.7 ③ 1.1 ④ 23.4	黒色頁岩	
10	スクレイパー	完	① 4.2 ② 5.0 ③ 0.7 ④ 22.8	黒色頁岩	
11	石匙	１／２	① (4.0) ② (2.8) ③ (0.75)④ 9.5	黒色安山岩	
12	石匙	一部欠	① (5.7) ② (2.7) ③ (0.55)④ 6.4	黒色頁岩	
13	使剥		① 4.6 ② 3.8 ③ 1.55 ④ 17.8	黒曜石	
14	加剥		① 3.85 ② 2.4 ③ 1.6 ④ 10.6	黒曜石	
15	使剥		① 3.1 ② 2.0 ③ 0.6 ④ 3.9	黒曜石	
16	打斧	刃部片1/3	① (4.6) ② (4.6) ③ (1.1) ④ 37.6	黒色頁岩	
17	使剥？		① 6.6 ② 3.1 ③ 0.5 ④ 10.9	黒色頁岩	
18	加剥		① 4.0 ② 5.65 ③ 0.7 ④ 17.3	黒色頁岩	
19	打斧	完	① 9.2 ② 4.5 ③ 2.5 ④ 90.0	黒色頁岩	
20	打斧？	１／２	① (6.2) ② (6.5) ③ (1.5) ④ 79.8	黒色頁岩	
21	使剥		① 7.6 ② 7.8 ③ 2.2 ④ 137.2	黒色頁岩	
22	使剥		① 5.5 ② 9.2 ③ 1.7 ④ 122.8	黒色頁岩	
23	磨石	完	① 5.2 ② 5.9 ③ 1.5 ④ 79.7	粗粒輝石安山岩	
24	凹石	完	① 11.9 ② 7.3 ③ 4.3 ④ 511.5	粗粒輝石安山岩	
25	磨石	完	① 14.0 ② 8.5 ③ 4.3 ④ 736.3	粗粒輝石安山岩	
26	磨石	完	① 8.2 ② 9.6 ③ 6.3 ④ 672	粗粒輝石安山岩	
27	磨石	完	① 15.5 ② 8.8 ③ 3.9 ④ 790.8	粗粒輝石安山岩	
28	石皿	完	① 45.8 ② 27.1 ③ 4.0 ④ 4400	緑色片岩	炉底敷石。
29	剥片		① 3.35 ② 1.35 ③ 0.55 ④ 1.9	黒曜石	



第141図　20号住居出土遺物（１）



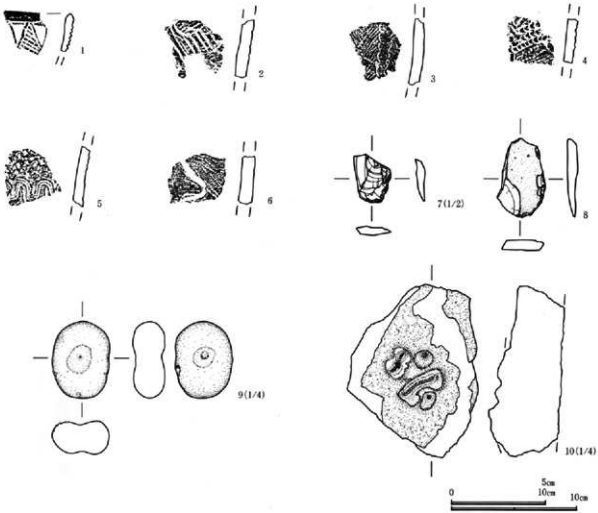
第142図　20号住居出土遺物（２）

20号住居出土土器観察表（第141図　ＰＬ57）

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	胴部2/3 残存	①普通 ②にぶい赤褐色 ③繊維、細砂を含む	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文したのち、頸部に半截竹管状工具による沈線を巡らし、同じ工具による爪形文を施す。	黒浜（有尾）式
2・3 深鉢	胴部片	①普通　②明赤褐色 ③繊維、細砂を含む	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
4 深鉢	胴部片	①普通　②にぶい赤褐色 ③繊維、小礫を含む	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
5 深鉢	胴部片	①普通　②灰褐色 ③繊維、小礫を含む	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
6 深鉢	胴部片	①普通　②にぶい赤褐色 ③繊維、少量の砂を含む	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。	黒浜（有尾）式
7 深鉢	口縁部片	①やや不良　②黒褐色 ③繊維、砂を含む	原体Ｒの縄文の側面圧痕文を施文する。	花積式
8 深鉢	底部	①普通　②にぶい赤褐色 ③繊維、少量の砂を含む	上げ底を呈する。０段多条ＲＬおよびＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。底面と内面は磨き。	黒浜（有尾）式

20号住居出土石器計測表（第141、142図　ＰＬ57）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
9	石核		① 1.65 ② 2.15 ③ 0.7 ④ 2.4	黒曜石	
10	使制		① 3.3 ② 1.5 ③ 0.4 ④ 1.8	黒曜石	
11	加剥		① 2.2 ② 3.7 ③ 0.5 ④ 3.7	黒色頁岩	
12	打斧	破片	① (2.0) ② (4.4) ③ (0.7) ④ 6.7	黒色頁岩	
13	スクレイパー	完	① 5.3 ② 7.2 ③ 1.1 ④ 37.4	黒色頁岩	
14	スクレイパー	完	① 5.5 ② 3.8 ③ 1.0 ④ 18.7	黒色頁岩	
15	スクレイパー	完	① 8.35 ② 5.2 ③ 2.0 ④ 78.8	黒色頁岩	
16	スクレイパー	一部欠	① (4.6) ② (5.1) ③ (0.75) ④ 26.7	頁岩	
17	スクレイパー	一部欠	① (5.4) ② (5.3) ③ (1.65) ④ 45.4	黒色頁岩	
18	使制		① 4.5 ② 5.5 ③ 1.4 ④ 26.6	黒色頁岩	
19	スクレイパー	完	① 5.9 ② 2.25 ③ 0.8 ④ 12.9	黒色安山岩	
20	スクレイパー	完?	① 4.6 ② 2.6 ③ 0.8 ④ 11.8	黒色頁岩	
21	スクレイパー	1／2	① (4.9) ② (4.2) ③ (1.0) ④ 12.4	黒色頁岩	
22	加剥		① 4.95 ② 6.3 ③ 1.9 ④ 40.0	黒色頁岩	
23	使制?		① 6.8 ② 2.9 ③ 0.9 ④ 9.8	黒色頁岩	
24	スクレイパー	完	① 7.5 ② 6.8 ③ 1.3 ④ 70.5	黒色頁岩	
25	磨石	完	① 12.9 ② 9.0 ③ 5.6 ④ 914	縞状輝石安山岩	
26	凹石	完	① 9.8 ② 9.2 ③ 4.1 ④ 596.7	縞状輝石安山岩	
27	多孔石	完	① 25.3 ② 15.9 ③ 7.0 ④ 3631	縞状輝石安山岩	



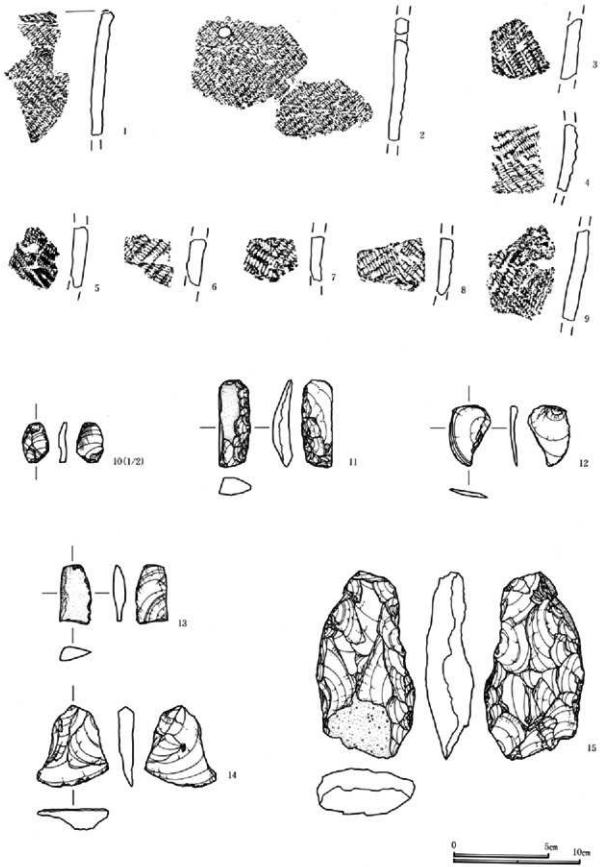
第143図　21号住居出土遺物

21号住居出土土器観察表（第143図　PL57）

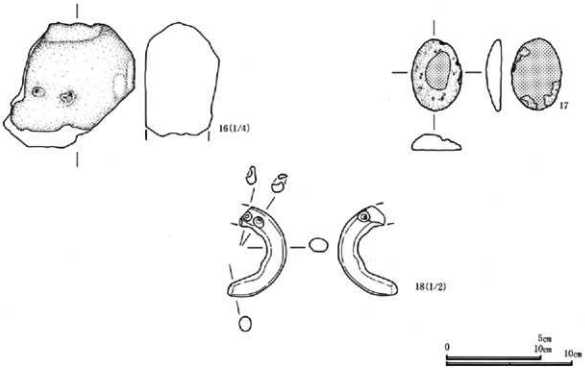
番号	部位	①破成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を含む	半截竹管状工具による沈線で三角形の区画をなし、格子文を充填する。	前期末～中期初頭
2 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を含む	半截竹管状工具による沈線文を施す。	前期末～中期初頭
3 深鉢	胴部片	①普通 ②橙 ③砂、小礫を含む	結節縄文を板回転で施文する。	前期末～中期初頭
4 深鉢	胴部片	①普通 ②褐灰色 ③砂、小礫を含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	十三菩提式
5 深鉢	胴部片	①普通 ②褐灰色 ③繊維、細砂を含む	原体RLのループ文を施文したのち、櫛歯状工具によるコンパス文を施文する。	関山Ⅰ式
6 深鉢	胴部片	①普通 ②黒褐色 ③細砂を含む	原体LRの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線で文様を描出する。	称名寺式

21号住居出土石器計測表（第143図　PL57）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
7	使剥		① 2.5 ② 1.95 ③ 0.45 ④ 2.3	チャート	
8	スクレイパー	完	① 6.2 ② 3.9 ③ 0.85 ④ 23.4	粗粒輝石安山岩	
9	凹石	完	① 8.1 ② 6.2 ③ 3.5 ④ 242.4	粗粒輝石安山岩	
10	多孔石	1／4	①(18.3) ②(13.9) ③ (8.1) ④ 1994.9	粗粒輝石安山岩	



第144図　22号住居出土遺物（1）



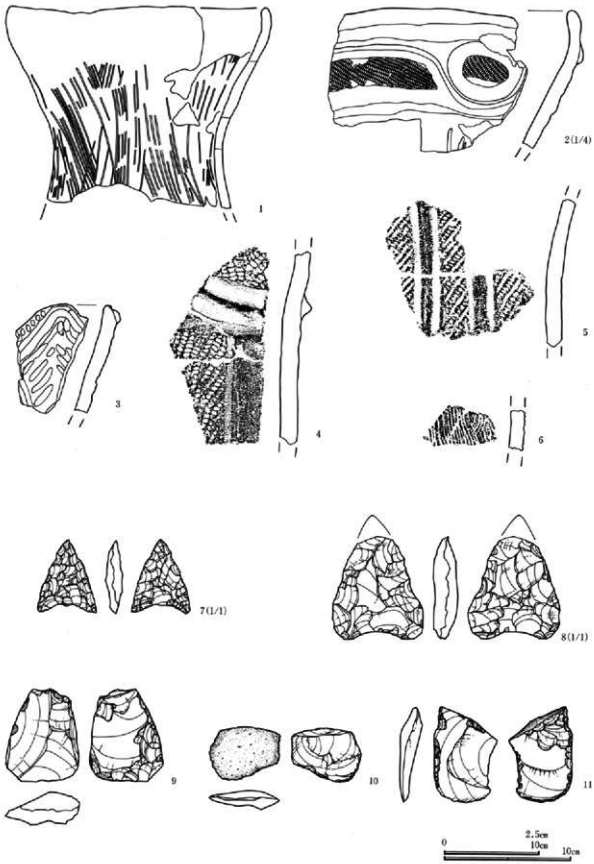
第145図　22号住居出土遺物（２）

22号住居出土土器観察表（第144図　ＰＬ58）

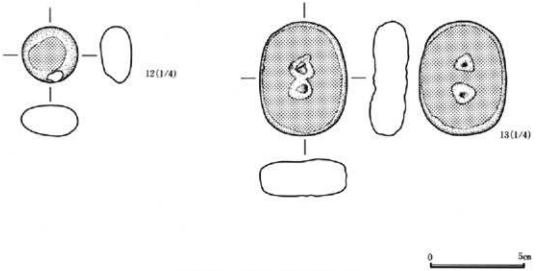
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①普通　②灰褐色	波状口縁か。口唇部に刻みを付す。胴部は原体０段多条ＲＬ	花積式
深鉢		③繊維を含む	および０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。	
2	胴部片	①普通　②灰黄褐色	原体０段多条ＬＲおよび０段多条ＲＬの単節斜縄文を菱形状	関山式
深鉢		③繊維、砂を含む	に施文する。補修孔と思われる径約５mmの孔を穿孔する。	
3	胴部片	①普通　②灰褐色	原体ＲＬ＋ｒ、およびＬＲ＋ｒの付加条縄文を羽状に施文す	関山式
深鉢		③繊維、雲母を含む	る。	
4	胴部片	①普通　②にぶい赤褐色	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に	関山式
深鉢		③繊維、小礫を含む	施文する。	
5	胴部片	①普通　②明赤褐色	原体０段多条ＲＬの単節斜縄文を施文する。	関山式
深鉢		③繊維、砂を含む		
6	胴部片	①普通　②にぶい黄橙	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に	関山式
深鉢		③繊維、小礫を含む	施文する。	
7	胴部片	①普通　②にぶい黄橙	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に	関山式
深鉢		③繊維、細砂を含む	施文する。	
8	胴部片	①普通　②橙	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に	関山式
深鉢		③繊維、細砂を含む	施文する。	
9	胴部片	①普通　②橙	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に	関山式
深鉢		③繊維、細砂を含む	施文する。	

22号住居出土石器計測表（第144、145図　ＰＬ58）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
10	加刻		①　2.1　②　1.4　③　0.4　④　1.2	黒曜石	
11	スクレイパー	刃部片？	①　(6.8)　②　(2.5)　③　(1.4)　④　30.2	黒色頁岩	
12	使刻		①　4.85　②　3.1　③　0.55　④　6.7	黒色頁岩	
13	加刻		①　4.8　②　2.4　③　1.05　④　14.1	黒色頁岩	
14	使刻		①　6.3　②　4.1　③　1.7　④　43.3	黒色頁岩	
15	打斧	完	①　14.7　②　7.8　③　3.75　④　451.1	雑粒輝石安山岩	
16	多孔石	１／４	①(13.1)　②(14.0)　③　(7.9)　④　1673.2	雑粒輝石安山岩	
17	石錘	完	①　5.65　②　4.0　③　1.25　④　31.4	珪質変質岩	
18	玦状耳飾り	１／２	③　0.7　④　8	蛇紋岩	



第146図　23号住居出土遺物（１）



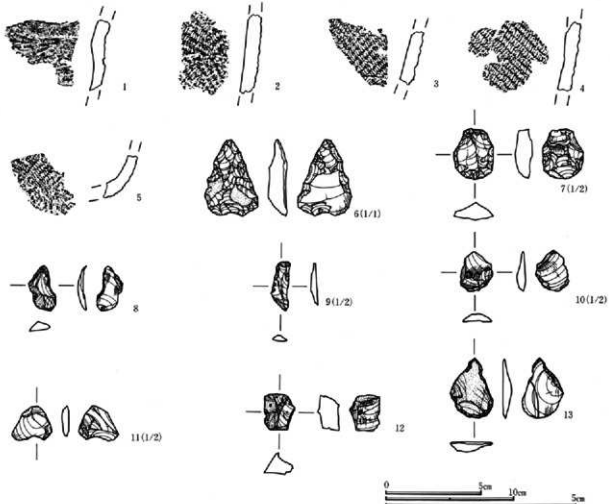
第147図　23号住居出土遺物（２）

23号住居出土土器観察表（第146図　ＰＬ58）

番号	部位	①焼成　②色調　③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁～胴部2/3残存	①普通 ②褐色 ③砂を含む	炉体土器。口径20.3cm。手載竹管状工具による浅い沈線文を胴部に施す。二次的に被熱。	加曽利Ｅ３式
2 深鉢	口縁部	①普通 ②黒褐色 ③砂、小礫を含む	断面三角の隆帯で文様を描出し、原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文したのち、凹線を施す。胴部には棒状工具による沈線を垂下。	加曽利Ｅ３式
3 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい褐色 ③砂を含む	波状口縁。断面半円の隆帯を貼付し、これに沿って棒状工具による沈線を施文。下位には棒状工具による短沈線を綾杉条に施文する。内面は磨き。	加曽利Ｅ３式
4 深鉢	胴部片	①普通 ②灰黄褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯で文様を描出し、原体ＲＬの単節斜縄文を施文したのち、凹線を施す。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文したのち、凹線を垂下。	加曽利Ｅ３式
5 深鉢	胴部片	①普通　②にぶい橙 ③砂、小礫を含む	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文したのち、凹線を２条垂下させる。	加曽利Ｅ３式
6 深鉢	胴部片	①普通　②橙 ③砂を含む	櫛歯状工具による沈線文を施す。	加曽利Ｅ３式

23号住居出土石器計測表（第146、147図　ＰＬ58）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
7	石鏃	完	① 1.95 ② 1.6 ③ 0.5 ④ 1.0	黒曜石	
8	石鏃	先端部欠	① (2.8) ② (2.5) ③ (0.7) ④ 4.5	珪質頁岩	
9	スクレイパー	完	① 5.9 ② 7.3 ③ 2.6 ④ 105.4	黒色頁岩	
10	加剥		① 3.8 ② 5.3 ③ 1.4 ④ 29.2	黒色頁岩	
11	使剥		① 7.5 ② 5.0 ③ 1.8 ④ 45.2	黒色頁岩	
12	磨石	完	① 5.9 ② 5.9 ③ 3.4 ④ 136.6	緑泥輝石安山岩	
13	凹石	完	① 12.0 ② 9.2 ③ 4.2 ④ 690.3	緑泥輝石安山岩	



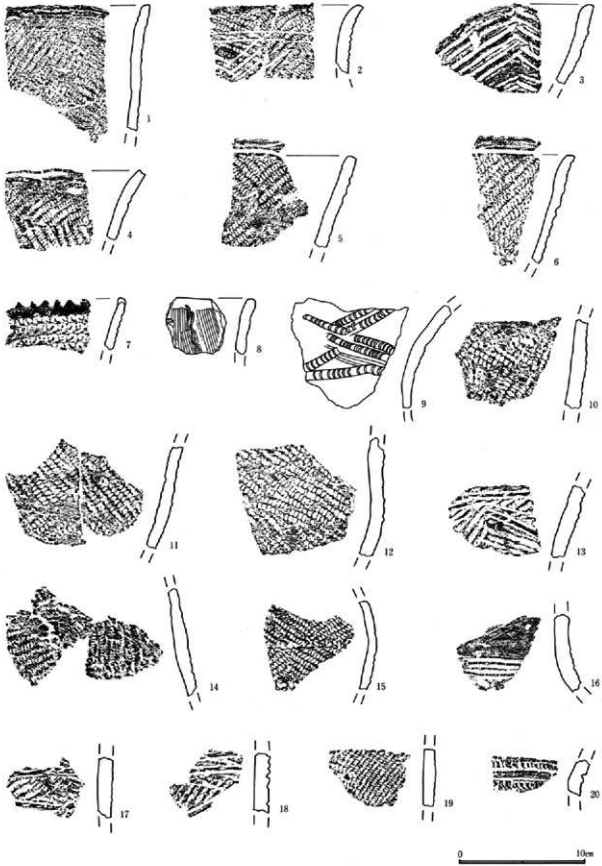
第148図　24号住居出土遺物

24号住居出土土器観察表（第148図　ＰＬ59）

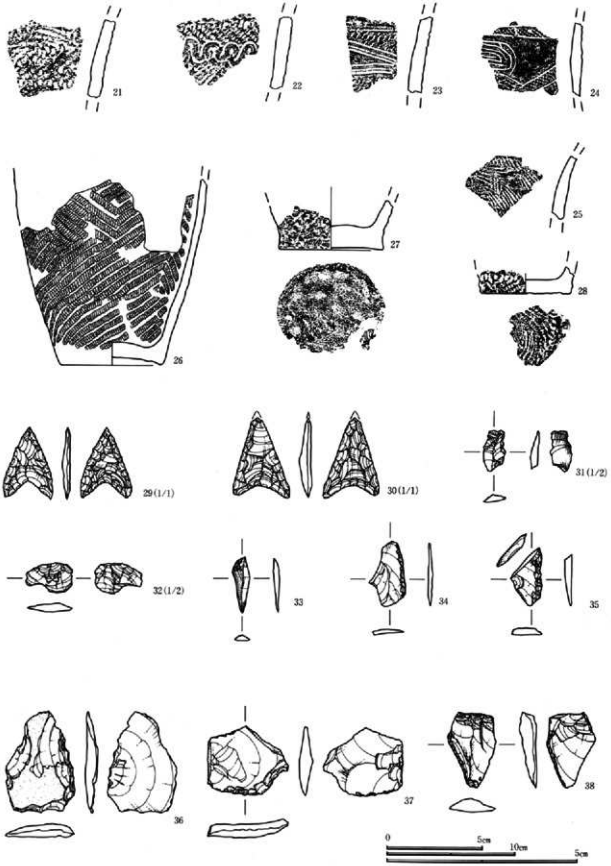
番号	部位	①構成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	胴部片	①普通 ②灰褐色 ③雲母を含む	棒状工具による押し引き文を施文する。	阿玉台式
2 深鉢	胴部片	①普通 ②明赤褐色 ③繊維、砂を含む	原体０段多条ＲＬおよび、０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。内面磨き。	花積式 （前期初頭）
3 深鉢	胴部片	①普通 ②橙 ③繊維、細砂を含む	原体０段多条ＲＬおよび、０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。下位にループ文。	花積式 （前期初頭）
4 深鉢	胴部片	①普通 ②灰褐色 ③繊維、細砂を含む	原体０段多条ＲＬを横位に施文する。	花積式 （前期初頭）
5 深鉢	底部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③繊維、少量の砂を含む	丸底の底部。原体０段多条ＬＲを施文する。	花積式 （前期初頭）

24号住居出土石器計測表（第148図　ＰＬ59）

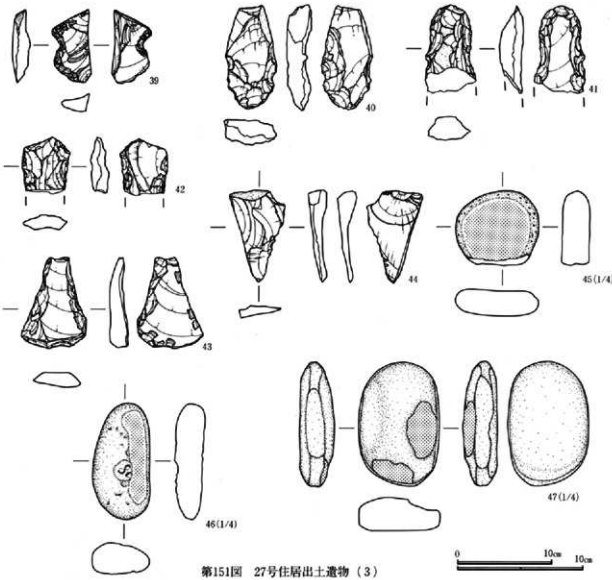
番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
6	石鏃	完	① 2.0 ② 1.45 ③ 0.5 ④ 1.2	黒曜石	
7	スクレイパー	完	① 2.7 ② 2.1 ③ 0.9 ④ 4.5	黒曜石	
8	加剥	完	① 3.4 ② 1.5 ③ 0.4 ④ 3.2	黒曜石	
9	使剥		① 2.55 ② 1.8 ③ 0.35 ④ 0.6	黒曜石	
10	使剥		① 2.1 ② 1.7 ③ 0.5 ④ 1.2	黒曜石	
11	剥片		① 1.8 ② 2.1 ③ 0.4 ④ 1.6	チャート	
12	石核		① 2.85 ② 2.5 ③ 1.6 ④ 11.1	黒曜石	
13	石匙	一部欠	① (4.7) ② (3.35) ③ (0.8) ④ 9.4	珪質頁岩	



第149図　27号住居出土遺物（1）



第150図　27号住居出土遺物（２）



第151図　27号住居出土遺物（３）

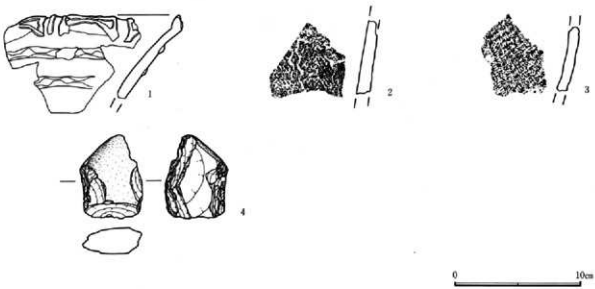
27号住居出土土器観察表（第149、150図　ＰＬ59、60）

番号	部位	①焼成　②色調　③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部片	①普通　②褐色 ③礫雑、小礫を含む	平縁で口唇部は角頭状を示す。原体０段多条ＬＲおよび０段多条ＲＬの単節斜縄文を羽状に施文する。	黒浜（有尾）式
2 深鉢	口縁部片	①普通　②にぶい橙 ③礫雑、細砂を含む	原体０段多条ＬＲおよび０段多条ＲＬの単節斜縄文を羽状に施文したのち、半截竹管状工具による沈線文を施す。	黒浜式
3 深鉢	口縁部片	①普通　②にぶい褐色 ③礫雑、砂を含む	波状口縁。半截竹管状工具による沈線を横杉状に施文する。	黒浜（有尾）式
4 深鉢	口縁部片	①普通　②褐色 ③礫雑を含む	原体０段多条ＬＲおよび０段多条ＲＬの単節斜縄文を羽状に施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
5 深鉢	口縁部片	①普通　②灰褐色 ③礫雑、砂を含む	原体０段多条ＬＲおよび０段多条ＲＬの単節斜縄文を菱形状に施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
6 深鉢	口縁部片	①普通　②暗褐色 ③礫雑、砂を含む	原体前々段反撚ＬＲ－ＲＲおよび、ＲＬ－ＬＬを羽状に施文する。	黒浜（有尾）式
7 深鉢	口縁部片	①やや不良　②にぶい黄橙 ③礫雑、砂を含む	口縁に波状の突起を有する。原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲのループ文を施文する。	関山Ⅰ式
8 深鉢	口縁部片	①普通　②にぶい赤褐色 ③砂を少量含む	貝殻条痕文を垂下させたのち、貝殻腹縁文を施す。口唇部にも貝殻腹縁文を施文する。	早期中葉 （田戸式か）
9 深鉢	胴部片	①普通　②にぶい黄褐色 ③礫雑、砂を含む	半截竹管状工具による連続刺突文で文様を描出する。内面磨き。	黒浜（有尾）式

番号	部位	①成形 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
10	胴部片	①やや不良 ②褐色	原体ＬＲおよびＲＬの単節斜縄文を羽状に施文する。	黒浜（有尾）式
深鉢		③繊維、砂を含む		
11	胴部片	①やや不良 ②黒褐色	原体ＬＲおよびＲＬの単節斜縄文を羽状に施文する。	黒浜（有尾）式
深鉢		③繊維、砂を含む		
12	胴部片	①普通 ②にぶい褐色	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
深鉢		③繊維、少量の砂を含む		
13	胴部片	①普通 ②にぶい褐色	原体不明の単節斜縄文を羽状に施文したのち、半截竹管状工具による沈線で文様を描出する。内面磨き。	黒浜式
深鉢		③繊維、雲母を含む		
14	胴部片	①普通 ②橙	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
深鉢		③繊維、小礫を含む		
15	胴部片	①普通 ②黒褐色	原体ＲＬおよびＬＲの単節斜縄文を菱形状に施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
深鉢		③繊維、砂を含む		
16	胴部片	①やや不良 ②褐色	頸部に平行沈線文を施す。	黒浜（有尾）式
深鉢		③繊維、砂を含む		
17	胴部片	①普通 ②灰褐色	原体ＬＲおよび、ＲＬの単節斜縄文を羽状に施文したのち、半截竹管状工具による沈線を施す。	黒浜式
深鉢		③繊維、小礫を含む		
18	胴部片	①普通 ②黒褐色	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文したのち、半截竹管状工具による沈線文を施す。	黒浜式
深鉢		③繊維を含む		22と同一個体か
19	胴部片	①普通 ②明褐色	原体０段多条ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。	黒浜（有尾）式
深鉢		③繊維、砂を含む		
20	胴部片	①普通 ②橙	半截竹管状工具による連続刺突文を横位に施文する。	黒浜（有尾）式
深鉢		③繊維、砂を含む		
21	胴部片	①普通 ②にぶい褐色	原体０段多条ＲＬおよび０段多条ＬＲのループ文を施す。	関山式
深鉢		③繊維、少量の砂を含む	内面磨き。	
22	胴部片	①普通 ②にぶい褐色	原体０段多条ＲＬのループ文を施したのち、半截竹管状工具	関山式
深鉢		③繊維、砂を含む	によるコンパス文を施文する。内面磨き。	
23	胴部片	①普通 ②黒褐色	ペン先状工具の刺突文と貝殻条痕文を施文する。	早期中葉
深鉢		③雲母、石英を少量含む		
24	胴部片	①普通 ②にぶい褐色	原体ＲＬの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線	後期（加曽利Ｂ式
深鉢		③砂を含む	で文様を描出する。内面磨き。	か）
25	胴部片	①普通 ②褐灰色	原体ｆおよび、ｒの無節斜縄文を乱雑に施文する。	後期
深鉢		③雲母、石英を少量含む		
26	胴下半～	①やや不良 ②赤褐色	底径8.0cm。上げ底を呈する。原体前々段反撚ＬＲ－ＲＲお	黒浜式
深鉢	底部	③繊維、砂を含む	よび、ＲＬ－ＬＬを羽状に施文する。	
27	底部	①普通 ②にぶい黄橙	底径8.4cm。わずかに上げ底を呈する。胴部には原体ＲＬお	関山式
深鉢		③繊維、細砂を含む	よび、ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。内面磨き。	
28	底部片	①普通 ②橙	わずかに上げ底を呈する。胴部および、底部に原体ＬＲのル	関山式
深鉢		③繊維、細砂を含む	ープ文を施文する。	

27号住居出土石器計測表（第150、151図　ＰＬ60）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
29	石鏃	完	① 1.85 ② 1.9 ③ 0.3 ④ 0.4	黒曜石	
30	石鏃	先端部欠	① (2.1) ② (1.5) ③ (0.3) ④ 0.7	黒色頁岩	
31	使剥		① 1.2 ② 2.2 ③ 0.5 ④ 0.8	黒曜石	
32	剥片		① 1.6 ② 2.5 ③ 0.5 ④ 1.5	黒曜石	
33	剥片		① 4.2 ② 1.2 ③ 0.4 ④ 1.3	黒曜石	
34	スクレイパー	一部欠	① (4.2) ② (3.0) ③ (0.4) ④ 5.7	黒色頁岩	
35	スクレイパー	１／２	① (4.5) ② (2.2) ③ (0.6) ④ 5.5	黒色頁岩	
36	スクレイパー	完	① 8.0 ② 5.5 ③ 1.0 ④ 44.5	黒色頁岩	
37	スクレイパー	一部欠	① (5.3) ② (6.4) ③ (1.5) ④ 40.8	黒色頁岩	
38	スクレイパー	完	① 5.8 ② 3.6 ③ 1.5 ④ 20.7	黒色頁岩	
39	ノッチドスクレイパー	完？	① 5.8 ② 3.1 ③ 1.45 ④ 22.9	黒色頁岩	
40	打斧	完	① 8.3 ② 4.1 ③ 1.9 ④ 80.4	黒色頁岩	
41	打斧	１／２	① (6.9) ② (4.0) ③ (1.9) ④ 56.5	黒色頁岩	
42	打斧	基部刃部欠	① (4.5) ② (3.5) ③ (1.4) ④ 30.0	砂岩	
43	打斧	完	① 7.2 ② 5.2 ③ 1.5 ④ 47.6	黒色頁岩	
44	使剥？		① 7.2 ② 4.4 ③ 1.5 ④ 29.8	黒色頁岩	
45	磨石	一部欠	① (7.8) ② (8.9) ③ (3.0) ④ 343.4	褐紋輝石安山岩	
46	凹石	完	① 12.2 ② 6.2 ③ 3.4 ④ 338.9	褐紋輝石安山岩	
47	磨石	完	① 13.0 ② 8.6 ③ 3.5 ④ 657.4	褐紋輝石安山岩	



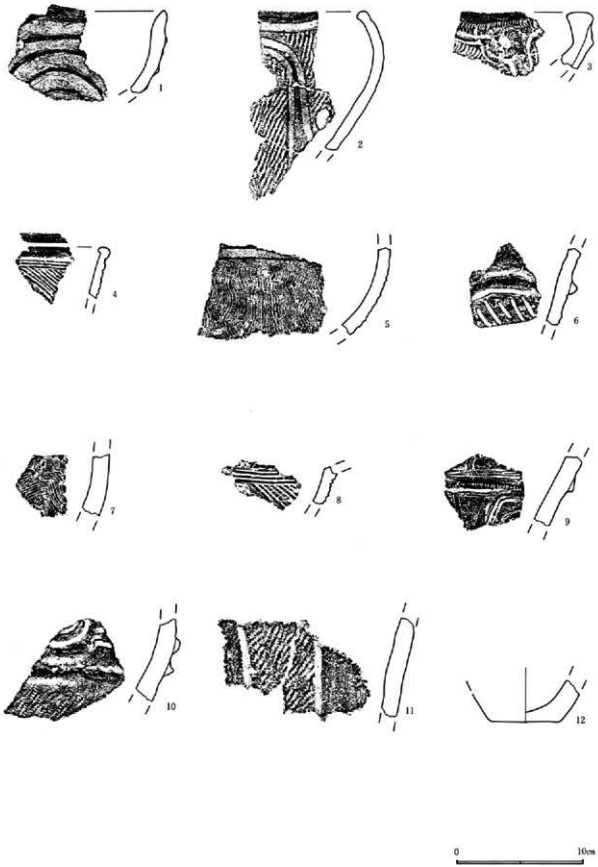
第152図　29号住居出土遺物

29号住居出土土器観察表（第152図　ＰＬ60）

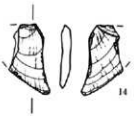
番号	部位	①成形 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 浅鉢	口縁部片	①普通 ②暗赤褐色 ③雲母、砂を含む	口唇部に粘土紐を貼付して文様を描出する。頭部には押圧による凹みをつけた断面三角の隆帯を２条巡らす。	前期末～中期初頭
2 深鉢	胴部片	①普通 ②橙 ③小礫を含む	結節縄文を縦回転に施文する。	前期末～中期初頭
3 深鉢	胴部片	①やや不良 ②橙 ③繊維、雲母を含む	原体０段多条のＬＲおよび０段多条ＲＬの単節斜縄文を菱形状に施文する。	前期前半

29号住居出土石器計測表（第152図　ＰＬ60）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
4	打製	1／3	① (6.6) ② (4.8) ③ (2.0) ④ 82.8	粗粒輝石安山岩	



第153図　30号住居出土遺物（１）



0　10cm

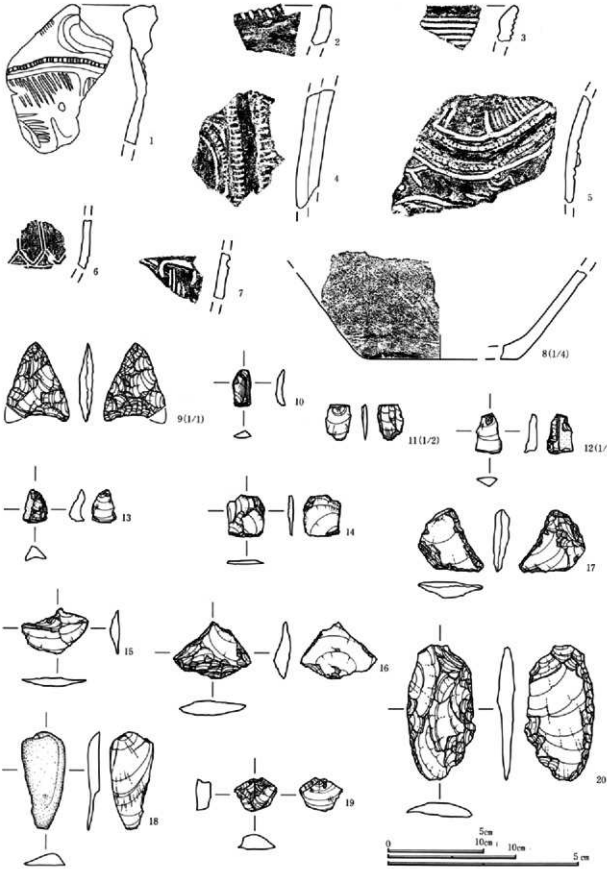
第154図　30号住居出土遺物（２）

30号住居出土土器観察表（第153図　ＰＬ60）

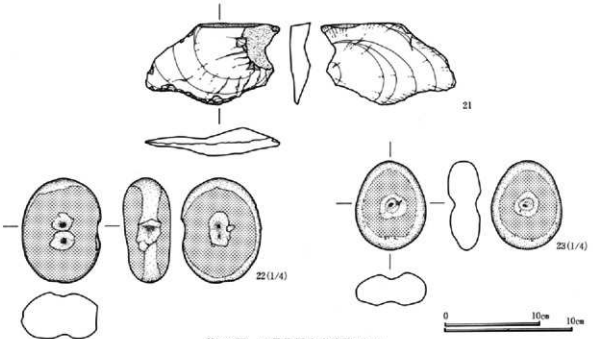
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部片	①普通 ②褐灰色 ③小礫を含む	波状口縁を呈する。低い隆帯で渦巻（同心円？）状の文様を描出する。大木式の影響か。	加曽利Ｅ４式
2 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい橙 ③砂を含む	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文したのち、棒状工具による浅い沈線で文様を描出する。	加曽利Ｅ４式
3 深鉢	口縁部片	①普通 ②灰褐色 ③砂を含む	半截竹管状工具による平行沈線文と連続爪形文を付す隆帯で文様を描出する。	勝坂式
4 深鉢	口縁部片	①普通 ②黒褐色 ③砂を少量含む	櫛歯状工具による沈線を横位と斜位に施文する。	前期末～中期初頭
5 深鉢	胴部片	①普通 ②褐灰色 ③小礫を含む	浅い沈線と、櫛歯状工具による波状の沈線文を施す。	加曽利Ｅ３式
6 深鉢	胴部片	①普通 ②褐灰色 ③砂、少量の雲母を含む	断面三角の隆帯で区画し、区画内には棒状工具による沈線を施文する。	加曽利Ｅ３式
7 深鉢	胴部片	①普通 ②明赤褐色 ③石英、雲母を少量含む	櫛歯状工具による沈線文を施す。	加曽利Ｅ３式
8 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を含む	横位の平行沈線文の下位に斜位の格子文を施文する。	前期末～中期初頭
9 深鉢	胴部片	①普通 ②灰褐色 ③砂、少量の雲母を含む	綱みを付した隆帯と棒状工具による沈線で文様を描出する。	勝坂式
10 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯で文様を描出し、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	勝坂式
11 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい橙 ③砂、小礫を含む	棒状工具による沈線を垂下させたのち、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曽利Ｅ３式
12 深鉢	底部片	①普通 ②橙 ③雲母、石英を少量含む	無文。外面磨き。	—

30号住居出土石器計測表（第154図　ＰＬ60）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
13	石器原石		① 7.4 ② 4.5 ③ 1.3 ④ 49.2	黒曜石	
14	剥片		① 5.5 ② 3.2 ③ 1.2 ④ 15.7	黒色頁岩	



第155図　32号住居出土遺物（1）



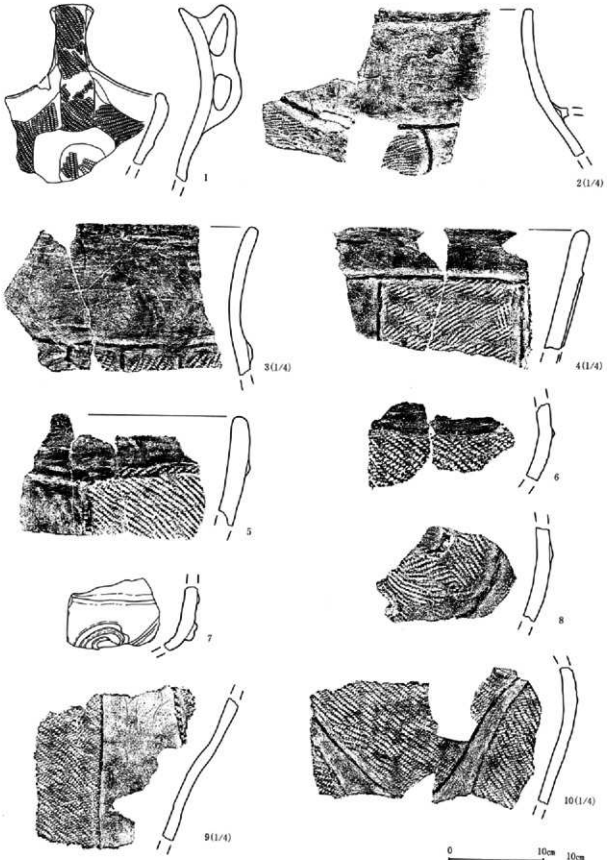
第156図　32号住居出土遺物（2）

32号住居出土土器観察表（第155図　ＰＬ61）

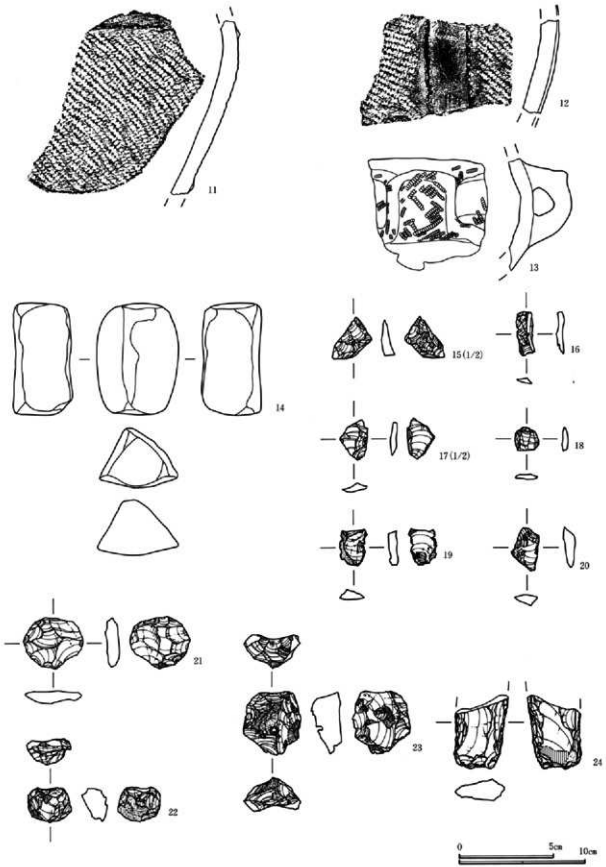
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ②砂を含む	波状口縁。頸部には平截竹管状工具による連続爪形文を巡らす。胴部には棒状工具による沈線文と刺突文を描す。	勝坂式
2 深鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい褐色 ③雲母を少量含む	波状口縁。無文だが、口唇部に棒状工具による刻みを付す。	勝坂式
3 深鉢	口縁部片	①普通 ②暗赤褐色 ②砂、石英を含む	棒状工具による平行沈線を横位に巡らす。	勝坂式
4 深鉢	胴部片	①普通 ②黒褐色 ③砂、雲母を含む	断面半円の隆帯を垂下したのち、櫛歯状工具による刺突文を描す。	勝坂Ⅱ式
5 深鉢	胴部片	①普通 ②赤褐色 ②雲母、石英を含む	断面三角の隆帯に沿ってペン先状工具による連続刺突文を施す。棒状工具による浅い沈線で文様を描出する。	勝坂Ⅱ式
6 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③細砂、少量の雲母を含む	平截竹管状工具による沈線で亀甲状の文様を描出する。	勝坂式もしくは五領ヶ台式
7 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂、少量の石英を含む	棒状工具による沈線で文様を描出する。	勝坂式
8 深鉢	底部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③小礫を含む	底径16.2cm。無文。内面磨き。	勝坂式

32号住居出土石器計測表（第155、156図　ＰＬ61）

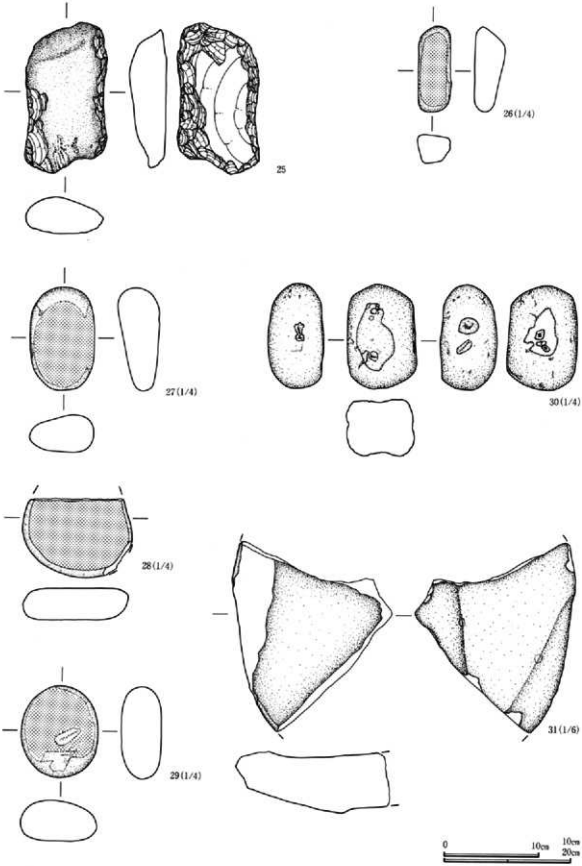
番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
9	石鏃	基部一部欠	① (2.05)② (1.65)③ (0.35)④ 0.8	黒耀石	
10	使剥		① 2.8 ② 1.5 ③ 0.5 ④ 2.0	黒耀石	
11	使剥		① 1.9 ② 1.3 ③ 0.3 ④ 0.7	黒耀石	
12	使剥		① 2.15 ② 1.35 ③ 0.55 ④ 1.2	黒耀石	
13	加剥		① 2.5 ② 1.9 ③ 1.2 ④ 4.6	黒耀石	
14	加剥		① 3.3 ② 3.0 ③ 0.5 ④ 5.0	珪質頁岩	
15	使剥		① 3.4 ② 5.0 ③ 0.65 ④ 8.9	黒色頁岩	
16	使剥		① 3.4 ② 5.3 ③ 1.3 ④ 27.0	細粒輝石安山岩	
17	加剥		① 5.2 ② 4.9 ③ 1.3 ④ 23.1	細粒輝石安山岩	
18	使剥		① 7.7 ② 3.4 ③ 0.9 ④ 23.4	黒色頁岩	
19	剥片		① 2.6 ② 3.3 ③ 1.1 ④ 8.4	黒耀石	
20	スクレイパー	完	① 10.6 ② 5.4 ③ 1.3 ④ 64.4	砂岩	
21	スクレイパー	完	① 6.4 ② 10.7 ③ 2.2 ④ 99.0	黒色頁岩	
22	凹石	完	① 11.0 ② 8.4 ③ 4.8 ④ 593.2	粗粒輝石安山岩	
23	凹石	完	① 9.3 ② 7.6 ③ 3.5 ④ 294.4	粗粒輝石安山岩	



第157図　36号住居出土遺物（1）



第158図　36号住居出土遺物（２）



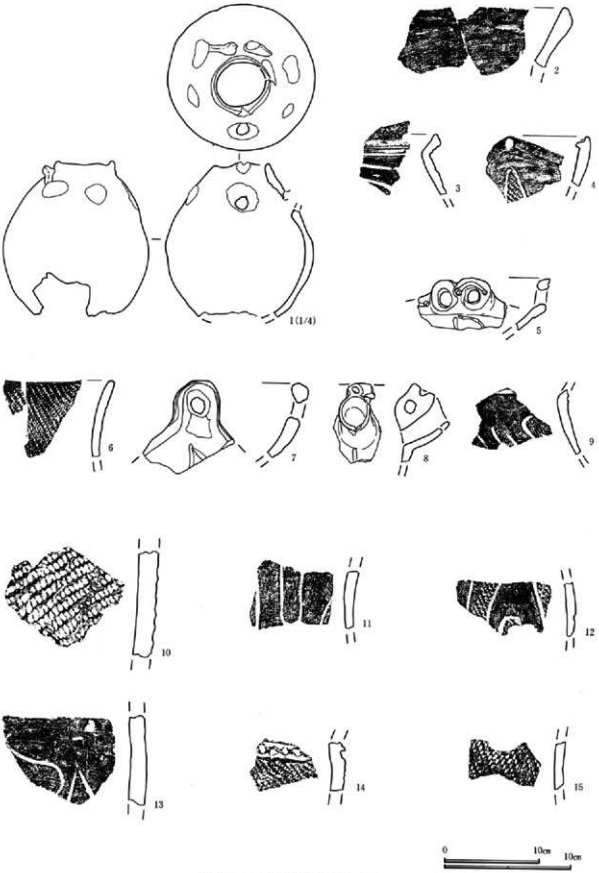
第159図　36号住居出土遺物（３）

36号住居出土土器観察表（第157、158図　ＰＬ61、62）

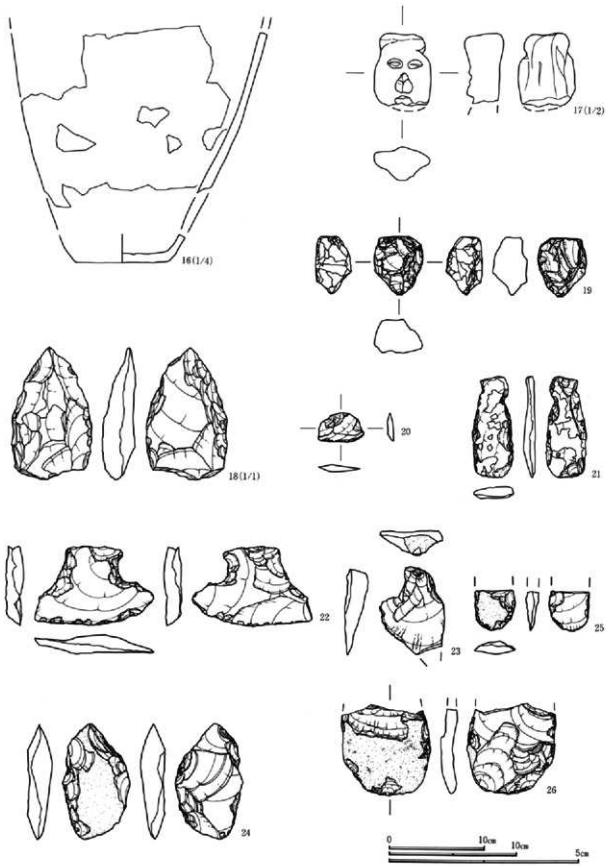
番号	部位	①焼成　②色調　③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部	①普通　②にぶい赤褐色 ③砂を含む	波状口縁。横状把手を有する。原体ＬＲの単節斜縄文を施文したのち、凸型の浅い沈線を施す。内面磨き。	加曽利Ｅ４式
2 両耳壺	口縁部	①普通　②にぶい褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち、垂下させる。原体ＬＲの単節斜縄文を斜位に施文する。横状の把手を有すると思われる。	加曽利Ｅ４式
3 両耳壺	口縁部	①普通　②橙 ③砂、小礫を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち、垂下させ、原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	加曽利Ｅ４式
4 深鉢	口縁部	①普通　②黒褐色 ③砂、小礫を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち、垂下。原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。	加曽利Ｅ４式
5 深鉢	口縁部片	①普通　②にぶい黒褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち、垂下。原体０段多条ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曽利Ｅ４式
6 深鉢	胴部片	①普通　②にぶい黒褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曽利Ｅ４式
7 深鉢	胴部片	①普通　②にぶい赤褐色 ③砂、少量の雲母を含む	断面三角の隆帯を巡らし、背割り状の隆帯で渦巻状の文様を描出する。	—
8 深鉢	胴部片	①普通　②褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯で文様を描出し、原体ＬＲの単節斜縄文を乱雑に施文する。	加曽利Ｅ４式
9～12 深鉢	胴部	①普通　②灰褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯で文様を描出し、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曽利Ｅ４式
13 深鉢	把手	①普通　②灰褐色 ③砂を含む	横状の把手。原体ＲＬの単節斜縄文を乱雑に施文する。	加曽利Ｅ４式
14 土製品	三角柱型 土製品	①普通　②黒褐色 ③砂を含む	円筒から各稜をひねりだしたような形状を示す。稜の１つが磨滅している。各面は無文だが、ていねいな磨き。重量268ｇ。	—

36号住居出土石器計測表（第158、159図　ＰＬ62）

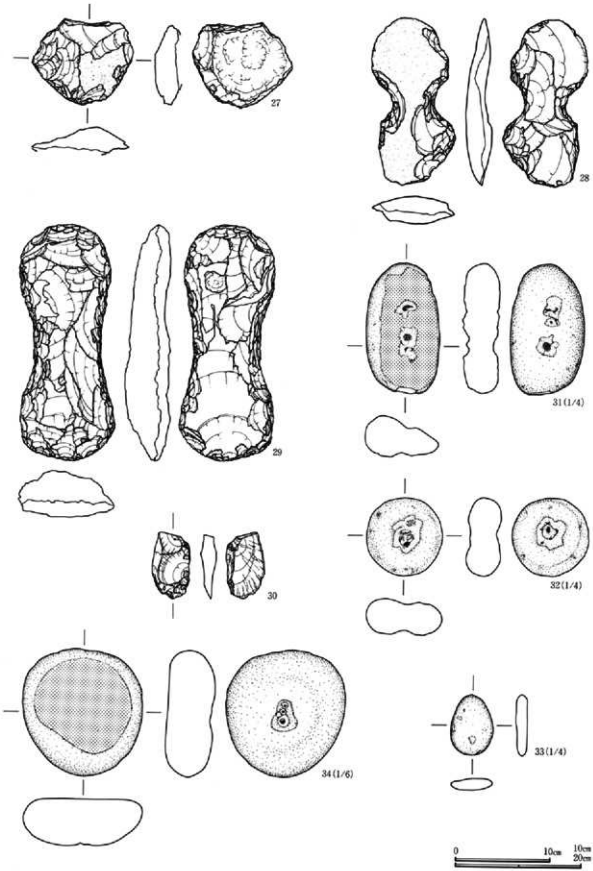
番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
15	加剥		① 2.2 ② 2.1 ③ 0.7 ④ 1.6	黒耀石	
16	使剥		① 3.5 ② 1.4 ③ 0.4 ④ 1.7	黒耀石	
17	加剥		① 2.1 ② 1.4 ③ 0.4 ④ 0.8	黒耀石	
18	剥片		① 1.8 ② 1.9 ③ 0.4 ④ 1.3	黒耀石	
19	加剥		① 2.8 ② 2.2 ③ 0.8 ④ 3.6	黒耀石	
20	使剥		① 3.4 ② 2.2 ③ 0.9 ④ 3.7	黒耀石	
21	スクレイパー	完	① 2.8 ② 3.2 ③ 0.6 ④ 6.1	黒色頁岩	
22	石核		① 2.8 ② 3.5 ③ 2.0 ④ 15.5	黒耀石	
23	剥片		① 4.9 ② 4.6 ③ 2.3 ④ 45.5	黒耀石	
24	打斧	１／２	① (5.7) ② (4.3) ③ (1.7) ④ 50.2	細粒輝石安山岩	
25	打斧	完	① 11.9 ② 7.1 ③ 2.9 ④ 284.1	粗粒輝石安山岩	
26	磨石	完	① 9.0 ② 3.5 ③ 3.2 ④ 171.6	粗粒輝石安山岩	
27	磨石	完	① 10.8 ② 6.9 ③ 4.5 ④ 515.2	粗粒輝石安山岩	
28	磨石	一部欠	① (8.3) ② (11.8) ③ (3.3) ④ 642.8	粗粒輝石安山岩	
29	凹石	完	① 9.7 ② 8.2 ③ 4.3 ④ 515.9	粗粒輝石安山岩	
30	凹石	完	① 10.9 ② 7.4 ③ 6.0 ④ 605.7	粗粒輝石安山岩	
31	石皿	１／４	①(29.7) ②(25.4) ③ (9.5) ④ 6900	粗粒輝石安山岩	



第160図　45号住居出土遺物（１）



第161図　45号住居出土遺物（２）



第162図　45号住居出土遺物（３）

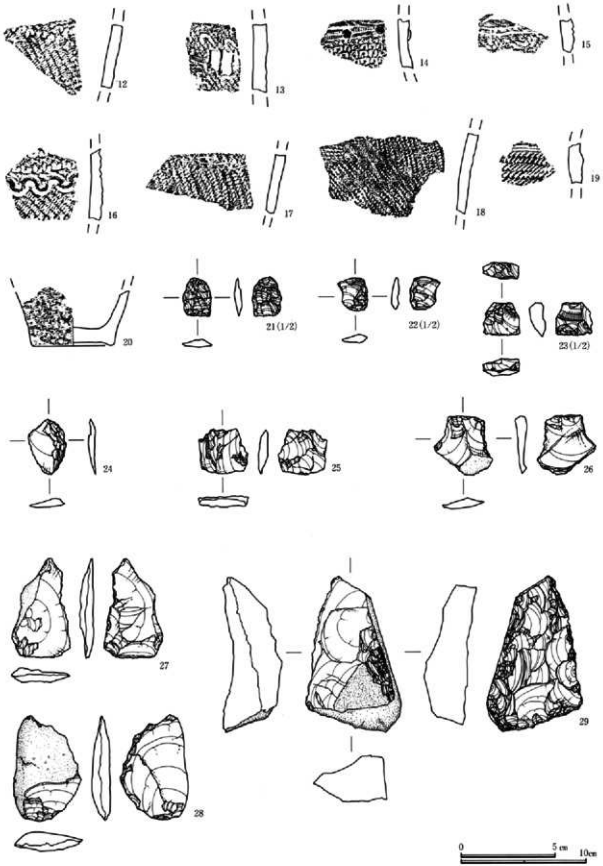
45号住居出土土器観察表（第160、161図　ＰＬ63）

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 注口部	口縁～胴 部下半	①普通 ②褐灰色 ③砂を少量含む	口径5.9cm。橋状の把手を３単位貼付すると思われる。胴部は無文。外面磨き。	堀之内１式
2 浅鉢か	口縁部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を少量含む	無文。口唇部がわずかに内傾する。内、外面とも磨き。	堀之内式
3 深　鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を少量含む	口縁部は外反する。頸部に浅い沈線を巡らし、胴部は棒状工具による沈線で文様を描出する。	—
4 深　鉢	口縁部片	①普通 ②灰黄褐色 ③雲母を含む	波状口縁。棒状工具による沈線で口型の区画をなし、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。口唇部に楕円形の凹み。	堀之内式
5 深　鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を含む	波状口縁。橋状の把手。棒状工具による沈線と刺突文で文様を描出する。	堀之内式
6 深　鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を少量含む	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	諸磯式
7 深　鉢	口縁部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を少量含む	波状口縁。橋状の把手。口唇部には背割り状の沈線。胴部には棒状工具による沈線文を施す。	—
8 注口部	注口部	①普通 ③橙 ③砂を少量含む	注口部の下位に棒状工具による沈線。内面磨き。	堀之内式か
9 深　鉢	胴部片	①普通 ②にぶい黄褐色 ③砂、小礫を含む	棒状工具による浅い沈線で口型の文様を描出し、原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。	堀之内式
10 深　鉢	胴部片	①普通 ②明赤褐色 ③石英を含む	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。	加曽利Ｅ式
11 深　鉢	胴部片	①普通 ②黒褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線でＵ型の文様を描出する。外面磨き。	後期初頭
12 深　鉢	胴部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③雲母を少量含む	棒状工具による沈線で文様を描出し、原体ＬＲの単節斜縄文を施文する。	称名寺式
13 深　鉢	胴部片	①普通 ②明黄褐色 ③砂、小礫を含む	棒状工具による沈線で文様を描出する。	称名寺式
14 深　鉢	胴部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③砂を少量含む	原体ＲＬの単節斜縄文を施文したのち、棒状工具による沈線と同様の工具による刺突文を施す。	加曽利Ｅ式
15 深　鉢	胴部片	①普通 ②にぶい橙 ③砂を含む	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。内面磨き。	諸磯ｂ式
16 深　鉢	胴～底部	①普通 ②にぶい赤褐色 ③砂を含む	底径10.0cm。無文。摂痕。	—
17 土　偶	頭部	①普通 ②暗赤灰色 ③砂を含む	顔面は平板的で、目、口は彫刻で表現され、鼻は刺突による圧痕で表現される。頭頂部は平坦でスタンプ状を呈する。	堀之内１式

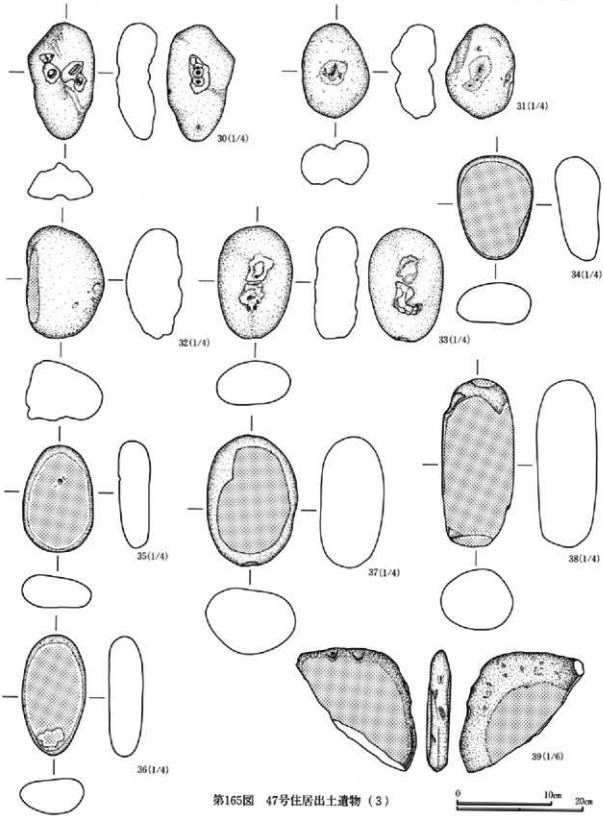
45号住居出土石器計測表（第161、162図　ＰＬ63、64）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
18	石鏃	完	① 3.5 ② 2.15 ③ 0.9 ④ 6.6	黒色頁岩	
19	石核？		① 4.5 ② 3.8 ③ 2.7 ④ 56.7	黒色頁岩	
20	スクレイパー	完	① 2.3 ② 3.6 ③ 0.6 ④ 4.2	黒色頁岩	
21	石匙	完	① 8.0 ② 3.2 ③ 0.95 ④ 25.9	黒色頁岩	風化著しい。
22	石匙	一部欠	①(6.1) ②(5.1) ③(1.5) ④ 64.6	黒色頁岩	
23	スクレイパー	一部欠	①(6.8) ②(5.1) ③(1.9) ④ 44.5	黒色頁岩	
24	スクレイパー	一部欠	①(9.0) ②(5.3) ③(1.9) ④ 85.6	黒色頁岩	
25	打斧	刃部片	①(3.1) ②(3.1) ③(1.0) ④ 12.2	砂岩	
26	打斧	刃部片	①(7.1) ②(7.0) ③(1.35)④ 72.4	細粒輝石安山岩	
27	打斧	１／２	①(6.3) ②(8.0) ③(1.8) ④ 103.8	細粒輝石安山岩	
28	打斧	完	① 13.2 ② 6.0 ③ 2.0 ④ 169.8	黒色頁岩	
29	打斧	一部欠	①(18.7) ②(7.6) ③(3.6) ④ 550.5	黒色頁岩	
30	加刻		① 5.25 ② 3.0 ③ 1.3 ④ 22.2	黒色安山岩	
31	凹石	完	① 13.7 ② 7.9 ③ 4.5 ④ 626.3	粗粒輝石安山岩	
32	凹石	完	① 8.2 ② 8.1 ③ 3.8 ④ 330.4	粗粒輝石安山岩	
33	石棒状石器	完	① 6.3 ② 4.3 ③ 1.2 ④ 59.7	緑色片岩	
34	凹石	完	① 20.1 ② 18.9 ③ 7.7 ④ 473.5	粗粒輝石安山岩	

第163図　47号住居出土遺物（１）



第164図　47号住居出土遺物（２）



第165図　47号住居出土遺物（３）

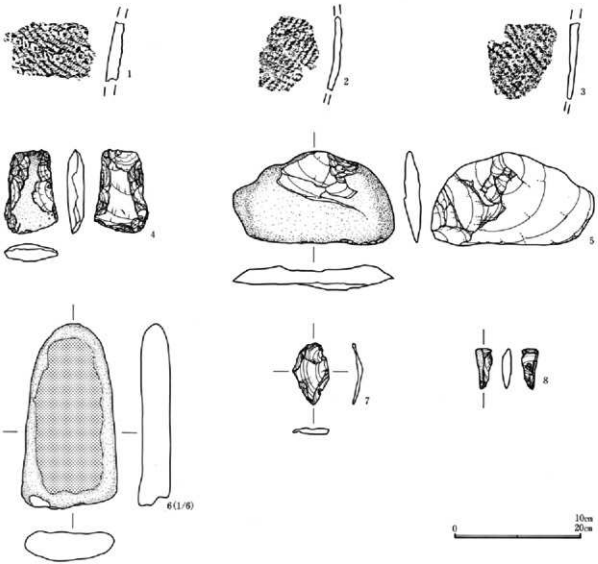
47号住居出土土器観察表（第163、164図　ＰＬ64、65）

番号	部位	①焼成　②色調　③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁～胴部片	①普通　②黒褐色 ③繊維、砂を含む	平口縁。原体ＲＬおよび、ＬＲの単節斜縄文を菱形状に施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
2 深鉢	口縁部片	①やや不良 ②黒褐色 ③繊維、小礫を含む	無文。内、外面とも磨き。	黒浜（有尾）式
3 深鉢	口縁部片	①やや不良 ②橙 ③繊維を含む	波状の突起を付す。口縁部には瘤状の貼付文を施す。	関山式
4 深鉢	口縁部片	①やや不良 ②黒褐色 ③繊維、砂を含む	半載竹管状工具による平行沈線と、棒状工具による沈線で文様を描出する。	関山式
5 深鉢	胴部	①やや不良 ②橙 ③繊維、砂を含む	口縁部には棒状工具による平行沈線文とコンパス文を施し、胴部は原体ＲＬおよび、ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。	黒浜式
6 深鉢	胴部片	①普通 ②灰褐色 ③繊維、細砂を含む	断面三角の隆帯を２条巡らし、間を円形文でつなぐ。隆帯頂部には原体ＲＬの単節斜縄文の圧痕文。胴部には波形の浅い沈線と、棒状工具による短沈線を施す。	黒浜式
7 深鉢	胴部片	①普通 ②褐色 ③繊維、細砂を含む	原体ＬＲおよび、ＲＬの単節斜縄文を羽状に施文したのち、竹状工具による沈線文と瘤状の貼付文を施す。	関山式
8 深鉢	胴部片	①やや不良 ②褐色 ③繊維、砂を含む	有刻平行沈線で文様を描出したのち、瘤状の貼付文を施す。内面磨き。	関山Ⅰ式
9 深鉢	胴部片	①やや不良 ②橙 ③繊維、細砂を含む	原体ＲＬおよびＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。	前期前半
10 深鉢	胴部片	①普通 ②暗赤褐色 ③繊維、砂を含む	原体ＲＬおよびＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
11 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい橙 ③繊維、砂を含む	原体０段多条ＲＬのループ文と、原体ＲＬとＬＲの結束単節斜縄文を羽状に施文する。補修孔を穿孔する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
12 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい黄橙 ③繊維、砂を含む	原体０段多条ＲＬのループ文と、０段多条ＬＲの単節斜縄文を施文する。内面磨き。	黒浜（有尾）式
13 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい橙 ③繊維、細砂を含む	原体０段多条ＲＬのループ文を施したのち、棒状の貼付文を貼付する。内面磨き。	関山Ⅰ式
14 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい赤褐色 ③繊維、細砂を含む	原体０段多条ＲＬのループ文を施したのち、有刻平行沈線とボタン状の貼付文を施す。	関山Ⅰ式
15 深鉢	胴部片	①普通 ②橙 ③繊維、細砂を含む	原体ＬＲで結節の単節斜縄文を施したのち、半載竹管状工具による沈線を施文する。	関山式
16 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい橙 ③繊維、細砂を含む	原体ＬＲおよびＲＬのループ文を施したのち、半載竹管状工具によるコンパス文を施す。内面磨き。	関山Ⅰ式
17 深鉢	胴部片	①普通 ②暗赤褐色 ③砂、雲母を含む	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。端部は結束かん。内面磨き。	諸磯式
18 深鉢	胴部片	①普通 ②明赤褐色 ③砂、雲母を含む	原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	諸磯式
19 深鉢	胴部片	①普通 ②明赤褐色 ③砂を少量含む	竹状工具による連続刺突文を施したのち、凹線を巡らす。	前期末～中期初頭
20 深鉢	底部	①やや不良 ②にぶい橙 ③繊維、細砂を含む	底径6.5cm。上げ底を呈する。胴部には縄文を施文（原体は不明）。	関山式

47号住居出土石器計測表（第164、165図　ＰＬ65）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
21	石鏃	未製品	① 2.0 ② 1.5 ③ 0.4 ④ 1.5	黒曜石	
22	剥片		① 1.7 ② 1.6 ③ 0.4 ④ 0.9	黒曜石	
23	剥片		① 1.7 ② 1.9 ③ 0.8 ④ 2.9	黒曜石	
24	使剥		① 4.3 ② 2.8 ③ 0.6 ④ 5.8	黒色頁岩	
25	スクレイパー	完	① 3.5 ② 3.9 ③ 0.9 ④ 11.9	チャート	
26	使剥		① 3.6 ② 4.7 ③ 0.8 ④ 15.5	チャート	
27	打斧	1／2	①(7.8) ②(4.5) ③(1.1) ④ 32.9	黒色頁岩	
28	スクレイパー	完	① 8.2 ② 5.35 ③ 1.5 ④ 62.3	細粒輝石安山岩	
29	加剥		① 12.2 ② 7.55 ③ 4.7 ④ 364.9	黒色頁岩	
30	凹石	完	① 12.2 ② 7.0 ③ 4.2 ④ 381.1	粗粒輝石安山岩	
31	凹石	完	① 9.9 ② 7.3 ③ 4.8 ④ 357.3	粗粒輝石安山岩	
32	凹石	完	① 11.8 ② 8.2 ③ 6.3 ④ 720.3	粗粒輝石安山岩	
33	凹石	完	① 11.9 ② 7.9 ③ 4.7 ④ 651.6	粗粒輝石安山岩	
34	磨石	完	① 10.9 ② 8.1 ③ 4.7 ④ 595.2	粗粒輝石安山岩	
35	磨石	完	① 11.2 ② 7.5 ③ 3.4 ④ 452.2	粗粒輝石安山岩	
36	磨石	完	① 12.6 ② 6.8 ③ 3.7 ④ 466.5	粗粒輝石安山岩	
37	磨石	完	① 13.8 ② 9.6 ③ 6.9 ④ 1221.5	粗粒輝石安山岩	
38	敲石	完	① 17.5 ② 7.6 ③ 6.4 ④ 1358.4	粗粒輝石安山岩	
39	石皿	1／2	①(19.1) ②(19.1) ③ (3.6) ④ 1591	緑色片岩	



第166図　48号住居出土遺物

48号住居出土土器観察表（第166図　ＰＬ65）

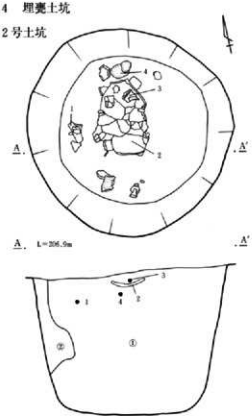
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい褐色 ③繊維、細砂を含む	原体０段多条ＲＬのループ文を施す。内面磨き。	黒浜（有尾）式
2 深鉢	胴部片	①やや不良 ②褐色 ③繊維、小礫を含む	原体ＲＬおよび、ＬＲの単節斜縄文を羽状に施文する。内面磨き。	関山式か
3 深鉢	胴部片	①普通 ②にぶい橙 ③繊維、小礫を含む	原体不明の縄文を施す。	—

48号住居出土石器計測表（第166図　ＰＬ65）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
4	打斧	刃部欠	① (6.3) ② (3.9) ③ (1.4) ④ 46.3	黒色頁岩	
5	スクレイパー	完	① 7.2 ② 13.0 ③ 1.7 ④ 130.7	細粒輝石安山岩	
6	石皿	完	① 28.9 ② 15.2 ③ 5.0 ④ 3657	緑色片岩	
7	剥片		① 4.8 ② 2.8 ③ 0.8 ④ 4.7	珪質凝灰岩	
8	剥片		① 3.1 ② 1.2 ③ 0.7 ④ 1.9	珪質凝灰岩	

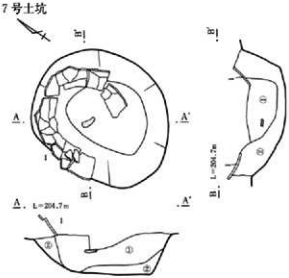
4　埋甕土坑

2号土坑



2号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石、白色微粒子多く含む。
② 暗褐色土　黄色軽石、白色微粒子僅かに含む。

7号土坑



7号土坑
① 茶褐色土　白色鉱物粒と橙色軽石粒少量含む。ローム細粒僅かに含む。
② 黄褐色土　ローム土主体。白色鉱物粒僅かに含む。

0　1m

第167図　2・7号埋甕土坑

2号土坑

位置　66区R-19グリッド　**写真**　PL66

形状　平面形はほぼ円形、断面形は箱形を呈する。

埋没土　分層しているが、ほぼ同一土層と考えられ、人為的な埋没状況が推定される。

遺物　口縁を欠いた加曽利E4式の深鉢約1/2個体が、土坑上層に横位に埋設されている。本土坑の確認状況から考えると、土坑上部が後世の削平を受けた際に、この深鉢も破壊された可能性もある。図示した遺物の他、加曽利E4式を中心とする土器片80点と石器類4点が出土している。いずれも土坑上層からの出土が多い。**考察**　形状や遺物の出土状態から考えると、加曽利E4式期の土坑墓の可能性もある。

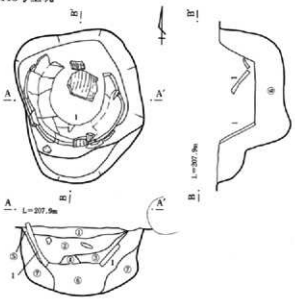
7号土坑

位置　66区T-15グリッド　**写真**　PL66

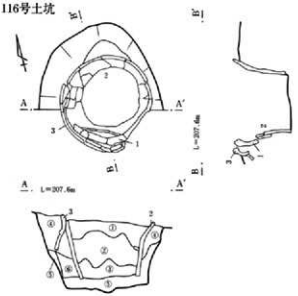
形状　掘り方の平面形状はほぼ円形を呈し、断面は浅い箱形を呈する。掘り方は埋甕よりも一回り大きく掘られている。**埋没土**　2層に分層されている。黄褐色土を坑底に貼り、土器を据えた状況が推定される。

遺物　底部を欠く加曽利E4式の深鉢が正位に設置されている。本土坑の掘り方は遺物のレベルよりも低位でしか確認できなかったので、胴上位の部分は後世の削平により破壊された可能性もある。埋甕の他には遺物の出土はなかった。

113号土坑



116号土坑



第168図　113・116号埋甕土坑

113号土坑

位置　66区F-20グリッド　**写真**　PL66

形状　掘り方は埋甕よりも一回り大きく掘られており、その平面形状は、方形に南側の一部が張り出したような不定形で、断面形状は浅い箱形を呈する。

埋没土　掘り方の埋没土は暗褐色土を主体としている。

遺物　底部を欠いた中期後半の深鉢が正位に設置されていた。埋甕を設置したのち、埋没していく途中で、埋甕の北側の一部が割れて内側に落ち込んだ状況が看取できる。埋甕以外に遺物は出土していない。

考察　埋甕の埋没状況から、埋甕が設置されたのち、しばらくの間埋甕内は空であったことが推定される。

116号土坑

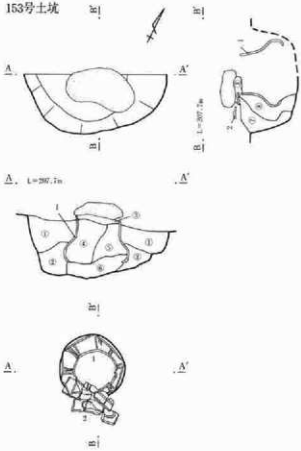
位置　66区F-19グリッド　**写真**　PL67

形状　南側を断ち割って調査を行ったため、全体の形状は不明だが、平面形状は楕円形を呈するものと思われる。断面形状は箱形を呈する。

埋没土　掘り方の埋没土は暗褐色土を主体とする。

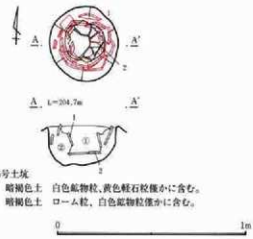
遺物　口縁と底部を欠いた加曽利E4式の深鉢を、正位に設置する。さらに埋甕の上端部の外側に、別個体の深鉢の口縁部を補強するような形で設置している。図示した遺物の他、埋甕の覆土中から中期後半の土器片25点が出土している。

153号土坑



153号土坑
① 黒褐色土　As-YP少量含む。
② 黒褐色土　As-YP少量含む。ローム粒多く含む。
③ 褐色土　ローム土主体。As-YP, 黒色土少量含む。
④ 黒褐色土　As-YP少量含む。
⑤ 黒褐色土　ローム粒少量含む。
⑥ 褐色土　ローム粒非常に多く含む。
⑦ 暗褐色土　ローム粒多く含む。As-YP少量含む。
⑧ 暗褐色土　As-YP僅かに含む。

175号土坑



175号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒、黄色軽石粒僅かに含む。
② 暗褐色土　ローム粒、白色鉱物粒僅かに含む。

第169図　153・175号埋甕土坑

153号土坑

位置　76区Ｅ-1グリッド　**写真**　ＰＬ67

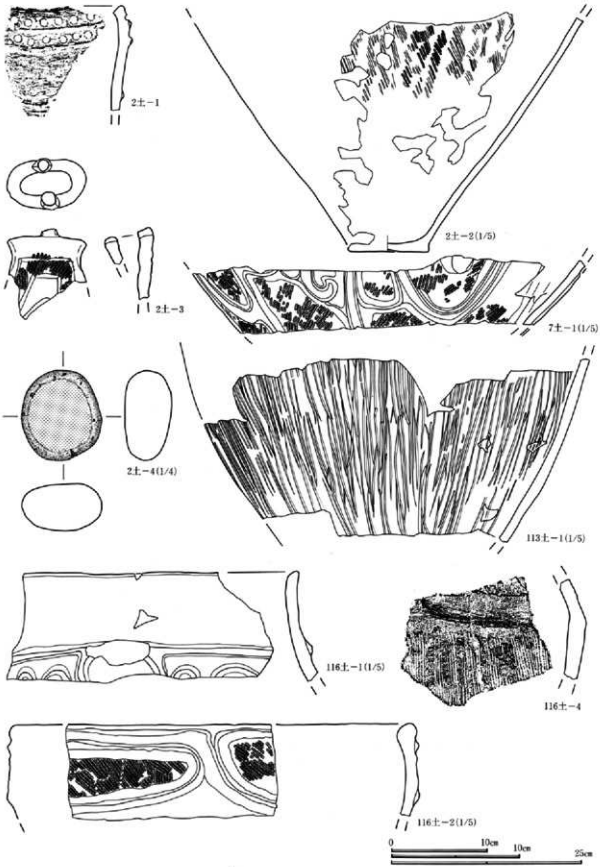
形状　掘り方は埋甕上端部の径の約３倍の大きさに掘られている。平面形状は北側を断ち割って調査を行ったため、全体の形状は不明だが、やや楕円形に近い円形を呈するものと思われる。断面形状は浅い箱形を呈する。　**埋没土**　堆積状況の観察から、褐色土を坑底に貼り、埋甕を設置したのち、黒褐色土を充填した状況が推定される。　**遺物**　底部を欠く加曽利Ｅ３式の深鉢を逆位に設置する。埋甕の上面に、別個体の加曽利Ｅ３式の深鉢の口縁部を敷くような状態で設置し、さらにその上に長径36cmの礫を設置した状況が確認できた。図示した遺物の他には遺物の出土はなかった。　**考察**　本遺跡で検出された埋甕土坑の中で、逆位に設置されているものは、本土坑だけである。埋甕上面に土器片、礫を設置した状況から、土器棺墓の可能性が高いと思われる。

175号土坑

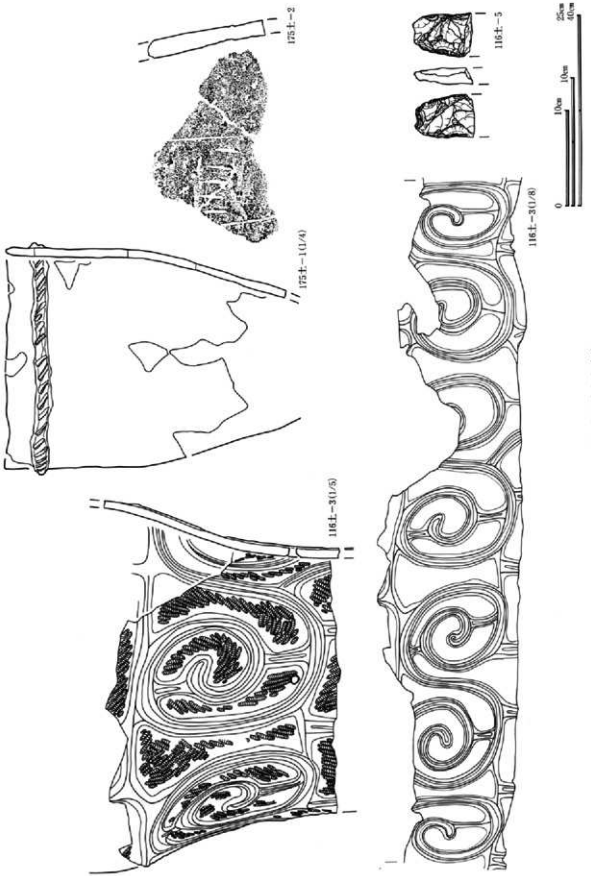
位置　76区Ａ-1グリッド　**写真**　ＰＬ67

重複　関山式期の47号住居の床面を切る状態で検出された。　**形状**　掘り方は埋甕よりも一回り大きく掘られている。平面形状は円形、断面形状は半円形を呈する。　**埋没土**　掘り方、埋甕内ともに暗褐色土を主体とする。　**遺物**　底部を欠く称名寺Ⅱ式の深鉢を正位に設置する。底面には同時期と思われる別個体の深鉢胴部片を敷く。図示した遺物の他、同時期の土器片25点が検出されている。

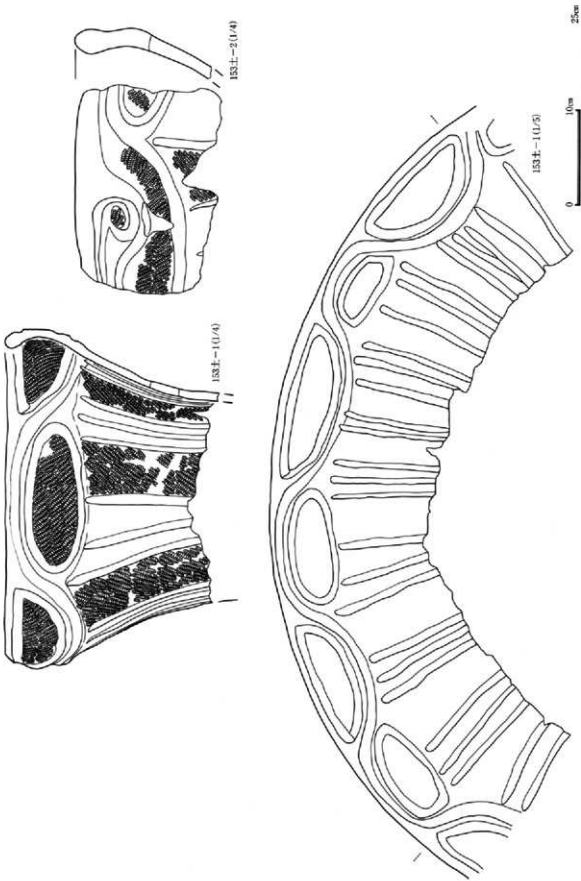
考察　埋甕は破片が重なったような状況で検出されており、設置されてまもなく破壊されていた状況が推定される。



第170図　2・7・113・116号堀棄土坑出土遺物



第171図　116・175号埋甕土坑出土遺物



第172図　153号竪穴土坑出土遺物

2号土坑出土土器観察表（第170図　ＰＬ87）

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯を２条巡らしたのち、棒状工具による刺突文を施す。内、外面磨き。	加曽利Ｅ４式
2 深鉢	胴～底部 1/3残存	①良好 ②にぶい黄橙 ③細砂、小礫を含む	底径10.5cm。上部に原体ＲＬの単節斜縄文を施文し、下部は無文。	加曽利Ｅ４式
3 深鉢	口縁把手	①良好 ②明赤褐色 ③砂、小礫を含む	ボタン状の貼付文を持つ、楕円環状の把手。棒状工具による沈線で文様を描出したのち、原体ＬＲの単節斜縄文を充填。	加曽利Ｅ４式

2号土坑出土石器計測表（第170図　ＰＬ87）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
4	磨石	完	① 9.6 ② 8.6 ③ 5.0 ④ 625.9	堆積輝石安山岩	

7号土坑出土土器観察表（第170図　ＰＬ87）

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 浅鉢	胴部	①良好 ②にぶい橙 ③砂を含む	断面三角の隆帯で文様を描出し、原体ＬＲの単節斜縄文を施文する。	加曽利Ｅ４式

113号土坑出土土器観察表（第170図　ＰＬ87）

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	胴部	①良好 ②にぶい橙 ③砂を含む	棒状工具による沈線を縦位に施文する。	中期後半

116号土坑出土土器観察表（第170、171図　ＰＬ88）

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部 1/2残存	①良好 ②橙 ③砂を含む	口径(38.0)cm。断面台形の隆帯を巡らしたのち、同様の隆帯で文様を描出する。内面磨き。	加曽利Ｅ４式
2 深鉢	口縁部 1/5	①良好 ②にぶい褐色 ③砂、小礫を含む	断面台形の隆帯で区画をなし、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。そののち、隆帯にそって四線を施す。	加曽利Ｅ３式
3 深鉢	胴部	①良好 ②にぶい黄橙 ③砂を含む	断面半円の隆帯で文様を描出したのち、原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。胴部の文様は６単位。径約１cmの孔を焼成後に穿孔する。	加曽利Ｅ４式
4 深鉢	胴部片	①良好 ②橙 ③砂、小礫を含む	低い隆帯で文様を描出したのち、原体ＲＬの単節斜縄文を施文し、隆帯にそってなぞりを施す。その下位に櫛歯状工具による沈線文を施す。	加曽利Ｅ３式

116号土坑出土石器計測表（第171図　ＰＬ88）

番号	器種	残存	計測値 ①長さ ②幅 ③厚さ ④重量	石材	備考
5	打斧	1／2	① (4.7) ② (3.4) ③ (1.4) ④ 24.7	硬質泥岩	

153号土坑出土土器観察表（第172図　ＰＬ88）

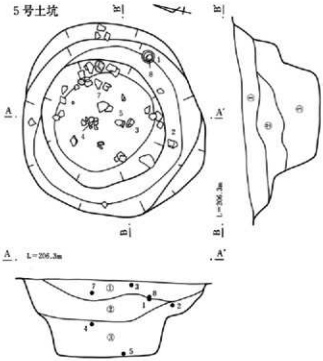
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁～胴部	①良好 ②にぶい黄橙 ③砂を含む	口径33.0cm。口縁部に長楕円と半楕円の区画を交互に配し、間に凹線を蛇行させる。区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。口縁部の文様は３単位。胴部は３本一組の凹線を垂下させ、原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。胴部の文様の単位は８単位。ただし、垂下する凹線が２本と４本の単位が、それぞれ１組ずつある。	加曽利Ｅ３式
2 深鉢	口縁部	①良好 ②にぶい黄褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯で文様を描出し、原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。胴部は棒状工具による沈線を垂下させ、原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	加曽利Ｅ３式

175号土坑出土土器観察表（第171図　ＰＬ89）

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁～胴部2/3	①良好 ②にぶい赤褐色 ③砂を含む	角棒状工具による刻みを付した突帯が巡る。他は無文。	称名寺Ⅱ式
2 深鉢	胴部片	①良好 ②黒褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線と短沈線で文様を描出する。	後期初頭

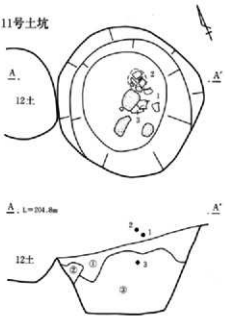
5　土坑

5号土坑



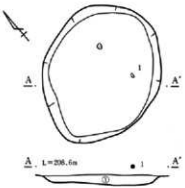
5号土坑
① 暗褐色土　As-YP少量含む。黒褐色土粒多く含む。
② 暗褐色土　As-YP少量含む。黒褐色土粒少量含む。
③ 暗黄褐色土　ローム土主体。As-YP多く含む。

11号土坑



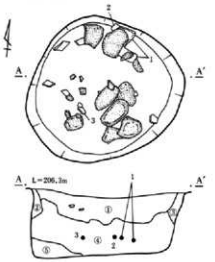
11号土坑
① 暗褐色土　白色泥物粒少量含む。ロームブロック僅かに含む。
② 黄褐色土　白色泥物粒多く含む。
③ 暗褐色土　白色泥物粒少量含む。ロームブロック僅かに含む。黄色粒石多く含む。

75号土坑



75号土坑
① 暗褐色土　ロームブロック、ローム粒粒多く含む。

104号土坑

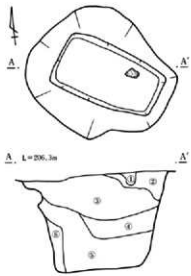


104号土坑
① 黒褐色土　As-YP多く含む。縄文土器片含む。
② 黒褐色土　As-YPを含まず。粒子密。
③ 黒褐色土　As-YP、ローム粒多く含む。
④ 暗褐色土　As-YP、ローム粒、ロームブロック非常に多く含む。径30cm前後の円礫、角礫を含む。
⑤ 黄褐色土　ローム土主体。黒褐色土粒少量含む。

0　　2m

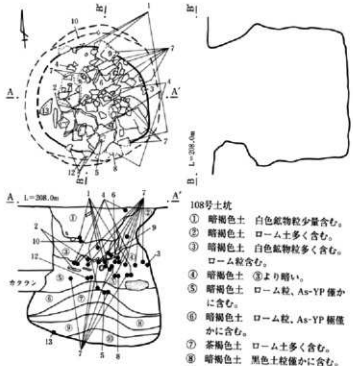
第173図　5・11・75・104号土坑

105号土坑



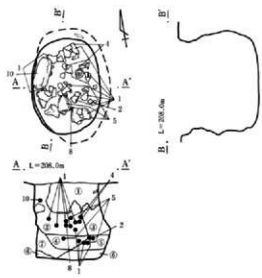
105号土坑
① 攪乱
② 暗褐色土　炭化物僅かに含む。
③ 黒褐色土　黄色軽石少量含む。
④ 黒褐色土　黄色軽石僅かに含む。ロームブロック少量含む。
⑤ 黒褐色土　黄色軽石多く含む。ロームブロック少量含む。
⑥ 暗黄褐色土　ローム土主体。黄色軽石僅かに含む。

108号土坑



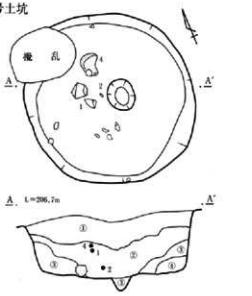
108号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 暗褐色土　ローム土多く含む。
③ 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。ローム粒含む。
④ 暗褐色土　③より暗い。
⑤ 暗褐色土　ローム粒、As-YP 僅かに含む。
⑥ 暗褐色土　ローム粒、As-YP 極僅かに含む。
⑦ 茶褐色土　ローム土多く含む。
⑧ 暗褐色土　黒色土粒僅かに含む。
⑨ 茶褐色土　ローム粒僅かに含む。
⑩ 暗褐色土　黒色土粒僅かに含む。

107号土坑



107号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 暗褐色土
③ 暗褐色土　As-YP 少量含む。
④ 暗褐色土　ローム粒、As-YP 少量含む。
⑤ 暗褐色土　ローム土少量含む。
⑥ 黄褐色土　ローム土主体。暗褐色土少量含む。
⑦ 茶褐色土　ローム粒粒、As-YP 多く含む。

126号土坑

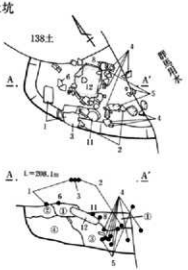


126号土坑
① 暗褐色土　As-YP、ロームブロック多く含む。
② 暗褐色土　As-YP 多く含む。ロームブロック少量含む。
③ 暗褐色土　As-YP、ローム粒非常に多く含む。
④ 褐色土　ローム土主体。As-YP、黒色土粒多く含む。

0　　2m

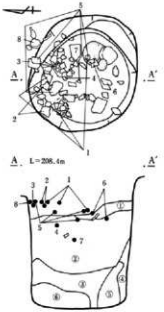
第174図　105・107・108・126号土坑

139号土坑



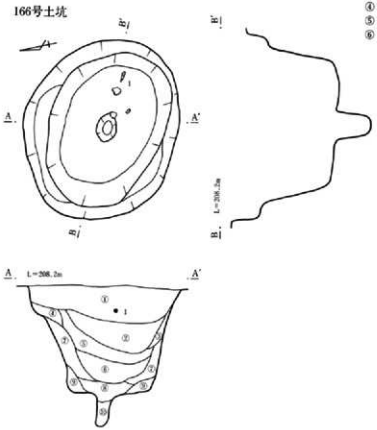
139号土坑
① 暗褐色土　As-YP、白色鉱物粒少量含む。
② 暗褐色土　As-YP少量含む。ロームブロック多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP多く含む。
④ 暗褐色土　As-YP、ロームブロック非常に多く含む。

146号土坑



146号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 暗褐色土　As-YP、ローム粒多く含む。
③ 茶褐色土　As-YP少量含む。
④ 黄褐色土　ローム土主体。As-YP僅かに含む。
⑤ 茶褐色土　As-YP多く含む。黒色の砂粒を含む。
⑥ 茶褐色土　As-YP多く含む。

166号土坑

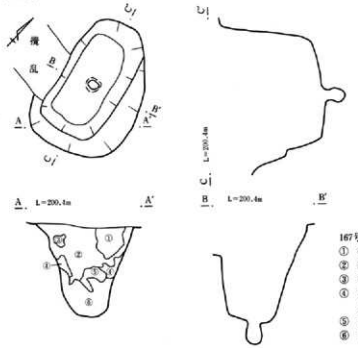


166号土坑
① 黒褐色土　黄色軽石、暗褐色土ブロック僅かに含む。白色鉱物粒少量含む。縄文前期土器を少量包含する。
② 黒褐色土　黄色軽石、ローム粒僅かに含む。縄文前期土器僅かに含む。
③ 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。ローム粒多く含む。
④ 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。
⑤ 黒褐色土　黄色軽石僅かに含む。ローム粒少量含む。
⑥ 黒褐色土　黄色軽石少量含む。ローム粒多く含む。ロームブロック少量含む。
⑦ 暗黄褐色土　黄色軽石僅かに含む。
⑧ 暗黄褐色土　黄色軽石少量含む。
⑨ 暗黄褐色土　ローム土主体。黄色軽石僅かに含む。
⑩ 暗黄褐色土　黄色軽石少量含む。

0　2m

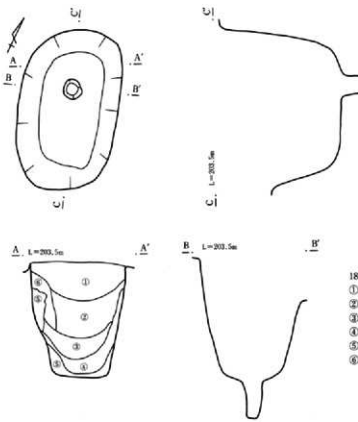
第175図　139・146・166号土坑

167号土坑



167号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
③ 暗褐色土　ローム土多く含む。
④ 茶褐色土　ローム土多く、軟質。橙色軽石粒僅かに含む。
⑤ 暗褐色土　白色鉱物粒含み、軟質。
⑥ 暗褐色土　軟らかい黄色軽石粒を含む。

189号土坑



189号土坑
① 黒色土　白色軽石含む。
② 黒色土　茶褐色土が斑子状に混じる。
③ 黒褐色土　白色軽石僅かに含む。
④ 暗茶褐色土　ロームブロック多く含む。粘性強い。
⑤ ローム土の崩落土層
⑥ 暗茶褐色土　暗色帯ブロックを含む。

0　2m

第176図　167・189号土坑

５号土坑

位置　66区Ｓ-18グリッド　**写真**　ＰＬ68

形状　平面形は円形、断面形状は中段にテラス状の段を持つ箱形を呈する。　**埋没土**　３層に分層される。自然埋没と思われる。　**遺物**　図示した遺物の他、後期初頭を中心とする土器片140点と石器類12点が出土している。１は坑壁中段のテラスの端に正位に設置された状況で出土し、さらに８の別個体の深鉢底部で蓋がされていた。１の小型深鉢内には①、②層と似た暗褐色土が入っていたが、精査の結果遺物は認められなかった。また、本土坑からは口縁部把手の出土が多く、図示した２～５の他にも破片が２点出土している。

11号土坑

位置　66区T-16グリッド　**写真**　ＰＬ68、69

重複　12号土坑と接する。本土坑が新しい。

形状　平面形状は円形、断面形状は台形を呈する。

埋没土　暗褐色土を主体とする。自然埋没と思われる。　**遺物**　図示した遺物の他、称名寺式を中心とする土器片19点と石器類５点が出土している。また径が15～20㎝の礫が土坑上層から２点、坑底から１点出土している。　**考察**　１、２は土坑確認面よりも上位で出土しているが、西向きの傾斜地に占地していることもあり、本土坑の掘り込みは確認面よりも上位からであったと思われる。

75号土坑

位置　76区K-1グリッド　**写真**　ＰＬ75

形状　平面形状は楕円形、断面は浅い皿形を呈する。

埋没土　暗褐色土を主体とする。地山との判別が困難であった。　**遺物**　１の斧形石製品が出土している。石材は蛇紋岩である。硬玉製ではないので、「玉」ではないが、両面とも良く磨き上げられ光沢を持ち、色調からも、玉斧の範疇に入れてよいと思われる。１の他には中期の土器小片が２点出土している。

104号土坑

位置　66区Ｐ-12グリッド　**写真**　ＰＬ79

形状　平面形状は円形、断面形状は箱形を呈する。

埋没土　黒褐色土、暗褐色土を主体とする。自然埋没と思われる。　**遺物**　図示した遺物の他、称名寺式を中心とする土器片35点と石器類５点が出土している。また、径20～40㎝の円礫、角礫が10点出土している。埋没の過程で投げ込まれた状況が推定される。

105号土坑

位置　66区Ｐ-12グリッド　**写真**　ＰＬ79

形状　平面形状は上位では不整方形、下位では隅丸長方形を呈する。断面は箱形である。　**埋没土**　黒褐色土を主体とする。　**遺物**　図示した遺物の他、前期土器片２点と礫が２点出土している。　**考察**　逆茂木痕が検出されなかったが、本土坑の形状、遺物の時期などから推定すると、陥穴であった可能性が高い。

107号土坑

位置　66区Ｐ-20グリッド　**写真**　ＰＬ79

重複　西側を水道管によって攪乱を受けている。

形状　平面形状は楕円形、断面は袋状の形状を呈する。　**埋没土**　７層に分層しているが、②層と③層、④層と⑤層は遺物が多く確認が困難であったため、同一層の可能性もある。　**遺物**　図示した遺物の他、加曽利Ｅ４式を中心とする土器片81点と石器類15点が出土している。遺物は②、③層と④、⑤層に集中して出土した。平面的には土器が敷き詰められた様な状態であった。１は立面的にも広い接合関係を示す。　**考察**　⑥、⑦層が堆積したのち、集中して土器を廃棄した状況が推定される。

108号土坑

位置　66区Ｐ-20グリッド　**写真**　ＰＬ79

重複　西側を水道管によって一部攪乱を受ける。

形状　平面形状は円形、断面は袋状の形状を呈する。

埋没土　暗褐色土を主体とする。自然に埋没したも

のと思われるが、⑥層より下位は暗褐色土と茶褐色土が交互に堆積しており、人為的な埋没状況も推定される。　**遺物**　図示した遺物の他、加曽利Ｅ４式を中心とする土器片75点と石器類10点が出土している。図からもわかるように⑤層中からの出土が多い。**考察**　前述した107号土坑と近接しているうえ、形状、時期、遺物の出土状態と類似点が多い。完形の遺物が出土していないことから、土器を廃棄した土坑と考えることが適当であろう。

126号土坑

位置　66区Ｑ-15グリッド　**写真**　ＰＬ81

形状　平面形は円形、断面は浅箱形を呈する。

埋没土　暗褐色土を主体とし、自然に埋没した可能性が高い。　**遺物**　図示した遺物の他、中期を中心とする土器片36点と石器類３点が出土している。

考察　坑底の中央付近にピットが検出されている。土層観察からこの土坑に伴うものと考えられる。その位置、形状から上屋の支柱とも考えられる。

139号土坑

位置　66区Ｐ-20グリッド　**写真**　ＰＬ82

重複　138号土坑と重複する。土層による切り合いの観察を行っていないが、調査時の所見から、本土坑が旧いと思われる。また、東側を群馬用水管によって攪乱を受ける。　**形状**　一部しか調査できていないため、平面形状は不明である。断面は浅箱形を呈すると思われる。　**埋没土**　暗褐色土を主体とする。　**遺物**　図示した遺物の他、加曽利Ｅ４式を中心とする土器片119点と、石器類12点が出土している。本遺跡では146号土坑に次いで遺物の多い土坑の一つである。　**考察**　遺物が集中して出土していたが、プランの確認が困難で掘り込みが確認できたのは、遺物の確認面よりも下位になってしまった。

146号土坑

位置　76区Ｏ-1グリッド　**写真**　ＰＬ83

重複　109号土坑、143号土坑と近接する。

形状　平面形状は円形、断面形状は箱形を呈する。

埋没土　暗褐色土を主体とするが、下位に茶褐色土が堆積する。　**遺物**　図示した遺物の他、中期から後期初頭にかけての土器片123点と、石器類８点が出土している。加曽利Ｅ４式と称名寺式が混在している状況である。本遺跡では遺物の出土が最も多い。遺物は土坑上層からの出土が多く、下層からは径20cm程の円礫が２点出土している。

166号土坑

位置　76区Ｆ-2グリッド　**写真**　ＰＬ84

形状　平面形状は楕円形、断面形状は小穴が付いた箱形を呈する。　**埋没土**　黒褐色土を主体とする。

遺物　図示した遺物の他、前期前半を中心とする土器片16点と石器類６点が出土している。　**考察**　形状と遺物の時期から、陥穴であろう。

167号土坑

位置　75区Ｎ-1グリッド　**写真**　ＰＬ85

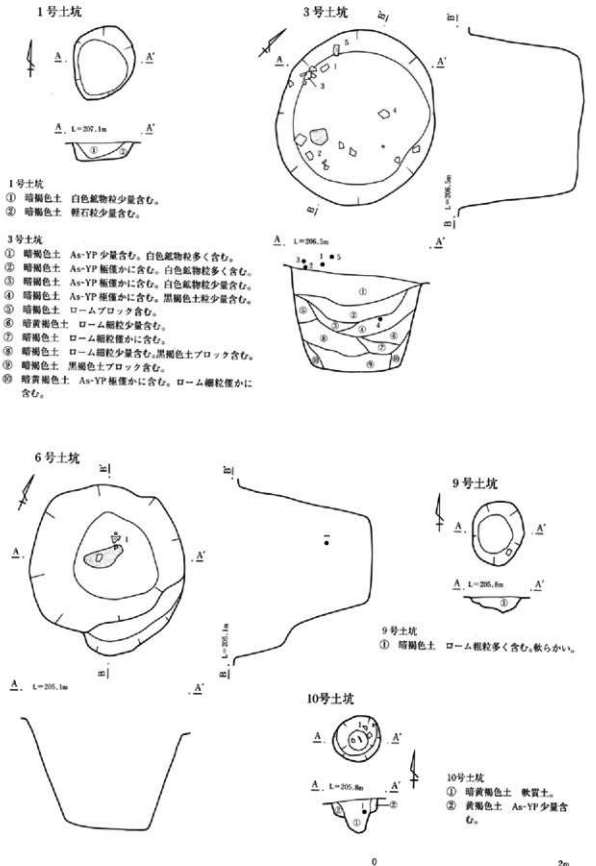
形状　平面形状は隅丸長方形、断面形状は台形を呈する。　**埋没土**　暗褐色土を主体とする。　**遺物**　図示した遺物の他、前期の土器片４点が出土している。遺物は小片であるが、花積下層式と思われる。

考察　逆茂木痕の存在する形状から当該期の陥穴であろう。

189号土坑

位置　65区Ｔ-17グリッド　**写真**　ＰＬ86

重複　古墳時代後期の38号住居に東側の一部を破壊される。　**形状**　平面形状は隅丸方形、断面形状は箱形を呈する。　**埋没土**　黒色土を主体とする。自然に埋没したものと思われる。　**遺物**　前期の土器片２点が出土しているが、小片のため図示できなかった。**考察**　逆茂木痕の存在する形状から、当該期の陥穴であろう。



1号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 暗褐色土　軽石粒少量含む。

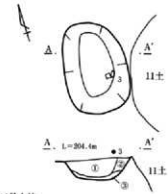
3号土坑
① 暗褐色土　As-YP 少量含む。白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　As-YP 極僅かに含む。白色鉱物粒多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP 極僅かに含む。白色鉱物粒少量含む。
④ 暗褐色土　As-YP 極僅かに含む。黒褐色土粒少量含む。
⑤ 暗褐色土　ロームブロック含む。
⑥ 暗黄褐色土　ローム細粒少量含む。
⑦ 暗褐色土　ローム細粒僅かに含む。
⑧ 暗褐色土　ローム細粒少量含む。黒褐色土ブロック含む。
⑨ 暗褐色土　黒褐色土ブロック含む。
⑩ 暗黄褐色土　As-YP 極僅かに含む。ローム細粒僅かに含む。

9号土坑
① 暗褐色土　ローム粒多く含む。軟らかい。

10号土坑
① 暗黄褐色土　軟質土。
② 黄褐色土　As-YP 少量含む。

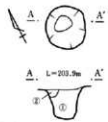
第177図　1・3・6・9・10号土坑

12号土坑



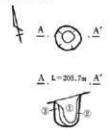
12号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。ロームブロック僅かに含む。
② 暗褐色土　ロームブロック少量含む。
③ 黄褐色土　白色鉱物粒少量含む。

13号土坑



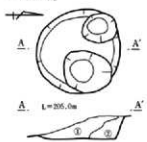
13号土坑
① 茶褐色土　ローム粗粒多く含む。
② 茶褐色土　ローム粗粒僅かに含む。

14号土坑



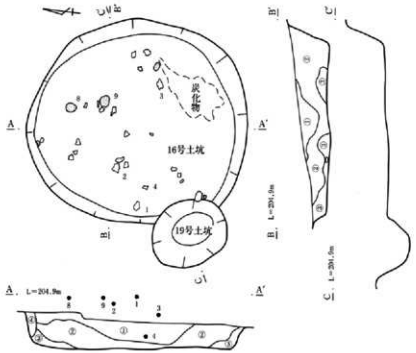
14号土坑
① 茶褐色土　ローム細粒少量含む。
② 黄褐色土　白色鉱物粒少量含む。
③ 黄褐色土　白色鉱物粒僅かに含む。

15号土坑



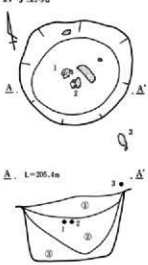
15号土坑
① 暗褐色土　ローム細粒少量含む。As-YP含む。
② 黄褐色土　ローム土主体。暗褐色土粒少量含む。

16・19号土坑



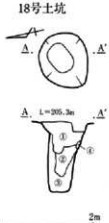
16号土坑
① 暗褐色土　炭化物少量含む。しまり強い。
② 暗褐色土　ローム細粒、白色鉱物粒多く含む。炭化物少量含む。茶褐色土ブロック混入。
③ 暗褐色土　茶褐色土ブロック多く含む。
④ 黒褐色土　攪乱。

17号土坑



17号土坑
① 暗褐色土　炭化物僅かに含む。
② 暗褐色土　橙色軽石粒、炭化物多く含む。
③ 暗褐色土　軟質土。内容物少ない。

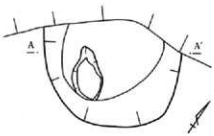
18号土坑

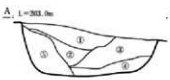


18号土坑
① 暗褐色土　茶褐色土ブロック混入。下部に白色鉱物粒多く含む。
② 茶褐色土　粒子細。①に混入する土。
③ 茶褐色土　橙色軽石粒少量含む。
④ ロームブロック

第178図　12～19号土坑

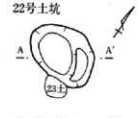
21号土坑

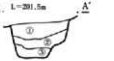




21号土坑
① 黒色土　黄色軽石微かに含む。
② 黒色土　黄色軽石微かに含む。暗褐色土粒微かに含む。
③ 黒色土　黄色軽石少量含む。暗褐色土粒少量含む。
④ 黒色土　黄色軽石微かに含む。ローム細粒少量含む。
⑤ 暗褐色土　黄色軽石微かに含む。暗褐色土粒多く含む。

22号土坑





22号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石、ローム細粒少量含む。
② 暗黄褐色土　ローム土主体。黄色軽石多く含む。
③ 暗黄褐色土　ローム土主体。黄色軽石少量含む。

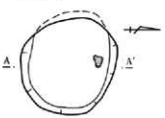
23号土坑

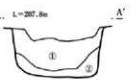
23号土坑
① 黒褐色土　ローム ブロック多く含む。

24号土坑

24号土坑
① 暗褐色土　ローム粗粒、As-BP 微かに含む。
② 暗褐色土　ローム粗粒多く含む。As-BP 少量含む。

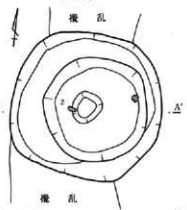
27号土坑





27号土坑
① 暗褐色土　As-YP 少量含む。しまり強い。
② 暗褐色土　As-YP 多く含む。ローム細粒微かに含む。

28号土坑

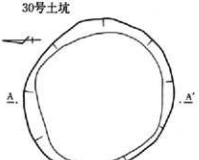


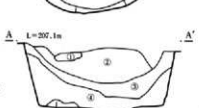
28号土坑
① 暗褐色土　As-YP 少量含む。
② 暗褐色土　As-YP 微かに含む。ローム細粒微かに含む。

29号土坑

29号土坑
① 暗褐色土　As-YP 少量含む。
② 暗褐色土　As-YP 多く含む。ローム細粒微かに含む。

30号土坑

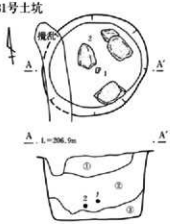




30号土坑
① 茶褐色土　白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　白色鉱物粗粒多く含む。
③ 暗褐色土　白色鉱物粗粒少量含む。
④ 暗褐色土　白色鉱物粗粒多く含む。ローム粗粒少量含む。
⑤ 黄褐色土　ローム土主体。

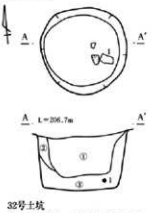
第179図　21～24・27～30号土坑

31号土坑



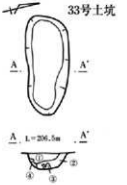
31号土坑
① 暗褐色土　全面に焼土粒混入する。焼土ブロック含む。
② 暗褐色土　ローム細粒僅かに含む。黄色軽石多く含む。
③ 暗褐色土　ローム細粒多く含む。黄色軽石僅かに含む。

32号土坑



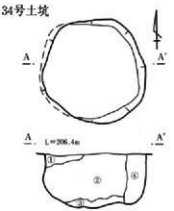
32号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石少量含む。
② 暗褐色土　黄色軽石多く含む。
③ 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。

33号土坑



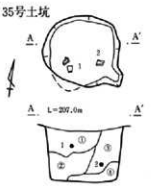
33号土坑
① 暗褐色土　ローム粗粒僅かに含む。
② 暗褐色土　ローム粗粒僅かに含む。白色軽石僅かに含む。
③ As-YPブロック
④ 茶褐色土　ローム土主体。

34号土坑



34号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。
② 暗褐色土　黄色軽石少量含む。ローム粗粒僅かに含む。
③ 茶褐色土　ローム土主体。
④ 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。ローム粗粒僅かに含む。

35号土坑



35号土坑
① 暗褐色土　As-YP少量含む。しまりあり。
② 暗褐色土　As-YP僅かに含む。
③ 茶褐色土　As-YP多く含む。
④ 茶褐色土　粒子細かく、やや粘質。

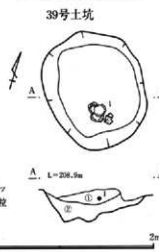
36号土坑

36号土坑
① 黒色土　白色鉱物粒多く含む。
② 黒色土　黄色軽石多く含む。ロームブロック含む。
③ As-YPブロック
④ 黒色土　As-YP多く含む。

38号土坑

38号土坑
① 暗褐色土　ローム粗粒僅かに含む。
② 茶褐色土

39号土坑



39号土坑
① 赤褐色土　焼土層
② 暗褐色土　ロームブロック、炭化物、白色鉱物粒を僅かに含む。

37号土坑

37号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石多く含む。ローム細粒僅かに含む。
② 暗褐色土　ロームブロック含む。
③ 暗褐色土　As-YPと暗褐色土が混じる。
④ As-YPブロック

第180図　31～39号土坑

40号土坑
① 黒色土　細砂粒を含む。軟質。
② 暗褐色土　細砂粒、ローム粒を含む。軟質。
③ 黒色土　細砂粒、白色鉱物粒を含む。
④ 褐色土　細砂粒を含む。

41号土坑
① 暗褐色土　ローム細粒少量含む。
② 暗褐色土　ローム細粒僅かに含む。
③ 暗褐色土　ローム細粒少量含む。

42号土坑
① 暗褐色土
② 暗褐色土　黄色軽石、ローム細粒僅かに含む。

43号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。
② 暗褐色土　黄色軽石少量含む。

44号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒僅かに含む。
② 暗褐色土　黄色軽石少量含む。

45号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石少量含む。
② 暗褐色土　黄色軽石多く含む。

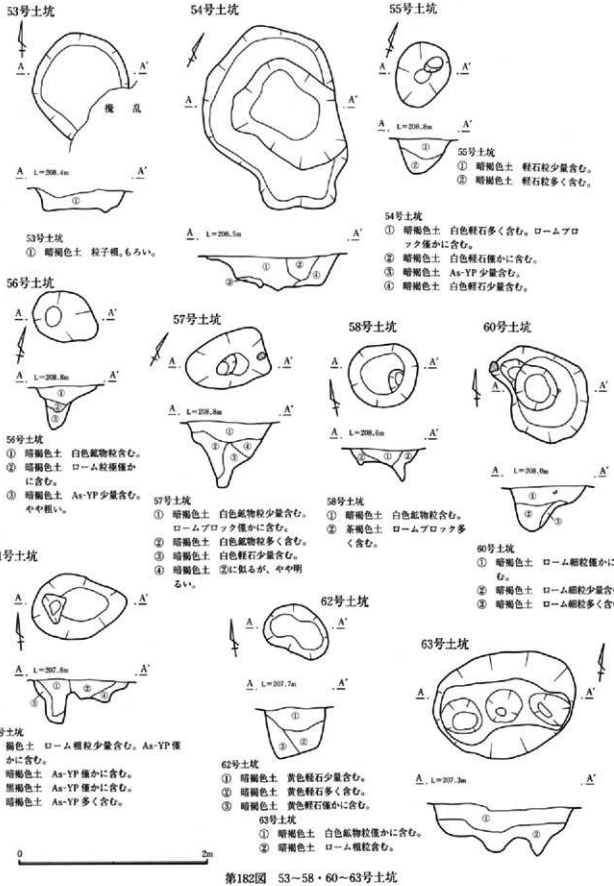
46号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。
② 暗褐色土　黄色軽石少量含む。ローム細粒僅かに含む。
③ 暗褐色土　黄色軽石多く含む。

50号土坑
① 暗褐色土　As-YP少量含む。
② 暗褐色土　As-YP多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP主体。

52号土坑
① 暗褐色土　ローム土とAs-YPが多く混入する。
② 暗褐色土　粒子密。
③ 明褐色土
④ 暗褐色土　As-YP少量含む。
⑤ 暗褐色土　As-YP僅かに含む。
⑥ 暗褐色土　ローム細粒僅かに含む。
⑦ 黄褐色土　ロームブロック多く含む。
⑧ 暗褐色土　ローム土と茶褐色土が混入する。
⑨ 暗褐色土　As-YP多く含む。

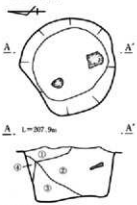
47号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石少量含む。ローム細粒僅かに含む。
② 暗黄褐色土　ローム土主体。As-YP少量含む。
③ 褐色土　As-YP少量含む。
④ 黄褐色土　As-YP多く含む。

第181図　40－47・50・52号土坑



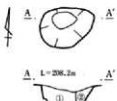
第182図　53～58・60～63号土坑

65号土坑



65号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。
② 暗褐色土　黄色軽石多く含む。
③ 暗褐色土　黄色軽石多く含む。ローム細粒僅かに含む。
④ 暗褐色土　黄色軽石多く含む。

66号土坑

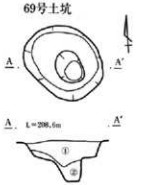


66号土坑
① 黒褐色土　粒子密。
② 暗褐色土　ローム細粒僅かに含む。
③ 黄褐色土　ローム土主体。

68号土坑

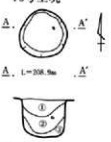
68号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒含む。
② 暗褐色土　ローム土多く含む。

69号土坑



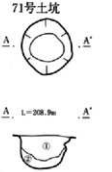
69号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒含む。
② 暗褐色土　As-YP多く含む。

70号土坑



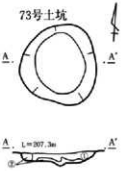
70号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。
② 暗褐色土　黄色軽石、ローム細粒少量含む。
③ 暗褐色土　As-YP多く含む。

71号土坑



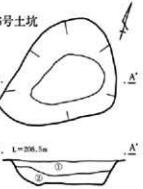
71号土坑
① 暗褐色土　黄色軽石僅かに含む。
② 暗褐色土　黄色軽石、ローム細粒少量含む。

73号土坑



73号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒含む。
② 黄褐色土　ロームブロック多く含む。

76号土坑

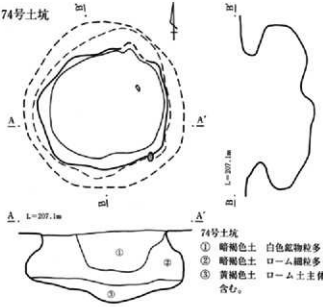


76号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒含む。
② 暗褐色土　ロームブロック、As-YP多く含む。

77号土坑

77号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　①より明るい。

74号土坑



74号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　ローム細粒多く含む。
③ 黄褐色土　ローム土主体。As-YP少量含む。

第183図　65・66・68−71・73・74・76・77号土坑

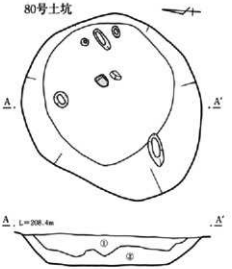
78号土坑

78号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒含む。
② 暗褐色土　白色軽石粒含む。

79号土坑

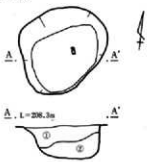
79号土坑
① 黒褐色土　黄色軽石少量含む。
② 黒褐色土　黄色軽石僅かに含む。
③ 黒褐色土　黄色軽石少量含む。ローム粗粒僅かに含む。

80号土坑



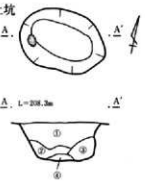
80号土坑
① 黒褐色土　As-YP少量含む。
② 黒褐色土　As-YP多く含む。

81号土坑



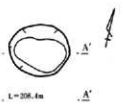
81号土坑
① 黒褐色土　As-YP僅かに含む。ロームブロック少量含む。
② 黒褐色土　As-YP少量含む。ロームブロック僅かに含む。

82号土坑



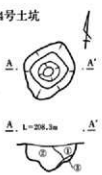
82号土坑
① 黒褐色土　ローム細粒、As-YP僅かに含む。
② 黒褐色土　ローム粗粒含む。As-YP僅かに含む。
③ 暗褐色土　ローム粗粒、ロームブロック含む。As-YP僅かに含む。
④ 褐色土　ローム質。As-YP少量含む。

83号土坑



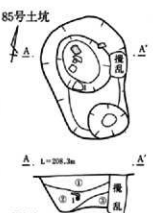
83号土坑
① 黒褐色土　As-YP僅かに含む。
② 黒褐色土　As-YP、炭化物僅かに含む。
③ 暗褐色土　As-YP、ローム細粒少量含む。

84号土坑



84号土坑
① 暗褐色土　As-YP僅かに含む。
② 黒褐色土　As-YP少量含む。
③ 黒褐色土　As-YP多く含む。

85号土坑



85号土坑
① 黒褐色土　ローム粗粒僅かに含む。
② 黒褐色土　As-YP少量含む。
③ 暗褐色土　As-YP少量含む。

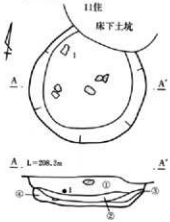
86号土坑

86号土坑
① 暗褐色土　As-YP僅かに含む。
② 暗褐色土　As-YP少量含む。
③ 暗褐色土　As-YP少量含む。②より明るい。
④ 暗褐色土　As-YP多く含む。

0　2m

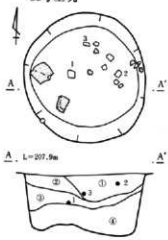
第184図　78～86号土坑

87号土坑



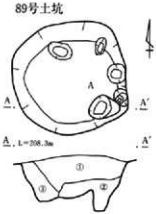
87号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。ローム土混じる。
③ 暗褐色土　ローム土多く含む。
④ 黄褐色土　ローム土主体。暗褐色土混じる。

88号土坑



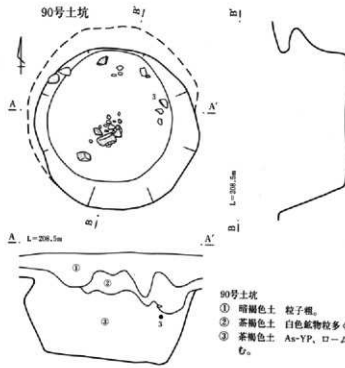
88号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　白色軽石少量含む。
③ 暗褐色土　白色軽石多く含む。ローム細粒少量含む。
④ 暗褐色土　黄色軽石多く含む。

89号土坑



89号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　As-YP 少量含む。
③ 暗褐色土　As-YP 僅かに含む。

90号土坑

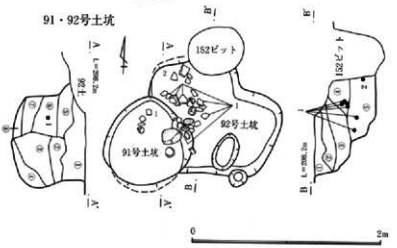


90号土坑
① 暗褐色土　粒子粗。
② 茶褐色土　白色鉱物粒多く含む。
③ 茶褐色土　As-YP、ローム細粒多く含む。

91号土坑
① 黒褐色土
② 暗褐色土　As-YP 僅かに含む。
③ 黒褐色土　As-YP 少量含む。
④ 黒褐色土　As-YP 多く含む。
⑤ 暗褐色土　As-YP 僅かに含む。
⑥ 暗褐色土　As-YP、ローム細粒少量含む。ロームブロック含む。
⑦ 黒褐色土　As-YP 僅かに含む。
⑧ 暗褐色土　As-YP 多く含む。ローム微粒少量含む。

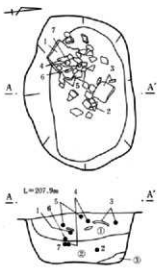
92号土坑
① 黒褐色土　粒子密。
② 黒褐色土　黄色軽石僅かに含む。
③ 黒褐色土　黄色軽石僅かに含む。暗褐色土の細粒少量含む。
④ 黒褐色土　黄色軽石、ローム粒僅かに含む。
⑤ 黒褐色土　As-YP 多く含む。ローム粒少量含む。炭化物僅かに含む。

91・92号土坑



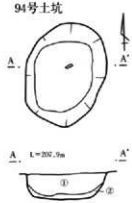
第185図　87～92号土坑

93号土坑



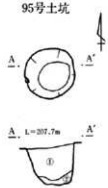
93号土坑
① 黒褐色土　As-YP少量含む。ローム細粒僅かに含む。
② 黒褐色土　As-YP多く含む。ローム細粒少量含む。炭化物僅かに含む。
③ 暗褐色土　As-YP僅かに含む。ローム質。

94号土坑



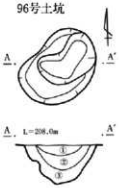
94号土坑
① 黒褐色土　As-YP少量含む。ロームブロック含む。
② 暗褐色土　As-YP多く含む。ローム粒含む。

95号土坑



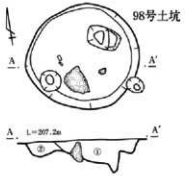
95号土坑
① 黒褐色土　As-YP少量含む。
② 暗褐色土　As-YP多く含む。

96号土坑



96号土坑
① 黒褐色土　As-YP僅かに含む。
② 黒褐色土　As-YP僅かに含む。
③ 黒褐色土　As-YP多く含む。

98号土坑

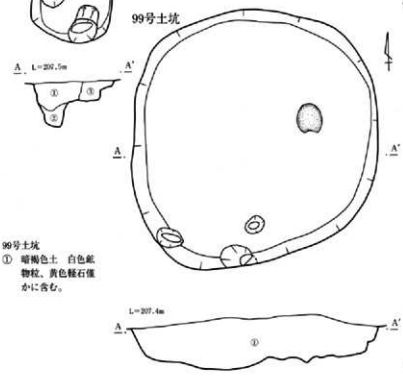


98号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 茶褐色土　ロームブロック、As-YPブロック含む。

97号土坑

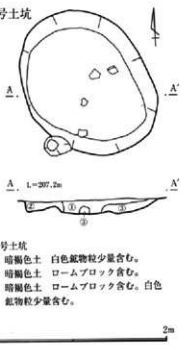
97号土坑
① 暗褐色土　ローム粒、白色鉱物粒僅かに含む。
② 暗褐色土　①に似るがやや粗い。
③ 暗褐色土　ローム粒、白色鉱物粒少量含む。

99号土坑



99号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒、黄色軽石僅かに含む。

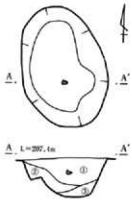
100号土坑



100号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 暗褐色土　ロームブロック含む。
③ 暗褐色土　ロームブロック含む。白色鉱物粒少量含む。

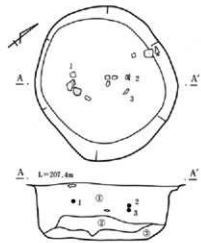
第186図　93～100号土坑

101号土坑



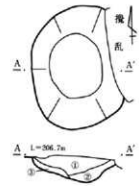
101号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。黄色軽石僅かに含む。
③ 暗褐色土　As-YP 多く含む。

102号土坑



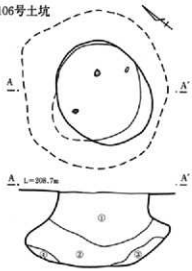
102号土坑
① 暗褐色土　ローム粒、黄色軽石少量含む。
② 暗褐色土　ローム土を含む。
③ 暗褐色土　ローム土多く含む。

103号土坑



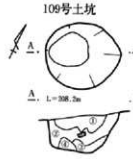
103号土坑
① 暗褐色土　As-YP 少量含む。
② 黄褐色土　ロームブロック少量含む。
③ 暗褐色土　As-YP 多く含む。

106号土坑



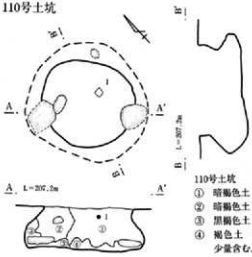
106号土坑
① 黒褐色土　黄色軽石僅かに含む。
② 黒褐色土　黄色軽石少量含む。
③ 暗黄褐色土　ローム粒、黄色軽石少量含む。
④ 暗黄褐色土　ローム土主体。黄色軽石僅かに含む。

109号土坑

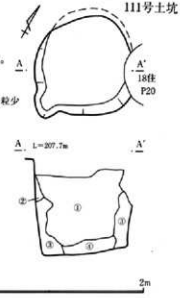


109号土坑
① 茶褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 暗褐色土　As-YP 多く含む。
③ 黄褐色土　As-YP 少量含む。
④ As-YP ブロック

110号土坑



111号土坑



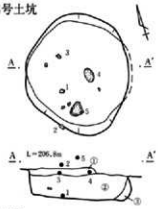
111号土坑
① 黒褐色土　As-YP、炭化物少量含む。
② 暗褐色土　As-YP 多く含む。
③ 褐色土　ローム粒非常に多く含む。
④ 黒褐色土　ロームブロック、ローム粒少量含む。

110号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒、As-YP 多く含む。
② 暗褐色土　白色鉱物粒、As-YP 少量含む。
③ 黒褐色土　As-YP 多く含む。
④ 褐色土　ローム粒非常に多く含む、As-YP 少量含む。

0　2m

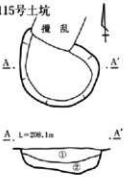
第187図　101～103・106・109～111号土坑

114号土坑



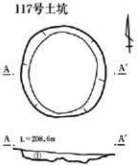
114号土坑
① 黒褐色土　黄色軽石僅かに含む。
② 黒褐色土　黄色軽石、白色鉱物粒少量含む。
③ 暗褐色土　黄色軽石、ローム微粒少量含む。

115号土坑



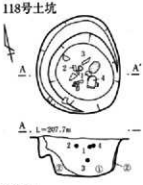
115号土坑
① 黒褐色土　黄色軽石、ローム細粒僅かに含む。白色鉱物粒少量含む。
② 黒褐色土　黄色軽石、白色鉱物粒少量含む。ロームブロック僅かに含む。

117号土坑



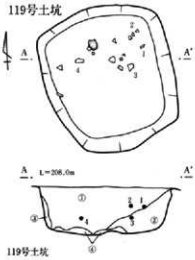
117号土坑
① 暗褐色土　炭化物僅かに含む。

118号土坑



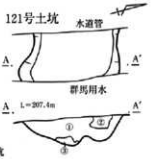
118号土坑
① 黒褐色土　As-YP少量含む。
② 暗褐色土　As-YP、ローム粒多く含む。

119号土坑



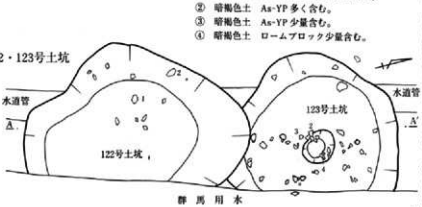
119号土坑
① 暗褐色土　As-YP、赤色軽石少量含む。
② 暗褐色土　As-YP多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP少量含む。
④ 暗褐色土　ロームブロック少量含む。

121号土坑



121号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。As-YP、ローム粒少量含む。
② 暗褐色土　やや赤みを持つ。
③ 暗褐色土　ローム土少量含む。

122・123号土坑



122号土坑
① 攪乱
② 黒色土　As-YP少量含む。
③ 暗褐色土　As-YP少量含む。白色鉱物粒含む。
④ 暗褐色土　ローム土含む。
⑤ 茶褐色土　ローム土含む。
⑥ 暗褐色土　As-YP少量含む。
⑦ 黒色土　As-YP僅かに含む。
⑧ 暗褐色土　As-YP多く含む。
⑨ 暗茶褐色土　白色鉱物粒多く含む。
⑩ 暗褐色土　As-YP僅かに含む。
⑪ 茶褐色土　ローム土、As-YP含む。
⑫ 暗褐色土　ローム土、黒色土含む。
⑬ 茶褐色土　ローム土、As-YP少量含む。
⑭ As-YP
⑮ 暗褐色土　As-YP少量含む。しまりあり。
⑯ ロームブロック
⑰ 茶褐色土　やや粘質。
⑱ 黄褐色土　ローム土主体。As-YP多く含む。

123号土坑
① 黒色土　白色鉱物粒多く含む。
② 黒色土　As-YP、白色鉱物粒多く含む。
③ 茶褐色土　As-YPブロック含む。粘質。

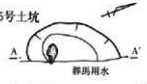
0　2m

第188図　114・115・117～119・121～123号土坑

124号土坑

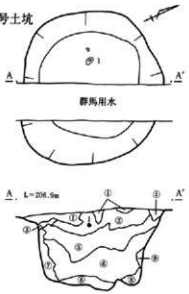
124号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。ローム粒、As-YP少量含む。
② 暗褐色土　赤みのあるローム土含む。
③ 茶褐色土　赤みのあるローム土、As-YP僅かに含む。

125号土坑



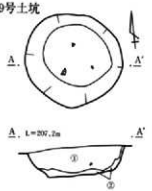
125号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。ローム粒、As-YP少量含む。
② 暗褐色土　As-YP多く含む。
③ 茶褐色土　ロームブロック含む。

127号土坑



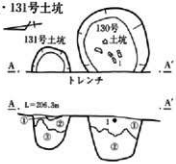
127号土坑
① 黒色土
② 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。As-YP少量含む。
③ 茶褐色土　ローム土含む。軟質。
④ 茶褐色土　As-YP多く含む。暗褐色土含む。
⑤ 暗褐色土　白色鉱物粒僅かに含む。
⑥ 暗褐色土　As-YP多く含む。ローム粒少量含む。
⑦ 茶褐色土　ローム土とAs-YPが混じる。
⑧ 茶褐色土　暗褐色土とローム土が混じる。
⑨ 茶褐色土　ローム土主体。暗褐色土少量含む。

129号土坑



129号土坑
① 暗褐色土　As-YP、ローム粒多く含む。
② 褐色土　ローム土主体。黒色土粒少量含む。

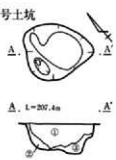
130・131号土坑



130号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　As-YP、ローム粒多く含む。

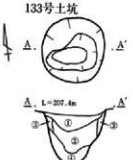
131号土坑
① 撹乱
② 暗褐色土　ローム粒僅かに含む。
③ 暗褐色土　As-YP少量含む。

132号土坑



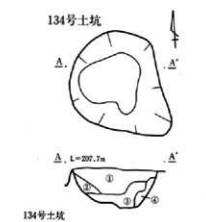
132号土坑
① 暗褐色土　As-YP、ローム粒多く含む。
② 暗褐色土　As-YP非常に多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP、ロームブロック多く含む。

133号土坑



133号土坑
① 黒褐色土　As-YP多く含む。
② 黒褐色土　As-YP非常に多く含む。ローム粒多く含む。
③ 暗褐色土　ロームブロック、As-YP多く含む。
④ 暗褐色土　As-YP、ローム粒非常に多く含む。

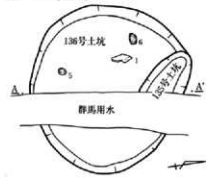
134号土坑

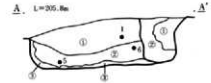


134号土坑
① 暗褐色土　As-YP、白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　As-YP非常に多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP、ロームブロック多く含む。
④ 暗褐色土　As-YP、ローム粒非常に多く含む。

第189図　124・125・127・129～134号土坑

135・136号土坑

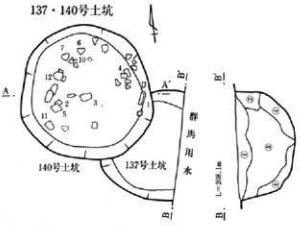


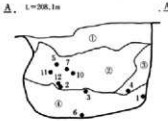


135号土坑
① 暗褐色土　As-YP、ロームブロック多く含む。
② 暗褐色土　As-YP、ロームブロック少量含む。

136号土坑
① 暗褐色土　As-YP多く含む。
② 暗褐色土　As-YP非常に多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP少量含む。ローム粒多く含む。

137・140号土坑

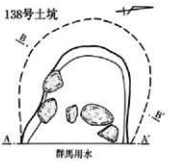


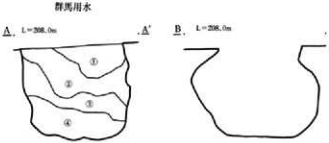


137号土坑
① 暗褐色土　ローム粒少量含む。
② 褐色土　ロームブロック多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP多く含む。
④ 暗褐色土　As-YP非常に多く含む。

140号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 暗褐色土　As-YP少量含む。ロームブロック僅かに含む。
③ 暗褐色土　As-YP多く含む。
④ 茶褐色土　As-YP少量含む。

138号土坑

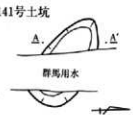




138号土坑
① 暗褐色土　As-YP、ロームブロック少量含む。
② 黒褐色土　As-YP多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP、ローム粒多く含む。
④ 暗褐色土　As-YP、ローム粒非常に多く含む。

141号土坑

141号土坑
① 暗褐色土　As-YP少量含む。
② 暗褐色土　As-YP多く含む。
③ 褐色土　As-YP非常に多く含む。
④ 黄褐色土　As-YP主体。



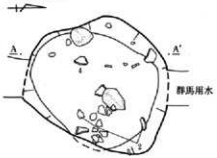
142号土坑

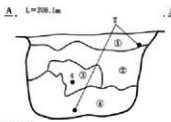
142号土坑
① 暗褐色土　As-YP少量含む。
② 暗褐色土　As-YP多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP非常に多く含む。
④ 暗褐色土　As-YP少量含む。ロームブロック多く含む。

0　2m

第190図　135～138・140～142号土坑

143号土坑



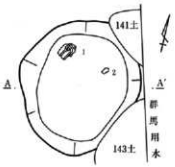


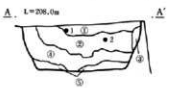
143号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒、As-YP少量含む。
② 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。As-YP多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP少量含む。
④ 暗褐色土　③に似るが、③よりAs-YP多い。

144号土坑

144号土坑
① 暗褐色土　As-YP、ロームブロック少量含む。
② 暗褐色土　As-YP多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP非常に多く含む。
④ 暗褐色土　As-YPを③よりさらに多く含む。
⑤ 褐色土　ローム土主体。As-YP少量含む。

145号土坑



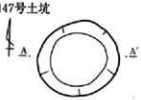


145号土坑
① 暗褐色土　As-YP少量含む。白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　As-YP、白色鉱物粒多く含む。
③ 暗褐色土　As-YP非常に多く含む。
④ 暗褐色土　As-YP、ローム粒多く含む。
⑤ 褐色土　ローム土主体。黒色土少量含む。

148号土坑

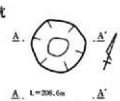
148号土坑
① 暗褐色土　ローム粗粒僅かに含む。
② 暗褐色土　As-YP少量含む。ローム粒多く含む。

147号土坑



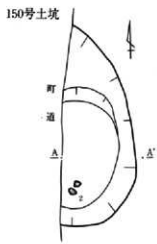
147号土坑
① 暗褐色土　As-YP少量含む。
② 黄褐色土　ローム土主体。暗褐色土粒、As-YP僅かに含む。

149号土坑



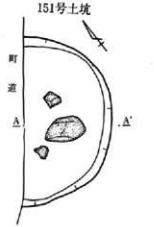
149号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒少量含む。
② 茶褐色土　As-YP僅かに含む。

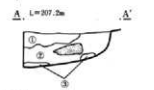
150号土坑



150号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒僅かに含む。
② 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。ローム粒、As-YP少量含む。

151号土坑





151号土坑
① 暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。
② 暗褐色土　ローム粒少量含む。
③ 黄褐色土　ローム土主体。As-YP僅かに含む。

0　2m

第191図　143～145・147～151号土坑